講義科目名称： チームケア入門Ⅱ　　授業コード：20R2P1I596

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 古田常人・浅野貞美 | | | |
| 保健医療とリハビリテーションの理念 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>ねらい：<br>「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」<br>目的：<br>事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を行うことができる。<br>〔到達目標〕<br>1) 事例検討を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。<br>2) 事例検討を通して、多職種の特徴・連携の必要性・連携上の留意点を理解することができる。<br>3) 多職種連携・チームケアのあり方・今後の課題に気付くこと |
| 授業の概要 | 保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部合同チームによる「チームケア教育」を行う。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ○ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 授業オリエンテーション<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携<br>【授業概要】<br>・科目オリエンテーション。授業目標や授業の進め方について説明する。<br>・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景　リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し，自分の地域における社会資源を調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第２回 | 事例展開に関する調べ学習<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携、事例、社会資源<br>【授業概要】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | ・第1回に引き続き、事例検討をグループで進めていく。<br>・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景　リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し，自分の地域における社会資源を調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第３回 | 事例展開に関する調べ学習<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携、事例、リハビリテーション<br>【授業概要】<br>・自職種の特徴を踏まえ、事例の問題点・課題点を挙げ、自職種ができることやるべきことをまとめる（学部毎）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し，自分の地域における社会資源を調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第４回 | 事例について各学部毎に課題<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携、事例、社会資源<br>【授業概要】<br>・第1，2回に引き続き、事例検討をグループで進めていく。<br>・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景　リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。<br>・問題点を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種毎に明らかにするための合同討議（3学部小グループ）<br>・報告準備。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し，自分の地域における社会資源を調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第５回 | 事例について各学部毎に課題<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携、事例、リハビリテーション<br>【授業概要】<br>・問題点を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種毎に明らかにするための合同討議（3学部小グループ）<br>・報告準備。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し，自分の地域における社会資源を調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第６回 | 明確化した課題<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携、事例、問題点<br>【授業概要】<br>・事例検討をグループで進めていく。<br>・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景　リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。<br>・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部（3学部大グループ）で報告、共有する。<br>・体験者によるIPWの講義<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し，自分の地域における社会資源を調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第７回 | 明確化した課題<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携、事例、問題点、目標設定<br>【授業概要】<br>・事例検討をグループで進めていく。<br>・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景　リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。<br>・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部（3学部大グループ）で報告、共有する。<br>・体験者によるIPWの講義<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料(事前に配布) |

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し，自分の地域における社会資源を調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第８回　学習過程の振り返り<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携、事例、問題点、目標設定<br>【授業概要】<br>・事例検討をグループで進めていく。<br>・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景　リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。<br>・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部（3学部大グループ）で報告、共有する。<br>・体験者によるIPWの講義<br>・事例発表。総括。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し，自分の地域における社会資源を調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。<br>②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。<br>〔受講のルール〕<br>①積極的に取り組む事。<br>②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。<br>③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | その他 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 関連文献、新聞などに関心を持ち情報収集することを期待する。 |
| オフィスアワー | 金曜日の15:30～17:30 |
| 評価方法 | 1.グループワークでの取り組み50%,　2.ポートフォリオ評価50% |
| 教科書 | 資料配布 |
| 参考書 | 1. 鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版，2008.<br>2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法研究法　　授業コード： 020193F086

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴 | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>研究に関する基本的な知識を習得し、作業療法における学術研究の必要性を理解する。また、医学領域の研究論文を読解する際に必要となる統計学の基本事項について、理解することができる。<br>〔到達目標〕<br>①研究の類型（手法や目的）の違いと、それぞれの特性を理解できる。<br>②研究の一連の流れを理解するとともに、文献レビューを行うことができる。<br>③研究論文で用いられる基本的な統計手法について理解することができる。 |
| 授業の概要 | 作業療法士にとって根拠に基づく実践は非常に重要な事項であり、根拠に基づく実践には作業療法の臨床に基づく研究が重要である。また、研究を行うことは作業療法における学問体系の確立にも非常に重要なことである。<br>日々の臨床実践の成果を、多職種にとどまらず、作業療法対象者や社会一般に向けて発信していくために、自己研鑽としての研究について学び、取り組んでいくための基本的知識を身につけねばならない。<br>本科目では、作業療法における研究の基本について学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | 科目オリエンテーション。作業療法における研究とは。研究倫理について。<br>【key words】<br>オリエンテーション、研究倫理、班分け<br>【授業概要】<br>研究を始めるにあたっての基本的な知識、研究の目的、作業療法と研究について、理解する。<br>また、研究を実施するうえで重要となる研究倫理について、その基本的な事項を学ぶ。<br>なお、統計に関する発表について、グループ分けと分担箇所等を提示する。<br>【予習】<br>①教科書指定頁を読んで自分が読んだ日時と共に、わからないところ、大切だと思ったところなどをメモしてまとめる。<br>②厚生労働省の以下の研究倫理に関わるサイトにアクセスし（「厚生労働省　研究に関する指針」と検索するとすぐに以下のサイトにアクセスできる）<br>https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html<br>人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成29年一部改正）をダウンロードして目を通すこと<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定教科書P.10～P.17<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【復習】<br>授業で学んだことを振り返る。わからないこと、大切なこと等をノートに日付と共に記録する。<br>たとえノートや教科書を読みなおしただけでも、日付と共に行った学習の記録をしっかりと記載すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第２回 | 研究の種類、対象者とアウトカム、研究計画<br>【key words】<br>研究計画、アウトカム<br>【授業概要】<br>研究疑問に応じた研究の種類を理解するとともに、アウトカム指標の種類と選択についても学ぶ。<br>また、研究計画の立案と計画書について学ぶ。<br>【予習】 |

①教科書指定頁を読んで自分が読んだ日時と共に、わからないところ、大切だと思ったところなどをメモしてまとめる。
②「文研研究」「横断研究」「ケースコントロール研究」「介入研究」について説明できるように準備する
【復習】
①「文研研究」「横断研究」「ケースコントロール研究とコホート研究の違い」「介入研究」について、最終的にA4の白紙にペンで図解（図を用いて説明）できるように準備しておくこと。
（コホート研究の詳細はP.35にも記載されている）
次回の授業で発表する。
②授業で学んだことを振り返る。わからないこと、大切なこと等をノートに日付と共に記録する。たとえノートや教科書を読みなおしただけでも、日付と共に行った学習の記録をしっかりと記載すること。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書P.18～22, 27～33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第３回　研究の種類とデザイン①量的研究、調査票の設計、質的研究
【key words】
質的研究、量的研究、
【授業概要】
前回の復習として、各自の復習に基づいて、自分なりの説明を発表する。
その後、観察研究と介入研究を例に量的研究について学ぶとともに、調査票を用いた研究と質的研究について実例を通して学び、各研究デザインのメリットデメリットについて理解する。
【予習】
①教科書指定頁を読んで自分が読んだ日時と共に、わからないところ、大切だと思ったところなどをメモしてまとめる。
【復習】
①授業で学んだことを振り返る。わからないこと、大切なこと等をノートに日付と共に記録する。たとえノートや教科書を読みなおしただけでも、日付と共に行った学習の記録をしっかりと記載すること。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書P.34～54
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り、発表に向けた準備も計画的に進めていくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第４回　研究の種類とデザイン②混合法、事例研究、文献研究
【key words】
事例研究、文献研究、システマティックレビュー
【授業概要】
事例研究における様々なスタイルのデザインを事例を通して学ぶ。また、尺度開発における信頼性と妥当性の概念について学ぶ。また、文献研究のなかでも、システマティックレビューとメタアナリシスについて学ぶ。
して学び、各研究デザインのメリットデメリットについて理解する。
【予習】
①教科書指定頁を読んで自分が読んだ日時と共に、わからないところ、大切だと思ったところなどをメモしてまとめる。
【復習】
①授業で学んだことを振り返る。わからないこと、大切なこと等をノートに日付と共に記録する。たとえノートや教科書を読みなおしただけでも、日付と共に行った学習の記録をしっかりと記載すること。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書P.55～75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り、発表に向けた準備も計画的に進めていくこと
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　統計解析の基本①
【key words】
定量的・定性的データー、帰無仮説、有意水準、p値、ﾊﾟﾗﾒﾄﾘｯｸ、ノンパラメトリック、尺度、
【授業概要】
統計的仮設検定の基本について学ぶとともに、二群間の比較と分散分析について学ぶ。
担当学生は各自がまとめた内容を報告して共有する。
【予習】
①事前に配布された資料に目を通す
【復習】
①「名義尺度」「順序尺度」「間隔尺度」「比率尺度」「有意水準とはなにか？」について自分なりの言葉でノートにまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書P.76～88
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページに目を通してから受講すること
担当学生は各自がまとめた内容を報告して共有する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　統計解析の基本②
【key words】
相関、偏相関、t検定、分散分析、共分散分析、重回帰分析
【授業概要】
前回の復習をした後に、相関分析の基本について学ぶとともに、重回帰分析の基本を学ぶ。
また、それらの統計手法を用いた実際の論文を読むことで、統計手法の意味を理解する。

| | |
|---|---|
| | 【予習】<br>①事前に配布された資料に目を通す<br>【復習】<br>①「対応のあるt検定と対応のないt検定、具体的にどのような場面を想定して活用するのか？」「なぜ3群以上の比較の際にt検定を用いることができないのか？」の2点について自分なりの言葉でノートにまとめる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定教科書P.89～98<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の該当ページに目を通してから受講すること<br>担当学生は各自がまとめた内容を報告して共有する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第７回　統計解析の基本③<br>【key words】<br>χ二乗検定、ロジスティクス回帰分析、因子分析について<br>【授業概要】<br>前回の復習として、各自がまとめた内容を共有して復習する。<br>疫学分野で用いられることが多い統計手法について理解するとともに、因子分析の考え方を学ぶ。<br>【予習】<br>①事前に配布された資料に目を通す<br>【復習】<br>①「χ二乗検定は、具体的にどのような場面を想定して活用するのか？」「一元配置分散分析と二元配置分散分析の違いは何か？」の2点について自分なりの言葉でノートにまとめる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定教科書P.99～112<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の該当ページに目を通してから受講すること<br>担当学生は各自がまとめた内容を報告して共有する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第８回　学会発表、論文執筆について、まとめ<br>【key words】<br>小テスト<br>【授業概要】<br>前回の復習内容を皆で共有することで振り返りを行う。<br>学会発表のための基本的な手続きや抄録作成について学ぶ。<br>また、論文執筆の基本事項についても理解する。<br>【予習】<br>①事前に配布された資料に目を通す<br>【復習】<br>①これまでのまとめとしてノートを完成させる<br>②「作業療法における研究の意義」という題目で　これまでの講義を振り返り、自分の考えをノートにまとめる。文字数は600～800文字程度とする。ノートの最後の部分に鉛筆やペンで記載するのでも、パソコンで入力して印刷したものを貼り付けるのでもいずれも可能。<br>完成したノートと資料ファイルを期日に提出する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定教科書P.122～139<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の該当ページに目を通してから受講すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>①予習・復習は必須である。<br>②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布するので、授業前までにプリントアウトしておくこと。また、受講はパソコンを利用することが望ましい。<br>〔受講のルール〕<br>①授業概要を確認し積極的に臨むこと。<br>②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。<br>③グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定である。受講中はビデオをオンにして参加することを必須条件とする。<br><br>〔その他の重要事項〕<br>アクティブラーニングを用いた学生主体の講義であるため、主体的に休まず参加すること。<br>授業用のノートを1冊用意すること。一般的な糸綴じノートであることが条件だが、サイズはA4でもB5でも可(大学からの資料はA4サイズが多い）。方眼や罫線、無地など中身は自由で、各自が利用しやすいものを準備すること。ただし、ルーズリーフは不可。100円ショップ等で購入可能なもので充分。<br>全8回の講義において、<br>①予習、　②講義内容のメモ・記録、　③復習<br>について、日付と共に記録していくこと。<br>この科目は配布資料が比較的多いため、ノートには貼り付けず、別に2リングファイルやバインダーなどを準備し、時系列にファイリングしていくこと。<br>全8回分の講義における①予習②記録③復習を記録した講義ノートを　最終講義後に提出（提出時期は最終講義時に伝達）することで、評価の一部とする（詳細はシラバスの【評価方法】の欄を参照）。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 質問は授業内でその都度受け付ける |

| | |
|---|---|
| 授業外時間にかかわる情報 | グループごとの発表もあるため、メンバーと協力して準備すること。必ずグループごとに討議の場面を設け、準備を計画的に進めていくこと。<br>だれか1人に任せるなどの身勝手な行動は厳に慎むこと。<br>そのような事案が生じた場合は、原則的に履修の対象者と認めない。 |
| オフィスアワー | 水曜日16：30～17：30（その他、必要があれば受け付ける。但し、事前に確認をとること） |
| 評価方法 | ■期末に提出するノートと資料ファイル75%、■授業内小テスト・発表課題25% |
| 教科書 | 竹田徳則，大浦智子(編)：作業療法研究法，医歯薬出版株式会社，2017. |
| 参考書 | 鎌倉矩子ほか　著　『作業療法士のための研究法入門』　三輪書店 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、群馬県内各市町村での介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長、群馬県作業療法士会副会長なども務めている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 発達過程作業療法学Ⅰ　　授業コード： 020193F724

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 菊池智広・古田常人 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>発達検査について学び、作業療法評価への応用について考察する。また、作業療法で使用する検査について学び、実施と結果についての解釈の方法を学習し、児の全体像の把握および適切な治療目標を立てることがで出来るようになる事を目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①発達過程作業療法で使用する検査バッテリーについて理解し、実施することができる。<br>②各検査から得られた結果を評価し、作業療法で取り組む内容を抽出することができる。<br>③作業療法の目的を達成するための治療プログラムを立案することができる。<br>④ |
| 授業の概要 | 発達過程の作業療法対象者に対する評価について、検査バッテリーの紹介と実施方法について学び、対象者に対して実施できる力を身につける。また、各疾患への評価の適応や結果の解釈について考察し、治療プログラム立案までの道筋を考える。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | 科目オリエンテーション、発達過程における作業療法の理念と役割<br>生活障害、評価、運動機能、感覚知覚認知機能、心理社会機能人間の一生涯における発達過程と各発達段階での「作業」の役割と意義の理解、それぞれの過程で生じる疾患の障害の成り立ちや回復過程の基本知識、作業療法に必要な評価、治療、援助について講義する。教科書：pp1-36発達スクリーニング検査について調べる。 |
| | 第２回 | 発達過程作業療法における評価と治療の実践課程<br>発達過程における作業療法の実践課程として、評価、作業療法計画、実施方法、効果判定、フォローアップの流れについて講義する。教科書：pp27-48<br>参考文献<br>①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修．協同医書出版．2009 |
| | 第３回 | 発達過程の基礎知識と治療への応用<br>運動機能、感覚知覚認知機能、心理社会機能の発達の関連性について講義する。また、社会参加としての集団活動、就学と作業療法との関わりについて考察する。教科書：pp49-68<br>参考文献<br>①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修．協同医書出版．2009 |
| | 第４回 | 発達の評価・検査バッテリー<br>運動発達の評価として作業療法場面で用いる評価について、概要と実施方法を学ぶ。（運動発達、姿勢、筋緊張、反射・反応、運動年齢検査、エアハルト発達学的把持能力評価参考文献<br>①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修．協同医書出版．2009 |
| | 第５回 | 作業療法評価に必要な運動発達の視点（0～12か月）<br>運動発達の流れについて、月齢指標をつなぐ筋活動とそれを促す感覚入力についての関連性を講義する。その上で運動発達から遊びの発達についての関連を考察し、提供する作業（遊び）について提案する。参考文献<br>①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修．協同医書出版．2009 |
| | 第６回 | 作業療法評価に必要な運動発達の視点（1歳～6歳）<br>運動発達の流れについて、月齢指標をつなぐ筋活動とそれを促す感覚入力についての関連性を講義する。その上で運動発達から遊びの発達についての関連を考察し、提供する作業（遊び）について提案する。参考文献<br>①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修．協同医書出版．2009 |

| | |
|---|---|
| | ②感覚統合Q&A：土田玲子監修．協同医書出版．2013<br>第７回　感覚統合理論と認知機能の発達<br>感覚統合機能についての概要と評価、解釈。検査バッテリーを使用し体験する。参考文献<br>①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修．協同医書出版．2009<br>②感覚統合Q&A：土田玲子監修．協同医書出版．2013<br>第８回　対応行動の発達と注意機能①<br>模倣活動から始まる社会性の発達について知り、発達段階での活動と参加について考察する。教科書pp60-67<br>第９回　対応行動の発達と注意機能②<br>模倣活動から始まる社会性の発達について知り、発達段階での活動と参加について考察する。教科書pp60-67<br>第１０回　学習と社会性の発達と評価<br>いわゆる発達障害、知的発達障害の学習と社会性の発達との関連を例に、子どもの学習、社会性の発達について考察する。教科書pp129-19①<br>第１１回　地域における発達支援と特別支援教育①<br>発達過程においては、常に作業療法実践の場は地域生活の中である。子どもを取り囲む環境や教育制度について学び、作業療法士の役割を確認する。教科書pp197-211<br>第１２回　地域における発達支援と特別支援教育②<br>発達過程においては、常に作業療法実践の場は地域生活の中である。子どもを取り囲む環境や教育制度について学び、作業療法士の役割を確認する。教科書pp197-211<br>第１３回　疾患別作業療法の実際①脳性麻痺<br>作業療法の対象疾患として最も多い脳性麻痺について、臨床像を把握し、作業療法評価と治療について学ぶ。教科書pp91-105<br>第１４回　疾患別作業療法の実際②神経筋疾患<br>作業療法の対象疾患としてみられる神経筋疾患について、臨床像を把握し、作業療法評価と治療について学ぶ。教科書pp118-124<br>第１５回　疾患別作業療法の実際③発達障害<br>作業療法の対象疾患として近年非常に多くなっている発達障害について、臨床像を把握し、作業療法評価と治療について学ぶ。教科書pp129-159 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。<br>・シラバスを確認し授業に臨むこと。<br>・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時に指示する。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分程度、対応可能。 |
| 評価方法 | 筆記試験100％ |
| 教科書 | 日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版　6．発達障害．協同医書出版社．2010<br>日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版　3．作業療法評価学．協同医書出版社．2009 |
| 参考書 | シラバス参照のこと。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>現在、施設にて発達障害の子ども・家族支援を行っている。また、自治体の保健センターやクリニック、県立小児医療センターで作業療法、及び群馬県内の小学校への訪問指導や教員研修の講師なども数多く担当している。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 発達過程作業療法学Ⅱ　　授業コード： 020193F725

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 北爪浩美・勝野恵・山口敦子・六本木温子 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>発達過程における作業療法の対象疾患とその症状、作業療法の目的と方法について理解し、実施しうる能力を身につけることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①発達過程作業療法の対象疾患と対象児について理解し、発達過程における作業療法の目的を説明できる。<br>②発達過程作業療法の対象疾患の臨床像、評価、治療について説明できる。<br>③対象児者が地域社会で暮らすための方法や他職種との連携について説明できる。 |
| 授業の概要 | 乳児期から青年期でを対象とした作業療法について学び、発達途上にある児についての生物学的視点と心理・社会的視点を身につけ、家庭生活や教育環境などで生かすことの出来る適切な援助方法について考える。また、地域における作業療法の実際に触れ、社会における作業療法士の視点を学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 発達障害領域での作業療法の理念と役割<br>発達過程作業療法、ICF、脳性麻痺、ADS,LD、ADHD近年における発達障害領域における対象児の変化について<br>「発達障害」の捉え方について教科書：p　1-10、　　91～ |
| | 第２回 | 発達過程作業療法における障害の概要①肢体不自由<br>ビデオによる障害像の把握、<br>胎児期の発達と身体図式、障害との関わり教科書pp91-129 |
| | 第３回 | 発達過程作業療法における障害の概要②肢体不自由<br>作業療法治療の考え方<br>乳児期～幼児期の運動発達の把握と作業療法教科書pp91-129 |
| | 第４回 | 発達過程作業療法における障害の概要③発達障害<br>近年、作業療法の対象疾患として社会からのニーズが高い、いわゆる発達障害について、疾患の概要と発達過程、症状と生活上の困難を具体的に講義、紹介し、作業療法の関わりを考察する。教科書pp129-160 |
| | 第５回 | 発達過程作業療法における障害の概要④発達障害<br>近年、作業療法の対象疾患として社会からのニーズが高い、いわゆる発達障害について、疾患の概要と発達過程、症状と生活上の困難を具体的に講義、紹介し、作業療法の関わりを考察する。教科書pp129-160 |
| | 第６回 | 地域における発達支援<br>発達過程作業療法の対象となる子どもの地域での生活について、特別支援教育体制や療育体制などの支援を含めて講義し、作業療法士の視点、関わり方のスタンスを考察する。特に、群馬県の現状について深く理解する。教科書197-211 |
| | 第７回 | 発達過程作業療法の実際①小児病院での作業療法<br>小児病院での作業療法の実際について、外部講師として作業療法士をお呼びし、講義して頂く。国家試験発達期治療学の問題についての考察 |
| | 第８回 | 発達過程作業療法の実際②小児病院での作業療法<br>小児病院での作業療法の実際について、外部講師として作業療法士をお呼びし、講義して頂く。国家試験発達期治療学の問題についての考察 |
| | 第９回 | 発達過程作業療法の実際③在宅での作業療法<br>在宅での作業療法の実際について、外部講師として訪問看護ステーションに勤務する作業療法士をお呼びし、講義して頂く。教科書：p　91-106 |
| | 第１０回 | 発達過程作業療法の実際④在宅での作業療法<br>在宅での作業療法の実際について、外部講師として訪問看護ステーションに勤務する作業療法士 |

| | |
|---|---|
| | をお呼びし、講義して頂く。<br>第１１回　発達過程作業療法の実際⑤地域クリニックでの作業療法<br>地域の小児科クリニックでの作業療法について、対象者の概要と作業療法の実際について講義する。<br>第１２回　発達過程作業療法の実際⑥地域クリニックでの作業療法<br>地域の小児科クリニックでの作業療法について、対象者の概要と作業療法の実際について講義する。<br>第１３回　発達過程作業療法の実際⑦地域での作業療法<br>群馬県作業療法士会の取り組みを中心に、県内の特別支援教育体制と作業療法士の関わり、全国的な取り組みの流れについて講義する。<br>第１４回　発達過程作業療法の実際⑧地域での作業療法<br>群馬県作業療法士会の取り組みを中心に、県内の特別支援教育体制と作業療法士の関わり、全国的な取り組みの流れについて講義する。<br>第１５回　発達過程作業療法の課題<br>今後の発達過程領域における作業療法の課題について、現状を踏まえた上で考察し、現実的な作業療法士の関わり方について考察する。 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・授業で配布する資料の予備は保管しません。<br>〔受講のルール〕<br>・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。<br>・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時に指示する。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分程度、対応可能 |
| 評価方法 | レポート100% |
| 教科書 | 日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版　6. 発達障害. 協同医書出版社. 2010 |
| 参考書 | シラバスを参照すること。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>発達障害領域での臨床経験を要する教員でオムニバスで実施している。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>You tube、及びzoomでの遠隔授業実施。質問に対してWebポータルにて回答する。 |

講義科目名称： 高齢期作業療法学Ⅰ　　授業コード：020193F726

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴・悴田敦子 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | ［授業の目的］<br>加齢とともに生じる身体的変化、精神的変化、生活の変化などを学び、様々な高齢者に対する作業療法について理解することを目的とする。<br>［到達目標］<br>①高齢者を取り巻く社会の現状を説明することができる。<br>②高齢期の身体的特徴や、特徴的な疾患について説明することができる。<br>③高齢期の作業療法実践の基本的枠組みを説明することができる。<br>④認知症および特徴的疾患の作業療法アプローチを説明することができる。<br>⑤地域で生活する高齢者の特徴を説明することができる。<br>⑥介護予防における作業療法の可能性を説明することができる。 |
| 授業の概要 | 高齢者の身体・精神・生活などについて学び、老年期障害領域での作業療法の実際や、作業療法士が果たす役割を理解する。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、わが国における高齢社会について考える<br>【key words】<br>高齢者、高齢化率、介護保険<br>【授業概要】<br>高齢者、高齢化率、高齢者福祉高齢者の定義などについて確認すると共に、わが国における社会構造の変化と施策の変遷について学ぶ。<br>【予習】<br>以下の教科書指定ページを読んでから受講する。<br>【復習】<br>・社会施策の変遷（P.11～16、P29～32）についてまとめて提出。<br>⇒次回までに教科書P.29～32 の社会制度をふまえ、社会施策の変遷（P.11～15）について分かりやすくまとめる。詳細は講義時に説明する。<br>・次回までにP.33～38の「高齢期の作業療法」について読んでおく(予習)<br>・第5回までに、高齢者の生活についてのインタビュープリントを準備する（祖父母の生活について）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P.8～16<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第２回 | 社会制度と高齢期の作業療法<br>【key words】<br>社会保障制度<br>【授業概要】<br>各担当で調べた社会制度を基に、改めて理解を深めると共に、わが国の高齢者福祉施策の変遷について更なる理解を深める（P.29～32)。<br>また、高齢期の作業療法（P.33～38）について理解を深める。<br>【予習】<br>・第1回指定課題の実施、<br>・教科書の当該ページを読んでおく<br>【復習】<br>・授業内容をしっかりとふりかえる<br>・次回は1～2回内容の小テスト<br>【教科書ページ・参考文献】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 上記指定頁<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第３回 | 高齢期の一般的特徴、第1回小テスト<br>【key words】<br>小テスト、加齢、老化<br>【授業概要】<br>第1回小テスト（第1～2回目の範囲）<br>・加齢による心身の様々な変化につながる生理的、身体的変化と特徴的な疾患などについて学ぶ。また、運動器障害系は、転倒リスクなどとも併せて理解する。<br>・第7～9回の認知症に関する発表準備を行う（①認知症とは定義と疫学、②若年性認知症の定義と疫学、③アルツハイマー型認知症、④レビー小体型認知症、⑤血管性認知症、⑥前頭側頭型認知症(意味性認知症を含む)、⑦正常圧水頭症、⑧嗜銀顆粒性認知症･大脳皮質基底核変性症･進行性格上麻痺、⑨treatable dementia(正常圧水頭症を除く)、⑩BPSD、⑪薬物療法・非薬物療法について）<br>【予習】<br>・テスト範囲の学習<br>・教科書指定範囲を熟読しておく<br>【復習】<br>・授業内容をしっかりと振り返る。<br>・次回は第2回目（第3回目講義内容）の小テスト<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P.39～50<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第４回 | 高齢期に多い疾患について<br>【key words】<br>小テスト、COPD、糖尿病、転倒<br>【授業概要】<br>第2回小テスト（第3回の内容）<br>呼吸器疾患、内分泌系、神経系の変化、特徴、症候、疾患について学ぶ。運動器系は、転倒リスクとからめて理解する。<br>・第7～10回の認知症に関する発表準備を行う（①認知症とは定義と疫学、②若年性認知症の定義と疫学、③アルツハイマー型認知症、④レビー小体型認知症、⑤血管性認知症、⑥前頭側頭型認知症(意味性認知症を含む)、⑦正常圧水頭症、⑧嗜銀顆粒性認知症･大脳皮質基底核変性症･進行性格上麻痺、⑨treatable dementia(正常圧水頭症を除く)、⑩BPSD、⑪薬物療法・非薬物療法について）<br>【予習】<br>・教科書の当該ページに目を通してから参加する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P46～54、60～65<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・第6回目に3回目小テスト。内容の範囲は、第4回の講義内容で国家試験の過去問題が中心。<br>・次回インタビュー結果の報告準備<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第５回 | 高齢期作業療法の過程について<br>【key words】<br>高齢期の心理、生活<br>【授業概要】<br>各自が事前に高齢者に対して行ったインタビュー結果をグループで共有する。そこから得られた結果を基に、加齢、高齢者の特性、実際の高齢者の生活スタイルなどについて、興味を持ち理解を深める。<br>それらの学びを通して、第1～4回の内容に対する振り返りとする。<br>【予習】<br>・第5回目までに指定された課題を作成し当日に持参する<br>【復習】<br>・本日学んだ内容について振り返りを行う<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自で持ち寄った指定シートを参照・共有する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・第12回目で実施する内容について確認（各グループ、サロン参加日前までに企画書を作成し、内容の許可を得た上で準備を進めること）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第６回 | 一般高齢者の作業療法、介護予防の作業療法<br>【key words】<br>小テスト<br>【授業概要】<br>第3回の小テストを実施する。<br>一般の地域在住健常高齢者に対する作業療法の役割について理解する。また、一般的な介護予防の仕組みと取り組みについて理解するとともに、 作業療法士の役割について学ぶ<br>【予習】<br>・教科書指定ページを熟読する、小テストに向けた準備<br>【復習】 |

・講義内容と小テストの振り返り
【教科書ページ・参考文献】
P.117～129
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回から発表があるため、担当か所の資料を仕上げ、事前に担当教員へ提出する
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第７回　認知症の定義、認知症の分類・症状❶
【key words】
若年性認知症、アルツハイマー型認知症、
【授業概要】
①認知症とはなにか？その定義と疫学について学ぶ。
②若年性認知症の定義と疫学について学んだ後に、③アルツハイマー型認知症の基本的な疫学や原疾患、症状の特性などについて学ぶ
【予習】
・各自で発表の準備
【復習】
・講義内容の振り返り
【教科書ページ・参考文献】
P.64～73, P.130～145、その他はメディカルオンライン等で文献を検索
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回発表者は準備をして、事前に資料を担当教員に提出する
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　認知症の分類と症状❷
【key words】
DLB、VD、FTD、
【授業概要】
④レビー小体型認知症、⑤血管性認知症、⑥前頭側頭型認知症(意味性認知症を含む)について、基本的な疫学や疾患の特徴、診断基準、特異的な症状などについて、学生の発表と教員からの補足説明を基に理解を深める。
【予習】
・各自で発表の準備
【復習】
・講義内容の振り返り
【教科書ページ・参考文献】
P.64～73, P.130～145、その他はメディカルオンライン等で文献を検索
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回発表者は準備をして、事前に資料を担当教員に提出する
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　認知症の分類と症状❸
【key words】
Treatable dementia、iNPH、BPSD、AGD、CBD、PSP
【授業概要】
⑦正常圧水頭症、⑧嗜銀顆粒性認知症･大脳皮質基底核変性症･進行性格上麻痺⑨treatable dementia(正常圧水頭症を除く)について、基本的な疫学や疾患の特徴、診断基準、特異的な症状などについて、学生の発表と教員からの補足説明を基に理解を深める。
【予習】
・各自で発表の準備
【復習】
・講義内容の振り返り

【教科書ページ・参考文献】
P.64～73, P.130～145、その他はメディカルオンライン等で文献を検索
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回発表者は準備をして、事前に資料を担当教員に提出する
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　BPSDと薬物療法･非薬物療法について
【key words】
アルツハイマー型認知症
【授業概要】
⑩BPSD、⑪薬物療法・非薬物療法について、学生の発表と教員からの補足説明を基に理解を深める。
認知症に関する評価指標について学ぶ
アルツハイマー型認知症に関するドキュメントなどを見て、症状や進行についての実際について学ぶ。
【予習】
・各自で発表の準備
【復習】
・講義内容の振り返り、次回小テストを実施
【教科書ページ・参考文献】
P.64～73, P.130～145、その他はメディカルオンライン等で文献を検索
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
90分

| | |
|---|---|
| | 第１１回　認知症高齢者の作業療法<br>【key words】<br>第4回小テスト<br>薬物療法、非薬物療法について考える。<br>非薬物療法の回想法は、グループでロールプレイを行う。<br>【授業概要】<br>第4回目の小テストを実施する。出題範囲は第7～10回の講義内容。<br>認知症に対する作業療法について、実践からその基本的な考え方を学ぶ。<br>【予習】<br>小テストの準備<br>【復習】<br>小テストと授業内容の振り返り<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P130～145、配布プリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分<br><br>第１２回　健康高齢者、地域在住高齢者の作業療法①<br>【key words】<br>高齢者向けサロン、地域包括ケアシステム<br>【授業概要】<br>前橋市中央地区の高齢者向けサロンに参加するためのグループ分け、企画を考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１３回　健康高齢者、地域在住高齢者の作業療法②<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>前橋市中央地区の高齢者向けサロンに参加し、各グループで考えた歌体操を説明から実施まで行う。その後はサロンの企画に参加し、参加者と交流を図る。第１５回でサロン参加のまとめを行うため、各グループで実施した内容や参加者の様子、グループや各自の反省点などをまとめておくこと<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　症例検討<br>【key words】<br>ICF、参加、活動、評価<br>【授業概要】<br>高齢者の症例検討を行う。ＩＣＦを使用し、問題点、利点を考える（グループワーク）。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回、高齢者向けサロン参加の振り返りを行います。各グループ、各自の反省点をまとめておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　健康な高齢者のＯＴ，まとめ<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>高齢者向けサロンへの参加後、グループでの振り返りを行う。また、それぞれのグループでの反省点を共有し、健康な地域で生活する高齢者を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | グループでの症例検討では、積極的な意見交換に努めてください<br>小テストを実施するため、こまめに学習の振り返りなどを実施してください<br>サロンでの実践などもあるため、グループ学習が多く計画されています。できる限り欠席がないようにしてください。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式、またはWEBポータルのスレッド |
| 授業外時間にかかわる情報 | グループ発表では、レジュメの作成・提出、発表準備行ってください。<br>高齢者向けサロンに参加するため、グループでの歌体操の準備を行ってください |
| オフィスアワー | 月曜日16：10～17：30 |
| 評価方法 | 授業内小テスト(WEBで実施する可能性もある)･課題･発表等70%、サロンでの企画・運営とその実践報告・振り返り30% |
| 教科書 | 松房利憲・新井健五編：標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学．第3版，医学書院 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する |

| | |
|---|---|
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>高齢期作業療法領域において臨床実践経験が長い教員が担当する。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 義肢装具学　　授業コード： 020193F732

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>義肢装具の概念、対象となる疾患・障害、処方・製作までの流れを学び、義肢装具の基本的な目的と原理を学ぶ。また、主な義肢装具の分類・名称・構造を知り、対象者にとってどのような義肢装具が必要であるが考える。さらに、作業療法士が良肢位保持や変形防止などのために製作するスプリントについて学び、実際に製作する。<br>[到達目標]<br>①切断の種類とそれに合わせた義肢の種類を言うことができる。<br>②義肢の種類及び各パーツの名称を言うことができる。<br>③上肢・下肢・体幹の装具の種類と目的、対象疾患を言うこと。<br>④基本的なスプリントの作製技術を理解し、実際に作製することができる。 |
| 授業の概要 | 作業療法で対象となる各種装具・スプリントと、国家試験で出題される各種義肢・装具の名称及びその特徴と対象疾患について学ぶ。また、代表的なスプリントの製作から、その特徴や治療目的を理解し、フィッティングなどの技術も学んでいく。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第1回 | 科目オリエンテーション／義肢装具学総論<br>【key words】<br>義肢、装具、義手<br>【授業概要】<br>義肢、装具、スプリント、切断・離断、義手の種類義肢、装具、スプリントの定義を説明し、義肢（切断）について説明する。また、義手の種類を確認する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①義肢装具のチェックポイント　P47-89<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第2回 | 義手の分類・名称・構造・機能について<br>【key words】<br>義手、義手の構造<br>【授業概要】<br>義手の分類から各部位パーツの名称を説明する。また、各義手、断端長で必要となるパーツとその特徴を教科書、資料を使用し説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①義肢装具のチェックポイント　P92-105<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第3回 | 義手のチェックアウト<br>【key words】<br>義手、義手のチェックアウト、義手の訓練<br>【授業概要】<br>断端ケアを復習し、義肢装着法を説明する。又、上腕、前腕義手の適合検査を説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①義肢装具のチェックポイント　P106-119<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 予習90分／復習90分 |
| | 第4回 | スプリント作製のための基礎知識<br>【key words】<br>スプリント、スプリントの力学<br>【授業概要】<br>スプリンティングにおける基本的な目的や評価、素材、道具、デザイン、３点固定、力学、コストの取り方などについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①義肢装具のチェックポイント　P182-201<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第5回 | スプリント作製の流れ<br>【key words】<br>スプリント、スプリント作製の流れ、hand-base splint<br>【授業概要】<br>スプリント製作における基本的な手順について、hand-base splintを作製しながら学ぶ。<br>スプリントの適応と目的を考え、対象者の状態に合わせたスプリントの選択、デザインの決定について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第6回 | スプリント作製①<br>【key words】<br>スプリント、スプリント作製、radial-bar type cock-up splint、pinch and wrap法<br>【授業概要】<br>radial-bar type cock-up splintをpinch and wrap法で製作する。使用目的、適応症状を説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第7回 | スプリント作製②<br>【key words】<br>スプリント、スプリント作製、radial-bar type cock-up splint、pinch and wrap法<br>【授業概要】<br>radial-bar type cock-up splintをpinch and wrap法で製作する。使用目的、適応症状を説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第8回 | スプリント作製③<br>【key words】<br>スプリント、スプリント作製、thumb-hole type cock-up splint、drape法<br>【授業概要】<br>thumb-hole type cock-up splintをで製作する。使用目的、適応症状を説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第9回 | スプリント作製④<br>【key words】<br>スプリント、スプリント作製、thumb-hole type cock-up splint、drape法<br>【授業概要】<br>thumb-hole type cock-up splintをdrape法で製作する。使用目的、適応症状を説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第10回 | スプリント作製⑤：dynamic splint<br>【key words】<br>スプリント、スプリント作製、dynamic splint<br>【授業概要】<br>hand-baseにアウトリガーを取り付け、dynamic splintを作製する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |

| | |
|---|---|
| | 予習90分／復習90分<br>第11回　スプリント作製⑥<br>【key words】<br>スプリント、スプリント作製、チェックアウト<br>【授業概要】<br>作製したスプリントについて、適切に装着するために各部のチェックを行い、安全かつ効果的に装着するための方法を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①義肢装具のチェックポイント　P201<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第12回　装具とは／上肢装具について<br>【key words】<br>装具、上肢装具<br>【授業概要】<br>装具の特徴やスプリントとの違いについて説明する。<br>上肢装具について、構造・目的・適応と合わせて説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①義肢装具のチェックポイント　P202-213<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第13回　頸部・体幹装具について<br>【key words】<br>装具、頸部・体幹装具<br>【授業概要】<br>頸部・体幹装具について、構造・目的・適応疾患と合わせて説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①義肢装具のチェックポイント　P240-253<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第14回　下肢装具について<br>【key words】<br>装具、下肢装具<br>【授業概要】<br>下肢装具について、目的、種類、パーツの名称を説明し、AFOは片麻痺と合わせて適応を説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①義肢装具のチェックポイント　P214-239<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第15回　下肢切断と義足<br>【key words】<br>下肢切断、義足<br>【授業概要】<br>下肢の切断、離断と適合義足について説明する。下腿義足はソケットの種類を見本を用いて説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①義肢装具のチェックポイント　P120-180<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・各種義肢・装具・スプリントを装着することが多く、また、後半はスプリント製作も行うため、作業のしやすい服装を心がけること。<br>・スプリント製作では各自タオルを用意すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 授業スレッドにコメント用のgoogle formのURLを掲示するので、そこから入力する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について実技を含めて評価を実施できるようにしておくこと。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | 筆記試験　50%<br>ポートフォリオ　20% |

| | |
|---|---|
| | レポート　30% |
| 教科書 | ①日本整形外科学会　日本リハビリテーション医学会　監：義肢装具のチェックポイント　第8版．医学書院 |
| 参考書 | ①社団法人　日本作業療法士協会　監修：作業療法学全書　改訂第3版　第9巻　作業療法技術学1 義肢装具学，協同医書出版社<br>②やさききよし　著：手のスプリントのすべて　第4版．三輪書店 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、臨床業務の一環として装具療法を行っていた経験が科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法治療学Ⅱ　　授業コード：020193F734

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹・宮寺亮輔 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>身体障害領域の疾患について病態・症状・障害像を理解し、作業療法の特性を活かした評価・治療・支援を行えるようになることを目的とする。<br>[到達目標]<br>①身体障害領域の各疾患の病態・症状・障害像を理解し、説明することができる。<br>②各疾患の検査・評価を理解し、説明することができる。<br>③障害像、病期などを考慮し、作業療法の特性を活かした治療・支援・指導を説明する事ができる。 |
| 授業の概要 | 作業療法の対象となる身体障害領域の疾患について病態・症状・障害像について理解し、作業療法の特性を活かした評価・治療・支援方法について学ぶ。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション／内部障害における作業療法実践①循環器疾患<br>【key words】<br>作業療法実践、循環器疾患<br>【授業概要】<br>科目オリエンテーションと科目の位置づけ、シラバスの説明を行う。<br>循環器疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。<br>また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp376-389<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第２回 | 内部障害における作業療法実践②呼吸器疾患／腎疾患<br>【key words】<br>作業療法実践、呼吸器疾患、腎疾患<br>【授業概要】<br>呼吸器疾患、腎疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。<br>また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp405-421<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第３回 | がんにおける作業療法実践<br>【key words】<br>作業療法実践、がん<br>【授業概要】<br>がんにおける評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。<br>また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp424-439<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 |

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第４回　熱傷における作業療法実践

【key words】
作業療法実践、熱傷
【授業概要】
熱傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。
また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp298-308
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第５回　骨・関節疾患における作業療法実践

【key words】
作業療法実践、骨折
【授業概要】
骨・関節疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。
また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp216-230
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第６回　関節リウマチにおける作業療法実践

【key words】
作業療法実践、関節リウマチ
【授業概要】
関節リウマチにおける評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。
また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp239-254
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第７回　末梢神経障害における作業療法実践

【key words】
作業療法実践、末梢神経障害
【授業概要】
末梢神経障害における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。
また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp261-278
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第８回　腱損傷における作業療法実践

【key words】
作業療法実践、腱損傷
【授業概要】
腱損傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。
また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp279-290
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第９回　脳血管障害・脳外傷における作業療法実践①

【key words】
脳血管障害，脳外傷，作業療法評価，作業療法，模擬事例
【授業概要】
脳血管障害・脳外傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。
また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを検討し、その情報を統合及び報告する方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp162-190
参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時教員へ報告・相談を行う。

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１０回　脳血管障害・脳外傷における作業療法実践②

【key words】
脳血管障害，脳外傷，作業療法評価，作業療法，模擬事例
【授業概要】
脳血管障害・脳外傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。
また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを検討し、その情報を統合及び報告する方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp162-190
参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時教員へ報告・相談を行う。次回の演習課題について準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内発表準備180分）

第１１回　脳血管障害・脳外傷における作業療法実践③

【key words】
脳血管障害，脳外傷，作業療法評価，作業療法，模擬事例
【授業概要】
演習課題：模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを検討し、その情報を統合及び報告する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp162-190
参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬事例に対しての作業療法評価・治療・支援を報告する。教員よりフィードバックを受ける。
次回より脊髄損傷における作業療法実践を検討する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１２回　脊髄損傷における作業療法実践①

【key words】
脊髄損傷，残存機能，福祉機器
【授業概要】
脊髄損傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。
また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを検討し、その情報を統合及び報告する方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp191-214
参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時教員へ報告・相談を行う。次回の発表準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内発表準備180分）

第１３回　脊髄損傷における作業療法実践②

【key words】
脊髄損傷，残存機能，福祉機器
【授業概要】
脊髄損傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。
また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp191-214
参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループでまとめた模擬事例に対しての作業療法評価・治療・支援を発表する。発表に関して意見交換を行い、情報共有を行う。教員より総括。次回より神経変性疾患における作業療法実践を検討する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１４回　神経変性疾患における作業療法実践

【key words】
神経変性疾患，環境設定，自助具
【授業概要】
神経変性疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。
また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp336-374
参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回より神経変性疾患における作業療法実践を検討する。神経変性疾患の病態について今までの授業で習った事を復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

| | |
|---|---|
| | 予習90分／復習90分<br>第１５回　神経・筋疾患における作業療法実践<br>【key words】<br>神経・筋疾患，環境設定，自助具<br>【授業概要】<br>神経・筋疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。<br>また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp336-374<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>これまで学んだことの総括。試験範囲の伝達を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 予習復習は欠かさないこと。<br>授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。<br>授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為を行う者は受講を拒否する場合がある。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 予習復習を欠かさないこと<br>初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。 |
| オフィスアワー | [牛込]月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約<br>[宮寺]月曜日16時30分～18時00分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | 筆記試験 50%　演習課題 20%　ポートフォリオ20%　確認テスト10% |
| 教科書 | ①標準作業療法学専門分野　身体機能作業療法学　第3版．医学書院，2018 |
| 参考書 | 菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>身体障害領域で作業療法士として勤務する中で、脳血管障害患者、整形外科疾患患者、神経・筋疾患患者に対する作業療法（利き手交換訓練、生活動作訓練、環境調整など）を展開してきた実務経験を活かし、作業活動や環境を利用しADLや趣味活動を支援する手法について実演・講演する。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法治療学Ⅲ　　授業コード： 020193F735

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂駿・遠藤真史 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>これまでに学んだ精神障害リハビリテーションの基礎知識や各疾患の特徴、評価方法等を統合し、応用的に精神障害リハビリテーションを進めるための考え方や具体的方法を学ぶ。<br>〔到達目標〕<br>①各疾患における生活課題と作業療法の目的について理解・説明できる。<br>②各疾患における作業療法の基本的な援助方法を理解・説明できる。<br>③健康を高めるための行動変容技法について説明・実施できる。<br>④各疾患における作業療法実施上の留意点を理解・説明できる。<br>⑤治療場面での環境設定や適応・段階づけについて説明・実施できる。<br>⑥精神障害者に対する生活移行（定着）支援の仕組みと実際を理解・説明することができる。 |
| 授業の概要 | ICFに基づいた実践的なリハビリテーションの考え方と治療・支援の実際を学ぶ。その人にとっての生活障害とは何か、地域で生活を続けるための方法を事例をもとに考え、評価、治療・支援計画を立てる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション／精神科作業療法に関する理論・モデル・技法（高坂）<br>【key words】<br>治療構造論、森田療法、精神療法、認知行動療法<br><br>【授業概要】<br>精神科リハビリテーションに関わる各種基礎理論を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>全書　精神障害　pp.287-323、配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第２回 | 精神科作業療法に関する理論・モデル・技法（高坂）<br>【key words】<br>運動療法、認知リハビリテーション、作業理論<br><br>【授業概要】<br>精神科リハビリテーションに関わる各種基礎理論を学ぶ。<br>・精神科病院における運動療法<br>・認知リハビリテーション（神経認知、社会認知）<br>・CPPF、CMCE<br>【教科書ページ・参考文献】<br>全書　精神障害　pp.287-323、配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習：リハビリテーション及び作業療法に関わる、各種理論や技法について<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第３回 | 健康を高めるための行動変容技法（高坂）<br>【key words】<br>行動変容技法、認知行動療法、運動療法<br>【授業概要】<br>・行動変容とは<br>・喫煙、肥満、運動、不眠などに対する行動変容技法<br>【教科書ページ・参考文献】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：上記キーワードについて調べて理解しておくこ<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第４回 | 作業を用いたリハビリテーション（高坂）<br>【key words】<br>作業を用いたリハビリテーション<br>【授業概要】<br>・「人生、ここにあり！」のDVDを鑑賞し、精神障害者のリハビリテーションについて考える。<br>・90分以上の映画であるため、30分程度授業外の時間を使用する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>新日本映画社：「人生、ここにあり！」<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題：次週までに感想文を提出。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第５回 | ケーススタディ①（高坂）<br>【key words】<br>作業療法、作業、介入<br>【授業概要】<br>・提示された事例を基に、グループで作業療法評価計画を立案する（ワークシート）。不足する情報について、追加評価を実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書や各種関連書、文献を参考にする。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回までに、次週までにグループとして得たい情報をすべてまとめてくる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度 |
| | 第６回 | ケーススタディ②（高坂）<br>【key words】<br>作業療法、作業、介入<br><br>【授業概要】<br>・不足する評価について情報収集を行うとともに、問題の焦点化、作業療法目標の設定を行う（ワークシート）。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書や各種関連書、文献を参考にする。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業中に終わらなかった内容について次回までにまとめてくる。<br>目標に沿った作業療法介入プランについて文献等の調べ学習をしてくる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度 |
| | 第７回 | ケーススタディ③（高坂）<br>【key words】<br>作業療法、作業、介入<br>【授業概要】<br>・作業療法介入プランについて、調べてきた内容を基に個人でまとめる（ワークシート）。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書や各種関連書、文献を参考にする。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>作業療法介入プランについて次回までに個人でまとめてくる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度 |
| | 第８回 | ケーススタディ④（高坂）<br>【key words】<br>作業療法、作業、介入<br>【授業概要】<br>・作業療法介入プランについて、調べてきた内容を基にグループでまとめる（ワークシート）。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書や各種関連書、文献を参考にする。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>作業療法介入プランについて期日までにグループでまとめる。<br>期日に個人ごとにワークシートを提出する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度 |
| | 第９回 | 司法精神医療における作業療法（外部講師）<br>【key words】<br>医療観察法、指定入（通）院医療、anger management、MDT<br><br>【授業概要】<br>・医療観察法の概要と指定入院(通院)医療について<br>・指定入院(通院)医療機関の役割とOTプログラムについて<br>・司法精神医療に関する動画の視聴<br>【教科書ページ・参考文献】<br>全書　精神障害　pp.243-256<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：上記キーワードについて調べて理解しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第１０回 | 地域で精神障害者を支える仕組み（高坂）<br>【key words】 |

| | |
|---|---|
| | Assertive Community Treatment、オープンダイアローグ、ピアサポート<br><br>【授業概要】<br>・ACTの概要について<br>・オープンダイアローグの取り組みの概要について<br>・ピアサポートの概要について<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：上記キーワードについて調べて理解しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１１回　精神障害者の地域移行支援、定着支援①（遠藤）<br>【key words】<br>ケアマネジメント、長期入院者<br><br>【授業概要】<br>・精神障害者を取り巻く動向<br>・事例検討会<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事前課題：精神障害者に関わる前橋市の社会資源（制度、各種事業所等）についてまとめてくること。<br>精神障害者の地域移行支援やその方法について、よく復習しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１２回　精神障害者の地域移行支援、定着支援②（遠藤）<br>【key words】<br>長期入院者、地域移行、地域定着<br><br>【授業概要】<br>・仮想事例Aに対するケアマネジメント<br>・退院準備<br>・退院後支援<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>精神障害者の地域移行支援やその方法について、よく復習しておくこと。、<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１３回　精神障害者のケアマネジメント（遠藤）<br>【key words】<br>ケアマネジメント<br><br>【授業概要】<br>長期入院者に対するケアマネジメント<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>精神障害者の地域移行支援やその方法について、よく復習しておくこと。、<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１４回　精神障害領域における作業療法介入・研究①（高坂）<br>【key words】<br>健康、作業、MTDLP、統合失調症、個別的作業療法<br><br>【授業概要】<br>・統合失調症者に対する個別的作業療法の効果について<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>介入研究に関わる用語等で不明な点は調べて理解しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１５回　精神障害領域における作業療法介入・研究②（高坂）<br>【key words】<br>健康、作業、MTDLP、統合失調症、個別的作業療法<br><br>【授業概要】<br>・統合失調症者に対する個別的作業療法の効果について<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>介入研究に関わる用語等で不明な点は調べて理解しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・COVID-19感染状況に応じ、対面またはWebのハイブリット形態で行う。形態は大学の方針に準ずる。<br>・遠隔授業はPCでの受講を推奨する。また、有線LAN、Wi-fi使用下での受講を推奨する。<br>・予習復習をしっかりする。 |

| | |
|---|---|
| | ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。<br>・遠藤先生の講義日程については決まり次第連絡する。講義中盤で実施予定である。<br>・外部講師との日程調整上、授業の順序が入れ替わる場合がある。<br>〔受講のルール〕<br>・遠隔授業は原則画面ONで受講すること。その際は、模擬背景を使用したり、室内環境に配慮すること。<br>・講義は欠席のないようにする。<br>・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。<br>・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。 |
| オフィスアワー | 月曜日17:00～18:00は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。 |
| 評価方法 | □感想文　10%<br>□事例検討ワークシート　30%<br>□レポート　30%<br>□ペーパー試験　30% |
| 教科書 | ①日本作業療法士協会　監修：作業療法学全書　改訂第３版　作業療法治療学２　精神障害，2010.<br>②岩﨑テル子他（編）：作業療法評価学，第3版．医学書院，2017. |
| 参考書 | ①香山明美他：生活を支援する　精神障害作業療法―急性期から地域実践まで―，第2版，医歯薬出版，2014.<br>②障害者福祉研究会（編）：国際生活機能分類，2002.<br>③日本行動医学会（編）：行動医学テキスト，2015. |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士国家資格及び高齢期・精神科領域の臨床経験を有する教員が担当。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法技術論Ⅰ　　授業コード：020193F736

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 宮寺亮輔・芦原大 | | | |
| 作業療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>作業療法士が対象者の行為を理解するために用いる動作分析および作業分析について、行為（作業）工程ごとに実施し、対象者の治療の方向性を説明できるようになることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①観察から対象者の姿勢や行為について運動学的に分析できる。<br>②分析した内容を他者にわかりやすく説明することができる。<br>③姿勢や行為から課題設定の理由が説明できる。<br>④対象者の日常生活動作上の問題点と分析内容を照らし合わせて治療の方向性を説明することができる。 |
| 授業の概要 | ひとの意志は動作として表現され、目的に応じた動作の連続が作業となる。作業療法士は作業を実現する専門職であるため、意志の表現としての動作を正確に解釈する必要がある。本講義では、ひとの動作の過程を分析し、対象者の評価および治療に生かす観察力を身につける。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 授業オリエンテーション、姿勢と動作、姿勢分析、動作分析<br>【key words】<br>姿勢，作業姿勢，動作分析<br><br>【授業概要】<br>・姿勢、動作、分析、工程、アライメント姿勢観察、動画、写真の利用について<br>・重心位置の理解<br>・作業姿勢の評価について<br>【教科書ページ・参考文献】<br>PPTでの講義<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各自の身体で演習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第２回 | 座位姿勢の評価（不良座位姿勢の原因の特定）<br>【key words】<br>座位姿勢，仙骨座り姿勢，シーティング<br><br>【授業概要】<br>・仙骨座り姿勢の原因やその姿勢による身体への影響について、良姿勢や他の不良姿勢と比較しながら説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>高齢者のシーティング<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>PPTでの講義<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第３回 | シーティングの理論<br>【key words】<br>座位姿勢，シーティング，褥瘡<br><br>【授業概要】<br>・シーティングの目的および力学背景について説明をする。<br>・褥瘡予防の観点からシーティングの医療福祉分野における位置付けを説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>高齢者のシーティング |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PPTでの講義
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第４回　シーティングの実際①（身体寸法計測、座位機能評価、車椅子の選定）
【key words】
身体寸法計測，座位機能，車椅子選定

【授業概要】
・調整前の車椅子乗車姿勢の評価後、身体寸法計測および座位機能評価を実施し、推奨姿勢から車椅子の選定までを体験する。
【教科書ページ・参考文献】
作業療法評価学p71-77，高齢者のシーティング
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ペアグループで演習。使用用具：ﾒｼﾞｬｰ（金属）、ｺﾞﾆｵﾒｰﾀｰ、ﾊﾞｲﾝﾀﾞｰ（板などでも良い）2枚。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第５回　シーティングの実際②（車椅子の調整）
【key words】
車椅子調整

【授業概要】
・第4回で計測した結果に基づいて、選定した車椅子を調整する。
【教科書ページ・参考文献】
高齢者のシーティング
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ペアグループで演習。使用用具：車椅子（ﾓｼﾞｭﾗｰ型）、ﾒｼﾞｬｰ（金属）、ｺﾞﾆｵﾒｰﾀｰ、工具（ﾗﾁｪｯﾄﾚﾝﾁ，ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰなど）。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第６回　シーティング後の適合評価①（座位機能）
【key words】
適合評価，シーティング

【授業概要】
・第5回で調整した車椅子に乗車し、座位評価手法を使用して適合評価する。
・評価手法は、Hofferの座位能力分類、ズレ度を使用。
【教科書ページ・参考文献】
高齢者のシーティング
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ペアグループで演習。使用用具：車椅子（ﾓｼﾞｭﾗｰ型）、ﾒｼﾞｬｰ（金属）、差し金。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第７回　シーティング後の適合評価②（上肢機能）
【key words】
適合評価，シーティング，上肢機能

【授業概要】
・第5回で調整した車椅子に乗車し、座位評価手法を使用して適合評価する。
・評価手法は、簡易上肢機能評価（simple test for evaluating hand function; STEF)を使用。
【教科書ページ・参考文献】
作業療法評価学p182-190，高齢者のシーティング
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ペアグループで演習。使用用具：車椅子（ﾓｼﾞｭﾗｰ型）、ﾒｼﾞｬｰ（金属）、STEF。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第８回　シーティング後の適合評価③（ADL，QOL）
【key words】
適合評価，シーティング，ADL

【授業概要】
・第5回で調整した車椅子に乗車し、座位評価手法を使用して適合評価する。
・評価手法は、5m駆動、ADL評価（FIMなど）、QOL評価｛痛みの評価（Visual analog scale;VAS）など｝を使用。
【教科書ページ・参考文献】
作業療法評価学p235-290，高齢者のシーティング

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ペアグループで演習。使用用具：車椅子（ﾓｼﾞｭﾗｰ型）、ﾒｼﾞｬｰ（金属）、ﾃｰﾌﾟ（目印）、定規。
【課題】シーティングについてレポート課題を提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内レポート180分）

第９回　上肢協調運動に対する作業療法①（姿勢変化に伴う上肢協調運動機能の評価）
【key words】
上肢協調運動機能，作業姿勢，環境設定

【授業概要】
・姿勢変化に伴う上肢（協調運動）機能への影響を説明する。
・上肢協調運動機能の評価方法、評価指標について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
作業療法評価学p159-164，姿勢調節障害の理学療法
【課題・予習・復習・授業準備指示】

使用道具：ﾎﾞｰﾙﾍﾟﾝ（0.5mm芯）、ﾊﾞｲﾝﾀﾞｰ。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１０回　上肢協調運動に対する作業療法②（姿勢変化に伴う上肢協調運動機能の治療）
【key words】
上肢協調運動機能，作業姿勢，環境設定

【授業概要】
・姿勢変化に伴う上肢（協調運動）機能への影響について検討する。
・上肢協調運動機能に応じた課題設定を検討する。
・グループワークで進め、発表ディスカッションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
作業療法評価学p159-164，姿勢調節障害の理学療法

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ディスカッション及び発表。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１１回　姿勢制御の理論
【key words】
姿勢制御

【授業概要】
・姿勢制御のメカニズムを説明し、姿勢制御を発揮する作業療法場面を紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
姿勢調節障害の理学療法
【課題・予習・復習・授業準備指示】
PPTでの講義
11回までに学習した姿勢についてレポート課題を提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内レポート180分）

第１２回　移動支援技術の実際①（視覚情報処理機能と移動機能の関係）
【key words】
視覚情報処理機能

【授業概要】
・視覚情報処理機能の役割を説明した上で、主体的生活行為における移動機能の支援方法を検討する。
【教科書ページ・参考文献】
姿勢調節障害の理学療法

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PPTでの講義
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１３回　移動支援技術の実際②（課題から考えるバランス機能の理解、転倒回避能力の促通方法）
【key words】
転倒，バランス，運動課題

【授業概要】
・視覚情報処理機能、移動機能、自己のバランスの理解の相互関係について説明した上で、転倒回避能力を向上させるプログラムを検討する。
【教科書ページ・参考文献】
姿勢調節障害の理学療法
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ディスカッション及び発表。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１４回　行動、動作分析から作業療法を考える①（芦原）
【key words】
動作分析，作業療法

【授業概要】
・講義を通じて実施してきた動作や姿勢の分析について、理学療法士・作業療法士の視点から治療に繋げる方向性を考える。
【教科書ページ・参考文献】
姿勢調節障害の理学療法，その他必要に応じて各自で参考文献を用意する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PPTでの講義
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１５回　行動、動作分析から作業療法を考える②（芦原）
【key words】
動作分析，作業療法

【授業概要】
・講義を通じて実施してきた動作や姿勢の分析について、理学療法士・作業療法士の視点から治療に繋げる方向性を考察、発表する。
【教科書ページ・参考文献】
姿勢調節障害の理学療法，その他必要に応じて各自で参考文献を用意する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | |
|---|---|
| | 第14回でディスカッションした内容の発表、期末レポート採点基準の説明。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・授業で配布する資料の予備は保管しません。<br>〔受講のルール〕<br>・姿勢観察しやすい（身体貼付するマーカーなどが確認しやすい）服装で参加すること。<br>・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。<br>・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | Google Formによる確認問題 |
| 授業外時間にかかわる情報 | シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。 |
| オフィスアワー | 月曜日16時30分～18時00分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | レポート50%　演習課題50% |
| 教科書 | 能登真一ら・編：標準作業療法学 作業療法評価学　第3版．医学書院，2017 |
| 参考書 | 廣瀬秀他：高齢者のシーティング第2版．三輪書店，2014<br>奈良勲他：姿勢調節障害の理学療法第2版．医歯薬出版株式会社，2012 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士経験　15年<br>作業療法士養成校教員経験　11年<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法技術論Ⅱ　　授業コード： 020193F737

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹 | | | |
| 作業療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>作業療法のひとつの領域であるHand Therapyについて基礎知識、評価、プログラムを学ぶ。また、上肢を中心とした整形外科疾患・手外科疾患に対する作業療法の理解を深め、作業療法士としての臨床的な知識・技術を身につけることを目的とする。<br>[到達目標]<br>①Hand Therapyの視点から、解剖・運動・生理学に基づき上肢機能を捉えることができる。<br>②Hand Therapyの視点から、上肢機能へのアプローチを考えることができる。<br>③整形外科疾患・手外科疾患に対するHand Therapyプログラムを考えることができる。 |
| 授業の概要 | Hand Therapyの視点から、解剖・運動・生理学に基づき評価を行い、上肢機能へのアプローチを考えることができるように学ぶ。また、整形外科疾患・手外科疾患に対するHand Therapyプログラムを考えることができるように臨床的な知識・技術を修得する。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | 科目オリエンテーション<br>【key words】<br>科目オリエンテーション、ハンドセラピィ<br>【授業概要】<br>科目の位置付けとシラバス、授業の進め方について説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第２回 | 作業療法におけるHand Therapy：基礎知識①<br>【key words】<br>ハンドセラピィ、手の解剖・運動・生理<br>【授業概要】<br>手を評価、アプローチするうえでの必要となる基礎知識を解剖・運動・生理学を振り返りながら学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第３回 | 作業療法におけるHand Therapy：基礎知識②<br>【key words】<br>ハンドセラピィ、手の解剖・運動・生理<br>【授業概要】<br>手を評価、アプローチするうえでの必要となる基礎知識を解剖・運動・生理学を振り返りながら学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第４回 | 作業療法におけるHand Therapy：評価①<br>【key words】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | ハンドセラピィ、評価<br>【授業概要】<br>作業療法士としてHand Therapyの具体的な評価を体系的に学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第５回 | 作業療法におけるHand Therapy：評価②<br>【key words】<br>ハンドセラピィ、評価<br>【授業概要】<br>作業療法士としてHand Therapyの具体的な評価を体系的に学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第６回 | 作業療法におけるHand Therapy：治療①<br>【key words】<br>ハンドセラピィ、治療実践<br>【授業概要】<br>作業療法士としてHand Therapyの具体的な戦略と方法について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第７回 | 作業療法におけるHand Therapy：治療②<br>【key words】<br>ハンドセラピィ、治療実践<br>【授業概要】<br>作業療法士としてHand Therapyの具体的な戦略と方法について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第８回 | 整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy総論<br>【key words】<br>ハンドセラピィ、整形外科疾患<br>【授業概要】<br>整形外科疾患・手外科疾患に対するHand Therapyの概要について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第９回 | 整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論①<br>【key words】<br>ハンドセラピィ、整形外科疾患<br>【授業概要】<br>整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P216-230<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第１０回 | 整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論②<br>【key words】<br>ハンドセラピィ、整形外科疾患<br>【授業概要】<br>整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P216-230<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第１１回 | 整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論③<br>【key words】<br>ハンドセラピィ、整形外科疾患<br>【授業概要】<br>整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P279-297 |

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１２回　整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論④<br>【key words】<br>ハンドセラピィ、整形外科疾患<br>【授業概要】<br>整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P279-297<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１３回　整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論⑤<br>【key words】<br>ハンドセラピィ、整形外科疾患<br>【授業概要】<br>整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P261-278<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１４回　整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論⑥<br>【key words】<br>ハンドセラピィ、整形外科疾患<br>【授業概要】<br>整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P261-278<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１５回　まとめ<br>【key words】<br>ハンドセラピィ、まとめ<br>【授業概要】<br>科目のまとめを行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 授業スレッドにコメント用のgoogle formのURLを掲示するので、そこから入力する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について実技を含めて評価を実施できるようにしておくこと。<br>・関節可動域測定（ROM）、徒手筋力検査の実技試験があるので、各自実技練習を実施して試験に備えること。<br>・上肢機能および協調動作の評価について、グループワークを通して発表を行うので、発表に向けてグループで協働して課題に向けて準備すること。<br>・疾患別の運動機能評価について、グループワークを通して発表を行うので、発表に向けてグループで協働して課題に向けて準備すること。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | □筆記試験　20%<br>□確認テスト　20%<br>□ポートフォリオ　30%<br>□グループワーク　30% |
| 教科書 | ①標準作業療法学専門分野　身体機能作業療法学　第3版．医学書院，2016 |
| 参考書 | ①坪田貞子　編：臨床ハンドセラピィ　第1版．文光堂<br>②齋藤慶一郎　編：リハ実践テクニック　ハンドセラピィ　第1版．株式会社メジカルビュー社<br>③中田眞由美，大山峰生，鎌倉矩子　著：作業療法士のためのハンドセラピー入門　第2版．三輪書店 |

| | |
|---|---|
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、臨床業務の一環としてハンドセラピィを行っていた経験が科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法評価法特論Ⅰ　　授業コード：020193S714

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 宮寺亮輔・古田常人・牛込祐樹 | | | |
| 作業療法評価学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>作業療法評価の過程を理解し、対象者理解に必要な情報を入手・整理できるようにする。<br>〔到達目標〕<br>①作業療法依頼・相談内容から必要な情報を読み取ることができる。<br>②情報収集の必要性を理解し、計画・実施できる。<br>③対象者や対象者の関係者との面接が計画・実施できる。<br>④対象者理解に必要な観察および検査測定の目的が説明でき、計画・実施環境の手配ができる。<br>⑤入手した情報を統合し、対象者の全体像が理解できる。<br>⑥資料収集に際し、記録物の整理・管理ができる。 |
| 授業の概要 | 作業療法評価の実施から対象者の全体像理解に至るまでのプロセスを模擬的に経験するために、事例検討に必要な情報が入手できるように働きかけながら学習する主体的学習方法（アクティブラーニング）を用いる。課題提示からグループにて実施方法を検討し、適宜、グループ毎に指導・助言を行う。またクラス全体での発表を通じて、全体的指導を行う。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | コースオリエンテーション／第1事例（作業療法依頼内容）の提示<br>【key words】<br>ICF, COPM, 作業療法評価過程<br>【授業概要】<br>・オリエンテーション、ICF、COPM、作業療法介入プロセスモデル本科目で学習することを明らかにする。<br>・作業療法における評価の位置づけについて理解を深める。<br>・作業療法評価を構造的に捉えるための視点について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①配付資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>PPTによる講義、グループ分け。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第２回 | 対象者理解のための手立てを検討・実施<br>【key words】<br>作業療法評価過程，評価計画，模擬事例，ディスカッション<br>【授業概要】<br>・事例（作業療法依頼内容）の提示。<br>・依頼内容から必要な情報を読み取り、評価計画を立案する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①随時必要資料を配布する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【授業準備】事例検討に必要な文献を用意する。グループによるディスカッション。<br>【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第３回 | 対象者理解のための手立てを検討・実施<br>【key words】<br>作業療法評価過程，評価計画，模擬事例，ディスカッション<br>【授業概要】<br>・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集を進める。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・随時必要資料を配布する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

【授業準備】事例検討に必要な文献を用意する。グループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第４回　対象者理解のための手立てを検討・実施
【key words】
作業療法評価過程，情報収集，検査測定，模擬事例，ディスカッション
【授業概要】
・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。グループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第５回　対象者理解のための手立てを検討・実施
【key words】
作業療法評価過程，情報収集，検査測定，模擬事例，ディスカッション
【授業概要】
・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。
・必要に応じて評価計画を修正する。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。グループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第６回　対象者の全体像を作成
【key words】
作業療法評価過程，全体像，模擬事例，ディスカッション
【授業概要】
・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。
・必要に応じて評価計画を修正する。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。グループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。次回の発表準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第７回　対象者の全体像を発表／フィードバック
【key words】
作業療法評価過程，全体像，模擬事例，事例報告
【授業概要】
・グループでまとめた全体像を発表する。
・発表に関して意見交換を行い、情報共有を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。発表、質疑応答
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第８回　第2事例の提示：対象者理解のための手立てを検討・実施
【key words】
作業療法評価過程，評価計画，模擬事例，ディスカッション
【授業概要】
・事例の提示。
・事例から必要な情報を読み取り、評価計画を立案する。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献を用意する。グループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第９回　対象者理解のための手立てを検討・実施
【key words】
作業療法評価過程，情報収集，検査測定，模擬事例，ディスカッション
【授業概要】
・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集を進める。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献を用意する。動画視聴内容を元にグループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１０回　対象者理解のための手立てを検討・実施

【key words】
作業療法評価過程，情報収集，検査測定，模擬事例，ディスカッション
【授業概要】
・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。
・必要に応じて評価計画を修正する。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴内容を元にグループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１１回　対象者理解のための手立てを検討・実施

【key words】
作業療法評価過程，情報収集，検査測定，模擬事例，ディスカッション
【授業概要】
・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。
・必要に応じて評価計画を修正する。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴を元にグループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１２回　対象者理解のための手立てを検討・実施

【key words】
作業療法評価過程，情報収集，検査測定，模擬事例，ディスカッション
【授業概要】
・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。
・必要に応じて評価計画を修正する。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴を元にグループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１３回　対象者の全体像を作成

【key words】
作業療法評価過程，全体像，模擬事例，ディスカッション
【授業概要】
・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。
・必要に応じて評価計画を修正する。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴を元にグループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。次回の発表準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１４回　対象者の全体像を発表／フィードバックおよび総括

【key words】
作業療法評価過程，模擬事例，事例報告，ディスカッション
【授業概要】
・グループでまとめた全体像を発表する。
・発表に関して意見交換を行い、情報共有を行う。
・指導者（教員）より総括。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。発表、質疑応答、期末課題レポートについて説明
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１５回　口頭試問

【key words】
作業療法評価過程，模擬事例，事例報告，ディスカッション
【授業概要】
・第1、2事例を通して得られた内容について口頭試問を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・授業資料の持ち込み可。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】各自グループで共有した資料を整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

| | |
|---|---|
| | 予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。<br>授業に関係ないもの、携帯電話やスマートフォン（調べ学習以外の用途）は机上に出さない。<br>講義で配布した資料は基本的に再配布等を行わない。欠席した者はクラスメートからコピーをとらせてもらうこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | グループ内での役割分担を遂行できるよう、各自学習が必要となる。対象者理解のために必要な情報、知識は、これまでに学んだことの復習だけでなく、新たな知識、学内で教わっていない部分も多々あるので、自ら積極的な学習が求められる。 |
| オフィスアワー | 月曜日の16時30分～18時00分は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日については要予約。 |
| 評価方法 | レポート・口頭試問(60%)、演習課題(40%)により総合的に評価する。 |
| 教科書 | なし。随時必要資料を配布する。 |
| 参考書 | 随時紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士経験　15年<br>作業療法士養成校教員経験　11年<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>ビデオ事例提示 |

講義科目名称： 作業療法評価法特論Ⅱ　　授業コード： 020193S715

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 悴田敦子 | | | |
| 作業療法評価学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | ［授業の目的］<br>対象者の映像をもとに、動作観察、動作分析を行い、問題点を抽出し、記録できるようになることを目的とする。記録に関しては、専門用語を正しく使用し、自らが言いたいことを簡潔に表現できるようになることを目指す。<br><br>［到達目標］<br>①作業療法の過程を説明することができる。<br>②評価に必要な情報を列挙し、収集方法をあげることができる。<br>③動作観察から動作手順、動作の特徴を専門用語を使用し記録することができる。<br>④ICFを用いて対象者の問題点・利点を列挙し、目標を設定、プログラム立案を指定した形式で記録することができる。 |
| 授業の概要 | ケーススタディーを通して、作業療法評価の流れを確認し、評価項目の選択、評価計画の立案、問題点の抽出、作業療法目標の設定、作業療法プログラムの立案までを学びます。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、作業療法評価の流れについて<br>【key words】<br>作業療法評価、評価項目<br><br>【授業概要】<br>基本的な作業療法の流れについて学び、具体的な評価項目や評価方法を理解する<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P10～15<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | 記録について<br>【key words】<br>客観、主観、情報収集<br><br>【授業概要】<br>評価実習で行われるケースの記録について客観と主観に分けて学びます。実際に得た情報の意味、扱いを理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第３回 | ケーススタディー：動作分析のポイント<br>【key words】<br>記録、動作分析<br><br>【授業概要】<br>ケースの映像から、動作分析を行い、記録する。動作分析の際のメモや記録について説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回までにデイリーノート形式で記録しまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |

| | | |
|---|---|---|
| | 第４回 | ケーススタディー：動作分析<br>【key words】<br>姿勢、筋緊張、片麻痺、動作分析<br><br>【授業概要】<br>動作分析の準備を各自行う。片麻痺ケースの映像から、動作分析を各自行い、記録・発表する。<br>原因や理由についてADLにつなげた考察を話し合う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回までにデイリーノート形式で記録する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第５回 | ケーススタディー：記録，動作分析<br>【key words】<br>デイリーノート、考察、査読<br><br>【授業概要】<br>各自持参したデイリーノートを学生間で回覧し、査読・コメントを行う。<br>また、片麻痺ケースの寝返り動作、起き上がり動作の映像から、動作分析を各自行い、記録する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回までにデイリーノート形式で記録する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第６回 | ケーススタディー：動作分析<br>【key words】<br>動作分析、記録、考察<br><br>【授業概要】<br>片麻痺ケースの映像から、動作分析を各自行い、記録する。数名に発表してもらい、他ADLとのつながりについて考え話し合う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回までにデイリーノート形式で記録する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第７回 | ケーススタディー：記録，動作分析<br>【key words】<br>動作分析、デイリーノート、査読、考察<br><br>【授業概要】<br>各自持参したデイリーノートを学生間で回覧し、査読・コメントを行う。<br>また、動作分析を行い、記録する。数名が動作分析を発表し、評価の視点を共有する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回までにデイリーノート形式で記録する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第８回 | ケーススタディー：動作分析，評価計画<br>【key words】<br>評価計画、記録<br><br>【授業概要】<br>前回の記録を各自で回覧し、書き方、用語の使用を確認する。<br>また、評価計画立案について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>評価計画を立案し、ノートにまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第９回 | ケーススタディー：評価計画立案，情報収集，面接<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>前回の評価計画案を学生間で確認する。評価計画の立案のポイントと内容選択等について説明する。面接による情報収集項目を確認する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ケースノートに記録する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第１０回 | ケーススタディー：情報収集，身体機能面評価<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、評価計画に基づき、評価結果等情報を整理し記録する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ケースノートに記録する |

| | |
|---|---|
| | 【予習復習に必要な想定時間】<br>第１１回　ケーススタディー：記録，情報収集，身体機能面評価，動作分析<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、評価計画に基づき、評価結果等情報を整理し記録する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ケースノートに記録する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１２回　ケーススタディー：情報収集，身体機能面評価，動作分析<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、評価計画に基づき、評価結果等情報を整理し記録する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ケースノートに記録する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１３回　ケーススタディー：動作分析，情報収集，評価<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、ICFを使用し、評価項目、問題点、利点を整理する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>評価結果をケースノートに記録する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　レポート・レジュメについて<br>【key words】<br>レジュメ、ケースレポート<br><br>【授業概要】<br>ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、ケースレポート、発表用レジュメについて学び、各自で作業療法目標を設定する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ケースレポートまたはレジュメの形式で評価結果、問題点、目標を各自記録する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　ケース発表<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>各自まとめた内容を発表し、それぞれの評価の視点、問題点、目標を学び、自己と比較検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ケーススタディーでは各自ファイルを用意し、授業終了後にまとめること。まとめたものを次回授業で使用するため、忘れることのないようにすること。<br>問題点抽出はICFを使用するため、復習しておくこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 動作分析、ケーススタディーを行った際は、次回授業までにデイリーノートまたはケースノートの形式でまとめる。教員からの査読・コメントは随時受け付けます。 |
| オフィスアワー | 月曜日16：10～17：30 |
| 評価方法 | 提出物　100％（ケースレポートまたはレジュメ形式） |
| 教科書 | 1)岩崎テル子他編：標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学．第3版．医学書院<br>2)山口昇・玉垣努編：標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法学．医学書院<br>3)障害者福祉研究会編：ICF国際生活機能分類，国際障害分類改定版，中央法規 |
| 参考書 | 隈元庸夫：症例動作分析　動画から学ぶ姿勢と動作．ヒューマン・プレス．2017 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>病院、老人保健施設にて身体障害領域の作業療法士として勤務。現在、群馬県東吾妻町、埼玉県本庄市の地域支援に関わっている。 |

| | |
|---|---|
| | アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 高齢期作業療法学Ⅱ　　授業コード： 020193S727

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 古田常人 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業目的]<br>高齢期領域に関連する医療保健福祉の現状を理解し、高齢者を地域で支援するための考え方や具体的手段を身に付ける。また、「生活行為向上マネジメント(MTDLP)」を活用できるようになることを目的とする。<br>[到達目標]<br>①時代背景を踏まえた地域包括ケアシステムの役割について理解・説明することができる。<br>②MTDLPを用いて作業に焦点を当てたアセスメントを実施することができる。<br>③MTDLPを用いて作業に焦点を当てた合意目標の設定をすることができる。<br>④MTDLPを用いて作業に焦点を |
| 授業の概要 | ・超高齢化社会である日本の医療保健福祉の現状を理解した上で、高齢期作業療法に関連する評価・支援技術、多職種連携の方法等について学ぶ。<br>・「生活行為向上マネジメント」が開発された経緯、マネジメントの流れ、各書式の内容等について学び、実践的に活用できるよう自身でも一連のプロセスを経験する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、地域包括ケアシステムとは<br>地域包括ケアシステム　地域包括支援センター　自立支援地域包括ケアシステムについての概要を説明し、地域包括支援センターの役割、及び自立支援の考え方について説明する。資料を配布する。次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。 |
| | 第２回 | 総合支援事業/介護予防<br>総合支援事業を外観し、介護予防事業について説明する。資料を配布する。次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。 |
| | 第３回 | 介護予防演習<br>介護予防で行われている評価に関して、理解し演習を行う。資料を配布する。生活行為分析のレポート。A41枚程度。<br>次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。 |
| | 第４回 | 介護予防実践演習①<br>介護予防で行われる生活支援、身体機能の維持・向上訓練資料を配布する。次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。 |
| | 第５回 | 介護予防実践演習②<br>認知症予防のための生活や運動に関する指導の演習を行う。自主グループの運営・支援について、検討する。資料を配布する。次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。 |
| | 第６回 | 模擬地域ケア会議演習①<br>地域ケア会議に関しての概要を説明し、地域ケア会議の流れ、必要な視点、専門職の役割について説明する。ケア会議の事例に関して検討し、ケア会議のシュミレーションを行う。資料を配布する。次回模擬ケア会議を行う準備を行っておくこと。 |
| | 第７回 | 模擬地域ケア会議演習②<br>模擬ケア会議を行う。司会、ケアマネによる事例紹介、及び検討課題の提示、各専門職(PT,OT,ST,管理栄養士、薬剤師など)による助言、及び質問。情報を整理し、目標・方針の設定を行う一連の流れを経験する。資料を配布する。発表後の質疑応答を踏まえ、情報を整理し、レポートを提出。 |
| | 第８回 | 生活行為向上マネジメントとは①<br>生活行為向上マネジメント（MTDLP）導入の経緯<br>MTDLPの概要（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57　生活行為向上マネジメント，改訂第2版.（社）日本作業療法士協会，pp.8-18，2014. 予習：（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57　生活行為向上マネジメント，改訂第2版.（社）日本作業療法士協会，pp.18-21，2014 |

| | |
|---|---|
| | 第９回　生活行為向上マネジメントとは②<br>生活行為向上マネジメント（ＭＴＤＬＰ）導入の経緯<br>MTDLPの概要（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57　生活行為向上マネジメント，改訂第2版．（社）日本作業療法士協会，pp.8-18，2014．予習：（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57　生活行為向上マネジメント，改訂第2版．（社）日本作業療法士協会，pp.18-21，2014<br>第１０回　マネジメントツールの使い方①<br>各シートを学生同士で聞き取る（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57　生活行為向上マネジメント，改訂第2版．（社）日本作業療法士協会，pp.18-21，2014予習：（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57　生活行為向上マネジメント，改訂第2版．（社）日本作業療法士協会，pp.41-46，2014．事例を読み、MTDLP各シートの記載方法を予習しておく。<br>第１１回　マネジメントツールの使い方②<br>各シートを学生同士の問題で記入する。（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57　生活行為向上マネジメント，改訂第2版．（社）日本作業療法士協会，pp.21-32，2014予習：（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57　生活行為向上マネジメント，改訂第2版．（社）日本作業療法士協会，pp.41-46，2014．事例を読み、MTDLP各シートの記載方法を予習しておく。<br>第１２回　マネジメントツールの使い方③<br>グループに分かれて、MTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える配布資料予習：（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57　生活行為向上マネジメント，改訂第2版．（社）日本作業療法士協会，pp.41-46，2014．事例を読み、MTDLP各シートの記載方法を予習しておく。<br>第１３回　マネジメントツールの使い方④<br>グループに分かれて、MTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える配布資料予習：（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57　生活行為向上マネジメント，改訂第2版．（社）日本作業療法士協会，pp.41-46，2014．事例を読み、MTDLP各シートの記載方法を予習しておく。<br>第１４回　各領域における生活行為向上マネジメントの活用<br>グループに分かれて、MTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える配布資料MTDLP各シートを実践できるように理解、復習しておく。<br>第１５回　学んだことの振り返り<br>1～14回までの総括<br>試験範囲の伝達これまでの配布資料MTDLP各シートを実践できるように理解、復習しておく。 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・グループワークが中心となる。<br>〔受講のルール〕<br>・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。<br>・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基<br>本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。　・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。 |
| オフィスアワー | 〔古田〕月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | 評価配分：発表50%，課題50％。詳細はシラバスを参照すること。 |
| 教科書 | （社）日本作業療法士協会：生活行為向上マネジメント　改訂第３版．（社）日本作業療法士協会 2018 |
| 参考書 | ①一般社団法人日本作業療法士協会（編著）：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版．医歯薬出版株式会社，2021．<br>②吉川ひろみ：「作業」ってなんだろう，作業科学入門，第2版．医歯薬出版株式会社，2017． |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>一般病院位にて高齢者の作業療法を行い、また訪問リハビリ、老人保健施設など地域での高齢者支援を実践していた。また、埼玉県ふじみ野市における認知症初期集中支援チーム員として活動し、加えて埼玉県三芳町の地域ケア会議に参加して助言を行っている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） |

| | |
|---|---|
| | ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法技術論Ⅲ　　授業コード： 020193S740

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹 | | | |
| 作業療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>臨床場面で評価、介助を具体的な方法・手順に沿って、適切な準備・説明を行い、リスク管理に配慮しながら適切かつ安全に実施できることを目的とする。<br>[到達目標]<br>①評価、介助に必要な準備を知り、実際に準備を整えることができる。<br>②評価、介助で起こりうるリスクを把握し、適切に対応することができる。<br>③評価、介助を行うにあたり、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを実施できる。<br>④臨床場面を想定し、評価、介助をより具体的な方法・手順で実践的に行うことができる。 |
| 授業の概要 | 作業療法士として必要な知識・技術を有していることに併せて、それを臨床場面で実際の対象者へ活用できる事も重要である。臨床場面を想定して、必要な準備や具体的な方法・手順、それに伴う説明、リスク管理の配慮等について知り、評価、介助を実践的に行えるように学ぶ。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第1回 | 科目オリエンテーション／臨床に立つ上での準備・心構えについて<br>【key words】<br>臨床実践、リスクマネジメント<br>【授業概要】<br>科目の位置づけとシラバスの説明。科目内で行う実践的な評価、介助の練習の方法について説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習180分 |
| | 第2回 | 臨床実践：バイタルサイン測定①<br>【key words】<br>臨床実践、リスクマネジメント、バイタルサイン測定<br>【授業概要】<br>実際の臨床場面（実習場面）を想定してのバイタルサイン測定を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>実技準備90分／実技練習90分 |
| | 第3回 | 臨床実践：バイタルサイン測定②<br>【key words】<br>臨床実践、リスクマネジメント、バイタルサイン測定<br>【授業概要】<br>実際の臨床場面（実習場面）を想定してのバイタルサイン測定を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。 |

【予習復習に必要な想定時間】
実技準備90分／実技練習90分

第4回　臨床実践：初回面接・起居移乗介助①

【key words】
臨床実践、リスクマネジメント、初回面接、起居移乗介助
【授業概要】
実際の臨床場面（実習場面）を想定しての面接を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。
実際の臨床場面（実習場面）を想定しての起居・移乗動作を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
実技準備90分／実技練習90分

第5回　臨床実践：初回面接・起居移乗介助②

【key words】
臨床実践、リスクマネジメント、初回面接、起居移乗介助
【授業概要】
実際の臨床場面（実習場面）を想定しての面接を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。
実際の臨床場面（実習場面）を想定しての起居・移乗動作を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
実技準備90分／実技練習90分

第6回　臨床実践：関節可動域測定①

【key words】
臨床実践、リスクマネジメント、関節可動域測定
【授業概要】
実際の臨床場面（実習場面）を想定しての関節可動域測定を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
実技準備90分／実技練習90分

第7回　臨床実践：関節可動域測定②

【key words】
臨床実践、リスクマネジメント、関節可動域測定
【授業概要】
実際の臨床場面（実習場面）を想定しての関節可動域測定を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
実技準備90分／実技練習90分

第8回　臨床実践：ＭＭＴ①

【key words】
臨床実践、リスクマネジメント、MMT
【授業概要】
実際の臨床場面（実習場面）を想定しての筋力検査を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
実技準備90分／実技練習90分

第9回　臨床実践：ＭＭＴ②

【key words】
臨床実践、リスクマネジメント、MMT
【授業概要】
実際の臨床場面（実習場面）を想定しての筋力検査を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
実技準備90分／実技練習90分

第10回　臨床実践：簡易知覚検査①
【key words】
臨床実践、リスクマネジメント、簡易知覚検査
【授業概要】
実際の臨床場面（実習場面）を想定しての簡易知覚検査を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
実技準備90分／実技練習90分

第11回　臨床実践：簡易知覚検査②
【key words】
臨床実践、リスクマネジメント、簡易知覚検査
【授業概要】
実際の臨床場面（実習場面）を想定しての簡易知覚検査を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
実技準備90分／実技練習90分

第12回　臨床実践：片麻痺機能検査①
【key words】
臨床実践、リスクマネジメント、片麻痺機能検査
【授業概要】
実際の臨床場面（実習場面）を想定しての片麻痺機能を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
実技準備90分／実技練習90分

第13回　臨床実践：片麻痺機能検査②
【key words】
臨床実践、リスクマネジメント、片麻痺機能検査
【授業概要】
実際の臨床場面（実習場面）を想定しての片麻痺機能を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
実技準備90分／実技練習90分

第14回　臨床実践：ＡＤＬ評価・介助（更衣）①
【key words】
臨床実践、リスクマネジメント、ADL評価・介助、更衣動作
【授業概要】
実際の臨床場面（実習場面）を想定してのADL評価・介助を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。

【予習復習に必要な想定時間】
実技準備90分／実技練習90分

第15回　臨床実践：ＡＤＬ評価・介助（更衣）②
【key words】
臨床実践、リスクマネジメント、ADL評価・介助、更衣動作
【授業概要】
実際の臨床場面（実習場面）を想定してのADL評価・介助を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】

| | |
|---|---|
| | 実技準備90分／実技練習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 授業スレッドにコメント用のgoogle formのURLを掲示するので、そこから入力する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について実技を含めて評価を実施できるようにしておくこと。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | ポートフォリオ　100％ |
| 教科書 | 指定なし |
| 参考書 | ①標準作業療法学専門分野　作業療法評価学．第3版．医学書院.2017<br>②才籐栄一　監：PT・OTのためのOSCE　臨床力が身につく実践テキスト．第1版．金原出版株式会社．2011<br>③大野義一朗：感染対策マニュアル．第2版．医学書院<br>④里宇明元　監：自信が持てる！リハビリテーション臨床実習．第１版．医歯薬出版株式会社．2015 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、臨床業務を行っていた経験が科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法特論Ⅰ　　授業コード：020193S741

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂駿 | | | |
| 作業療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>ひとの集団の構造や機能について学ぶことにより、集団が個人に与える影響について理解する。また、集団が子に与える影響を知ることで、作業療法における集団活用を考え、作業療法プログラムを作成し活用できるようになることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①ひとの集まりとしての社会の成り立ちを理解できる。<br>②作業療法における集団活用について説明することができる。<br>③集団プログラムについて計画、実施、評価ができる。 |
| 授業の概要 | ひとの集まりは個人の成長や生き方に大きな影響を与え、また個人の存在も集団に影響を与える。ひとは集団のなかでひととのかかわりを学び、社会生活を営み、様々な集団が社会を構成する。個人の作業活動が他者にどのように受け止められているのかにより、個人の生活は影響を受けるが、それは作業療法対象者においても同様である。本講義ではひとと集団について学び、作業療法における集団活用について考える。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | オリエンテーション／集団の基礎①<br>【key words】<br>集団、場（トポス）、場の構造<br><br>【授業概要】<br>・今後の講義日程と内容<br>・集団と場に関する基礎知識<br>・集団評価<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ひとと作業・場　新版 1章（pp.10-18）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記キーワードを中心に取り扱った内容について復習しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第２回 | 集団の基礎②<br>【key words】<br>調べ学習・プレゼン資料の作成<br><br>【授業概要】<br>範囲に応じ、各プレゼンテーションの担当を決め、集団療法を実施するために必要な基礎知識・技術についてまとめる。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>ひとと作業・場　新版　2～4章（pp.20-68）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>担当範囲の資料についてプレゼンの前日18時までに提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第３回 | 集団の基礎③<br>【key words】<br>調べ学習、プレゼンテーション<br><br>【授業概要】<br>・集団と場に関する基礎知識・集団評価の内容に関するプレゼンテーション<br>・「集団評価表」「集団内個人評価表」の内容（評価の視点）について解説 |

【教科書ページ・参考文献】
ひとと作業・場　新版　2～4章（pp.20-68）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に集団の基礎的な評価について教科書を熟読するとともに、付表の「集団評価表」「集団内個人評価表」の内容について把握しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第４回　集団の見学・評価①
【key words】
集団評価、アセスメント

【授業概要】
外部の事業所にて、児童の集団を、集団および個の関わりの観点から評価する。
【教科書ページ・参考文献】
ひとと作業・場　新版　2～4章（pp.20-68）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事業所にお邪魔する際は、実習同様の身だしなみとすること。
次々回の講義までに、「集団評価表」、「集団内個人評価表」をまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第５回　集団の見学・評価②
【key words】
調べ学習、プレゼンテーション

【授業概要】
・集団と場に関する基礎知識についてプレゼンテーションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
ひとと作業・場　新版　pp.2-58
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当範囲の資料についてプレゼンの前日18時までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第６回　集団評価の結果報告と考察
【key words】
集団評価、アセスメント

【授業概要】
・第4～5回で行った集団評価、集団内個人評価について報告をし、フィードバックを受ける。
【教科書ページ・参考文献】
ひとと作業・場　新版　pp.2-58
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「集団評価表」、「集団内個人評価表」を持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第７回　集団の治療的活用
【key words】
集団の治療的利用

【授業概要】
・集団の治療的利用の領域に関するプレゼンテーション
【教科書ページ・参考文献】
ひとと作業・場　新版　5～7章　pp.70-143
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当範囲の資料についてプレゼンの前日18時までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第８回　模擬集団プログラム計画の立案①
【key words】
集団療法、集団プログラム、プログラム立案

【授業概要】
・発達障害をもつ児童に対する集団プログラムについて、調べた文献を参考に、プログラム案を作成、発表する。
【教科書ページ・参考文献】
ひとと作業・場　新版　pp.146-179
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に児童に対する集団プログラムについて文献を探して持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第９回　模擬集団プログラム計画の立案②
【key words】
集団療法、集団プログラム、プログラム立案

【授業概要】
・発達障害をもつ児童に対する、集団プログラムについて、計画書をまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
ひとと作業・場　新版　pp.146-179
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に児童に対する集団プログラムについて文献を探して持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第１０回　模擬集団プログラム計画の立案③

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>集団療法、集団プログラム、プログラム立案<br><br>【授業概要】<br>・発達障害をもつ児童に対する、集団プログラムについて、計画書のフィードバックを受ける。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ひとと作業・場　新版　pp.146-179<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回の講義までに、計画書でフィードバックを受けた点を修正しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第１１回　模擬集団プログラム計画の立案④<br>【key words】<br>集団療法、集団プログラム、プログラム立案<br><br>【授業概要】<br>・場面設定を行い、学内で模擬プログラムを実施、計画の修正を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ひとと作業・場　新版　pp.146-179<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回の講義の3日前までに、計画の修正を行い、集団プログム計画書を担当教員に提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第１２回　集団プログラムの実施①<br>【key words】<br>集団療法、集団プログラム、プログラム実施<br><br>【授業概要】<br>・外部の事業所にて児童に対する集団プログラムを実施し、結果を評価する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ひとと作業・場　新版　pp.146-179<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事業所にお邪魔する際は、実習同様の身だしなみとすること。<br>必要な物品等について準備をしておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第１３回　集団プログラムの実施②<br>【key words】<br>集団療法、集団プログラム、プログラム実施<br><br>【授業概要】<br>・児童に対する集団プログラムを実施し、結果を評価する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ひとと作業・場　新版　pp.146-179<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事業所にお邪魔する際は、実習同様の身だしなみとすること。<br>必要な物品等について準備をしておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第１４回　集団プログラムの結果報告と考察<br>【key words】<br>集団療法、集団プログラム、振り返り<br><br>【授業概要】<br>・実施したプログラム結果について、ディスカッションを基に考察する。また、フィードバックを受ける。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ひとと作業・場　新版　pp.146-179<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事前に集団プログラムの結果の評価について個人でまとめてくること。<br>プログラムの評価結果や運営方法について、フィードバックを受けた内容を加味し、レポートにまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第１５回　学んだことの振り返り<br>【key words】<br>集団評価、アセスメント、集団療法、集団プログラム<br><br>【授業概要】<br>・集団、場の治療的効果や実際のプログラム評価、運営について振り返る。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>1～14回までの内容について、復習しておくこと。<br>指定期日までに集団プログラムの実施結果等についてレポートで提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・授業で配布する資料の予備は保管しない。<br>・授業日程等は変更になる場合がある。その場合は、随時連絡する。<br>・利用させていただく施設の都合によっては、講義の順序や訪問の日程が変更となる場合がある。その場合は、事前に連絡する。 |

| | |
|---|---|
| | 〔受講のルール〕<br>・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。<br>・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。<br>・対象者の評価や治療に対し、真摯な姿勢で臨むこと。<br>・授業中、近隣の施設を利用させていただくこともあるため、私服は動きやすく華美でないものとする。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。 |
| オフィスアワー | 木曜日17:00～18:00。時間については事前に申し出ること。 |
| 評価方法 | □授業内提出課題　30%(プレゼンテーション、集団評価シート、集団プログラム計画)<br>□集団プログラムへの取り組み30%（参加しなかった場合は総合評価に含めない）<br>□レポート　40%　（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。） |
| 教科書 | 山根寛他（著）：ひとと集団・場―ひとの集まりと場を利用する―，第2版．三輪書店，2007. |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士国家資格及び高齢期・精神科領域の臨床経験を有する教員が担当。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法特論Ⅱ　　授業コード：020193S742

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴 | | | |
| 作業療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>作業療法士として必要な、認知機能障害に対する基本的な介入手法について学ぶ。<br>〔到達目標〕<br>①高次脳機能障害の代表的な各症候への基本的な介入手法について説明できる。<br>②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な対応法について説明できる。<br>③高次脳機能障害をはじめとする認知機能障害患者に対する社会復帰支援について、社会資源とともに理解することができる。 |
| 授業の概要 | 認知機能障害に伴う社会生活障害の評価とアプローチについて学ぶ。具体的には高次脳機能障害の各症候や認知症に対する作業療法について学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション。　高次脳機能障害者の暮らしぶり。　認知機能障害をどの様に捉えるか（DSM-5など）<br>【key words】<br>DSM-5、認知症、生活障害、高次脳機能障害、ICD-10、ICD-11<br>【授業概要】<br>DSM-５、認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）科目オリエンテーション。　認知機能低下による生活機能障害をどのようにとらえるか、ICFやDSM-5などから理解をすすめる。<br>また、オレンジプランなどの最近の制度について知る<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布プリント参照<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料範囲を復習、ポートフォリオを作成<br>ポートフォリオは第<br>注意障害へのアプローチに関する文献を1つ見つけてファイリング<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | 高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方①：　注意・記憶について<br>【key words】<br>注意障害<br>【授業概要】<br>注意障害や記憶障害についての概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入方法について学んでいく。<br>第6回目以降の課題内容について説明を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①渕雅子　編　作業療法学全書　作業治療学5　『高次脳機能障害障害』　第3版．協同医書出版　P.176～198<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>講義内容を復習、ポートフォリオを作成<br>半側空間無視へのアプローチに関する文献を1つ見つけてファイリング<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第３回 | 高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方②：　失認･半側空間無視について<br>【key words】<br>失認、USN<br>【授業概要】<br>失認や半側空間無視についての概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入方法について学んでいく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書①P.81～120 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容を復習、ポートフォリオを作成
失語症へのアプローチに関する文献を1つ見つけてファイリング
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方③：　失語・失書など言語障害について
【key words】
失語症、言語機能
【授業概要】
半側空間無視(続き)
失語症を中心とした言語関連の障害についての概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入
方法について学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①P.198～211
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容を復習、ポートフォリオを作成
課題の作成
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　課題作成に向けた指導
【key words】
課題
【授業概要】
認知症に対するリハビリテーションについて各自が調べる課題を提示し、どの様に準備を進めるか確認する。
詳細は講義時に配布する。配付資料参照プレゼンテーション準備
【教科書ページ・参考文献】
各自指定内容
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題作成
次回、失行症のアプローチに関する文献を１つ調べてファイリングする
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第６回　高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方④：　失行･行為の障害について
【key words】
失行症
【授業概要】
失行症などの行為の障害の概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入方法について学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①P.138～163
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題作成
次回、社会的行動障害のアプローチに関する文献を１つ調べてファイリングする
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方⑤：　前頭葉症状、行動と感情の障害について
【key words】
社会的行動障害、行動と感情の障害、social cognition
【授業概要】
前頭葉の障害による社会的行動障害や行動と感情障害の概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入方法について学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①P.163～175
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題作成
次回、非薬物療法に関する文献を１つ調べてファイリングする
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　認知症患者の暮らしぶり。認知症の非薬物療法（リハビリテーション含む）について
【key words】
非薬物療法
【授業概要】
認知症に対する非薬物療法の定義や分類、そのエビデンスなどについて担当学生が調べ発表する。それを元に、補足の講義と議論を行い、理解を深める
【教科書ページ・参考文献】
教科書②小川敬之編　認知症の作業療法―エビデンスとナラティブの接点に向けて第2版．医歯薬出版．のほかに非薬物療法の文献を探す
教員からも随時紹介する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ポートフォリオ、BPSD軽減に効果があるかかわりについて各自で調べる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　認知症に対するリハビリテーション：基本的考え方①　認知症状と認知症の行動･心理症状への介入
【key words】
BPSD
【授業概要】
認知症の行動･心理症状BPSDの定義と、その軽減に向けた代表的な介入方法について学ぶ。環境調整や本人へのアプローチ、家族支援など幅広い視点を持つことの重要性について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書②以外に、International Psychogeriatrics Associationのホームページで入手できるガイドラインを参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ポートフォリオ
介護家族への支援はどのような内容が望ましいのか、各自が調べる
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　認知症に対するリハビリテーション：基本的考え方②　認知症の行動･心理症状への介入、家族指導
【key words】
家族支援
【授業概要】
認知症の家族支援やケアの方法について調べるとともに、その有用性に関する文献も紹介しながら理解を深める
【教科書ページ・参考文献】
教科書②のほかに、参考文献を紹介する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ポートフォリオ
認知機能に障害がある人の地域社会生活を支える制度について調べ、どの様な問題があるかを次回皆で検討するための準備をする
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　認知機能障害のある方への社会資源①　基本的な制度
【key words】
フォーマルサービス、インフォーマルサービス
【授業概要】
高次脳機能障害と認知症など、認知機能に障害のある人が地域社会を継続するために必要な社会資源について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ポートフォリオ
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　認知機能障害のある方への社会資源②　就労関係、権利擁護に関わる制度
【key words】
就労支援、権利擁護
【授業概要】
認知症患者（特に若年性認知症者）や高次脳機能障害患者に対する就労支援関連の社会資源について学ぶ。
また、権利擁護にかかわる制度として、成年後見制度や日常生活自立支援事業について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ポートフォリオ　次回提出できるように準備する
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１３回　認知機能障害のある方への社会資源③
【key words】
権利擁護、就労
【授業概要】
認知症や高次脳機能障害の人達が、働く意味や社会とつながり続けて役割を持つ意味について、事例や記事などを通して、ディスカッションをする。そこから、 作業療法士としての役割について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ポートフォリオ提出
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　認知機能障害のある方への社会資源④　群馬県内の実情　支援拠点機関・認知症疾患医療センターなど
【key words】
群馬県
【授業概要】
群馬県内の高次脳機能障害支援拠点機関や認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チーム、認知症カフェなどの社会資源について調べてまとめる。また、具体的な活用方法についても調べる。次随時指示する期末課題の提出準備
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容の復習
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　まとめ
【key words】
まとめ
【授業概要】
本科目のまとめを行う。

| | |
|---|---|
| | 【教科書ページ・参考文献】<br>配布プリント参照<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>期末課題の提出準備<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業概要を確認し、講義を受けるにあたり、最低限必要となる知識（2年次までの知識）は、各自復習しておくこと。特に解剖学（脳と神経１５回を通しての理解が必要である。積極的に授業に臨むこと。<br>神経内科学と作業療法評価法Ⅲとを関連づけて学ぶこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。基本的に毎回の予習と復習を前提に進める。 |
| オフィスアワー | 水曜日16時半～17時半は随時　その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | ポートフォリオ50%、　授業内発表課題50% |
| 教科書 | 日本作業療法士協会監修/渕雅子編集：作業療法全書、作業治療学５、高次脳機能障害　第３版、協同医書出版<br>小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～　第２版、協同医書出版 |
| 参考書 | 石合純夫　著　『高次脳機能障害』　（医歯薬出版株式会社）<br>本田哲三　編　『高次脳機能障害のリハビリテーション　-実践的アプローチ-』第2版　（医学書院）<br>鈴木孝治ほか編　『高次脳機能障害マエストロシリーズ』①～④　（医歯薬出版社）<br>その他、随時講義の中で紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、群馬県内各市町村での介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長、群馬県作業療法士会副会長なども務めている。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 臨床評価実習指導(OT)　　授業コード： 020193S760

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴 | | | |
| 臨床実習 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>臨床で必要となる守秘義務・リスク管理の理解の知識と技能を習得するとともに、臨床実習に臨む姿勢や最低限の基礎医学的知識と技能の習得について確認する。<br>また、評価実習に向け、評価計画の立案や検査結果の解釈など、目の前の対象者に 作業療法士としてどの様な目標と治療計画の立案をしていくのか、具体的な流れをイメージできるようになる。<br>【到達目標】<br>①守秘義務について説明することができ、実行できる。<br>②リスク管理について説明することができ、実行できる。<br>③模擬事例を基に、作業療法評価の評価計画について、環境設定や必要物品、準備、所要時間まで含めて具体的な立案をするための基本的考え方が理解できる。<br>④得られた検査結果等を基に、作業療法評価として統合と解釈のプロセスを説明できる。<br>⑤各要素的な機能・構造の問題が、その人の作業遂行に与える影響について解釈し、作業療法の視点からの問題点と目標を立案するプロセスが理解できる。<br>⑥作業療法の臨床実習に臨むにあたり、最低限の基礎医学的知識と技能を習得できる。 |
| 授業の概要 | 臨床で求められる守秘義務（情報管理）やリスク管理（感染症対策など）について再確認し、実習時に実行に移せるような知識と技術を体得する。また、臨床実習に臨むにあたっての最低限の基礎医学的知識と技能を習得できているか確認し、自身の不十分な領域を把握し、具体的な対策を検討することで実習に臨む準備を整える。<br>さらには、事例の統合と解釈を通して、評価プロセスの理解を深めることができることとする。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション／守秘義務について<br>【key words】<br>オリエンテーション、守秘義務<br>【授業概要】<br>個人情報、守秘義務個人情報保護の観点から医療職の守秘義務のあり方を考える。またその具体的な方法を説明する。初めて経験する臨床評価実習に向けて、実習の目的などを確認するとともに、実習に向けてどのような知識と技術を身に着けるべきか理解する。小テストや実技テストについても、理解を深める。<br>【予習】<br>実習の手引きに目を通しておくこと。<br>【復習】<br>次回にスタンダードプレコーションについて、理解度確認の口頭試問をするため各自で復習をしておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料、実習の手引き<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | リスク管理（感染症対策など）<br>【key words】<br>リスク管理<br>【授業概要】<br>医療従事者として必要不可欠な感染症対策について具体的に説明することができるようになる<br>【予習】<br>スタンダードプレコーションに関する知識を教科書で確認しておく。<br>【復習】<br>スタンダードプレコーションの基本的な知識を振り返る。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 次回はバイタルチェックやトランスファーなどの基本的な主義について理解度の確認を行う。<br>各自で、実技練習などをしっかりと準備しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大野義一朗：感染症対策マニュアル第2版.医学書院<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第３回 | 臨床的技能の確認<br>【key words】<br>バイタルチェック、移乗介助<br>【授業概要】<br>転倒やバイタル確認などの安全管理に関する配慮事項や対象者への説明など、実習に行くにあたり適切な準備ができているかなどの確認を中心に行う。<br>【予習】<br>基本的なバイタルチェックや移乗介助などの技能について、練習をしておくこと。<br>【復習】<br>各自の課題について振り返りと練習を進めておくこと。<br>次回、基本的知識のテストに向けた準備を各自でしておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>詳細は講義のプリントで周知する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り<br>次回は知識に関するテスト①<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第４回 | 知識に関する振り返り（テスト①）<br>【key words】<br>運動学、解剖学、生理学、臨床医学<br><br>【授業概要】<br>2016-2020年度の過去5年間の作業療法士国家試験問題をベースにして、運動学、解剖学、生理学、臨床医学の4領域から計100問出題する。出題は国家試験の形式に準じて選択式とする。<br>これは臨床実習に参加するための目安であり、一定の基準に満たない場合は、基準を超えるまで再テストを実施する。<br>【予習】<br>上記テストに向けた準備<br>【復習】<br>・上記結果を踏まえた各自での振り返り。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>180分 |
| | 第５回 | 評価計画の立案①<br>【key words】<br>評価計画<br>【授業概要】<br>事前に提示された事例について、各自で評価計画を立案し、立案した結果をグループで共有し、ディスカッションを経て理解を深める。<br>次回の授業までに模擬事例を基に評価計画を立案する。<br>【予習】<br>評価学の教科書などから、作業療法における評価について復習しておくこと<br>【復習】<br>次回授業までに、模擬事例を基にして評価計画の立案する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>能登真一ほか(編)：標準作業療法学-専門分野-作業療法評価学，第3版，医学書院（P.3-33）<br>配布プリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>講義前までに提示された事例を通して評価計画の立案を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第６回 | 評価計画の立案②<br>【key words】<br>評価計画<br>【授業概要】<br>事前に提示された事例について、各自で評価計画を立案し、立案した結果をグループで共有し、ディスカッションを経て理解を深める。<br>【予習】<br>前回提示された課題を仕上げて持参する<br>【復習】<br>作業療法評価の評価計画について振り返りをしておくこと<br>【教科書ページ・参考文献】<br>能登真一ほか(編)：標準作業療法学-専門分野-作業療法評価学，第3版，医学書院（P.3-33）<br>配布プリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>講義前までに提示された事例を通して評価計画の立案を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第７回 | 統合と解釈<br>【key words】<br>統合と解釈 |

【授業概要】
事例を通して評価における統合と解釈の方法を検討する。
【予習】
作業療法における評価の基本的事項について、評価学の授業で学んだことを復習しておくこと。具体的には以下の教科書（P.3-33）の作業療法における評価の流れについて十分に振り返りをしておくこと。
【復習】
本日学んだ内容について十分に振り返りをしておくとともに、次回のテストについても十分な準備をして臨むこと。
【教科書ページ・参考文献】
能登真一ほか(編)：標準作業療法学-専門分野-作業療法評価学，第3版，医学書院（P.3-33）配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
統合と解釈について復習し、学習内容をまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　知識に関する振り返り（テスト②）
【key words】
臨床医学、評価学
【授業概要】
2016-2020年度の過去5年間の作業療法士国家試験問題をベースにして臨床医学と評価学の2領域から計100問出題する。出題は国家試験の形式に準じて選択式とする。。
これは臨床実習に参加するための目安であり、一定の基準に満たない場合は、基準を超えるまで再テストを実施する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定領域の復習をしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第９回　作業療法評価の実践練習①
【key words】
実践、レクチャー
【授業概要】
実際の作業療法評価場面を想定し、MFTやSTEF、SIAS、TUG、TMTなどの基本的な検査をモデル的に実施するとともに、それらの課題について振り返り、実習に向けた実践的スキルをもにつける。
【予習・復習】
指定された評価手法や検査を実施するための最低限の準備、検査用紙などの必要物品の準備とやレクチャーなど事前に練習をしておくとともに、事後には各自の理解が不十分であったか所について復習をしておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
これまでの配布資料や教科書等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　実技テスト①
【key words】
実技テスト
【授業概要】
バイタル確認、ROMやMMT、HDS-Rの実施など、基本的技能に関する実技確認を行う
【教科書ページ・参考文献】
詳細は配布プリントを参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自で十分に準備をしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１１回　実技テスト②
【key words】
実技テスト
【授業概要】
バイタル確認、ROMやMMT、HDS-Rの実施など、基本的技能に関する実技確認を行う
【教科書ページ・参考文献】
詳細は配布プリントを参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自で十分に準備をしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１２回　実技テスト③
【key words】
実技テスト
【授業概要】
バイタル確認、ROMやMMT、HDS-Rの実施など、基本的技能に関する実技確認を行う
【教科書ページ・参考文献】
詳細は配布プリントを参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自で十分に準備をしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１３回　作業療法評価の実践練習②
【key words】
実践、レクチャー

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>実際の作業療法評価場面を想定し、MFTやSTEF、SIAS、TUG、TMTなどの基本的な検査をモデル的に実施するとともに、それらの課題について振り返り、実習に向けた実践的スキルをもにつける。<br>【予習・復習】<br>指定された評価手法や検査を実施するための最低限の準備、検査用紙などの必要物品の準備とやレクチャーなど事前に練習をしておくとともに、事後には各自の理解が不十分であったか所について復習をしておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>これまでの配布資料や教科書等<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分<br>第１４回　作業療法評価の実践練習②<br>【key words】<br>実践、レクチャー<br>【授業概要】<br>実際の作業療法評価場面を想定し、MFTやSTEF、SIAS、TUG、TMTなどの基本的な検査をモデル的に実施するとともに、それらの課題について振り返り、実習に向けた実践的スキルをもにつける。<br>【予習・復習】<br>指定された評価手法や検査を実施するための最低限の準備、検査用紙などの必要物品の準備とやレクチャーなど事前に練習をしておくとともに、事後には各自の理解が不十分であったか所について復習をしておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>これまでの配布資料や教科書等<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分<br>第１５回　臨床評価実習指導の心構え<br>【key words】<br>まとめ、心構え<br>【授業概要】<br>本科目のまとめを行う。<br>各自が実習に向けての自分の課題を整理し臨床実習に向けた最終的な準備を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布プリントと実習の手引き<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>今まで作成したプリントや資料、評価指標などをファイリングして整理する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 【受講生に関わる情報】<br>報告では発表用レジュメを用意しておくこと。<br>【受講のルール】<br>報告では有益なディスカッションが行えるよう発表者・聞き手ともに準備を十分にしておくこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 実習の手引きを熟読すること。また、各配置先病院の情報を事前に収集するとともに、各種評価指標の用紙などのファイリングや評価手法の練習などに取り組んでおくこと |
| オフィスアワー | 水曜日16:00～17:30　（木曜日以外であれば必要に応じて随時対応する。応相談） |
| 評価方法 | ・講義内での課題(評価計画)作成や実技確認授業内口頭試問等への参加25%、<br>・評価に関わる最低限の知識に関するテスト50%(2回分)、<br>・臨床評価実習に向けた実技テスト25%（バイタルチェックやROM･MMT計測など指定された項目の1回分） |
| 教科書 | ・能登真一ほか(編)：標準作業療法学-専門分野-作業療法評価学，第3版，医学書院（P.3-33）<br>・大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版．医学書院<br>・障害者福祉研究会：ICF 国際生活機能分類―国際障害分類改定版 |
| 参考書 | 群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻　臨床実習の手引き |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、群馬県内各市町村での介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長、群馬県作業療法士会副会長なども務めている。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育 |

| | |
|---|---|
| | □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 臨床評価実習Ⅰ(OT)　　授業コード：020193S761

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 3単位(135) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込・作業療法専攻教員 | | | |
| 臨床実習 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>作業療法士が関与する医療機関や福祉施設等において、臨床実習指導者のもとでその指導と作業療法対象者の協力を受けながら必要とされる評価を実施し、その結果を整理する一連の技能の習得を目指す。<br>【到達目標】<br>①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。<br>②担当ケースに対する評価計画の立案と準備、実施が助言を得ながらできる。<br>③得られた評価結果をもとにICFの視点に基づき利点や問題点を整理する過程を学ぶ。<br>④担当ケースの状態に応じた、リハゴール・長期目標及び短期目標の立案ができる。<br>⑤臨床実習指導者による対象者の治療プログラムについて、理解することができる。 |
| 授業の概要 | 学生は指定された実習先で3週間の臨床評価実習を体験してくる。臨床場面の見学を通して、地域における病院の役割や病院におけるOTの役割などを理解する。また、臨床実習指導者の指導のもと、担当ケースの評価計画立案から評価の実施、統合と解釈、作業療法計画の立案などの一連のプロセスを臨床場面を通じて学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 3週　　臨床評価実習<br>学生は各自割り当てられた病院･施設にて臨床評価実習を実施してくる。 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 作業療法を目指す学生として、また、臨床現場に立つ学生としての相応しい身だしなみや立ち振る舞いを心がけること。詳細は臨床実習の手引きに記載してある通り（実習全のオリエンテーションにて確認する）。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 各病院施設で指定された通り。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 各病院施設で指定された通り（デイリーノートとケースノート、レジュメの作成）。 |
| オフィスアワー | 各病院施設で指定された通り。 |
| 評価方法 | ◆出席（出席時間数要件：4/5以上）<br>◆臨床実習評価（臨床実習の手引き参照）：70%<br>※臨床実習評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、<br>がみられる場合は、評価対象外または実習を中止とすることがある。<br>◆学内セミナー発表及びレポート作成等の課題取り組み：30%<br>再受験の取り扱い：無 |
| 教科書 | ①群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻　臨床実習の手引き<br>②大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版．医学書院 |
| 参考書 | ①標準作業療法学専門分野　作業療法評価学．第3版．医学書院.2017<br>②才籐栄一　監：PT・OTのためのOSCE　臨床力が身につく実践テキスト．第1版．金原出版株式会社．2011<br>③里宇明元　監：自信が持てる！リハビリテーション臨床実習．第１版．医歯薬出版株式会社．2015<br>④山口昇 編：作業療法臨床実習マニュアル第1版.三輪書店 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している |

| | |
|---|---|
| | 具体的な実務経験の内容<br>全ての教員が病院や施設にて、作業療法士としての臨床経験を積んでいる。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 臨床評価実習Ⅱ(OT)　　授業コード：020193S762

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 3単位(135) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込・作業療法専攻教員 | | | |
| 臨床実習 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>作業療法士が関与する医療機関や福祉施設等において、臨床実習指導者のもとでその指導と作業療法対象者の協力を受けながら必要とされる評価を実施し、その結果を整理する一連の技能の習得を目指す。<br>【到達目標】<br>①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。<br>②担当ケースに対する評価計画の立案と準備、実施が助言を得ながらできる。<br>③得られた評価結果をもとにICFの視点に基づき利点や問題点を整理する過程を学ぶ。<br>④担当ケースの状態に応じた、リハゴール・長期目標及び短期目標の立案ができる。<br>⑤臨床実習指導者による対象者の治療プログラムについて、理解することができる。 |
| 授業の概要 | 学生は指定された実習先で3週間の臨床評価実習を体験してくる。臨床場面の見学を通して、地域における病院の役割や病院におけるOTの役割などを理解する。また、臨床実習指導者の指導のもと、担当ケースの評価計画立案から評価の実施、統合と解釈、作業療法計画の立案などの一連のプロセスを臨床場面を通じて学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 3週　　臨床評価実習<br>学生は各自に割り当てられた病院･施設にて臨床評価実習を実施してくる。 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 作業療法を目指す学生として、また、臨床現場に立つ学生としての相応しい身だしなみや立ち振る舞いを心がけること。詳細は臨床実習の手引きに記載してある通り（実習全のオリエンテーションにて確認する）。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 各病院施設で指定された通り |
| 授業外時間にかかわる情報 | 各病院施設で指定された通り（デイリーノートとケースノート、レジュメの作成） |
| オフィスアワー | 各病院施設で指定された通り |
| 評価方法 | ◆出席（出席時間数要件：4/5以上）<br>◆臨床実習評価（臨床実習の手引き参照）：70%<br>※臨床実習評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、<br>がみられる場合は、評価対象外または実習を中止とすることがある。<br>◆学内セミナー発表及びレポート作成等の課題取り組み：30%<br>再受験の取り扱い：無 |
| 教科書 | ①群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業専攻　臨床実習の手引き<br>②大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版．医学書院 |
| 参考書 | ①標準作業療法学専門分野　作業療法評価学．第3版．医学書院.2017<br>②才籐栄一　監：PT・OTのためのOSCE　臨床力が身につく実践テキスト．第1版．金原出版株式会社．2011<br>③里宇明元　監：自信が持てる！リハビリテーション臨床実習．第１版．医歯薬出版株式会社．2015<br>④山口昇 編：作業療法臨床実習マニュアル第1版.三輪書店 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している |

| | |
|---|---|
| | 具体的な実務経験の内容<br>全ての教員が病院や施設にて、作業療法士としての臨床経験を積んでいる。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法セミナーⅡ　　授業コード：020194A710

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 4年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 古田常人・高坂駿 | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>事例を通して、根拠に基づく、作業療法実践プロセスを理解する。<br><br>〔到達目標〕<br>1) 限られた情報・観察から対象者の基本能力・応用的能力を把握し、対象者に必要な絞った評価計画を立案できる。<br>2) 対象者の全体像を構造的に理解できる。<br>3) 対象者に必要な作業療法目標を設定し、具体的な作業療法計画を立案できる。 |
| 授業の概要 | さまざまな領域・病期・生活をもった複数の対象者に対し、作業療法過程を模擬体験し、実践能力を高められる。特に、スクリーニングからの絞った評価、作業療法評価から得られる全体像の把握、作業療法計画立案を繰り返し体験し、作業療法の流れを考えられる力を身につける。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | オリエンテーション／事例A①評価計画立案<br>【key words】<br>評価計画、アセスメント、統合と解釈、焦点化、目標設定、治療計画立案<br>【授業概要】<br>オリエンテーション本事業の進め方について説明。<br>評価計画、評価結果の読み取り、全体像の把握と目標設定、目標に基づく治療方針と具体的な治療方法の検討の作業療法プロセスの確認する。資料を配布する。事例プロフィールを提示する。<br>各グループで、事例Aについての必要な評価とその目的・理由を検討する。最後には、事例Aの評価結果を提示する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第２回 | 事例A②評価・全体像の整理<br>【key words】<br>評価計画、アセスメント、統合と解釈<br>【授業概要】<br>事例Aの評価結果に基づき、評価結果に関して、評価内容の確認と結果からの問題点の列挙、及び足らない評価項目の検討を行う。それらに基づき、ICFに基づき全体像を整理する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第３回 | 事例A③目標設定<br>【key words】<br>焦点化、目標設定<br>【授業概要】<br>整理された全体像から、課題を焦点化し、事例Aの長期目標と短期目標を設定する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回治療計画立案に向けて、短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を考えておくこと。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第４回 | 事例A④治療計画<br>【key words】<br>治療計画立案<br>【授業概要】<br>事例Aにおける各短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回、事例のまとめを発表するため、スライド等の準備を進めること。発表前日までに、スライドデータを教員に提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度 |
| | 第５回 | 事例A⑤発表<br>【key words】<br>プレゼンテーション、エビデンス<br>【授業概要】<br>各グループ1事例について、デモンストレーションを交え、①プロフィール、②評価計画、評価結果の概要、③全体像、④目標、⑤治療方針、⑥短期目標改善の為の具体的な介入方法について発表する。尚、介入方法についてはその根拠も合わせて提示すること。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事例Bプロフィールを提示する。次回までにプロフィールより、必要な評価とその理由を準備しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第６回 | 事例B①評価計画立案<br>【key words】<br>評価計画、アセスメント<br>【授業概要】<br>各グループで、事例Bについての必要な評価とその目的・理由を検討する。最後には、事例Bの評価結果を提示する<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第７回 | 事例B②評価・全体像の整理<br>【key words】<br>評価計画、アセスメント、統合と解釈<br>【授業概要】<br>事例Bの評価結果に基づき、評価結果に関して、評価内容の確認と結果からの問題点の列挙、及び足らない評価項目の検討を行う。それらに基づき、ICFに基づき全体像を整理する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第８回 | 事例B③目標設定<br>【key words】<br>焦点化、目標設定<br>【授業概要】<br>整理された全体像から、課題を焦点化し、事例Bの長期目標と短期目標を設定する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回治療計画立案に向けて、短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を考えておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第９回 | 事例B④治療計画<br>【key words】<br>治療計画立案<br>【授業概要】<br>事例Bにおける各短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回、事例のまとめを発表するため、スライド等の準備を進めること。発表前日までに、スライドデータを教員に提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度 |
| | 第１０回 | 事例B⑤発表<br>【key words】<br>プレゼンテーション、エビデンス<br>【授業概要】<br>各グループ1事例について、デモンストレーションを交え、①プロフィール、②評価計画、評価結果の概要、③全体像、④目標、⑤治療方針、⑥短期目標改善の為の具体的な介入方法について発表する。尚、介入方法についてはその根拠も合わせて提示すること。 |

| | |
|---|---|
| | 【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事例Cプロフィールを提示する。次回までにプロフィールより、必要な評価とその理由を準備しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１１回　事例C①評価計画立案<br>【key words】<br>評価計画、アセスメント<br>【授業概要】<br>各グループで、事例Cについての必要な評価とその目的・理由を検討する。最後には、事例Cの評価結果を提示する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１２回　事例C②評価・全体像の整理<br>【key words】<br>評価計画、アセスメント、統合と解釈<br>【授業概要】<br>事例Cの評価結果に基づき、評価結果に関して、評価内容の確認と結果からの問題点の列挙、及び足らない評価項目の検討を行う。それらに基づき、ICFに基づき全体像を整理する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１３回　事例C③目標設定<br>【key words】<br>焦点化、目標設定<br>【授業概要】<br>整理された全体像から、課題を焦点化し、事例Bの長期目標と短期目標を設定する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回治療計画立案に向けて、短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を考えておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１４回　事例C④治療計画<br>【key words】<br>治療計画立案<br>【授業概要】<br>事例Cにおける各短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回、事例のまとめを発表するため、スライド等の準備を進めること。発表前日までに、スライドデータを教員に提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度<br>第１５回　事例C⑤発表／学んだことの振り返り<br>【key words】<br>プレゼンテーション、エビデンス<br>【授業概要】<br>各グループ1事例について、デモンストレーションを交え、①プロフィール、②評価計画、評価結果の概要、③全体像、④目標、⑤治療方針、⑥短期目標改善の為の具体的な介入方法について発表する。尚、介入方法についてはその根拠も合わせて提示すること。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>これまでの総括を行う。疑問点はそのままにせず積極的に質問し、解消すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 【受講生に関わる情報】<br>教室指定をするので確認しておくこと。<br>【受講のルール】<br>間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。<br>ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、関連する資料を集めておくこと。 |
| オフィスアワー | 〔高坂〕木曜日16:00～17:00。その他の曜日においては要予約。<br>〔古田〕月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約<br>〔野口〕月曜日17時～18時は随時。その他の曜日においては要予約。 |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | ■発表　50%　■提出資料　50% |
| 教科書 | なし。随時資料を配布する。 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士国家資格及び各領域の臨床経験を有する教員が担当。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 臨床総合実習指導(OT)　　授業コード： 020194A763

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 4年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹 | | | |
| 臨床実習 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>臨床で必要となる守秘義務・リスク管理の理解の徹底をはかる。適切な治療プログラムの選択ができるようになることを目的とする。臨床総合実習で学んだ内容についての振り返りを行い、課題の整理と情報の共有を行うことを目的とする。<br>【到達目標】<br>①守秘義務について説明することができ、実行できる。<br>②リスク管理について説明することができ、実行できる。<br>③適切な治療プログラムを立案・実施できるようになる。<br>④臨床総合実習における課題の整理と情報の共有を行い、作業療法における一連の過程の理解を深める。 |
| 授業の概要 | 臨床で求められる守秘義務（情報管理）やリスク管理（感染症対策など）について再確認し、実行に移せるように知識と技術を体得する。事例を通して、治療プログラムの立案・実施について検討する。臨床総合実習で学んだ内容についての振り返りを行い、課題の整理と情報の共有を行う。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第1回 | 科目オリエンテーション／リスク管理・守秘義務について<br>【key words】<br>科目オリエンテーション、リスク管理、守秘義務<br>【授業概要】<br>臨床総合実習臨床総合実習の流れ、取り組み方について説明する。<br>臨床実習におけるリスク管理、守秘義務について確認する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第2回 | 治療プログラム立案の基本的な考え方<br>【key words】<br>治療プログラム立案<br>【授業概要】<br>治療プログラムの立案、実施に関する基本的な考え方について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第3回 | 事例を通した治療プログラムの実践<br>【key words】<br>治療プログラム立案、事例検討<br>【授業概要】<br>作業療法における治療プログラム、方法、手段の考え方について事例をとして検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事例検討を通して、具体的な治療プログラムを立案する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>事例検討治療プログラム立案180分 |

| | | |
|---|---|---|
| | 第4回 | 事例を通した治療プログラムの実践<br>【key words】<br>治療プログラム立案、事例検討<br>【授業概要】<br>作業療法における治療プログラム、方法、手段の考え方について事例をとして検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事例検討を通して、具体的な治療プログラムを立案する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>事例検討治療プログラム立案180分 |
| | 第5回 | 事例を通した治療プログラムの実践<br>【key words】<br>治療プログラム立案、事例検討<br>【授業概要】<br>作業療法における治療プログラム、方法、手段の考え方について事例をとして検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事例検討を通して、具体的な治療プログラムを立案する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>事例検討治療プログラム立案180分 |
| | 第6回 | 事例を通した治療プログラムの実践<br>【key words】<br>治療プログラム立案、事例検討<br>【授業概要】<br>作業療法における治療プログラム、方法、手段の考え方について事例をとして検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事例検討を通して、具体的な治療プログラムを立案する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>事例検討治療プログラム立案180分 |
| | 第7回 | 臨床実習指導者会議に向けての心構え<br>【key words】<br>臨床実習指導者会議、オリエンテーション<br>【授業概要】<br>臨床実習指導者会議の中で、実習指導者と面談を実施する。そのための心構えと準備を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実習の手引きを確認すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第8回 | 臨床総合実習Ⅰにおける心構え・準備<br>【key words】<br>臨床総合実習Ⅰ、オリエンテーション<br>【授業概要】<br>臨床総合実習Ⅰの実施にあたり、必要な準備や心構えについて説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実習の手引きを確認すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第9回 | 臨床総合実習Ⅰの課題整理①<br>【key words】<br>臨床総合実習Ⅰ、事例報告<br>【授業概要】<br>臨床臨床実習Ⅰ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。<br>事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実習で経験した事例を報告書としてまとめておく。事例報告会で得られた他者の意見を参考に振り返りを行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第10回 | 臨床総合実習Ⅰの課題整理②<br>【key words】<br>臨床総合実習Ⅰ、事例報告<br>【授業概要】<br>臨床臨床実習Ⅰ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。<br>事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実習で経験した事例を報告書としてまとめておく。事例報告会で得られた他者の意見を参考に振り返りを行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第11回 | 臨床総合実習Ⅰの課題整理③ |

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>臨床総合実習Ⅰ、事例報告<br>【授業概要】<br>臨床臨床実習Ⅰ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。<br>事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実習で経験した事例を報告書としてまとめておく。事例報告会で得られた他者の意見を参考に振り返りを行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第12回　臨床総合実習Ⅱにおける心構え・準備<br>【key words】<br>臨床総合実習Ⅱ、オリエンテーション<br>【授業概要】<br>臨床総合実習Ⅱの実施にあたり、必要な準備や心構えについて説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実習の手引きを確認すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第13回　臨床総合実習Ⅱの課題整理①<br>【key words】<br>臨床総合実習Ⅱ、事例報告<br>【授業概要】<br>臨床臨床実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。<br>事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実習で経験した事例を報告書としてまとめておく。事例報告会で得られた他者の意見を参考に振り返りを行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第14回　臨床総合実習Ⅱの課題整理②<br>【key words】<br>臨床総合実習Ⅱ、事例報告<br>【授業概要】<br>臨床臨床実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し、作業療法士としての臨床実践に向けて解決していく。<br>事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実習で経験した事例を報告書としてまとめておく。事例報告会で得られた他者の意見を参考に振り返りを行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第15回　臨床総合実習Ⅱの課題整理③<br>【key words】<br>臨床総合実習Ⅱ、事例報告<br>【授業概要】<br>臨床臨床実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し、作業療法士としての臨床実践に向けて解決していく。<br>事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実習で経験した事例を報告書としてまとめておく。事例報告会で得られた他者の意見を参考に振り返りを行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 授業スレッドにコメント用のgoogle formのURLを掲示するので、そこから入力する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について実技を含めて評価を実施できるようにしておくこと。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | □ポートフォリオ100％ |

| | |
|---|---|
| 教科書 | ①群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻　臨床実習の手引き<br>②大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版．医学書院 |
| 参考書 | ①才籐栄一　監：PT・OTのためのOSCE　臨床力が身につく実践テキスト．第1版．金原出版株式会社．2011<br>②里宇明元　監：自信が持てる！リハビリテーション臨床実習．第１版．医歯薬出版株式会社．2015<br>③山口昇 編：作業療法臨床実習マニュアル第1版.三輪書店 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、臨床業務の一環として臨床実習指導を行っていた経験が科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 卒業研究(OT)　　授業コード： 020194A770

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 4年次 | 2単位(60) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 作業療法専攻教員 | | | |
| 卒業研究 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>本講義では4年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表までを行う。<br>〔到達目標〕<br>作業療法に関して興味ある分野の論文抄読を通して、興味を深めることができる。また、各自が興味ある分野で研究計画を立案する過程で、理論的・客観的思考を身に着けることができる。<br>研究計画を基に、研究を実施し、得られた結果に対する考察を深めてまとめるとともに、それらを所定の形式で発表することができる。 |
| 授業の概要 | 作業療法セミナーや臨床実習等をふまえ、興味ある研究テーマを絞り、そのまとめへのアプローチの手法を各自検討する。個々の調査・研究及びディスカッションを通じて考察を深め、卒業研究としてのまとめを図れるよう、各自が取り組む。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | オリエンテーション<br>流れ、スケジュール卒業研究の流れと、スケジュールを確認する. |
| | 第２回 | 研究テーマの検討<br>研究テーマを検討する. |
| | 第３回 | 〃<br>卒業研究計画を立案し、申請書を提出する. |
| | 第４回 | 〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第５回 | 卒業研究計画の立案<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第６回 | 〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第７回 | 〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第８回 | 〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第９回 | 〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第１０回 | 各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第１１回 | 〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第１２回 | 〃 |

| | |
|---|---|
| | テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく.<br>第１３回　〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく.<br>第１４回　〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく.<br>第１５回　中間発表<br>研究経過を発表し、研究の方向性を確認する.<br>第１６回　〃<br>研究経過を発表し、研究の方向性を確認する.<br>第１７回　〃<br>研究経過を発表し、研究の方向性を確認する.<br>第１８回　完成に向けての研究活動の継続と執筆（個別指導）<br>中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する.<br>第１９回　〃<br>中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する.<br>第２０回　〃<br>中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する.<br>第２１回　〃<br>中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する.<br>第２２回　〃<br>中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する.<br>第２３回　〃<br>中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する.<br>第２４回　卒業研究発表会<br>研究としてまとめた成果を発表する。<br>第２５回　卒業研究発表会<br>研究としてまとめた成果を発表する。<br>第２６回　〃<br>研究としてまとめた成果を発表する。<br>第２７回　研究論文の最終調整<br>研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。<br>第２８回　〃<br>研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。<br>第２９回　〃<br>研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。<br>第３０回　〃<br>研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 卒業研究のテーマ決定、調査・自身の取り組み、論文執筆等、全ての取り組みにおいて、自ら進んで必要な情報を集め、行動し、調整を図り、自主的に取り組むこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | その他（随時担当教員と相談のうえで進める） |
| 授業外時間にかかわる情報 | 本科目では、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。 |
| オフィスアワー | 各教員に問い合わせること |
| 評価方法 | 「卒業研究に関わる課題探求能力」と「卒業研究に関わる発表能力・質疑応答能力・技術文書作成能力」で評価し、この合計を卒業研究の成績とする。 |
| 教科書 | 担当教員より随時指示 |
| 参考書 | 担当教員より随時指示 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>全ての教員が病院や施設にて、作業療法士としての臨床経験を積んでいる。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない |

| | |
|---|---|
| | 情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法管理論　　授業コード： 020194F702

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 4年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 古田常人・牛込祐樹 | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>医療従事者としての管理運営の基本的な考え方、組織の在り方、組織の目的などの基本を身につける。<br>〔到達目標〕<br>・日本作業療法士協会の定める倫理綱領を学び、遵守することができる。<br>・医療分野における作業療法部門の管理運営方法の基本を説明できる。<br>・作業療法士の役割と地域貢献の必要性について説明できる。<br>・職業人として必要な倫理、責任について説明できる。 |
| 授業の概要 | 多くの作業療法士は、その役割を果たすために他の専門職とともに一つの部門として組織に所属する。組織を形成する一員としての基本的を考え方を学び、作業療法士として地域貢献する意味について理解する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション／医療倫理/倫理的ジレンマ①<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>管理・運営科目オリエンテーション、医療倫理/倫理的ジレンマに関して、概要を説明する。その後倫理的ジレンマ課題に対して、ディベートを行う。随時資料を配布する。議論の結果をまとめ、自身の意見を加えレポート提出(A4、1～2枚)。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | 医療倫理/倫理的ジレンマ②<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>管理・運営科目オリエンテーション、医療倫理/倫理的ジレンマに関して、概要を説明する。その後倫理的ジレンマ課題に対して、ディベートを行う。随時資料を配布する。議論の結果をまとめ、自身の意見を加えレポート提出(A4、1～2枚)。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第３回 | 職業倫理および作業療法関連法規/職能団体としての活動<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>日本作業療法士協会倫理綱領、及び職業倫理について説明する。また関連職種における倫理規定など紹介し、その必要性について考える。随時資料を配布する。配布された資料をファイリングし、また議論における内容理解や検討が不十分な部分は関連する情報を集め、確認すること。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |

| | |
|---|---|
| | 第４回　職業倫理および作業療法関連法規/職能団体としての活動<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>日本作業療法士協会の歩みと現在の活動に関して、概要を説明。職能団体としての今後の在り方は議論する。随時資料を配布する。職能団体としての活動の必要性についてレポート提出(Ａ４、1枚)。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第５回　作業療法における管理運営<br>【key words】<br>作業療法、管理運営<br>【授業概要】<br>管理・運営、組織マネジメントとスタッフマネジメント、リスクコミュニケーションなどについて、概要を説明し、そのあり方に関して議論を行う。随時資料を配布する。配布された資料をファイリングし、また議論における内容理解や検討が不十分な部分は関連する情報を集め、確認すること。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前にポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、作業療法における管理運営について確認を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分<br>第６回　作業療法における管理運営：SWOT分析<br>【key words】<br>作業療法、管理運営、SWOT分析<br>【授業概要】<br>管理・運営、組織マネジメントとスタッフマネジメント、リスクコミュニケーションなどについて、SWOT分析を通して組織評価の手法を経験する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前にポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、作業療法における管理運営について確認を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分<br>第７回　作業療法における管理運営：PBL学習<br>【key words】<br>作業療法、管理運営、PBL学習<br>【授業概要】<br>管理・運営、組織マネジメントとスタッフマネジメント、リスクコミュニケーションなどについて、PBL学習を通して組織運営について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前にポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、作業療法における管理運営について確認を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分<br>第８回　作業療法部門の開設、人事管理、備品・物品管理、安全管理/診療報酬、介護報酬制度の概要、総合支援事業など<br>【key words】<br>作業療法、管理運営、PBL学習<br>【授業概要】<br>管理・運営、組織マネジメントとスタッフマネジメント、リスクコミュニケーションなどについて、PBL学習を通して組織運営について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前にポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、作業療法における管理運営について確認を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカードまたは授業スレッドにコメント用のgoogle formのURLを掲示するので、そこから入力する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 社会の中で、求められる作業療法士像は、刻々と変化してきている。その為、新聞やニュースなどの情報に常に目を光らせ、社会における医療・福祉の問題に興味、疑問を持ってほしい。、 |
| オフィスアワー | 月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）　その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | レポート60%、発表40% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 随時資料を配布する。 |
| 参考書 | ①杉原素子編：作業療法学全書 改訂第３版 第１巻 作業療法概論. 協同医書出版<br>②亀田メディカルセンター：リハビリテーションリスク管理ハンドブック改訂第2版.メジカルビュー社<br>③里村恵子　編集：　作業療法学ゴールド・マスター・テキスト　作業療法概論　改訂第２版　メジカルビュー社　2015 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法の臨床現場に加え、作業療法士県士会の理事、ないし委員会部長を経験した教員が講義を行っている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法特論Ⅲ　　授業コード： 020194F743

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 4年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 悴田敦子 | | | |
| 作業療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | ［授業の目的］<br>ケーススタディーを通し、様々な作業療法手段を考え、目標に合わせた治療計画を立案することを目的とする。<br>［到達目標］<br>①必要な評価項目を具体的に列挙することができる。<br>②ICFを使用し、対象者の利点・問題点を列挙し、関連性を説明することができる。<br>③作業療法目標を具体的にあげることができる。<br>④作業療法手段を対象者に合わせ、具体的にあげることができる。<br>⑤複数の作業療法手段から、作業療法目標にあったものを選択することができる。 |
| 授業の概要 | ケーススタディーを通し、対象者の目標に合わせた様々な作業療法手段を学びます。また、具体的な設定、かかわり方も学びます。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | 科目オリエンテーション、ケーススタディー：評価計画立案<br>評価計画、評価ケースを提示し、その対象者に合わせた評価計画を立案する。各自の評価計画を他者に説明し、意見交換を行います。<br>課題：ケースノート作成・記録 |
| | 第２回 | ケーススタディー：評価<br>評価結果、各種情報から問題点・利点をあげていきます。<br>課題：ケースノートに記録 |
| | 第３回 | ケーススステディー：基本動作<br>座位姿勢における動作について学びます。また、座位姿勢保持のアプローチについて実技を通し学びます<br>課題：ケースノートに記録 |
| | 第４回 | ケーススステディー：基本動作<br>立位姿勢における動作と移動動作について学びます。また、それぞれのアプローチについて実技を行います。<br>課題：ケースノートに記録 |
| | 第５回 | ケーススタディー：ADL動作<br>食事動作について動作分析を通し、アプローチについて学びます。<br>課題：ケースノートに記録 |
| | 第６回 | ケーススタディー：ADL動作<br>更衣動作について動作分析を通し、アプローチについて学びます。<br>課題：ケースノートに記録 |
| | 第７回 | ケーススタディー：ADL動作<br>排泄動作について動作分析を通し、アプローチについて学びます。<br>課題：ケースノートに記録 |
| | 第８回 | ケーススタディー：ADL動作<br>整容動作について動作分析を通し、アプローチについて学びます。<br>課題：ケースノートに記録 |
| | 第９回 | ケーススタディー：神経疾患<br>神経疾患のケースの各種情報を整理し、評価計画を立案します。<br>課題：ケースノートに記録 |
| | 第１０回 | ケーススタディー：神経疾患<br>ケースの動作分析から評価計画について考えます。<br>課題：ケースノートに記録 |
| | 第１１回 | ケーススタディー：神経疾患 |

| | |
|---|---|
| | 各種評価結果からケースの問題点抽出、目標設定を行い、発表します。<br>課題：ケースノートに記録<br>第１２回　ケーススタディー：神経疾患<br>各種評価結果からケースの問題点抽出、目標設定を行い、発表します。<br>課題：ケースノートに記録<br>第１３回　ケーススタディー：神経疾患<br>ケースの作業療法目標に合わせ、治療プログラムを立案し、各自の考えを発表し説明します。<br>課題：ケースノートに記録<br>第１４回　ケーススタディー：神経疾患<br>ケースの作業療法目標に合わせ、治療プログラムを立案し、各自の考えを発表し説明します。<br>課題：ケースノートに記録。発表用レジュメを作成し、事前に提出<br>第１５回　ケース発表、まとめ<br>各自でまとめたケースについて発表します。 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 作業療法手段を体験することが多いため、動きやすく、触診しやすい服装で参加してください。<br>ケーススタディーをグループまたは個人で行います。ケースノートを用意し、毎回提出してください。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時に指示する |
| オフィスアワー | 月曜日16：10～17：30 |
| 評価方法 | レポート100％ |
| 教科書 | 障害者福祉研究会編：ICF　国際生活機能分類．国際障害分類改定版，中央法規出版 |
| 参考書 | 川平和美：標準　理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　神経内科学.第3版．医学書院<br>岩崎テル子編：標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法学．医学書院 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>病院、老人保健施設にて身体障害領域の作業療法士として勤務。現在、群馬県東吾妻町、埼玉県本庄市の地域支援に関わっている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法特論Ⅳ　　授業コード： 020194F744

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 4年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴 | | | |
| 作業療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>住宅改修のプランニングができるようになる、また建築に関連する知識を深め、作業療法の実践に活かすための知見を得ることができる。<br>〔到達目標〕<br>①住宅改修の手順を示すことができる。<br>②家屋を計測し、図示できる。<br>③基本的な改修方法を示すことができる。<br>④基本的な改修プランを立案することができる。<br>⑤建築関連の基本的な知識を身につけることができる。 |
| 授業の概要 | 障害を持っても住み慣れた地域や家で暮らす、ということはノーマライゼーションの観点から言っても実現されなければならない事項である。<br>その具体的施策の一つが「住宅改修」であり、作業療法士にとって極めて重要な事項でもある。その住宅改修に必要な建築関連の基礎知識を学ぶとともに、具体的なプランを立案できるようになる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション/環境整備<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>住環境整備の意義社会の中での住宅、高齢社会の住環境のあり方、わが国の住宅事情<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書２～２６ページ教科書の指定範囲を確認<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | 発表に向けた学習と指導<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>第３回～７回は学生によるプレゼンテーションを中心に学びを進める。そのため、まとめのポイントやプレゼンテーションの進行などについて要点を説明するプレゼン準備<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第３回 | 介護保険制度における住環境整備<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>介護保険制度における住宅改修の基本と課題、福祉用具について学ぶ<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書２８～４３<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>プレゼン準備<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第４回 | 住環境整備の進め方と留意点<br>【key words】 |

【授業概要】
住環境整備の流れや進め方における留意点などについて理解を深める
【教科書ページ・参考文献】
教科書４６～７８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
プレゼン準備
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　建築知識の基本と住環境整備の基本的配慮①
【key words】
建築知識の基本として、建築用語や図面の書き方･みかたについて学ぶ。また、住環境整備の際に必要な基本的配慮事項を学ぶ。
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
教科書２２２～２４９ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
プレゼン準備
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　建築知識の基本と住環境整備の基本的配慮②
【key words】

【授業概要】
建築知識の基本として、建築用語や図面の書き方･みかたについて学ぶ。また、住環境整備の際に必要な基本的配慮事項を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書２４９～２９９ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
プレゼン準備
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　住環境整備と建築関連法規
【key words】

【授業概要】
集団規程による建築制限や単体規定による建築制限について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
教科書３００～３０４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
プレゼン準備
【予習復習に必要な想定時間】

第８回　住宅改修提案書_説明
【key words】

【授業概要】
課題の説明指定教科書を参考に課題を進める
そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　住宅改修提案書_作成
【key words】

【授業概要】
各自住宅改修提案書を作成する。指定教科書を参考に課題を進める
そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　住宅改修提案書_作成
【key words】

【授業概要】
各自住宅改修提案書を作成する。指定教科書を参考に課題を進める
そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　住宅改修提案書_作成
【key words】

【授業概要】
各自住宅改修提案書を作成する。別途指示課題を各自作業して進める
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

| | |
|---|---|
| | 第１２回　住宅改修提案書_作成<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>各自住宅改修提案書を作成する。指定教科書を参考に課題を進める<br>そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１３回　住宅改修提案プレゼンテーション<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>住宅改修提案を発表しディスカッションを行う。指定教科書を参考に課題を進める<br>そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　住宅改修提案プレゼンテーション<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>住宅改修提案を発表しディスカッションを行う。指定教科書を参考に課題を進める<br>そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　住宅改修提案プレゼンテーション、本科目のまとめ<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>住宅改修提案を発表しディスカッションを行う。指定教科書を参考に課題を進める<br>そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・デジカメやスマホで撮影した写真データをパソコンに取り込み、加工ができる環境、電子メールのやり取りができる環境を準備すること。<br>・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。基本的には個人やグループでの授業外課題も多く含まれるため、積極的な取り組みが求められる。 |
| オフィスアワー | 水曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）　その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | 発表課題50%、提出課題50% |
| 教科書 | 野村歡・橋本美芽：OT・PTのための住環境整備論．第2版．三輪書店 |
| 参考書 | 木之瀬隆編：作業療法学全書改訂第3版　第10巻　作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備<br>岡村英樹：ＯＴ・ＰＴ・ケアマネにおくる建築知識なんかなくても住宅改修を成功させる本.三輪書店 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>急性期および回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、県内外の自治体における介護予防事業の実践をしてきた。また現在は、前橋市認知症初期集中支援チームのリーダー、自立支援型ケアマネジメント推進事業の群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会のNPO法人副理事長などを務めている。<br>また、福祉住環境コーディネーター1級の資格を保持し、建築士や福祉用具販売業者等との交流経験もある。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない |

| | |
|---|---|
| | 情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 障害者スポーツ　　授業コード： R20191A142

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 櫻井秀雄 | | | |
| 基礎科目 | 初級障がい者スポーツ指導員指定科目 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>障がい者が豊かな生活を送るために、障がい者スポーツを理解して支援･援助できる知識･技能を習得することを目的とする。<br>【到達目標】<br>①障がい者スポーツの意味、特性、支援･援助方法を理解できる。<br>②障がい区分に応じた基本的な支援･援助技法を身に身につけることができる。<br>③障がい者スポーツ指導員としての資質を身につけ、スポーツを生活の中で親しめることができる。 |
| 授業の概要 | 【求められる指導者像】<br>①障がいや障がい者スポーツ、安全管理等に関する基礎的な知識や障がい者に対応するための基本的な技術を持ち、地域に住む障がい者を運動やスポーツへと導く。<br>②プレーヤーに運動やスポーツの楽しさ、基本的な運動の仕方やその意義や価値を伝える。<br>③地域の大会や行事に積極的に参加し、指導員組織の事業にも積極的に参加し、地域の障がい者スポーツ振興を支える。<br>④中級障がい者スポーツ指導員資格取得を目指すなど自己研鑽を積むようにする。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ○ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション：スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質<br>【key words】<br>【key words】 スポーツ　インテグリティ　資質・能力<br>【授業概要】<br>【授業概要】スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレイヤーズファーストの視点やプレイヤーとともに学び続ける姿勢について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p2～　日本障がい者スポーツ協会編<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者スポーツの意義・理念について学んでおく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | 障がい者スポーツの意義と理念<br>【key words】<br>【key words】スポーツ　障がい者　意義　理念<br>【授業概要】<br>【授業概要】障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p14～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】全国障がい者スポーツ大会について調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　全国障がい者スポーツ大会の概要
【key words】
【key words】障がい者スポーツ大会　障がい者福祉法
【授業概要】
【授業概要】全国障がい者スポーツ大会の基本理念など大会の概要及び大会開催の目的や意義について学び、大会がスポーツ未経験者や初心者のスポーツ参加の動機づけになっていること、地域のスポーツ振興を進める契機となっていることを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p20～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】障害のある人たちのグループ、行事等を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　障がいの人との交流（第１回目）
【key words】
【key words】　障がい者　コミュニケーション
【授業概要】
【授業概要】スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ現場に出向きしぉう会社とのふれあいを体験する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p28～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者との交流内容をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　障がいの人との交流（第２回目）
【key words】
【key words】　障がい者　コミュニケーション
【授業概要】
【授業概要】スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ現場に出向きしぉう会社とのふれあいを体験する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p44～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者との交流内容をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　障がい者スポーツ推進の取り組み
【key words】
【key words】障がい者スポーツ指導員　スポーツ基本法
【授業概要】
【授業概要】資格を取得したのちに、地域で行われている教室や大会へ積極的にかかわれるよう、地域の障がい者スポーツ振興の現状について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p54～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者スポーツの振興についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　障がい者スポーツに関する諸施策
【key words】
【key words】 障がい者福祉法 スポーツ基本法　スポーツ振興計画　総合型地域スポーツクラブ
【授業概要】
【授業概要】我が国の障がい者福祉施策（障害者手帳を含む）および障がい者スポーツに関する施策（スポーツ基本法やスポーツ振興計画など）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p64～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】地域で行っている障がい者スポーツについて調べてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　安全管理
【key words】
【key words】 スポーツ　安全　救急法
【授業概要】
【授業概要】スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。（ヒヤリハットや指導者の安全配慮義務、ＡＥＤ、応急手当など）
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p78～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【課題・予習・復習・授業準備指示】身近な活動場所を点検して安全性を確認してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　各障がいの理解：身体障害（肢体不自由）
【key words】
【key words】 身体障がい
【授業概要】
【授業概要】身体障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で生かせる、身体障がいに関する知識と指導上の配慮店を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p95～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】肢体不自由者の特性をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　各障がいの理解：身体障がい（視覚障がい　聴覚障がい　内部障がい）
【key words】
【key words】 身体障がい
【授業概要】
【授業概要】身体障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で生かせる、身体障がいに関する知識と指導上の配慮店を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p115～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】視覚・聴覚・内部障がい者の特性をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　各障がいの理解：知的障がい
【key words】
【key words】 知的障がい
【授業概要】
【授業概要】知的障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で生かせる、知的障がいに関する知識と指
導上の配慮店を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p124～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】知的障がい者の特性をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　各障がいの理解：精神障がい
【key words】
【key words】 精神障がい
【授業概要】
【授業概要】精神障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で生かせる、精神障がいに関する知識と指導上の配慮店を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p137～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】精神障がい者の特性をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　各障がいのスポーツ指導上の留意点：（身体障がい）
【key words】
【key words】障がい　特性　指導
【授業概要】
【授業概要】障害のある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫や指導員としての留意点・接し方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p146～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者との交流のまとめを熟読しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　各障がいのスポーツ指導上の留意点（知的・精神障がい）
【key words】
【key words】障がい　特性　指導
【授業概要】
【授業概要】障害のある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫や指導員としての留意点・接し方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p163～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者との交流のまとめとともに整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

| | |
|---|---|
| | 第１５回　　まとめ：コミュニケーションスキルの基礎<br>【key words】<br>【key words】　コミュニケーション<br>【授業概要】<br>【授業概要】障がい者スポーツ指導員として必要なコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p171～日本障がい者スポーツ協会編<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者スポーツ指導員として学んだことをまとめておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講者に関する情報〕<br>・障がい者の生活支援を念頭に置き、真摯な態度で受講する。<br>・実技は運動着、運動靴、メモの用意をする。<br>〔受講のルール〕<br>・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。<br>・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 施設実習や障がい者へのボランティア活動をとおして、障がい者スポーツの情報を収集しておく。 |
| オフィスアワー | 講義終了後30分間　　他の時間帯の希望のときはアポイントを取っていただく |
| 評価方法 | 筆記試験･レポート試験（70%）　実技試験（30%）の総合評価 |
| 教科書 | 日本障がい者スポーツ協会編：新盤障がい者スポーツ教本（初級・中級）：ぎょうせい：令和2年 |
| 参考書 | 井田朋宏：NO　LIMIT（障がい者スポーツ情報誌）：日本障がい者スポーツ協会：2019（年4回発刊） |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>公立学校教員（保健体育）21年、管理職6年、群馬県教育委員会スポーツ振興課課長補佐6年（生涯スポーツ、障がいスポーツ）群馬県知事部局（障害福祉、社会福祉、保健福祉）群馬県社会福祉事業団・群馬県立ふれあいスポーツプラザ次長・指導課長5年（障がい者スポーツ指導、障がい者スポーツ行政）群馬県障がい者スポーツ指導者協議会会長（現在）<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 医療･福祉･教育の基礎　　授業コード：R20191A143

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂駿・中山洋子・時田詠子 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>医療・福祉・教育に関わる専門職の基礎について学び、専門職者としての素養を身に付けることを目的とする。<br>【到達目標】<br>①医療・福祉・教育に関わる法・制度について理解・説明できる。<br>②医療・福祉・教育に関わる専門職と、その役割ついて理解・説明できる。<br>③ライフステージに応じた対象者の生活支援に関して、各専門職の取り組みを理解・説明できる。<br>④対人コミュニケーションや多職種連携の重要性について理解・説明することができる。 |
| 授業の概要 | 人は生まれてから最期を迎えるまで、多様な生活を送る。医療・福祉・教育に関わる支援者の役割は、人々が必要な教育を受け、幸福で健康的な生活を送ることができるようにすることである。本講義では、乳幼児期から老年期にある様々な年代の対象者が、生き生きと生活を送るために、どのような専門職が、どのように治療・指導・援助に関わっているか演習を交えながら学ぶ。<br>また、治療・指導・援助の際には、対象者や多くの専門職とのコミュニケーション（多職種連携）が必要不可欠である。講義内で行われる、グループワークなどの演習を通し、人とのコミュニケーションの重要性についても理解を深めて欲しい。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | △ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | △ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | オリエンテーション／「ボランティア活動」と「サービス・ラーニング」（足立勤一）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>本学の建学の精神である「仁」をもとに、「ボランティア活動」と「サービス・ラーニング」の基本について学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | 「障害について学ぼう」　-共生社会の実現に向けて-（小林義信）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>障がいのあるなしにかかわらず、だれもが安心して幸せに生活できる共生社会の実現に向けて、障がいについて学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回　社会福祉士の専門性と連携（富澤一央）

【key words】

【授業概要】
社会福祉士の仕事と多職種と連携する時の情報共有の大切さ、人に伝える難しさを学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　子どもの育ちに大切なこと（塚越亜希子）

【key words】

【授業概要】
子どもたちの笑顔と未来を守るために、今、改めて注目されている保育・幼児教育の重要性について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　手術を受ける子どもへの関わり方（西山智春）

【key words】

【授業概要】
病院で子どもが医療行為により引き起こされる心理的混乱に対し、プレパレーションを通した説明の仕方を学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　高齢者に対するコミュニケーション（剱持貴史）

【key words】

【授業概要】
ユマニチュードなどのコミュニケーション技法を通して、高齢者の心をつかむコミュニケーションについて学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　私の健康、備えあれば患え（うれえ）なし？（橋本いずみ）

【key words】

【授業概要】
自分の健康を守るためにどのようなことに気をつけていますか。健康を守るための仕組みや方法について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　医療者の目線から学ぶ救急止血処置

【key words】

【授業概要】
生体に不可欠な血液の種類と出血のメカニズムについて理解し、救急止血処置を医療者の目線で学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第9回　ひとの身体と臨床における理学療法の役割（小林雄斗）

【key words】
理学療法士、リハビリテーション、役割

【授業概要】
医療、スポーツ、福祉など多岐にわたる領域で、理学療法士が実際にどのようなアプローチを通して現場で活躍しているかを学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　（事前に配布します）
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

| | | |
|---|---|---|
| | 第10回 | 理学療法における治療テクニックと大学での学び（浅野貞美）<br>【key words】<br>骨、コミュニケーション、グループワーク<br><br>【授業概要】<br>理学療法の基本的な治療テクニックを紹介します。また本学学生の様子を通して基礎科目の重要性を学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第11回 | 作業療法士から見る対象者の生活課題とリハビリテーション　（高坂駿）<br>【key words】<br>リハビリテーション、作業、作業療法<br><br>【授業概要】<br>作業療法士がリハビリテーションの中で果たす役割や、人の生活を構造的に捉える視点等について演習を通じてお伝えします。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>自分の典型的な平日を思い出し、どんな活動が、どこで、誰と、どのように行われているか考えてきてください。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>20分程度 |
| | 第12回 | 臨床や地域における作業療法の実践　（牛込祐樹）<br>【key words】<br>作業療法、治療・支援、実践<br>【授業概要】<br>作業療法の概要を学び、作業療法士が対象の方々や社会の抱える課題に対して具体的にどのように取り組み、実践を行っているのかを学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>日本作業療法士協会ホームページのピックアップコンテンツである「TEAM　OT」、「OTのスゴ技（作業療法士）」について、自身の興味のある内容を２つ読んでおいてください。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>20分程度 |
| | 第13回 | 介護という生活支援学のススメ（清水久二雄）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>バラエティに富む人の「生活」とそれを支援するために「生活する」ことを考えつつ、介護のエピソードからも学んでいきます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第14回 | コード・ブルーから学ぶチーム医療と医療情報（淡島正浩）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>メディカルスタッフが連携・協働し,専門スキルを発揮するチーム医療と推進のために大切なことを学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第15回 | 臨床検査技師の使命✓（半田正）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>検査のスペシャリストとして、どのように医療へ貢献しているのか、学んでみましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第16回 | 臨床工学技士の仕事（秋山康則）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>高度医療の現場で活躍する臨床工学の業務と、将来期待される可能性について学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |

| | |
|---|---|
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・本講義は、高大連携事業の一環で行われ、履修者は主に初学者（高校生）となる。<br>・授業形態は、対面またはオンデマンドとなる。オンデマンドの場合は、PC、インターネット環境が必要となる。<br>・予習復習をしっかりすること。<br>・講義では、学びを深めるグループワークや演習も行うので、積極的にアクティビティに参加すること。<br>・各講義の終盤には小テストを実施予定のため、聞き落としたことや質問は授業内にすること。<br>・講義は前橋キャンパスを中心に行うが、専門分野についての学びを深めるために、看護学部（藤岡キャンパス）や、リハビリテーション学部（本町キャンパス）での講義も行う。<br>〔受講のルール〕<br>・講義は特別な事情のない限り、欠席のないようにすること。<br>・講義内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をすること。<br>・講義中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | オムニバス形式の授業のため、その単元の内容に関わるものは単元を担当した教員に、なるべくその場で質問をすること。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業を受ける前に必ずシラバスを確認して、授業内容の把握や予習を進めておくこと。<br>また、分からないことを解決したり、授業で扱った内容の理解を深めるため、自ら調べ学習を進めること。 |
| オフィスアワー | 講義時に指示する。 |
| 評価方法 | 各講義終了時の試験を総合して評価する。（100%） |
| 教科書 | 講義内で適時資料配布する。 |
| 参考書 | 講義内で適時紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>各学部に所属する専門資格をもつ教員が講義を担当する。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 海外語学研修（カナダ）　　授業コード：R20191A180

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 集中 | 1年～4年次 | 2単位(60) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田口敦彦 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームスティ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。 |
| 授業の概要 | 研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習(英語)に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。　研修期間　平成31年8月28日～9月7日 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第２回 | 研修先の概要(2)　リジャイナ大学についての概要<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>訪問するレジャイナ大学の概要について理解するとともに、レジャイナ大学が提携する |

ESL(English as a Second Language class )プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポートやETA取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認して置くこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　カナダ研究(1)　世界とカナダの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について
【key words】

【授業概要】
カナダの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でカナダの文化、歴史等を収集しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて
【key words】

【授業概要】
パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと　　入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話
【key words】

【授業概要】
機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し
【key words】

【授業概要】
英語で自らの文化、習慣、伝統等を紹介する方法について学ぶ。またレジャイナ大学の学生と交流する機会があるので、レクリエーションプログラム等の計画を立てる。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　英語研修(3)　日常英会話　研修先でのコミュニケーション
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　英語研修(4)　日常英会話　寮、ホームスティ　研修先での注意事項
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　英語研修(5)　日常英会話　危機管理
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　協定校での授業　会話、課外授業　Meet with Program Team
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　協定校での授業　会話、課外授業　Welcome &Program Orientation
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　協定校での授業　会話、課外授業　Campus Orientation & Tour
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Saskatchewan Museum
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　協定校での授業　会話、課外授業　Language History ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　協定校での授業　会話、課外授業　Language History ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　協定校での授業　会話、課外授業　Farmer,s Market and Regina Down Town Tour
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Culture ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Cu l ture②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of Sa s katoon & Western Development Museum
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２４回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Canadian Mounted Police & Government House
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２５回　協定校での授業　会話、課外授業　　Language Arts ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２６回　協定校での授業　会話、課外授業　　Language Arts ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２７回　協定校での授業　会話、課外授業　Kayaking on Wascana & Barbeque wiyh U of R students
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２８回　協定校での授業　会話、課外授業　Program Closing Ceremony
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２９回　研修成果　　レポート及び報告会プレゼンテーション準備
【key words】

【授業概要】
研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
2時間
第３０回　研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）
【key words】

【授業概要】
研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）
【教科書ページ・参考文献】

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話<br>し合い、同意を得る。<br>②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。<br>③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。<br>④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。<br>⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。<br>⑥小学校における英語必修化に伴い初等教育コースの学生は履修することが望ましい<br>⑦本講義は10人以上により開講する |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。 |
| オフィスアワー | 火曜日　16:00～17:30　(変更が生じた場合は適宜指示する) |
| 評価方法 | 海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。<br>① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。<br>② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。<br>③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。<br>④ 研修期間中の活動記録を提出すること。<br>⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。 |
| 教科書 | 担当教員が適宜指示する。 |
| 参考書 | 海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 海外医療福祉研修（ﾌｨﾘﾋﾟﾝ）　　授業コード：R20191A598

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 集中 | 1年次～3年次 | 2単位(60) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田口敦彦・小林洋子 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設（小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院)にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。 |
| 授業の概要 | 研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　フィリピン・アレリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。<br>研修期間　平成32年3月15日～3月23日 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方<br>【key words】<br>(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。<br>【授業概要】<br>グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | 研修先の概要(2)　アレリアノ大学についての概要<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>訪問するアレリアノ大学の概要について理解するとともに、アレリアノ大学が提携する病院、福祉施設訪問プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポート取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認しておくこと。 |

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回　フィリピン研究(1)　世界とフィリピンの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について

【key words】

【授業概要】
フィリピンの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でフィリピンの文化、歴史等を収集しておくこと。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて

【key words】

【授業概要】
パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　医療福祉研修(1)　ボランティア先での注意事項

【key words】

【授業概要】
海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。レクリエーション企画について事前に自分たちができそうなことを事前に準備しておくこと。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　医療福祉研修(2)　ボランティア先でのレクリエーション企画について

【key words】

【授業概要】
海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。日本の文化を紹介するにはどのように行ったらよいのかを考えてみる。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと　　入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話

【key words】

【授業概要】
機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し

【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　英語研修(3)　医療英語　　患者及び施設利用者とのコミュニケーション

【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイ

を行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
アレリアノ大学　医療福祉研修プログラムへ参加し海外での実践活動・講義及びフィールドワークについて確認する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリング、について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリングについて学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康教育、出産について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　産前産後検診について学ぶフィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Kaisaka　Rehabilitative therapies　リハビリ病院訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Kaisaka　Adult day care services　高齢者デイケア訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Kaisaka　Caring for persons with disabilities and social rehabilitation　身体障害者施設を訪問し社会復帰プログラムについて理解を深める。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Arellano University Rehabilitation Clinic Rehabilitation terapiesを訪問し　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
″マニラおよび近郊の文化、観光施設

″現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

| | |
|---|---|
| | 第２４回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>″マニラおよび近郊の文化、観光施設<br><br>″現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２５回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>″マニラおよび近郊の文化、観光施設<br><br>″現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２６回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>CHILD HAUS　children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２７回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>CHILD HAUS　children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２８回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>CHILD HAUS　children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２９回　研修成果　　レポート及び報告会プレゼンテーション準備<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第３０回　研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>研修事業の振り返りと研修の成果について確認を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。<br>②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。<br>③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 |

| | |
|---|---|
| | ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。<br>⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。<br>⑥本講義は10人以上により |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。 |
| オフィスアワー | 火曜日　16:00～17:30　(変更が生じた場合は適宜指示する) |
| 評価方法 | 海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。<br>① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。<br>② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。<br>③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。<br>④ 研修期間中の活動記録を提出すること。<br>⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。 |
| 教科書 | 担当教員が適宜指示する。 |
| 参考書 | 海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 解剖学Ⅰ　　授業コード：R20191F201

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 伊東順太 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [　授業の目的　]<br>人体の構造と分類、特に骨格系、筋系および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。<br>[　到達目標　]<br>①椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。<br>②四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。<br>③頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。<br>④四肢の筋群の起始停止部，支配神経および作用を説明することができる。<br>⑤体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。<br>⑥骨の連結 |
| 授業の概要 | 生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　オリエンテーション、人体の各部の名称と方向用語<br>【key words】<br>正面、前頭面、水平面、三角筋部、etc授業の進め方、復習の仕方を説明。<br>人体の部位名等を説明。<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>トレーニングノート　身体の断面、上肢、下肢の暗記<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２回　骨格系-1　上肢の骨<br>【key words】<br>・骨の構造と機能<br>・上肢帯の骨について<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>トレーニングノート　鎖骨、肩甲骨の関節部や筋の付着部の名称の暗記<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

【予習復習に必要な想定時間】
第３回　骨格系-2　上肢の骨
【key words】
・前回の内容の確認試験
・上腕骨、尺骨、橈骨について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート　上腕骨、前腕の骨の名称の暗記
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　骨格系-3　骨盤、下肢の骨
【key words】
・前回の内容の確認試験
・寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート　寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨の名称の暗記
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回　骨格系-4、-5　椎骨、脊椎と胸郭
【key words】
頭蓋骨を構成する骨の名称と構造
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート　頭蓋骨を構成する骨の名称と構造の暗記
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第６回　骨格系-5、-6　胸郭と頭部の骨、骨の構成
【key words】
胸部の構造、椎骨の構造
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート　椎骨の構造の暗記
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回　筋系-1　頭頚部の筋、頭部の各骨との連結
【key words】
関節の構造と種類、筋の構造と種類について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート　関節の構造と種類、筋の構造と種類の暗記
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　筋系-2　体幹の筋、胸部の筋
【key words】
体幹、胸部の筋について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート　胸部の筋、腹部の筋の暗記
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第９回　筋系-3　脊柱の筋、上肢の筋、肩関節
【key words】
体幹、胸部の筋について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート　胸部の筋、腹部の筋の暗記
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　筋系-4　上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋
【key words】
脊柱起立筋、肩関節の構造と作用について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート　浅背筋群、脊柱起立筋、肩関節の構造の暗記

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１１回　筋系-5　上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋<br>【key words】<br>上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋について<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>トレーニングノート　上肢帯、上肢後面・全面の筋、肘関節の構造の暗記<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１２回　筋系-6　骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋<br>【key words】<br>上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋について<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>トレーニングノート　上肢帯、上肢後面・全面の筋、肘関節の構造の暗記<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１３回　筋系-7　骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋<br>【key words】<br>骨盤、下肢の骨について<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>トレーニングノート　骨盤、下肢の筋について暗記<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　筋系-8　下肢の筋、下肢の連結と運動について<br>【key words】<br>下肢の筋、下肢の連結と運動について、試験勉強について<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>トレーニングノート　下肢の筋について暗記<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　筋系-9　まとめ、試験について<br>【key words】<br>前期のまとめ、試験勉強について前期分すべて試験勉強を指示<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。<br>・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。<br>〔受講のルール〕<br>・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。<br>・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。<br>・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。<br>・授業の流れや雰囲気を乱 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。特に、復習に重点を置き、授業内容はその日のうちに身につけること。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分程度、対応可能。 |
| 評価方法 | 筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。 |
| 教科書 | ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　解剖学　野村嶬【編】　医学書院<br>・解剖トレーニングノート　竹内 修二（著）　医学教育出版社<br>・解剖学ワークブック　西川彰・小林直行（著）、野村嶬（監）　医歯薬出版 |
| 参考書 | ・ネッター解剖学アトラス　Frank H. Netter（著）　南江堂<br><br>・ネッター解剖生理学アトラス　John T.Hansen（著）　南江堂 |

| | |
|---|---|
| | ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論<br>・運動器系　坂井 建雄（著）　医学書院<br><br>・カラーイラストで学ぶ　集中講義　解剖学　メジカルビュー社 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 生理学Ⅰ　　授業コード：R20191F204

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 笠松哲光 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>神経系、運動器、造血器の調節機構の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>① 内臓器の基礎を簡潔に説明出来るようになる。<br>② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。<br>③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。 |
| 授業の概要 | 生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 生命現象と人体①<br>【key words】<br>組織と細胞、エネルギー産生<br>【授業概要】<br>生理学の総論と身体の階層性、生命現象についての講義・解説を行う。<br>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>1-12<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | 生命現象と人体②<br>【key words】<br>細胞内液と細胞外液、浸透圧、細胞膜タンパク質、DNAとRNA<br>【授業概要】<br>水、ホメオスタシスと負のフィードバック についての講義・解説を行う。<br>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>8-16 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　細胞の構造と機能
【key words】
細胞小器官、静止電位と活動電位
【授業概要】
細胞の構造と機能、静止電位と活動電位 についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
15-19
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　神経の興奮伝導と末梢神経①
【key words】
神経細胞の構造、興奮の伝導、末梢神経の種類
【授業概要】
神経細胞の構造、興奮の発生と伝導、末梢神経の種類についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
21-24
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　神経の興奮伝導と末梢神経②
【key words】
自律神経、シナプス、神経伝達物質
【授業概要】
自律神経、シナプスにおける興奮の伝達についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
24-30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第６回　中枢神経系①
【key words】
自律神経、神経核、脊髄反射、伸張反射
【授業概要】
中枢神経系とは、脊髄、脳幹についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
33-39
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第７回　中枢神経系②
【key words】
小脳、間脳、大脳皮質と各種中枢
【授業概要】
小脳、間脳：視床と視床下部、大脳皮質についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
40-45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　中枢神経系③
【key words】
学習、記憶、睡眠
【授業概要】
脳の高次機能についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
45-48
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

| | | |
|---|---|---|
| | 第９回 | 中枢神経系④<br>【key words】<br>大脳辺縁系、脳脊髄液、血液脳関門<br>【授業概要】<br>大脳基底核と脳梁、辺縁系、室と脳脊髄液・血液脳関門についての講義・解説を行う。<br>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>45-49<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１０回 | 筋と骨①<br>【key words】<br>興奮収縮連関、筋の収縮メカニズム、骨格筋収縮の種類<br>【授業概要】<br>筋の分類、骨格筋、心筋についての講義・解説を行う。<br>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>53-60<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第１１回 | 筋と骨②<br>【key words】<br>筋紡錘とGolgi腱器官、心筋、骨<br>【授業概要】<br>平滑筋、骨についての講義・解説を行う。<br>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>60-67<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第１２回 | 感覚①<br>【key words】<br>感覚、視覚<br>【授業概要】<br>感覚とは、体性感覚についての講義・解説を行う。<br>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>71-77<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第１３回 | 感覚②<br>【key words】<br>視覚、聴覚、嗅覚、味覚<br>【授業概要】<br>内臓感覚、特殊感覚についての講義・解説を行う。<br>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>77-83<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第１４回 | 血液①<br>【key words】<br>赤血球、白血球<br>【授業概要】<br>血液の組成と機能、赤血球、白血球についての講義・解説を行う。<br>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>86-95<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第１５回 | 血液②<br>【key words】<br>止血、膠質浸透圧、血液型<br>【授業概要】 |

| | |
|---|---|
| | 血小板、血漿、血液型についての講義・解説を行う。<br>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>95-99<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・予習復習は必ず行うこと。<br>〔受講のルール〕<br>・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。<br>・出席時間厳守・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時に指示する。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分程度、またはメールによる質疑であれば随時対応可能。 |
| 評価方法 | 選択式もしくは筆記式（論述含む）、小テストの総合評価 |
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版　岡田　隆夫／鈴木　敦子／長岡　正範著、 医学書院 |
| 参考書 | シンプル生理学（改訂7版）、貴邑 冨久子、 根来 英雄、南江堂 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 一般臨床医学　　授業コード： R20191F222

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 多田真和 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | 社会福祉主事任用資格指定科目 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>将来皆さんが、医師、看護師、薬剤師等の専門職と協同でチーム医療を行うにあたり、医療従事者として共通の幅広い医学および医療の知識を備えておく必要があります。本講義では、医学の歴史、近代医学の発展と医の倫理、人体の構造と機能、主要な疾患とその対応、医療保障制度、医療施設の種類と現状、保健医療対策、医療にまつわる法規等について広く解説します。<br>〔到達目標〕<br>医学、医療を広く学ぶことで、チーム医療における理学療法士、作業療法士として果たすべき役割およびその重要性が理解できることを目標の一つとします。また、医療従事者として、患者さんや医療チームの構成員からも信頼され、尊敬されるような人間性、倫理観が身につけられることを目標とします。 |
| 授業の概要 | 将来、チーム医療を実践される皆さんにとって必要な医学および医療の幅広い知識を、できる限りわかりやすく、平易に解説します。皆さんが将来遭遇する可能性が高い疾患については、その解剖学的構造、生理学的機能を学習した上で、疾患および障害が生じるメカニズム、さらに基本的な治療法およびその予後等について解説します。1年次で学ぶ、解剖学、生理学、生化学等の講義と並行して学習することで、より深い理解が得られるよう配慮します。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | オリエンテーション、医学の定義とその使命（第1章）<br>【key words】<br>医学の定義、医学の使命<br>【授業概要】<br>初めにあたり、授業のオリエンテーションを行います。また、「医学とは何か」「医学の使命」について解説します。将来、医療従事者として必要な生命倫理および医学倫理について熟考します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p.1 - p.4<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30－60分 |
| | 第２回 | 医学の歴史（第2章）、近代医学の発展と医の倫理（第3章）<br>【key words】<br>医学の歴史、近代医学、ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント、脳死、尊厳死<br>【授業概要】 |

「近代医学への道程」「ヒポクラテスの誓い」「20世紀・21世紀の医学」について、さらに「ヘルシンキ宣言」「インフォームドコンセント」「脳死」および「尊厳死」をとり上げ解説します。
【教科書ページ・参考文献】
p.5 - p.13
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
30－60分

第３回　人体の構造と機能　Ⅰ（第4章）・・・　人体の構成、細胞、骨・筋肉、血液、循環器系、呼吸器系
【key words】
細胞、骨、筋肉、血液、循環器、呼吸器
【授業概要】
人体の構造の基本単位である「細胞」、そして「骨」「筋肉」「血液」について解説します。さらに心臓、血管系およびリンパ系からなる「循環器系」を学び、「呼吸器系」では、気道、肺、胸郭・横隔膜の解剖に加え、呼吸運動について解説します。
【教科書ページ・参考文献】
p.14 - p.27
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
60－90分

第４回　人体の構造と機能　II（第4章）・・・　消化器系、泌尿器系、内分泌系とホルモン、神経系、生殖器系、皮膚、感覚器
【key words】
消化器、泌尿器、内分泌、ホルモン、神経、生殖器、皮膚、感覚器
【授業概要】
口腔にはじまり、食道、胃、小腸、大腸までの消化管に加え、肝臓、胆道系および膵臓で構成される「消化器系」の解剖学的構造、さらに生理学的メカニズムについて解説します。また、「泌尿器系」「内分泌系」「神経系」「生殖器系」「皮膚」および眼、耳の「感覚器」について、その解剖学的構造および生理学的メカニズムを解説します。
【教科書ページ・参考文献】
p.27 - p.44
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
60－90分

第５回　臨床医学総論　Ⅰ（第5章）・・・　主要症状からその原因を探る
【key words】
発熱、ショック、浮腫、悪心、嘔吐、下痢、便秘、腹痛、食欲不振、呼吸困難、胸痛
【授業概要】
臨床の場でみられる、「発熱」「ショック」「浮腫」「悪心」「嘔吐」「下痢」「便秘」「腹痛」「食欲不振」「呼吸困難」および「胸痛」の症状について、そのメカニズムと対応を解説します。
【教科書ページ・参考文献】
p.45 - p.54
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
60－90分

第６回　臨床医学総論　II（第5章）・・・　主要症状からその原因を探る
【key words】
頭痛、めまい、運動麻痺、不随意運動、排尿障害、咳、喀血、血痰、吐血、動悸
【授業概要】
臨床の場でみられる、「頭痛」「めまい」「運動麻痺」「不随意運動」「排尿障害」「咳」「喀血・血痰」「吐血」および「動悸」の症状について、そのメカニズムと対応を解説します。
【教科書ページ・参考文献】
p.55 - p.60
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
60－90分

第７回　臨床医学各論　Ⅰ　（第6章）・・・　呼吸器疾患、循環器疾患
【key words】
呼吸器疾患、循環器疾患
【授業概要】
日常の臨床の場でみられる代表的な呼吸器および循環器に生じる疾患について解説します。
【教科書ページ・参考文献】
p.61 - p.69
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
60－90分

第８回　臨床医学各論　II　（第6章）・・・　消化器疾患、代謝・内分泌疾患、腎臓・泌尿器疾患
【key words】

| | | |
|---|---|---|
| | | 消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患、腎臓疾患、泌尿器疾患<br>【授業概要】<br>日常の臨床の場でみられる代表的な消化器に生じる疾患、糖尿病、脂質異常症をはじめとする代謝・内分泌疾患、さらに腎臓および泌尿器に生じる代表的な疾患について解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p.69 - p.76<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60－90分 |
| | 第９回 | 臨床医学各論　III　（第6章）・・・　血液・造血器疾患、神経・筋疾患、精神疾患<br>【key words】<br>血液疾患、造血器疾患、神経疾患、筋疾患、精神疾患<br>【授業概要】<br>鉄欠乏性貧血をはじめとする血液疾患、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等の神経疾患、さらに、統合失調症、双極性障害等の精神疾患について解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p.76 - p.83<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60－90分 |
| | 第１０回 | 臨床医学各論　IV　（第6章）・・・　アレルギー性疾患、膠原病、感染症、中毒性疾患<br>【key words】<br>アレルギー疾患、膠原病、感染症、中毒性疾患<br>【授業概要】<br>薬物アレルギー、アレルギー性鼻炎等のアレルギー性疾患、関節リウマチ、シェーグレン症候群等の膠原病、食中毒、破傷風等の感染症、さらに一酸化炭素中毒、フグ中毒等の中毒疾患について解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p.84 - p.91<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60－90分 |
| | 第１１回 | 臨床医学各論　V　（第6章）・・・　運動器疾患、皮膚疾患、婦人科・妊産婦疾患<br>【key words】<br>運動器疾患、皮膚疾患、婦人科疾患、妊産婦疾患<br>【授業概要】<br>日常の臨床の場で多くみられる腰痛症、変形性膝関節症等の運動器疾患、アトピー性疾患、蕁麻疹および熱傷等の皮膚疾患、さらに更年期障害、子宮筋腫等の婦人科・妊産婦疾患について解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p.92 - p.103<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60－90分 |
| | 第１２回 | 臨床医学各論　VI　（第6章）・・・　小児疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、メタボリックシンドローム<br>【key words】<br>小児疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、メタボリックシンドローム<br>【授業概要】<br>小児にみられる疾患、眼精疲労、緑内障等の眼疾患、メニエール病、突発性難聴等の耳鼻咽喉疾患、さらにメタボリックシンドロームについて解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p.103 - p.114<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60－90分 |
| | 第１３回 | 人口統計と疾病の変化（第7章）、健康状態と受療状況（第8章）、医療保障制度（第9章）<br>【key words】<br>人口静態、世界の人口、人口動態、社会保障制度、医療保障、医療保険、老人医療、介護保険制度、国民医療費<br>【授業概要】<br>さまざまな保健衛生事業を効率よく実施するために必要な人口統計、さらに医療保障制度、社会保障制度として医療保険、老人医療、介護保険制度そして国民医療費について解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p.115 - p.139<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30－60分 |
| | 第１４回 | 医療関係の職種（第10章）、医療施設の種類と現状（第11章）、保健医療対策（第12章）、医師法・薬事法・衛生法規（第13章） |

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>医療関係の職種、医療施設の種類、保健医療対策、医師法、薬事法、衛生法規<br>【授業概要】<br>将来協同してチーム医療を行う医師、歯科医師、看護師等の医療職について解説します。また、病院、診療所等の医療施設について学び、さらに保健医療対策、医療にまつわる法規についても解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p.140 - p.188<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30－60分<br>第１５回　総まとめ、国家試験対策<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>第14回までの授業で学んだ内容を、問題を解き解説する形式で総復習します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p.1 - p.188<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第14回までに学んできた内容の総復習を行います。同時に定期試験対策にもなりますので、知識を確かなものとするよう、自身が修得できていない部分を明らかにして授業に臨んで下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60－120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 将来の医療従事者として、だれからも信頼され尊敬されるような真摯な姿勢で授業に臨んでください。他の方の聴講を妨げることのないように配意してください。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨んでください。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 前もってテキストの該当する範囲を熟読し、わかりにくい部分を明確にした上で授業に臨んで下さい。授業では、テキストをもとに、さらに深い知識が得られるよう解説します。 |
| オフィスアワー | 授業終了後の30－60分ほど対応可能です。 |
| 評価方法 | 筆記による期末試験（100点満点）　試験は選択方式で、授業範囲内の過去の国家試験問題をもとに作成されます。（予定） |
| 教科書 | コメディカルのための専門基礎分野テキスト　医学概論　改訂７版　（中外医学社） |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介します。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>かつて大学病院にて、医師として臨床医学および基礎医学研究に携わっていました。現在も一般病院において、臨床医学を中心に活動しています。施設および個人宅への訪問診療を通じて高齢者、障害を有する方に対する医療を実践しています。また、産業医として、一般企業で働く方々の健康の維持、増進等の産業医学分野にも関わっています。さらに、健康診断、人間ドックにも携わり、予防医療分野にも従事しています。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 解剖学Ⅱ　　授業コード：R20191S202

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 伊東順太 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>人体の構造と分類、特に筋系、関節よび神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。<br>②末梢神経のうち、体性神経（脳神経、脊髄神経）の構成と分布先が説明することができる。<br>③末梢神経のうち、自律神経（交感神経、副交感神経）の構成と分布先が説明することができる。<br>④骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連づけて説明することができる。 |
| 授業の概要 | 生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および筋系と神経系、筋の神経支配について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　科目オリエンテーション、神経系と筋系との関わり<br>【key words】<br>中枢神経、脳神経、脊椎神経、etc神経系と筋系との関わりについて配布プリント神経のしくみと働きの図の理解・暗記<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２回　脳と脊髄 -1　中枢神経系の全体的な構造、大脳と間脳の構造<br>【key words】<br>中枢神経の全体的な構造について<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>トレーニングノート 脳葉の名称、大脳皮質にある機能局在の暗記<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第３回　脳と脊髄 -2　中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造 |

【key words】
中枢神経の全体的な構造について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート 脳大脳基底核・大脳辺縁系の構造の暗記
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　脳と脊髄 -3　脳と脊髄のまとめ
【key words】
中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート　大脳核、脳幹の構造について暗記
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回　脳と脊髄 -4　中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路
【key words】
中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート　感覚系の上行路、運動系の下行路の復習
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第６回　脊髄神経 -1　脊髄神経の構造とその枝
【key words】
脊髄神経の構造とその枝について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート　ベル・マジャンディーの法則、脊髄神経叢の暗記
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回　脊髄神経-2、-3　頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝
【key words】
頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート　腕神経叢の構造と枝について暗記
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　脊髄神経-4　腕神経叢の枝と支配筋
【key words】
腕神経叢の枝と支配筋について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート　腕神経叢の構成と枝、支配筋について暗記
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第９回　脊髄神経-5　腕神経叢のまとめ
【key words】
腰神経叢の構成とその枝、支配筋についてトレーニングノート　p181 - 183大腿神経、閉鎖神経、伏在神経の暗記
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　脊髄神経-6　肋間神経の構成とその枝、支配筋
【key words】
仙骨神経叢の構造とその枝、支配筋について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
トレーニングノート　上殿神経、下殿神経、坐骨神経の暗記
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　脊髄神経-7　腰神経叢の構成とその枝、支配筋

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>坐骨神経の枝、支配筋について<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>トレーニングノート　脛骨神経、内側足底神経、外側足底神経、総腓骨神経、浅腓骨神経、深腓骨神経の暗記<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１２回　脊髄神経-8　仙骨神経叢の構造とその枝、支配筋<br>【key words】<br>肋間神経の構成とその枝、支配筋について<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>トレーニングノート　皮節（T5、T7、T10）の暗記<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１３回　脊髄神経-9　坐骨神経の枝、支配筋<br>【key words】<br>脳神経について<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>トレーニングノート　脳神経の名称の暗記<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　脊髄神経-10　腰神経総、仙骨神経叢のまとめ<br>【key words】<br>自律神経（交感神経、副交感神経）について<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>トレーニングノート　自律神経の暗記<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　脊髄神経-11　脳神経、自律神経、試験勉強<br>【key words】<br>試験勉強について講義内容すべて試験勉強について<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。<br>・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。<br>〔受講のルール〕<br>・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。<br>・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。<br>・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。<br>・授業の流れや雰囲気を乱 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時に指示する。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分程度、対応可能。 |
| 評価方法 | 筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。 |
| 教科書 | ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　解剖学　野村嶬【編】　医学書院<br><br>・解剖トレーニングノート　竹内 修二（著）　医学教育出版社 |
| 参考書 | ・ネッター解剖学アトラス　Frank H. Netter（著）　南江堂<br>・ネッター解剖生理学アトラス　John T.Hansen（著）　南江堂<br>・解剖学ワークブック　西川彰・小林直行（著）、野村嶬（監）　医歯薬出版<br><br>・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系　坂井 建雄（著）　医学書院<br>・カラーイラストで学ぶ　集中講義　解剖学　メジカルビュー社 |

| | |
|---|---|
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 生理学Ⅱ　　授業コード：R20191S205

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 笠松哲光 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>① 循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を簡潔に説明出来るようになる。<br>② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。<br>③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。 |
| 授業の概要 | 生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 心臓と循環①<br>【key words】<br>血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図<br>【授業概要】<br>血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図について講義・解説を行う。<br>教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>102-108<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第２回 | 心臓と循環②<br>【key words】<br>血液の拍出と血圧、心周期、前負荷・後負荷と収縮性<br>【授業概要】<br>血液の拍出と血圧、心周期、前負荷・後負荷と収縮性図について講義・解説を行う。<br>教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>109-114<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること |

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　心臓と循環③
【key words】
血圧の調節、圧受容器反射、微小循環
【授業概要】
心機能曲線、血圧の調節、微小循環と物質交換について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
117-123
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　心臓と循環④
【key words】
静脈還流、ポンプ作用
【授業概要】
静脈還流、臓器循環、リンパ循環について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
123-127
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　呼吸とガスの運搬 ①
【key words】
ガス交換、呼吸筋
【授業概要】
外呼吸と内呼吸、気道と肺胞、呼吸運動について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
131-135
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　呼吸とガスの運搬 ②
【key words】
呼吸気量、ガス交換
【授業概要】
呼吸気量、ガス交換とガスの運搬について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
135-139
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　呼吸とガスの運搬 ③
【key words】
呼吸の調節、病的呼吸
【授業概要】
呼吸の調節、病的呼吸について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
138-142
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　尿の生成と排泄①
【key words】
尿の生成、クレアチニンクリアランス
【授業概要】
腎臓の役割、腎臓の構造、尿の生成、クリアランス、について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
144-145
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　尿の生成と排泄②、酸塩基平衡①
【key words】
排尿と排尿障害、アシドーシスとアルカローシス
【授業概要】
排尿、尿の性状と排尿の異常、血漿のpH調節、アシドーシスとアルカローシスについて講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

| | | |
|---|---|---|
| | | 150-157<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第１０回 | 酸塩基平衡②、消化と吸収①<br>【key words】<br>嚥下、胃による消化<br>【授業概要】<br>消化器の役割、口腔内消化と嚥下、食道における食物輸送、胃の役割と消化、について講義・解説を行う。<br>教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>157-162<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第１１回 | 消化と吸収②<br>【key words】<br>各消化器と消化酵素、ホルモンの作用<br>【授業概要】<br>十二指腸における消化、空腸・回腸における消化と栄養素の吸収、大腸の役割、肝臓の役割、内分泌機能とホルモンについて講義・解説を行う。<br>教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>163-170<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１２回 | 内分泌①<br>【key words】<br>負・正のフィードバック、神経内分泌、内分泌腺とホルモンおよびその異常<br>【授業概要】<br>各腺から分泌されるホルモンの作用について講義・解説を行う。<br>教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>173-181<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第１３回 | 内分泌②、代謝と体温①<br>【key words】<br>電解質コルチコイド、糖質コルチコイド、3大栄養素<br>【授業概要】<br>内分泌腺とホルモンおよびその異常、栄養素、エネルギー代謝 について講義・解説を行う。<br>教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>181-190<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第１４回 | 代謝と体温②、運動生理<br>【key words】<br>基礎代謝量と代謝等量、体温の調節、筋収縮のエネルギー源、<br>【授業概要】<br>体温、 について講義・解説を行う。<br>教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>191-198、216-218<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１５回 | 生殖と発生、成長と老化、<br>【key words】<br>運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果、成長と老化<br>【授業概要】<br>筋収縮のエネルギー源、運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果、加齢変化、 受精、着床、胎児の発生、成長と老化、筋力と持久力、について講義・解説を行う。<br>教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>219-223、199-215<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・予習復習は必ず行うこと。 | |

| | |
|---|---|
| | 〔受講のルール〕<br>・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。<br>・出席時間厳守<br>・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時に指示する。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分程度、またはメールにて随時対応可能。 |
| 評価方法 | 選択式もしくは筆記式（論述含む）、小テスト、出席点の総合評価 |
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版　岡田　隆夫／鈴木　敦子／長岡　正範著、 医学書院 |
| 参考書 | シンプル生理学（改訂7版）、貴邑 冨久子、 根来 英雄、南江堂 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 生理学実習　　授業コード： R20191S206

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 大竹一男 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解する。<br>〔到達目標〕<br>①人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。<br>②実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。<br>③お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。 |
| 授業の概要 | 実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行います。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習します。また、PT・OTの領域で重要な視覚や聴覚についての仕組みについても学びます。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　血圧測定の意義と方法について学ぶ。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２回　実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第３回　心電図の測定の意義と方法について学ぶ。<br>【key words】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第４回 | 実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第５回 | 呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第６回 | 実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第７回 | 体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第８回 | 消化と吸収について学ぶ。消化管の運動（嚥下、蠕動運動、排便）について学ぶ。<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第９回 | エネルギー産生について学ぶ。十二指腸、肝臓、膵臓、胆のうのネットワークについて学ぶ。<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第１０回 | 体組成と腹囲測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第１１回 | 神経細胞の軸索のネットワークと脳の可塑性<br>【key words】<br><br>【授業概要】 |

| | |
|---|---|
| | 【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１２回　血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１３回　尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 実習の実施に当たっては怪我のないように十分に注意し指導教員の指示に従うこと。実習で得られた検査結果を基に報告書（ノート）を作成し期限内に提出すること。その他、実習器具、検査値、感染性一般ゴミの取り扱いに注意し指導教員の指示に従うこと。一部の実習項目で、体操服での参加があります（体温測定と血圧測定）。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時に指示する。 |
| オフィスアワー | 授業前後10分程度 |
| 評価方法 | 実習レポート３０％　期末レポート試験７０％ |
| 教科書 | 生理学の講義で使用する教科書を持参すること |
| 参考書 | その都度指示する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） |

| | |
|---|---|
| | ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 人間発達学　　授業コード： R20191S207

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 榊原清 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>ヒトの神経系の発達と運動発達、認知・精神機能及び社会性の発達を学び、リハビリテーションに携わるものとしてQOLの視点から対象者の発達区分や状況に応じた対応ができるようになることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①発達の諸段階と発達課題について説明できる。<br>②ヒトの発達における身体、認知機能の発達について理解し、説明することができる。<br>③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することができる。<br>④育ちを支える社会機構について理解し、説明することができる。 |
| 授業の概要 | ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を入力することでなされ、様々な機能や行動を学習し成熟する。発達を理解することでリハビリテーションにおける対象者の状況や目標を適切に把握するため、発達過程や発達課題について学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、人間発達の概念<br>【key words】<br>発達概念・発達と成長・ライフステージ・胎芽期・胎児期<br><br>【授業概要】<br>人間発達期の区分、発達の原則について学ぶ。<br>人体の不思議「生命誕生」の映像を観て、胎芽期から胎児期の発達について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p1-24<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>シラバスを印刷し、ポケットファイルに綴じてくること。<br>授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行うのでしっかり聴講すること。<br>人間発達期の区分、発達の原則について復習しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | 胎芽期から胎児期の発達過程、反射、神経系の発達<br>【key words】<br>胎生期・胚芽期・胎芽期・胎児期<br><br>【授業概要】<br>受精から出生までの成長・発達の流れについて学ぶ。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 胎生期の発達状況と出生後の発達との関係について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p11-12<br>配布資料「受精から出生まで」<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>p11-12の表5. 胎児の発達過程について予習してくること。<br>授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行う。間違えたところの振り返りをしておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第３回 | 新生児期・乳児期の発達、反射、神経系の発達<br>【key words】<br>新生児期・乳児期・正常運動発達・原始反射<br><br>【授業概要】<br>新生児期・乳児期（0～6か月）の粗大運動の正常発達、原始反射の関係について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p77-88、p89-103<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書p77-103に目を通し、腹臥位の発達の流れについてイメージしてくること。<br>授業の終わりに今回の授業内容の確認テストを行う。間違えたところの振り返りをしておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第４回 | 乳児期の発達、反射、神経系の発達<br>【key words】<br>乳児期・正常運動発達・原始反射反応<br><br>【授業概要】<br>乳児期（7か月～12か月）と6歳までの粗大運動の正常発達、原始反射・反応の関係について学ぶ。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>p105-126、p127-137、p139-149<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書p105-149に目を通し、腹臥位から立位までの発達、粗大運動発達の流れについてイメージしてくること。<br>次回の授業の始まりに今回の授業内容の確認テストを行うので復習しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第５回 | 正常運動発達の復習、出生後の成長<br>【key words】<br>正常運動発達・在胎期間と出生後の成長<br><br>【授業概要】<br>正常運動発達についての復習テストを行う。<br>出生後の身長、体重、頭囲、歯の成長について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p77-88、p89-103、p105-126、p127-137、p139-149、p2-5<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>前回の授業の確認小テストを行うので姿勢ごとの発達の流れについて復習して参加すること。<br>p63表1. 原始反射、姿勢反射・反応の中枢レベルと出現・消失（統合）時期について目を通してくること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第６回 | 姿勢反射／反応<br>【key words】<br>原始反射・姿勢反射／反応・出現／消失（統合）<br><br>【授業概要】<br>神経系の成熟と姿勢反射／反応の発達、および運動発達との関連について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p61-76<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>前回の授業の確認小テストを行うので姿勢ごとの発達の流れについて復習して参加すること。<br>p63表1. 原始反射、姿勢反射・反応の中枢レベルと出現・消失（統合）時期について目を通してくること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第７回 | 感覚・知覚・認知・社会性の発達<br>【key words】<br>感覚・知覚・認知・社会性<br><br>【授業概要】<br>感覚・知覚・認知・社会性の発達について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p201－210<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書p201－210に目を通してくること。<br>授業の終わりに今回の授業内容の確認テストを行う。間違えたところの振り返りをしておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |

| | |
|---|---|
| | 第８回　学童期・青年期・成人期・高齢期の発達<br>【key words】<br>学童期・青年期・成人期・高齢期<br><br>【授業概要】<br>学童期・青年期における行動について学ぶ。<br>青年期、成人期、高齢期における発達について（身体・生理的機能、運動的機能、心理社会的機能）学ぶ。<br>高齢期では、加齢の影響を受けやすいばかりでなく、受けにくい機能もあることを学ぶ。<br>ヒトは生涯発達する生き物であることを学ぶ。<br>期末試験対策について説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p211－236<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書p211－236に目を通してくること。<br>授業の終わりに今回の授業内容の確認テストを行う。間違えたところの振り返りをしておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・教科書、ノート、配布資料を綴じたファイルを持参すること。<br>・配布資料はポケットファイル（20p）に整理して綴じ込むこと。<br>・欠席した場合は、出校後速やかに、授業内容の確認、配布資料の受け取りに来ること。<br>・授業の進行を妨げる行為、雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為は厳禁。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式、確認小テスト |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・授業の最後の時間、または次の授業の初めの時間に確認小テストをするため、授業内容の復習をしておくこと。<br>・次の回の授業内容の教科書の該当ページを読んで授業の臨むこと。 |
| オフィスアワー | 授業終了後 |
| 評価方法 | 筆記試験100% |
| 教科書 | 上杉雅之監修：イラストでわかる人間発達学．医歯薬出版．2015 |
| 参考書 | 福田恵美子編集：コメディカルのための専門基礎分野テキスト　人間発達学　2版．中外医学社．2012<br>細田多穂監修：小児理学療法学テキスト．南江堂．2018<br>上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習．医歯薬出版．2019 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>小児領域で常勤として16年間、非常勤として15年間の実務経験を有する。特に、重症心身障害児（者）に対する地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く実践してきた。また、群馬県下において複数の市町村の発達相談・機能訓練事業、園訪問による5歳児発達検診事業にも従事してきた。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容<br>発達段階の様子を示した映像・画像を用いた授業を展開します。 |

講義科目名称： 臨床心理学　　授業コード： R20191S221

英文科目名称： Clinical Psychology

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 橋本広信 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>・理学療法士・作業療法士を目指す者として、臨床心理学領域における国試問題に対処できる基礎知識を習得する。<br>・心の健康を阻害する問題を多面的に理解し、その対処のあり方の基本を臨床心理学的な角度から理解できる。<br>・リハ専門職が出会う「患者」一人ひとりが抱え得る心の問題を理解し、臨床心理学的な見方から心を支えるための基礎知識を学ぶ。<br>【到達目標】<br>①代表的な心理療法の理論と臨床の実際について、その基礎を理解できる。<br>②リハビリ患者を含め、それ以外の心理的な支援を必要とする人が抱える生きづらさや心理的課題を理解できる。<br>③心理的な課題を抱えた人が歩む、回復と成長のプロセスとその支援方法を思い描くことができる。 |
| 授業の概要 | ・臨床心理学において積み上げられてきた人の心に関する諸理論を解説する。<br>・そして、多様な角度から考えられた心の回復や成長のプロセスを学ぶことで、それを引き出す対人支援の基本的あり方を理解できるよう授業を行う。<br>・授業全体を通し、「心が回復する」、「人が成長する」ということの意味や意義を考えられるように、具体的事例や障害当事者の方の授業参加を取り入れ、受講生が主体的に考える力を高められるような授業を目指していく。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 臨床心理学と障害受容：科目オリエンテーション<br>【key words】<br>・想像力、共感、身体と心のインタラクション、フロイト、ロジャーズ、行動主義、ＤＳＭ、障害受容<br>【授業概要】<br>・授業の最初として、「臨床」という言葉を手掛かりにしながら、解決に向かう答えが簡単に得られない問題と向かいあう人の心をどう受け止めていくのか。臨床心理学の誕生の経緯と歴史上の展開、また、その基本的な考え方の変遷について解説する。また、リハ専門職が出会う患者の多くが、答えの出ない問題、すなわち「なぜ障害を負ってまで生きなければならないのか」という問いと出会う。この問題と向き合い個々の患者也に消化していく過程として障害受容のプロセスを学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書10-11、64-71㌻、78-79㌻、教科書78-79㌻、田島明子編著（2015）『障害受容からの自由』（シービーアール） |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
大学入学直後に交通事故で車いす生活となり、希望の進路をあきらめて“うつ病”と診断された人が、あなたに「なぜ私はあの時死ななかったのでしょう？」と質問した場合のあなたなりの答えを考えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第２回　リハビリ患者の心理①　患者の立場から、知ってほしいこと、わかってほしいこと
【key words】
リハビリ体験、難病、障害、障害受容
【授業概要】
たくさんの心理療法やアセスメントを学ぶまえに、実際にリハビリを必要とした患者の心理について、zoomを使って、直接語っていただく機会を作る。患者の臨床に将来断つ者として、リハビリ患者の抱える心の課題についての感性を高めたい。患者となった日から、一人ひとりが様々な過程を経ながら、人生と生活と命のあり方を見つめ、生き方の再構築をしている。そうした患者の具体的な体験を通して、リハビリ患者の心理を学ぶ視野を広げる。
【教科書ページ・参考文献】
【参考文献】山﨑明夫（2016）『にほんごがこんなふうにみえたのよ！』（㈱ＱＯＬサービス）、千秋実（1979）、『生きるなり』（文芸春秋）、池ノ上寛太（2009）『リハビリの結果と責任』（三輪書店）等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
参考文献として挙げたもの以外にも、ネット等でリハビリを必要とする患者となった方々の手記、体験記録があるので、一人の方を選んで、印刷しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第３回　フロイトの精神分析療法
【key words】
催眠、クライエント、フロイト、無意識、夢分析、自由連想法
【授業概要】
20世紀初頭に登場した、臨床心理学の原点ともいえるフロイトの理論と、その延長に理論家された「防衛機制」について学ぶ。「無意識」を発見することで、人とその心の見方をがらりと変えたフロイトの心の見方を確認し、薬も物理療法も用いない、言葉による心理療法としての精神分析を解説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書104-105㌻
【課題・予習・復習・授業準備指示】
さらに、人が自らの心を気づかないうちに守ろうとする防衛機制について、例を挙げながら学んでいく。
防衛機制は国試頻出であるので、事前によく予習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第４回　フロイト以後の精神分析の流れと防衛機制
【key words】
アンナ・フロイト、自我心理学、遊戯療法、メラニー・クライン、対象関係論、ドナルド・ウィニコット、移行対象、ユング、アドラー、防衛機制（適応規制）

【授業概要】
フロイト以降の精神分析の大きな流れや展開の仕方について解説する。また、そうした精神分析が広がり、無意識の働きが浸透する状況で理解が広まった、「防衛機制」について、例を挙げながら学ぶ。なお、防衛機制は、国試頻出のテーマであるので、心の守り方の違いについてよく理解すること。
【教科書ページ・参考文献】
教科書104-105、72－73㌻
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学んだ防衛機制について、復習をしながら、ネット等で事例を探しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第５回　ロジャーズの人格理論と来談者（クライエント）中心療法
【key words】
カール・ロジャーズ、自己実現傾向、傾聴、自己一致（純粋性）、肯定的関心、共感的理解
【授業概要】
現代の「カウンセリング」の生みの親ともいうべきロジャーズが提唱した心理療法の基礎を学ぶ。本来人は、ただ苦しみ悩むだけの弱い存在ではなく、すべての人に「自己実現への動機」に向かう強い心が備わっているという考え方に基づき彼が提唱した臨床心理学上の基本原理を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書112-113㌻
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークなどをしながら理解を深めたい。あらかじめワークシートが課された場合、事前に記入をしておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第６回　臨床心理支援のキー概念と支持的精神療法
【key words】
共感、傾聴、ラポール、カタルシス、転移、逆転移、正の転移（陽性転移）、負の転移（陰性転移）
【授業概要】
臨床心理の対象となる人の基本的な心情を理解し、心を支える立場として認め、患者やクライエントと良い関係を築くために重要な基本的態度について学ぶ。いずれも、フロイトの精神分析やロジャーズの来談者中心療法に関連する内容となるので、復習も兼ねて、キー概念について学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】

教科書74-75、76-77ページ、114-115ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
転移、逆転移は、理解が難しい概念でもあるので、予習を特にしっかりしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第７回　心理アセスメント①：人格検査（質問紙法）

【key words】
構造化面接、半構造化面接、異常と不適応、生物-心理-社会モデル、質問紙法人格検査、矢田部ギルフォード検査（Y-G検査）、ミネソタ多面人格目録（MMPI）、コーネル・メディカル・インデックス（CMI）他
【授業概要】
心は目に見えるものではなく、行動や態度、表情や語りなど、心の働きが表現されたものを通してしか理解することができない。そうした前提に立ちながら、現状を把握したり、状況の変化を見極めるためにこれまでに開発され実施されてきた多くの心理アセスメントについて学ぶ。心を客観的に理解し、ある人の内面世界を知る手掛かりの一つとして、今回は、代表的な質問紙による人格検査を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書80-88ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
心理検査は国試頻出である。国家試験の過去問題を調べ、どのように出題されているかを確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第８回　心理アセスメント②：人格検査（作業検査法、投影法）

【key words】
投影法人格検査、ロールシャッハ・テスト、主題統覚検査（TAT）、文章完成法テスト（SCT）、HTPテスト、バウムテスト、風景構成法、内田クレペリン検査、ベンダー・ゲシュタルト・テスト他
【授業概要】
前回の続きとして、心の全体や無意識までも含む深い領域の動きをとらえるための投影法の人格検査を学ぶ。また、質問紙でも投影法でもなく、何らかの作業活動を通して人格の一側面を捉えようとする作業検査法まで学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書14-31ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
重要な多くの検査が出てくるので、あらかじめ予習をしっかりとしておくこと。また国試頻出のテーマでもあるので、国家試験でどのように出題されているかを確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第９回　知能検査・認知機能検査、発達検査

【key words】
・ビネー式知能検査、ウェクスラー式知能検査（WPPSI、WISC、WAIS）、K-ABC、三宅式記銘力検査、ベントン視覚記銘検査、HDS－R、MMSE、WCST
【授業概要】
知能や認知上の個人的特徴は、その人の生き方や判断、行動のあり方に大きな影響を及ぼす。一見しただけではわからない個人の行動の特徴を知ることで、何がその人の生きづらさとなっているかを理解することにもつながる。ここでは、こうした知能や認知機能の個人的特徴を客観的に検査し、把握するための様々な方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書90-91ページ、94-95ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知能検査は国試頻出テーマでもあるので、よく復習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１０回　行動療法の起源と行動療法の諸技法

【key words】
ウォルピ、系統的脱感作法、不安階層表、トークンエコノミー法）、シェイピング法、消去法、タイムアウト、レスポンス・コスト法、過剰修正法、嫌悪療法、自己監視法、自己強化法　等
【授業概要】
学習理論に基づいて、問題となっている行動に焦点を当て、改善を目指す行動療法について学ぶ。精神分析やロジャーズの考え方と大きく異なる原理に基づく心理療法であることを理解し、その有効性と限界を考える。また、行動療法は多くの技法が開発されているので、それらを整理しながら解説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書96-99ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習3時間、1時間
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１１回　認知行動療法とその他の行動論的技法

【key words】

・ベック、抑うつ尺度、エリスの論理情動療法（ＲＥＴ、ＲＥＢＴ）、ベックの認知療法、マイケンバウムの自己教示訓練、自律訓練法（シュルツ）、バイオフィードバック、SST
【授業概要】
・人生で出会う辛く苦しい出来事や不適応状況に対し、それをどう捉えているかという「認知過程」に着目し、適応的な対処が出来るようになることを目指す認知行動療法（ＣＢＴ）について学習する。また、行動療法や認知行動療法と関連し、行動もしくは身体に働きかけることで心身のリラクゼーションをもたらす技法など、行動論的な技法についても学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書100-103ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
具体的な認知行動療法の技法の解説が教科書にはないので、ネットなどで調べて予習をしておく

| | |
|---|---|
| | こと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習3時間、復習1時間<br>第１２回　内観療法・森田療法：日本的な発想に基づく心理療法を学ぶ<br>【key words】<br>内観、身調べ、ヒポコンドリー基調、絶対臥褥、日記指導、作業活動<br><br>【授業概要】<br>・二人の日本人が創始した二つの心理療法を扱う。<br>・時として人は、自分の中から生じる「不安」や何らかの「身体症状」にとらわれてしまうことがある。原因がはっきりとしなくても、なぜか自分を認められなくなったり、満たされない思いに振り回されて生きてしまうこともある。こんな、生きづらい状態からどうしたら逃れられるのか。今回は、こうした問題に正面から独自に取り組んだ二人の日本人と彼らから生まれた心理療法について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書56-66ページ<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題として、この授業の前にワークシートを配布するので、それに沿って「想定書簡法」などを実施し、ワークシートを記入し提出できるようにしておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習3時間、復習1時間<br>第１３回　絵画療法、箱庭療法<br>【key words】<br>HTPテスト、バウムテスト、風景構成法、スクリブル法、スクウィグル法、箱庭療法、河合隼雄<br>【授業概要】<br>・心は言葉や絵や動作など、身体や動作などに表現をされて、他者と共有できるものになる。心理的な機能不全に陥るとこうした表現が滞りがちになるが、何らかの表現活動を心理療法の道具として活用するのが芸術療法になる。ここでは、代表的な絵画による表現療法を解説する。また、日本で発展し非常によく用いられる箱庭療法について解説する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書108-109ページ<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>キーワードについて予習をしておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習2時間、復習2時間<br>第１４回　人とともに回復を目指す心理療法：心理劇、SST、家族療法<br>【key words】<br>感受性訓練法、心理劇（モレノ）、ＳＳＴ（リバーマン）、自助グループ、SST、家族療法、IP<br>【授業概要】<br>心の問題を抱えた人に対して、あえて人と関わる場を作ることで回復を目指す心理療法がある。人の中にいてこそ引き出される回復力を利用する様々な心理療法を学ぶことで、集団のもつ特性や力を活かすあり方を理解する。また、家族のつながりの中で問題が誰かの心に抱え込まれているような場合、家族全体のシステムが病んでいると考えることもできる。後半は、家族システムの回復を目指す家族療法を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書110-111ページ、116-117ページ、プリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>特にSSTは作業療法としても実施することがあるので、ネット等で予習をしておくこと。簡単なワークとしてできるだけ実施できるようにする予定<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習2時間、復習2時間<br>第１５回　交流分析<br>【key words】<br>バーン、デュセイ、エゴグラム、PAC理論、交流パターン分析、ゲーム分析、脚本分析<br>【授業概要】<br>・フロイトの精神分析理論を簡略化しつつ、人と人が関わるところで生まれる交流（interaction）に注目し、人の心に抱え込まれた生きる様式（ライフスタイル）を明らかにする交流分析を最後に学ぶ。リハ専門職として、これから多くの患者との交流をしていく上でも、自分の交流パターンを知っておくことは有益であろう。時間があれば、国家試験問題の過去問を解く。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書110-111ページ<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の記載は短いので、配布資料を中心に解説する。あらかじめ、ネット等で予習をしておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習3時間、復習1時間 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・国家試験に関連する科目であるが、それ以上に、医療現場で関わる方々の心の動きや心の回復につながる科目として、真剣に取り組むこと。<br>・毎回の講義の中で、実際の患者と対話をするような姿勢を磨いてもらいたい。そのため、私語が多かったり、関心が薄い態度をとったり、授業の雰囲気を乱したりする行為には厳しく指導する。<br>・悩みながら生きている人や、心の問題を抱える人に対して、尊厳を持って向き合う姿勢を求める。最低限、自分が人の心の学習に対して誠実に取り組んでいるときちんと言える程度の態度は求める。<br>・評価方法にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象になるので、必ず期限内に提出すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 資料を配布するスレッドへの返信を授業後30分以内に行うこと。出席の確認も兼ねるので、提出がない場合欠席扱いとする。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・毎回の授業では、シラバスをもとに授業に出てくる重要人物や理論について授業前に調べ、ノートに整理しておくこと。<br>・毎年講義の後半に、リハビリ患者を代表してゲスト講師をお呼びして、学生と対話をしながら、 |

| | |
|---|---|
| | 「リハビリ患者の心理」について学んでいく。一人一人が患者の方々に、専門職を目指すものとして誠実に向かい合っていける態度を養ってもらいたい。 |
| オフィスアワー | ・授業後に教室か非常勤講師控え所にて声をかけること。メールでの質問は随時受け付ける。<br>hashimoto@shoken-gakuen.ac.jp |
| 評価方法 | 〈総合評価〉総合得点60～69点：C　70～79：B　80～89：A　90点以上：S　で評価。<br>〈評価割合〉期末試験100点を基本とする。小レポート・感想文等提出物はインセンティブ（報奨制度・点を上積みする）として扱う。20点を上限とする。 |
| 教科書 | 内山　靖・藤井浩美・立石雅子（編著）（2020）『リハベーシック　心理学・臨床心理学』（医歯薬出版） |
| 参考書 | ・窪内節子・吉武光世（2003）『やさしく学べる心理療法の基礎』（培風館）<br>・松島恭子（2004）『臨床実践からみるライフサイクルの心理療法』（創元社）　その他適宜指示をする。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>zoomの機能を用いて双方向的に授業が行えるような部分を設けていく。 |

講義科目名称： リハビリテーション医学　　授業コード：R20191S223

英文科目名称： Rehabilitation medicine

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 神谷誠 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | 社会福祉主事任用資格指定科目 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられること。<br><br>〔到達目標〕<br>①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。③治療方法の根拠と手順が説明できる。④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。 |
| 授業の概要 | 2年次以降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、1年次の知識量ではやや難解である。授業では、第1章から第3章の基礎医学的な内容を取り扱い、各項目について要点のみ簡潔に解説する。4章の臨床医学的事項は、2年次以降に学習する各専門科目および実習時の参考書として頂きたい。授業中に、国家試験問題についても触れる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　リハビリテーション医学・医療の概要Ⅰ<br>【key words】<br>歴史、概念、急性期、回復期、維持期<br>【授業概要】<br>リハビリテーション医学・医療の成り立ちと発展、理念と障害、急性期・回復期・維持期。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P2-P19<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後<br>第２回　リハビリテーション医学・医療の概要Ⅱ<br>【key words】<br>保険、医療、福祉、工学<br>【授業概要】<br>保険・医療・福祉の連携、リハビリテーション工学の概要。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P20-P30<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後 |
| | 第３回 | リハビリテーション診療Ⅰ<br>【key words】<br>診療手順、ADL<br>【授業概要】<br>リハビリテーション診療の手順、ADL評価。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P32-P45<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後 |
| | 第４回 | リハビリテーション診療Ⅱ<br>【key words】<br>画像診断、神経伝導検査<br>【授業概要】<br>画像診断、神経伝導検査。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P46-P60<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後 |
| | 第５回 | リハビリテーション診療Ⅲ<br>【key words】<br>筋電図、病巣診断、機能予後診断、チーム医療、リハ医、理学療法<br>【授業概要】<br>筋電図、病巣診断と障害の類型、機能予後診断、チーム医療、リハ医の役割、理学療法。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P55-P71<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後 |
| | 第６回 | リハビリテーション診療Ⅳ<br>【key words】<br>作業療法、言語聴覚療法、在宅リハビリテーション、QOL、障害者心理<br>【授業概要】<br>作業療法、言語聴覚療法、在宅リハビリテーション、QOL評価、障害者心理と障害受容。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P71-P82<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後 |
| | 第７回 | 障害の病態生理と評価・治療Ⅰ<br>【key words】<br>廃用症候群、中枢神経系<br>【授業概要】<br>廃用による障害、運動制御に関与する中枢神経系。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P84-P98<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後 |
| | 第８回 | 障害の病態生理と評価・治療Ⅱ<br>【key words】<br>運動障害、歩行障害<br>【授業概要】<br>運動障害の種類・評価・治療、歩行障害。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P98-P111<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後 |
| | 第９回 | 障害の病態生理と評価・治療Ⅲ<br>【key words】<br>循環障害、呼吸障害<br>【授業概要】<br>循環機能障害、呼吸の障害。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

| | |
|---|---|
| | 最新リハビリテーション医学　第3版　P112-P128<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後 |
| 第１０回 | 障害の病態生理と評価・治療Ⅳ<br>【key words】<br>摂食嚥下障害、排尿障害<br>【授業概要】<br>摂食嚥下障害、排尿障害。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P129-P147<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後 |
| 第１１回 | 障害の病態生理と評価・治療Ⅴ<br>【key words】<br>褥瘡、痙縮・固縮<br>【授業概要】<br>褥瘡、痙縮・固縮。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P148-P162<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後 |
| 第１２回 | 障害の病態生理と評価・治療Ⅵ<br>【key words】<br>記憶障害、失行、失認、失語、言語障害<br>【授業概要】<br>記憶障害、失行、失認・失語、言語障害。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P163-P176<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後 |
| 第１３回 | 障害の病態生理と評価・治療Ⅶ<br>【key words】<br>注意障害、遂行機能障害、認知症<br>【授業概要】<br>注意障害、遂行機能障害、認知症。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P177-P187<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後 |
| 第１４回 | 障害の病態生理と評価・治療Ⅷ<br>【key words】<br>フレイル、老年症候群、サルコペニア、発達障害<br>【授業概要】<br>加齢による障害、発達障害。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P188-P202<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後 |
| 第１５回 | 障害の病態生理と評価・治療Ⅸ<br>【key words】<br>ED、補装具<br>【授業概要】<br>障害者の性機能、補装具（上肢・下肢・体幹装具、車椅子、シーティング）。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P203-P218<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回　合計3時間前後 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。<br>集中して授業を聞き取ることが必須となる。自分の授業前の作業が、的確であったか否かの確認とな |

| | |
|---|---|
| | る。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 教科書を一読し予習しておくこと。授業でその内容を確認して、さらに追加内容を復習すること。 |
| オフィスアワー | 授業終了後の休憩時間。 |
| 評価方法 | 筆記試験による期末試験。 |
| 教科書 | 最新リハビリテーション医学　第3版　江藤文夫　理宇明元　監修　　医歯薬出版株式会社 |
| 参考書 | 理学療法士 作業療法士 国家試験問題 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>日本体育協会公認スポーツドクター<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>zoomにて講義を行う場合もある。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。 |

講義科目名称： 整形外科学Ⅰ　　授業コード：R20192F226

英文科目名称： *Othopaedics　Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 栗原卓也 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。<br>〔到達目標〕<br>①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。<br>②診断においての手順とその所見が説明できる。<br>③治療方法の根拠と手順が説明できる。<br>④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。 |
| 授業の概要 | 運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の１分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、　骨　Ⅰ：骨の基礎<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>骨の発生、成長、構造について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、プリントや標準整形外科学で確認しておく（予習）。授業後A4のノートの左頁にﾁｪｯｸｼｰﾄの各文を短冊状に切って貼り付け、右頁に指定内容を記載してゆく。繰り返しの復習が重要。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第２回 | 骨　Ⅱ：骨疾患、骨折総論①<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 各種骨疾患の症状と特徴を学習。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第３回 | 骨　Ⅲ：骨折総論②<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>骨折の治療経過と、その過程で起こる合併症について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第４回 | 骨　Ⅳ：骨折各論①　体幹部の骨折<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>体幹部の骨折の注意点、合併症、治療方法について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第５回 | 骨　Ⅴ：骨折各論②　　上肢の骨折<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>上肢の各骨折の合併症、注意点、治療方法について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第６回 | 骨　Ⅵ：骨折各論③　下肢の骨折<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>下肢の骨折の病態と合併症、治療法穂について学習する。特に、偽関節を形成しやすい大腿骨頚部骨折、下腿骨折について確実に知識を習得する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第７回 | 関節　Ⅰ：関節の基本構造、関節の変形、先天性股関節脱臼<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>関節の基本構造を学んだ後、特徴的な変形、代表的な変形とその背後にある病態を知る。先天性股関節脱臼については、その診断方法、管理、指導方法について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第８回 | 関節　Ⅱ：変形性関節症総論<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>変形性関節症の病理（関節リウマチとの違い）、症状、診断、各部位の関節症の特徴について学習する。併せて、痛風、神経病性関節症、血友病性関節症などの、関節破壊に至る疾患の経過を |

| | | |
|---|---|---|
| | | 学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第９回 | 小テスト①（骨ⅠからⅥまでの範囲）、関節　Ⅲ：変形性関節症各論<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>講義に先立ち、第１講から第６講までの内容（骨Ⅰ－Ⅵ）の小テストを実施する。その後変形性関節症の中でも頻度が高く重要な、変形性膝関節症、変形性股関節症について、治療面について深く学習する。保存的治療の中で、理学、作業療法士が深くかかわる、運動療法、装具療法、手術前後の療法、手術方法の得失などについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第１０回 | 関節　Ⅳ：関節リウマチ<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>関節リウマチの病態と治療について学習する。いかに早期に痛みをとり、ＡＤＬを確保し、機能障害を防ぐかを念頭に置いて学ぶこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第１１回 | 関節　Ⅴ：外傷性疾患①<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>関節脱臼、靭帯損傷などの、関節周辺の外傷性疾患学習する。スポーツ外傷と密接に関連する範囲である。診断方法（特に徒手検査が重要である）と初期治療について学習するが、これらはみな、学生諸君がすぐに実践可能な内容である。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第１２回 | 関節　Ⅵ：外傷性疾患②<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>第11講に引き続き、関節周辺の外傷性疾患について学習する。特に頻度の高い、膝関節、足関節に関わる外傷性疾患を深く理解することが大切である。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第１３回 | 小テスト②（関節ⅠからⅥまでの範囲）、脊椎　Ⅰ：脊椎の構造、障害部位と神経所見、脊椎疾患①<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>授業に先立ち、第７講から第１２講までの範囲（関節Ⅰから関節Ⅵまで）に関する小テストを実施する。その後脊椎と脊髄の構造を理解した後・１次ニューロン障害　、２次ニューロン障害について理解する。　その後、脊椎疾患の代表である、頚椎ならびに腰椎椎間板ヘルニアの病態と症状について、深く学習する<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 |

| | |
|---|---|
| | 【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度<br>第１４回　脊椎　Ⅱ：脊椎疾患②<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>脊椎分離症、滑り症、脊柱管狭窄症、変形性脊椎症といった、脊椎の構造変化に起因する疾患について学習する。大半の症例で手術は必要なく、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝによる保存的治療で改善することに気付く。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度<br>第１５回　脊椎　Ⅲ：脊椎疾患③<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>側弯症、後縦靭帯化症、といった脊椎の構造異常によって生ずる疾患を引き続き学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。<br>チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。１時間半の集中を要求する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業で配布するチェックシートに従って、学習する。Ａ４のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。 |
| オフィスアワー | 木曜日の授業終了後の休憩時間。 |
| 評価方法 | 筆記試験による期末試験で、６０％以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に２回行なう小テストの点数を５０％（25点ｘ２回）、期末テストの点数に５０％（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日 |
| 教科書 | １：標準整形外科学　第１４版 中村利孝　他編　医学書院<br>２：最新リハビリテーション医学　第３版（医歯薬出版）１年次で使用したテキスト、も適宜使用する。<br>３：　PTOT国家試験共通問題　でるもん　でたもん　［臨床医学］　医学書院 |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>日本専門医機構　認定　整形外科専門医<br>日本整形外科学会認定　リウマチ医<br>日本整形外科学会認定　脊椎脊髄病医<br>日本リウマチ学会認定　リウマチ専門医<br>整形外科臨床経験　25年<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない |

| | |
|---|---|
| | ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>you tubeにて、講義を行う。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。 |

講義科目名称： 神経内科学Ⅰ　　授業コード：R20192F230

英文科目名称： *Neurology　Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 栗原卓也 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的・到達目標〕<br>神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。 |
| 授業の概要 | リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ（解剖学、生理学の復習となる）を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容をを繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、　中枢神経のしくみ　Ⅰ　中枢神経と末梢神経、大脳①<br>【key words】<br>配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと<br>【授業概要】<br>大脳の構造と機能について学習<br>【教科書ページ・参考文献】<br>絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P2-p21<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布する神経内科学KeyWordsの項目を予めテキストで確認しておく（予習）。授業後、A4のノートの左頁にチエックシートの各文を短冊状に切って貼り、右頁に指定内容を記載してゆくこと。復習が重要である。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。 |
| | 第２回 | 中枢神経のしくみ　Ⅱ　大脳②、小脳<br>【key words】<br>配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと<br>【授業概要】<br>前回に引き続き、大脳の構造と機能を学んだ後、小脳についても、その構造と機能を学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P22－p31<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。 |
| | 第３回 | 中枢神経のしくみ　Ⅲ　脳幹、脊髄<br>【key words】<br>配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと<br>【授業概要】<br>生命中枢の存在する脳幹部とそれにつながる脊髄の構造と機能を学習する<br>【教科書ページ・参考文献】<br>絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P32-P42<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。 |
| | 第４回 | 中枢神経のしくみ　Ⅳ　脳循環、脳脊髄液循環<br>【key words】<br>配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと<br>【授業概要】<br>脳血管の構造、支配領域と脳脊髄液の産生から吸収までのメカニズムを学習する<br>【教科書ページ・参考文献】<br>絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P43-P55<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。 |
| | 第５回 | 障害のメカニズム　Ⅰ　意識障害、脳ヘルニア、脳腫瘍<br>【key words】<br>配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと<br>【授業概要】<br>意識障害や脳ヘルニア発生の機序とその緊急度を学び、対処方法について理解を深める。最後に脳腫瘍の分離と症状を学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P58-P82<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。 |
| | 第６回 | 障害のメカニズム　Ⅱ　言語障害、認知症、てんかん<br>【key words】<br>配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと<br>【授業概要】<br>高次脳機能障害の代表的病態である、言語障害、認知症についての理解を深める。最後にてんかんについての理解を深める。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P83-P108<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。 |
| | 第７回 | 小テスト①（第1回から4回までの内容：20点満点）　障害のメカニズム　Ⅲ　運動麻痺<br>【key words】<br>配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと<br>【授業概要】<br>授業に先立ち、第１講から第４講までの範囲の小ﾃｽﾄを実施する。その後の授業は、運動麻痺の発生機序を学習する。中心前回の運動神経細胞から末梢の筋までのどこに障害が起きるとどのような病態を呈するのかを理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P109-P130<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。 |
| | 第８回 | 障害のメカニズム　Ⅳ　知覚障害<br>【key words】<br>配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと<br>【授業概要】<br>皮膚に存在する知覚受容器から、頭頂葉中心後回の感覚細胞に至る経路までのどこにどのような障害が起きると、どういった近くの障害を呈するのかを学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P131-P149<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。 |
| | 第９回 | 障害のメカニズム　Ⅴ　脳神経障害① |

【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
脳神経障害（ⅠからⅥ）の発症機序ならびにその症状について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P150-P166
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第１０回　障害のメカニズム　Ⅵ　脳神経障害　②、摂食嚥下障害
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
脳神経障害（ⅦからⅩⅡ）の発症機序とその症状を学ぶ。摂食嚥下についても、その仕組みを再復習し、障害発生の部位とその症状を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P166-P190
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第１１回　障害のメカニズム　Ⅶ　小脳の障害
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
小脳障害の病態を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P191-P194
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第１２回　障害のメカニズム　Ⅷ　排尿障害
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
排尿機構を復習し脳卒中後や脊髄損傷後に認められる排尿障害の病態を理解し、管理方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P195-P200
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第１３回　障害のメカニズム　Ⅸ　脳血管障害①
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
授業に先立ち、小テスト②（第5から10回までの内容【３０点満点】）を実施。その後高血圧性脳出血やくも膜下出血について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P201-P214
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第１４回　障害のメカニズム　Ⅹ　脳血管障害②
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
閉塞性脳血管障害（脳梗塞）について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P214-P224
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第１５回　障害のメカニズム　？　脳脊髄液障害
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
脳脊髄液の循環について復習し、その障害と水頭症について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P225-P234
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | |
|---|---|
| | 第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チエックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチエックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大テキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチエックシートに従って、学習する。Ａ４のノートの左側にチエックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと（予習）。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チエックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を、PT　OT　国家試験共通問題　でるもん　でたもん　［臨床医学］　で演習する。（復習）。 |
| オフィスアワー | 木曜日の授業終了後の休憩時間。 |
| 評価方法 | 筆記試験による期末試験（前期講義の全範囲）で、６０％以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に２回行なう小テストの点数を５０％（20点×1回+30点×１回＝合計50点）、期末テストの点数に５０％（５０点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。 |
| 教科書 | ①　JJNブックス　絵でみる脳と神経　しくみと障害のメカニズム第４版　馬場元毅　　著　　医学書院（１年次の解剖学実習で使用したテキストである）<br>②　ベッドサイド神経の診かた　　第１８版　　田崎義昭　著　　南山堂<br>③　PT　OT　国家試験共通問題　でるもん　でたもん　［臨床医学］　医学書院 |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>藤田保健衛生大学（現　藤田医科大学）　脳神経外科学教室　所属経験あり<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>you tubeにて、講義を行う。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。 |

講義科目名称： 精神医学　　授業コード： R20192F232

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 諸川由実代・石関圭 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br><br>精神障害リハビリテーションに関わる基本的な疾病の知識や評価・診断の方法、治療・援助の方法を理解・説明できることを目的とする。<br>〔達成目標〕<br>①精神医学の歴史と精神障害者の処遇について理解・説明することができる。<br>②現代社会とストレッサーおよびメンタルヘルスの関係性について理解・説明することができる。<br>③“脆弱性―ストレスモデル”に基づいた精神障害の成因について理解・説明することができる。<br>④精神医学において用いられる診断・評価方法の概要について理解・説明することができる。<br>⑤薬物療法や精神療法、リハビリテーションなどの治療の枠組みについて理解・説明することができる。<br>⑥精神障害リハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解・説明することができる。<br>⑦各疾患における成因や症状、治療を理解・説明することができる。<br>⑧精神障害者が地域生活を送るためのポイントと課題について理解・説明することができる。 |
| 授業の概要 | 理学・作業療法士は対象者の身体・精神機能を十分把握した上でリハビリテーションを進めなければならない。本授業では、リハビリテーションに必要となる、精神疾患の成因や症状、診断・評価について学ぶ。また、入院から地域生活に移行するためのおおまかな治療・援助の流れと精神障害領域に関わる職種の連携、障害を持つ人が地域生活を送るためのポイントや課題を学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　オリエンテーション/ 精神医学とは/ 精神障害の成因と分類<br>（諸川）<br><br>【key words】<br>・Impairment/ Activity limitation/ Mental disability　・内因、外因、身体因　・ストレス―脆弱性モデル　・ICD-10<br>【授業概要】<br>日本および海外における精神医学の歴史を学ぶとともに、理学療法や作業療法を実施する際の精神医学的知識の必要性を認識する。精神障害の成因と分類を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書第1章・第２章　（Ｐ1～15）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分<br>第２回　精神機能の障害と精神症状（１） |

（諸川）

【key words】
・精神機能　・意識　・知能　・記憶
【授業概要】
精神医学の基礎知識として症候学の習得が重要である。理学療法や作業療法を行う際には、精神機能のどの領域にどのような障害があるのかを評価し、その機能障害が治療でどのように改善するかを評価する必要がある。ここでは精神機能の障害のなかで、意識、知能および記憶の障害、神経心理学的症状について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第3章（Ｐ16～45）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の予習・復習
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第３回　精神機能の障害と精神症状（２）
（諸川）

【key words】
・幻覚、妄想　・自我意識障害　・気分の障害

【授業概要】
精神機能の障害のうち、知覚、思考および気分の障害について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第3章（Ｐ16～45）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の予習・復習
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第４回　精神障害の診断と評価
（諸川）

【key words】
・病歴　・神経学的検査　・心理検査　・社会生活評価尺度

【授業概要】
精神機能の評価では診断面接とともに心理検査、生理学検査、画像検査、評価尺度を用いた症状評価を行う。ここでは、診断面接のポイント、脳波検査、心理検査や評価尺度の意義や特性について学ぶ。
（WAIS、kohs立方体テスト、長谷川式簡易知能評価スケール改訂版、BPRS、GAF、Hamiltonうつ病評価尺度、WHO/QOL26など）
【教科書ページ・参考文献】
第4章（Ｐ46～67）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の予習・復習
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第５回　脳器質性精神障害/ てんかん
（諸川）

【key words】
・認知症　・てんかん

【授業概要】
・認知症の症状には、中核症状（基本症状）と周辺症状があることを学ぶ。
・代表的な認知症として、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、ピック病について学ぶ。
・てんかんの精神症状およびリハビリテーションについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第5章（Ｐ68～93）、第8章（P115～126）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の予習・復習
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第６回　症状性精神障害/ 精神作用物質による精神および行動の障害
（諸川）

【key words】
・症状精神病　・アルコール関連障害
【授業概要】
・精神障害の診断では、身体疾患との鑑別が重要であるため、症状精神病の概念と主な症状精神病についてぶ。
・精神作用物質による精神・行動の障害として、依存症の概念を理解し、アルコール依存および薬物依存について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第6章（Ｐ94～99）、第7章（P100～114）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の予習・復習
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第７回　統合失調症およびその関連障害
（諸川）

【key words】
・陽性症状　・陰性症状　・社会復帰
【授業概要】
・統合失調症およびその関連障害の病因、症状、経過、予後について学び、リハビリテーション

| | | |
|---|---|---|
| | | の重要性を認識する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第9章（Ｐ127～148）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| | 第８回<br>（石関） | 気分（感情）障害①<br><br>【key words】<br>・うつ病　・躁うつ病<br>【授業概要】<br>・気分障害の症状、経過、発症の機制について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第10章（Ｐ149～163）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| | 第９回<br>（石関） | 気分（感情）障害②<br><br>【key words】<br>・うつ病　・躁うつ病<br>【授業概要】<br>・気分障害の症状、経過、治療について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第10章（Ｐ149～163）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| | 第１０回<br>（石関） | 神経症性障害<br><br>【key words】<br>・不安　・恐怖　・強迫　・解離　・ストレス　・神経症　・パニック障害<br>【授業概要】<br>・神経症性障害の種類とそれぞれの臨床的特徴について学ぶ。<br>・神経症性障害の治療について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第11章（P164～175）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| | 第１１回<br>（石関） | 生理的障害および身体的要因に関連した障害、成人のパーソナリティー・行動・性の障害<br><br>【key words】<br>・摂食障害　・睡眠障害　・パーソナリティー障害<br>【授業概要】<br>・摂食障害の臨床的特徴と症状、治療について学ぶ。<br>・睡眠障害の分類と症状について学ぶ。<br>・パーソナリティ障害の概念を理解し、代表的な人格障害の類型と特徴について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第12章（P176～180）、第13章（P181～187）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| | 第１２回<br>（石関） | 精神遅滞、心理的発達の障害、リエゾン精神医学<br><br>【key words】<br>・IQ　・自閉症　・発達障害　・コンサルテーションリエゾン<br>【授業概要】<br>・精神遅滞の分類、精神遅滞を伴う疾患について学ぶ。<br>・精神遅滞の診断・治療、ケア、リハビリテーション、社会的処遇について学ぶ。<br>・リエゾン精神医学の概念を理解し、リエゾン精神医学の対象となる場合や求められる対応について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第14章（P188～197）、第15章（P198～206）、第16章（P207～211）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| | 第１３回<br>（石関） | 心身医学、ライフサイクルにおける精神医学<br><br>【key words】<br>・心身症　・ライフサイクル　・小児期　・青年期<br>【授業概要】<br>・心身症の概念、発症機序、診断、治療について学ぶ。<br>・ライフサイクルにおける精神疾患の特徴について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第17章（P212～214）、第18章（P215～230） |

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分<br>第１４回　精神障害の治療とリハビリテーション<br>（石関）<br>【key words】<br>・インフォームドコンセント　・治療の目標　・向精神薬　・副作用<br>【授業概要】<br>・精神障害に対する治療方法とリハビリテーションの目標や到達点について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第19章（P231～253）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分<br>第１５回　精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション、社会・文化とメンタルヘルス<br>（石関）<br>【key words】<br>・精神保健福祉法　・社会とメンタルヘルス<br>【授業概要】<br>・精神保健に関わる法律や制度について学ぶ。<br>・社会におけるメンタルヘルスについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第20章（P254 ～272）、第21章（P273～279）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | [受講生に関わる情報]<br>極力欠席のないようにし、質問は積極的に授業内で行うようにしてください。<br>[受講のルール]<br>携帯電話はマナーモードもしくは電源を切り、鞄にしまっておくこと。集中して講義に参加してください。″ |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | より効率的に授業を進めるため、事前に十分予習を行ってくること。また、授業終了後に復習をすること。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分対応可能 |
| 評価方法 | 出席率2/3以上を試験受験資格とし、筆記試験100％で判断。 |
| 教科書 | 上野武治　編：標準理学療法・作業療法学　精神医学　（第4版　増補版）．医学書院，2021 |
| 参考書 | 上島国利　立山萬里　編：精神医学テキスト　改訂第３版．南江堂，2012 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>精神科医として病院勤務<br>医学部講義、臨床実習<br>看護学校講義<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>you tubeにて、講義を行う。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。 |

講義科目名称： 整形外科学Ⅱ　　授業コード：R20192S227

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 栗原卓也 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。<br>〔到達目標〕<br>①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。<br>②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。<br>③治療方法の根拠と手順が説明できる。<br>④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。 |
| 授業の概要 | 運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の１分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 脊髄損傷　Ⅰ<br>【key words】<br>配布するKeyWords　参照<br>【授業概要】<br>脊髄損傷の受傷機転、病態、症状、高位診断について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>＋最新リハビリテーション医学第３版　P253-P268<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度） |
| | 第２回 | 脊髄損傷　Ⅱ<br>【key words】<br>配布するKeyWords　参照<br>【授業概要】<br>脊髄損傷における治療、急性期ならびに慢性期の合併症とその対策について学ぶ。 |

【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。
＋最新リハビリテーション医学第３版　P253-P268
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第３回　脊髄損傷　Ⅲ
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
脊髄損傷におけるﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。
＋最新リハビリテーション医学第３版　P253-P268
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第４回　末梢神経　Ⅰ
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
末梢神経損傷の病態と回復過程を学習する。その後、腕神経叢損傷をはじめとする、上肢の末梢神経障害について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第５回　末梢神経　Ⅱ
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
第４講に引き続き、上肢そして下肢の末梢神経損傷、障害について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第６回　神経・筋疾患
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
脳性麻痺、運動ニューロン疾患、筋ジストロフィーなどについて学習する。神経学的徴候や検査手技については、ＤＶＤにより目で見て確認する。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第７回　小テスト①（脊髄損傷ⅠからⅢと末梢神経ⅠからⅡが範囲）、骨・軟部腫瘍
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
授業に先立ち、小テスト①（第１講から５講までの範囲、脊髄損傷、末梢神経）を実施する。その後、骨・軟部腫瘍について学ぶ。頻度の高い転移性骨腫瘍と小児に多い骨肉腫を中心に学習する。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

| | | |
|---|---|---|
| | 第８回 | 四肢の循環障害と壊死性疾患<br>【key words】<br>配布するKeyWords　参照<br>【授業概要】<br>保存的治療が重要な四肢の循環障害疾患の病態生理を理解し、適切な治療法が選択できるように学ぶ。切断に至る壊死性疾患については、進行防止の対策を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度） |
| | 第９回 | 切断および離断と義肢　Ⅰ<br>【key words】<br>配布するKeyWords　参照<br>【授業概要】<br>切断の原因、切断部位による利点欠点、手術の留意点などを学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>＋最新リハビリテーション医学第３版　P297－309<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度） |
| | 第１０回 | 切断および離断と義肢　Ⅱ<br>【key words】<br>配布するKeyWords　参照<br>【授業概要】<br>切断後の後療法、義肢の構造と特性、選択基準、などについて学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>＋最新リハビリテーション医学第３版　P297-309<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度） |
| | 第１１回 | 切断および離断と義肢　Ⅲ<br>【key words】<br>配布するKeyWords　参照<br>【授業概要】<br>義手の構造と特徴、選択基準などについて学習する。供覧する義手、義肢の実物に触れながら、第１０講と１１講の重要点を再確認する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>＋最新リハビリテーション医学第３版　P310-318<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度） |
| | 第１２回 | 小テスト②（神経筋疾患、骨軟部腫瘍腫瘍、四肢循環障害、壊死性疾患、切断、離断、義肢が範囲）熱傷、手の外科<br>【key words】<br>配布するKeyWords　参照<br>【授業概要】<br>授業に先立ち、小テスト②（第６講から１１講までの範囲、神経・筋疾患、骨・軟部腫瘍、四肢の循環障害と壊死性疾患、切断および離断と義肢）を実施する。その後、熱傷の診断と治療、後療法について学ぶ。手の外科については、一般外来で非常によくみる上肢の疾患について徒手検査を中心とした診断方法を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度） |
| | 第１３回 | スポーツ外傷・障害　Ⅰ<br>【key words】<br>配布するKeyWords　参照<br>【授業概要】<br>スポーツ外傷の発症機序、初期治療、後療法と予防策について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

| | |
|---|---|
| | 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>＋最新リハビリテーション医学第３版　P381-392<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）<br>第１４回　スポーツ外傷・障害　Ⅱ<br>【key words】<br>配布するKeyWords　参照<br>【授業概要】<br>スポーツ障害の対処方法について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>＋最新リハビリテーション医学第３版　P381-392<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）<br>第１５回　整形外科的治療法<br>【key words】<br>配布するKeyWords　参照<br>【授業概要】<br>整形外科領域で行われる保存的治療から各種手術まで、適応と実際を学習する。１年間学習してきたことの総復習を兼ねる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度） |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。<br>チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。１時間半の集中を要求する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業で配布するチェックシートに従って、学習する。Ａ４のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習（PT　OT　国家試験共通問題　でるもん　でたもん　［臨床医学］を使用）と併せノートの復習を行う。 |
| オフィスアワー | 木曜日の授業終了後の休憩時間。 |
| 評価方法 | 筆記試験による期末試験で、６０％以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に２回行なう小テストの点数を５０％（25点ｘ２回）、期末テストの点数に５０％（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。 |
| 教科書 | １：標準整形外科学　第１４中村利孝　他編　医学書院<br>２：最新リハビリテーション医学　第３版（医歯薬出版）（１年次で使用したテキスト）も適宜使用する。<br>３：PT　OT　国家試験共通問題　でるもん　出たもん［臨床医学］　医学書院 |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>日本専門医機構　整形外科専門医<br>日本整形外科学会認定　脊椎脊髄病医<br>日本整形外科学会認定　スポーツ医<br>整形外科臨床経験25年以上<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク |

| | |
|---|---|
| | ■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>you tubeにて講義を実施。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。 |

講義科目名称： 神経内科学Ⅱ　　授業コード： R20192S231

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 栗原卓也 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的・到達目標〕<br>神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。 |
| 授業の概要 | リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ（解剖学、生理学の復習となる）を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容をを繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、　小児神経疾患<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>脳性麻痺、二分脊椎、Down症候群、中枢神経に障害を生じる先天性代謝異常、について学ぶ<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p316-338<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第２回 | てんかん<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>小児ならびに脳血管障害後の成人に見られるてんかんについてその症状と分類、診断方法と治療について学ぶ<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p284ー287<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答 |

| | | |
|---|---|---|
| | | を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第３回 | 筋疾患<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>筋ジストロフィーを代表とする、各筋疾患について、その病態生理、診断方法、治療方法を学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p　288-P301<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第４回 | 脳腫瘍、外傷性脳損傷<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>脳腫瘍の診断、治療、予後について学習する。その後、外傷性脳損傷の病態について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p224-P237<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第５回 | 脳血管障害①<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>脳血管障害の症状と分類、診断と治療について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p173-P203<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第６回 | 脳血管障害②<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>脳血管障害のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p173-P203<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第７回 | 認知症<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>認知症の鑑別診断と治療可能な認知症について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p204-P223<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第８回 | 変性疾患、脱髄疾患、錐体外路の変性疾患<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>Parkinson病（症候群）　と　変性、脱髄疾患について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p253-p274<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第９回 | 小テスト　①（第1-6回の内容）　感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>授業に先立ち、第1講から第6講までの範囲の小ﾃｽﾄ(25点満点）を行う。その後、髄膜炎、脳炎を代表とする神経系感染疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患について学習する。 |

【教科書ページ・参考文献】
神経内科学　第5版　p302-P315
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上

第１０回　脊髄疾患、末梢神経疾患
【key words】
配布されるKeywords　を参照
【授業概要】
脊髄損傷の病態と随伴症状、合併症について学ぶ。その後末梢神経障害についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
神経内科学　第5版　p238-P252、P275-P283
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上

第１１回　廃用症候群と誤用症候群、排尿障害、性機能障害
【key words】
配布されるKeywords　を参照
【授業概要】
神経疾患に多い合併症である、廃用症候群と、排尿障害、性機能障害について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
神経内科学　第5版　p339-P362
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上

第１２回　高次脳機能障害①（失語症、失認、失行）
【key words】
配布されるKeywords　を参照
【授業概要】
高次脳機能障害の、失語症、失認、失行、について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
神経内科学　第5版　p107-P151
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上

第１３回　小テスト②（第7回ー第11.回の内容）高次脳機能障害②（記憶障害、注意障害、遂行機能障害）
【key words】
配布されるKeywords　を参照
【授業概要】
授業に先立ち、第7講から第11講までの範囲の小ﾃｽﾄ②（25点満点）を行う。その後、高次脳機能障害の、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
神経内科学　第5版　p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上

第１４回　脳神経外科領域の疾患（頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状）、構音障害、嚥下障害
【key words】
配布されるKeywords　を参照
【授業概要】
はじめに、構音、嚥下のメカニズムを学習、その後診断と治療を学ぶ。また脳神経外科領域の疾患（頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状）についても学習する。
【教科書ページ・参考文献】
神経内科学　第5版　p152-P171
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上

第１５回　総復習　神経診断技術から診る神経疾患
【key words】
配布されるKeywords　を参照
【授業概要】
神経診断学的手法を復習し、そこから得られる情報をもとに考えられる疾患について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
神経内科学　第5版　p　35-P70
ベッドサイド神経の診かた　第１８版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。
【予習復習に必要な想定時間】

| | |
|---|---|
| | 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チエックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチエックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大テキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチエックシートに従って、学習する。Ａ４のノートの左側にチエックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと（予習）。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チエックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を、配布するプリント、テキストのでるもんでたもん［臨床医学］で行う（復習）。 |
| オフィスアワー | 木曜日の授業終了後の休憩時間。 |
| 評価方法 | 筆記試験による期末試験（前期講義の全範囲）で、６０％以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に２回行なう小テストの点数を５０％（25点×2回）、期末テストの点数に５０％（５０点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。 |
| 教科書 | ①　標準理学療法学、作業療法学　専門基礎分野　神経内科学　第5版　川平和美　編集　　医学書院<br>②　ベッドサイド神経の診かた第18版　　田崎義昭　著　南山堂<br>③　PT　OT　国家試験共通問題　でるもん　でたもん　［臨床医学］　医学書院 |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>藤田保健衛生大学（現　藤田医科大学）脳神経外科学教室　事績経験あり<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>you tubeにて講義を実施。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。 |

講義科目名称： 人間哲学　　授業コード：R20191F100

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 鈴木利定 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 「人間とは何か」　我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。 |
| 授業の概要 | 孔子は人間にいかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近は礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション / 論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きなる者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。<br>論語　史記　信と義学ぶことの意義、孝弟について、分を学ぶことは人倫の大きなる者について、学問について。 |
| | 第２回 | 政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。<br>命の使い方Ｐ1、Ｐ174 |
| | 第３回 | 教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。<br>プロタゴラス（真理なし）<br>ソクラテス<br>プラトン（イデア論）（真理あり）プリントを配布孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。 |
| | 第４回 | 大学の道についての孔子の説明。大学辛句（右経一章）　明徳を明らかにするを釈く。民を新に釈く。（右伝の三章、右伝の二章）<br>プラトンからアリストテレスの思考の違いを「例」を持って説明 |
| | 第５回 | 至善に止まるを釈く。本末を釈く。（右伝の三章、右伝の四章）　心を正しくして身を脩めて、家を斉う。（右伝の七章、右伝の八章）<br>コメントカードの質問に答える。<br>①　形物上学他、　②　ギリシャの愛についてプリント配布して説明成有一徳　Ｐ14～22 |
| | 第６回 | 家を斉へて国を治むるを釈く。（右伝の十章）　朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思 |

| | |
|---|---|
| | が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。（中庸章句序）<br><br>第７回　道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。（右章第四章、五章、六章）<br><br>第８回　顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。（右第七、八、九章）<br>大学の道についての孔子の説明。大学辛句（右経一章）　明徳を明らかにするを釈く。民を新に釈く。<br>第９回　国に道あるとき無きとに関せず節操を持つべきを子細に示す。（右第十、十一章）<br>朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。<br>第１０回　孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。（右第十九章）<br>後世へ残すもの、1、お金　2　事業　3、　思想　、祈　4、元気<br>結論　誰にでも出来て　害にならないもの<br>第１１回　よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。（右第二十章）<br>道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。<br>第１２回　孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。<br>①西洋の2聖人　アリストテレス　イエスキリストのその後の影響<br>②宗教と哲学の違い　　宗教は信ずること　　哲学は問うことＰ8<br>第１３回　孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。<br>孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。<br>顔回が中庸を選び人生に処したことを論ずる。<br>第１４回　老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。<br>孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。<br>孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。<br>第１５回　老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。<br>現代のみだれ　　宗教・道徳が必要<br>宗教の問題　1、救済の問題　　2、続行者の問題　　3、　信仰者の問題（行為）<br>「親鸞」についても話すプリント　　日本の仏教一覧表 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 成績評価は、試験・レポート・出席状況を監み、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者（2回以上のもの）は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告（代返等）をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | テキストの予習・復習をすること。 |
| オフィスアワー | 火曜日　10時30分～12時。 |
| 評価方法 | ■筆記試験（□論述　□客観）　■レポート　□口頭試験　□その他評価配分：成績評価は、試験（70%）・レポート（15%）・授業取組み状況（15%）を鑑み、評価を与える。 |
| 教科書 | 鈴木利定著「儒教哲学の研究―修正版」（明治図書）　　咸有一徳（中央法規） |
| 参考書 | 講義の中で適宜紹介していく。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容 |

| | |
|---|---|
| | you tube にて遠隔授業の実施。学生の質問はwebポータルを利用。 |

講義科目名称： 道徳教育　　授業コード：R20191F101

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 岡野康幸 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>社会の一員として人は他者と協力し共存しながら生活をしていきます。では、どのようにすれば自他ともによりよい生活を送ることが可能でしょうか。それは人が誰しも心の奥に存在する「人間らしくよりよく生きよう」とする小さな声、つまり道徳心を構築することから始まります。この講義では道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神（ 儒学の「仁」）と関連しながら解説していきます。また、小・中教員免許の取得を目指す学生のために、どのように道徳の授業を構成・展開するのかを、テキスト以外にも身近な事例話題をもとに指導案の作成などを通して指導力の育成に当たります。<br>〔到達目標〕<br>・自覚的に道徳心を養おうとする態度を身につけ、感情ではなく道徳的判断を可能としその道徳的判断を論理的に説明できる。<br>・児童・生徒の発達段階に即した道徳の授業を計画し、系統的に授業ができる。 |
| 授業の概要 | ・人はどのような時に道徳心を発揮するのか、テキスト掲載の中国古典を例に学生との議論や解説を通じて考察する。その過程を経ることにより、人としてのあり方・生き方について自ら学び、積極的に社会に参加できる力を養う。<br>・児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくかを討論から考察する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　授業オリエンテーション（講義内容・方法・授業時の留意事項・評価）ハチドリのひとしずく（事象の論説・事実把握・論述すること）<br>第２回　咸有一徳とは、「徳」「仁」の字源から咸有一徳を解釈する<br>第３回　論語に見る「仁」「徳」の解釈、孔子の時代について<br>第４回　「真心」の解説（ 中国における儒学関係古典の解釈）「心」の字源<br>第５回　「至誠」「尽くす」の解説・「儒教」とは、五倫五常の解説<br>第６回　王陽明『伝習録』と建学の精神－仁について－ |

| | |
|---|---|
| | 第７回　王陽明『伝習録』と教育理念－知行合一について－<br><br>第８回　小学校・中学校学習指導要領に示された「道徳」－各年代における位置づけ－、明治以降の教育界における道徳教育の変遷<br><br>第９回　小学校・中学校における道徳課題について<br><br>第１０回　道徳課題に基づき指導案を作成してみる<br><br>第１１回　模擬授業<br><br>第１２回　続模擬授業、総括（ 総括に基づき訂正の上、指導案を提出してもらいます）<br><br>第１３回　豊かな人間性の涵養と、人格の向上について（ 交際・礼儀作法・エチケット）家庭生活の基本マナー（ 儒学における関 係古典文献より考察）<br><br>第１４回　福祉界が望むマナー（ 人として大切であることを説く中国古典、先達の言葉から考察）<br><br>第１５回　時事問題の考察・発表・解説（ 人としてのあり方・生き方を考える） |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。<br>・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。<br>・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。<br>・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 講義に臨む前に、指定個所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。 |
| オフィスアワー | 毎週火曜14 時～ 16 時。 |
| 評価方法 | 期末試験70%、課題15%、発表15%。 |
| 教科書 | 鈴木利定・中田勝著『咸有一徳』修訂第2 版、中央法規、2014 年5 月<br>鈴木利定閲　中田勝著『王陽明　徐愛「伝習録集評」』明徳出版社、2016 年6 月 |
| 参考書 | 『中学校学習指導要領 道徳編』『小学校学習指導要領解説 道徳編』 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 教育原理　　授業コード：R20191S102

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 江島正子 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>学習指導要領の「総則」に示される、これからの日本の学校教育の理念、具体化の方向の趣旨に沿い、我が国が歩んできた教育の歴史的背景を理解する。教育課程とは何か、これからの日本の教師はどうあるべきかを学び、必要な資質や能力、態度の基礎・基本を養う。<br>〔到達目標〕<br>1 教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。<br>2 学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。<br>3 教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。 |
| 授業の概要 | 1 教育における人間観を哲学者のカントや比較動物学者のポルトマンから言及し、教育思想の展開を、村井実のモデル（①手細工モデル、②農耕モデル、③生産モデル）を用い、社会的背景を交えながら考察し、学校の歴史や義務教育史にも触れる。<br>2 子どもと授業の関係を、「わかる」「できる」「考える」といったそれぞれの違った視点から捉える。さらに、教育現場における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの教育的意義について考え、学校における教育的効果について考える。<br>3 教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション（ 授業概要、評価方法等）－ 授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。　教育における人間観－「人間は教育によってのみ人間になる」その功罪、野生児に学ぶ。 |
| | 第２回 | 教育思想の変遷　①　手細工モデルと農耕モデルの特徴と問題点 |
| | 第３回 | 教育思想の変遷　②　生産モデルの特徴と問題点 |
| | 第４回 | 学校の歴史　①　学校とは何か・学校の定義、下構型・上構型の学校システム |
| | 第５回 | 学校の歴史　②　就学の形態：複線型、分岐型、単線型 |
| | 第６回 | 義務教育の意義　①　義務教育の歴史からその成立に至った意義について4 つの視点からみる |
| | 第７回 | 義務教育の意義　②　日本の義務教育制度の変遷、教育課程 |

| | |
|---|---|
| | 第８回　　教育システムの閉鎖性と開放性の諸問題<br><br>第９回　　教育課程の編成<br><br>第１０回　　子ども理解の視点　①　「わかっている」とはどういうことか-事例を通して考えるー<br><br>第１１回　　子ども理解の視点　②　「わかっている」が出来ていないというのはどういうことかー事例を通して考えるー<br><br>第１２回　　学校における非言語コミュニケーション　①人は気持ちをどう伝え合うのか- 近言語的、非言語ー<br><br>第１３回　　学校における非言語コミュニケーション　②人は気持ちをどう伝え合うのかー空間の行動、人工物、物理的環境等ー<br><br>第１４回　　言語コミュニケーション　言語を通してのコミュニケーションの役割<br><br>第１５回　　教師について考える　発問と質問／まとめ　14 回を通して、教育の意義・目的を理解し、教師としての資質を確認する。 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 1 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。<br>2 授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。<br>3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。<br>4 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式、その他（ ミニレポート） |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。<br>・定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。 |
| オフィスアワー | 水曜日　9 時～ 11 時。それ以外の時間帯については、要相談・要予約。 |
| 評価方法 | 授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（ 30%）、試験またはレポート（ 70%）を総合して評価する。 |
| 教科書 | 柴田義松著　『新教育原理』　有斐閣双書、2005 年 |
| 参考書 | 講義の中で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 生涯学習概論　　授業コード： R20191S103

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 篠原章 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。 |
| 授業の概要 | 生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとOECDの相違、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　オリエンテーション<br>第２回　国際社会における議論<br>第３回　日本での議論・政策<br>第４回　生涯学習の理念と理論（ その1 ）<br>第５回　生涯学習の理念と理論（ その2 ）<br>第６回　生涯学習の内容と形態<br>第７回　学校教育と生涯学習<br>第８回　外国の生涯学習（ その1 ）<br>第９回　外国の生涯学習（ その2 ）<br>第１０回　生涯学習の先駆け（ その1 ）<br>第１１回　生涯学習の先駆け（ その2 ） |

| | |
|---|---|
| | 第１２回　　社会教育制度<br><br>第１３回　　生涯学習支援の動向と課題<br><br>第１４回　　まちづくりと生涯学習<br><br>第１５回　　グローバリゼーションと生涯学習 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。<br>小論文、レポートは必ず提出すること。<br>5 回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということ意識して学習すること。 |
| オフィスアワー | 講師室で授業後30 分。 |
| 評価方法 | 定期試験・小論文・レポートを総合的に評価する。（ 目安）定期試験70%、小論文・レポート30%。 |
| 教科書 | 「テキスト生涯学習　新訂版」学文社 |
| 参考書 | 講義の中で適宜紹介していく。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 心理学　　授業コード：R20191F104

英文科目名称： Introduction to Psychology

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 橋本広信 | | | |
| 基礎科目 | 社会福祉主事任用資格指定科目 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>ヒトの心を成立させている機能や基本的なメカニズムについて理解し、人間を理解する視野を広げる。<br>【到達目標】<br>①知覚や認知などヒトが環境を知る基本的メカニズムを学び、人が感じ生きている個別の世界を想像する基礎知識を得る。<br>②学習や記憶、感情など、ヒトの人格を成り立たせる基本的な仕組みを学ぶことで、それぞれの人の生き方や生活世界の内的基盤をイメージすることができる。<br>③生涯にわたる発達の流れを把握することで、人がどのように生き、どのような課題と出会うかについてイメージすることができる。<br>④専門職としてやがて出会う「患者の心理」に関連する知識を学ぶことで、今後の医療技術の専門的学習への姿勢や意欲を高め、患者理解の基礎体験を作ることができる。 |
| 授業の概要 | 広範囲にわたる心理学の知識や人間に対する見方を短期間で学習し、人の心理や行動、人間関係の理解に関する知的基盤を養う。<br>心理学は臨床心理学など、応用的心理学の基礎ともなる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっている。専門職として深くかかわる患者の心理や人間そのものの理解のためにも、積極的に学習に臨んでほしい。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ○ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション：心理学とリハビリテーション　なぜ心理学を学ぶのか<br>【key words】<br>・共感、ICF（国際生活機能分類）、ヴント、行動主義、精神分析学、ゲシュタルト心理学、認知心理学<br>【授業概要】<br>・現在までに至る心理学の歴史をおおまかに学ぶ。心理学が何に注目し、どのように心を知ろうとしてきたかを知ることで、心理学が対象とする「心」の特質を知る。同時に、それをリハビリ専門職が学ぶ意義について、患者の体験などを参考に、考えていく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書8-19ﾍﾟｰ、山﨑明夫（2016）『にほんごがこんなふうにみえたのよ！』（㈱QOLサービス）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ICFについてネット等で調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習2時間、復習2時間 |
| | 第２回 | 感覚と知覚：ヒトの目は、なぜ顔の前に二つついているのか？<br>【key words】<br>感覚、適刺激、刺激閾、刺激頂、弁別閾、知覚、知覚の体制化、図と地、プレグナンツの法則、 |

恒常性、錯視
【授業概要】
・すべての生物は進化の過程を経て、環境に対応する姿かたちと生きる能力を備えている。それらが、心の身体的な基盤となっていることを知る。今回は感覚と知覚に焦点を当て、ヒトが、自分の生きる環境とどのように関わりながら内面的な能力を発展させていったかを考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書24-27ページ、更科功（2019）『残酷な進化論：なぜ私たちは「不完全」なのか』（ＮＨＫ出版）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「錯覚」について、ウェブサイトなどで調べ、授業後、それぞれが学習したことを深めておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第３回　注意、認知
【key words】
奥行知覚、運動知覚、ファイ現象、自動運動、知覚的防衛、知覚の異常に基づく発達障害、学習障害、コグニティブ・トレーニング
【授業概要】
ヒト（生物）は、知覚したすべての情報を均等に処理するのではない。
生物が持つ、情報に「注意」を向ける力によって、短時間での反応（情報処理）を可能にしている。
ここでは、知覚の基盤の上に成り立つ、ヒトならではの複雑な認知のプロセスについて学ぶ。
また、発展的な問題として、「不器用な子ども」や認知面での問題がある人に対して提起されている「認知作業トレーニング」について体験する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書28-31ページ、更科功（2019）『残酷な進化論：なぜ私たちは「不完全」なのか』（ＮＨＫ出版）、宮口幸治他（2014）『不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング』（三輪書店）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
認知作業トレーニング（コグニティブ・トレーニング）について予習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第４回　情動・動機づけ
【key words】
情動、ジェームズ・ランゲ説、キャノン・バード説、情動二要因説（シャクターとシンガー）、ホメオスタシス（キャノン）、マズロー、欲求階層説、アンダー・マイニング効果
【授業概要】
ヒトの心は常に何らかの刺激に反応し、動き続ける。今回は、本能的・反射的に動くヒトの情動の特質を学びつつ、そうした情動の背景にある動機づけのメカニズムや種類を学び、人に備わる情動の役割について総合的に考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書32-35ページ、ディラン・エヴァンズ（2005）『感情』（岩波書店）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「自分が感情的になりやすい場面」について書き出しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第５回　パーソナリティ　あなたの心の形はどんな形？
【key words】
パーソナリティ、気質、クロニンジャー、類型論、クレッチマーの類型論、ユングの内向・外向、特性論、ビッグ・ファイブ、人か状況か論争、状況特性理論、傍観者効果、社会的促進・抑制、内集団びいき

【授業概要】
・同じ環境下にあっても、人はそれぞれ個別の捉え方や行動をする。こうした「その人らしさ」を人のパーソナリティ（人格）として捉える視点を学ぶ。また、様々なパーソナリティの捉え方について理解することで、どのようにパーソナリティというものを考えればよいのかについて考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書36-39ページ、

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワーク課題を出す予定なので、事前にそれをやって持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、課題2時間

第６回　記憶
【key words】

宣言記憶、エピソード記憶、意味記憶、非宣言記憶、手続き記憶、プライミング、チャンク、マジカルナンバー、感覚情報保存、短期記憶、長期記憶、ワーキンメモリー（作動記憶）、展望記憶、健忘
【授業概要】

・ヒトが現在の出来事を越えて判断をしたり予想を立てることが出来るのは、記憶の力があるからである。ここでは、こうした力を支える記憶のメカニズムの基礎を理解する。また、記憶がどのように内外の状況に影響を受けるのか、また、記憶が失われたり損なわれてしまうとどのようなことが起こるのかについても考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書42-43ページ、ジュリア・ショウ（2016）『脳はなぜ都合よく記憶するのか』（講談社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
記憶はリハビリや国試にストレートに関係するテーマであるので、特に予習復習をしっかりしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第７回　学習

【key words】
レスポンデント条件付け（パブロフ）、強化、般化、分化、消去、オペラント条件付け（スキナー）、報酬と罰、強化子、観察学習（バンデューラ）、洞察学習（ケーラー）
【授業概要】
生物にはそれぞれ生まれながらにできる多くの行動（本能）がある。ヒトの場合は、できる行動は大変少ない状態で生まれ、意識的な行動が急速にできるようになっていく。すなわち、ヒトの多くの行動は生後にどこかで「学習」され、獲得されていく。ここでは、学習の基本的なメカニズムを学び、どのようにヒトが変化をしていくようになっているのかを考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書44-47ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習理論も大変大切なテーマであるので、予習復習を含め、ひとつひとつしっかり理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第８回　言語と概念
【key words】
音声言語、文字言語、音韻知覚、シナプスの刈込、構音発達、象徴、概念、カテゴリー化、定義的特性、特講的特性、理論的概念
【授業概要】
ヒトが他の生物と異なる点は多くあるが、言語と概念を操作する力は、中でも大きな違いの一つだといえる。生まれた時には話せない状態であるが、どのように言語を身につけるのかをまず学ぶ。また、言語をもつことで得られる「概念」について学び、ヒトの独自の生き方の基盤である言語的な世界について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書48-49、52-53ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを熟読しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習2時間

第９回　思考と推理
【key words】
創世記（アダムとイブ）、アルゴリズム、ヒューリスティック、集中的思考（収束的思考）、拡散的思考、アナロジー、帰納的推論、演繹的推論、転動推理、確証バイアス、ディープラーニング
【授業概要】
ヒトは本能的・感覚・感情的に自然に目の前の状況に反応しながら生きるのみではなく、考える力によって状況を推理したり、状況を打破する方法を生み出すことさえする。このように物事を認識したり、推理・判断をする基礎となる思考のメカニズムについて理解し、「人らしさ」の源を考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書82-92ページ、三宅芳雄・三宅なほみ（2014）『新訂教育心理学概論』（放送大学教育振興会）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを熟読しておっこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１０回　生まれてからヒトはどのように変化していくのか？発達①　子ども時代
【key words】
胎児期、生理的早産、乳児期、言葉の発達、幼児期、ピアジェ、ヴィゴツキー、発達の再近接領域、フロイトの心理性的発達理論、リビドー
【授業概要】
ヒトは生物として見た時、非常に変わった状態で誕生する。このことの持つ意味や意義を確認しながら、人が乳幼児期から児童期という子ども時代に内面的にはどのような力や感覚を発達させていくかについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書56-57ページ、60-61ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・幼い頃の自分が描いた絵や作文などを探して一つ写真かコピーを撮っておくこと。（授業時に提出日を指示した上で提示予定）
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１１回　エリクソン（Erikson）の発達段階理論①
【key words】
ライフサイクル、エピジェネティック・チャート、乳児期（基本的信頼　対　不信　：希望）、早期幼児期（自律性　対　恥・疑惑：意志）、幼児期（イニシアティブ　対　罪悪感　：目的）

【授業概要】
独自の発達段階論で有名な、エリク・エリクソンによるエピジェネティック・チャート（発達の漸成理論図）に基づきながら、人の発達的変化とライフサイクル上の課題について解説する。今回は、最も早期の三つの段階について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書58-59ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ネットなども使って、エリクソンと彼のライフサイクル論についてよく調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１２回　エリクソン（Erikson）の発達段階理論②　オトナになるとは
【key words】
学童期（勤勉性　対　劣等感　：コンピテンシー）、青年期（アイデンティティ　対　アイデンティティ拡散　：忠誠）、モラトリアム、マーシャの4分類
【授業概要】

| | |
|---|---|
| | 持って生まれた能力を子ども時代の遊びや仲間関係を通じてそれぞれに伸ばしながら、やがて子どもたちは家族から離れ、それぞれの「社会」に入るための訓練を受ける時期を迎える。学校を中心とした生活において学習などの適応課題にうまく対処することで、社会で適応的に生きる力を伸ばすが、その逆も多く起こる。そして、身体の急速な変化とともに、社会の出口を展望し始め、青年期を生き始める。ここではこのような、ヒトが大人になっていくプロセスについて考えていく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書62-63ページ<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>主にスライドや演習、活動を通して青年期が何故あるのかを考える。積極的に参加すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習2時間、復習2時間 |
| | 第１３回　エリクソン（Erikson）の発達段階理論③　中年期・老年期<br>【key words】<br>ジェネラティビティ、加齢、更年期、空の巣症候群、中年期の危機、サクセスフルエイジング、モーニング・ワーク、グリーフワーク、お迎え現象<br>【授業概要】<br>長い時間をかけてオトナとしての時間を生きていくうちに、やがてヒトは種々の能力や社会的なつながり、立場を喪失し、衰退を体験する人生後半の課題に向き合うことになる。この人生の後半にこそ、ネガティブな自分の心に捕らわれず、創造的に変化を遂げることが試される。一人のヒトとして自分の人生をいかに閉じていくか、ライフサイクル終盤の発達課題について検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書62-63ページ、プリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>偉人の一生など、ライフサイクル全体を見通して描かれたような映画を探し、あらすじを報告できるようにしておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習3時間、復習1時間 |
| | 第１４回　ヒトとして、心が健康である状態とは？：精神的健康<br>【key words】<br>抑うつ、不安、抑うつ尺度、ストレス尺度、不安神経症、統合失調症、人格障害、物質関連性障害、心身症　等<br>【授業概要】<br>ヒトは体が健康でも、社会的に安定していても、心が健康に機能しないために苦悩の中にとらわれて日々の生活を送る人々がいる。青年期は特に体も社会的立場も不安定で、精神的に不健康になりやすい。本格的な一人一人の苦悩に寄り添う臨床心理学は後期に学ぶが、ここでは、心の健康が損なわれている状態について理解を深めることで、健康な心というものを考えていく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料、指示された参考書など<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>あらかじめゲスト講師に関係することについて、調べ学習の課題を出す予定。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習3時間、復習1時間 |
| | 第１５回　大きな変化と出会う時、心はどう揺れるのか？<br>【key words】<br>病、難病、障害、障害受容<br>【授業概要】<br>来医療現場で仕事をする専門職を目指す学生を対象とする講義という特性を考え、教科書にはないが、人生の中で大きな病を体験し、医療的支援を受けた患者当事者や医療専門職として現場で活躍されている方をお呼びして、ゲスト講師による授業を行う。生きていくということは、長い人生のどこかで、病や事故という想像しえない出来事と出会う可能性の中に生きることでもある、ということを理解する。また、そうした出来事によって「患者」となった人の心の揺れを直接お聞きし、リハ専門職として患者の心を支える視点を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事前にゲスト講師に関連する病や障害などを調べ、「質問」を一つ必ず用意しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習3時間、復習1時間 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・医療・福祉職を目指す者にとって、「ヒト」とは何かという、人間観の基礎を培う科目に位置づけられる。<br>・国家試験に関連する基礎知識を学ぶ科目ともなるもので、紹介する図書などをもとに、さらに主体的な学習を期待する。<br>〔受講のルール〕<br>・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマホなどの使用）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。ただし、授業によってはスマホなどを利用する場合もあるので、指示に従って行動すること。<br>・評価にある通り、2回程度小レポートや感想文を課す予定。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | スレッドで資料配布をするので、そこへの返信の形で、授業後すぐに授業へのコメントを書き込むこと。できる限り返信をする。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・多くの用語が出てくるので、シラバスに基づき教科書中の該当部分を予習しておくこと。<br>・授業時に紹介する図書や映画などを積極的に学習すること。 |
| オフィスアワー | 前橋キャンパスで授業を行うので、授業後2号館2階東角にある高等教育支援センターにて声をかけること。特に決まった時間は設けない。授業後の質問、メールによる質問も受け付ける。 |
| 評価方法 | ・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点60-69点：Ｃ、70-79点：Ｂ、80-89点：Ａ、90点以上Ｓ |

| | |
|---|---|
| | ・原則期末試験で80点、小レポート・課題提出等で20点として、100点満点で計算。 |
| 教科書 | 内山　靖・藤井浩美・立石雅子（編著）（2020）『リハベーシック　心理学・臨床心理学』（医歯薬出版） |
| 参考書 | 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編（2020）『心理学（第5版補訂版）』（東京大学出版会）<br>二宮克己（編著）（2016）『ベーシック心理学第2版』（医歯薬出版） |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容<br>状況によってzoomを用いて授業を行う。 |

講義科目名称： 国際文化論　　授業コード：R20191F105

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 久山宗彦 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>国際文化論（ intercultural studies）を勉強すれば、国際的な相互依存関係の中で生きていく私たちが、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人たちをも受け入れる必要があることがわかるようになる。<br>〔到達目標〕<br>国際文化論は、異なる文化を持った人たちと繋がっていける能力や態度を身につけていくことを主眼としている。 |
| 授業の概要 | 世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界（ 諸外国）の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　「国際文化論が目指すのは国際平和である。」～特に難民問題と日本の関わりを巡って～<br>第２回　和の文化（ １ ）～その構造について～<br>第３回　和の文化（ ２ ）～神の文化との比較～<br>第４回　マルティン・ブーバー（ Martin Buber）の「関係」の哲学（ １ ）<br>第５回　マルティン・ブーバー（ Martin Buber）の「関係」の哲学（ ２ ）～医療世界への応用～<br>第６回　日本外交の原点に位置する聖徳太子<br>第７回　ヨーロッパ文明とEU<br>第８回　日本と中東（ １ ）<br>第９回　日本と中東（ ２ ）<br>第１０回　湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救護活動 |

| | |
|---|---|
| | 第１１回　　ダブリン（ Dublin）のホスピスの発祥の地、聖母ホスピスを訪ねて<br><br>第１２回　　「平和」実現への第一歩とは（ １ ）<br><br>第１３回　　「平和」実現への第一歩とは（ ２ ）～平和憲法の共有～<br><br>第１４回　　国際文化論として考えるリハビリテーション<br><br>第１５回　　個性と異文化との格闘、異文化理解、そして外国語 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・授業レジュメは原則として毎回配布する。<br>・授業には積極的な態度で臨むように。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 世界の国々と関わる日本のニュースにも、いつも関心を持っていただきたい。 |
| オフィスアワー | 授業終了後30 分。 |
| 評価方法 | 最終レポート試験（ 80%）、授業時等のレポート（ 20%）。 |
| 教科書 | 教科書は使用しないが、毎回の授業時には授業レジュメのほかに、時々参考資料を配布する。 |
| 参考書 | 授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（ 北樹出版）もそのうちの一つである。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 物理学　　授業コード：R20191S107

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 栗原秀司 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。<br>②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。<br>③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し説明できる。 |
| 授業の概要 | 物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について概説する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ○ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　（科目オリエンテーション）　物理を理解するための道具とルール<br>【key words】<br>単位、有効数字、累乗、三角比、ベクトル<br>【授業概要】<br>物理で扱う量には単位があること、測定値の有効数字と計算の仕方を学ぶ。物理で必要な最低限の数学の知識として、累乗、三角比、ベクトルの復習をする。第１章　章末問題を解く。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　ｐ１　～　ｐ８　第１章「物理を理解するための道具とルール」<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１章　章末問題　授業中に出来なかった問題を解いておく。<br>教科書の第２章を読んでおく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分～90分<br>第２回　力学の基本－物体の運動を数式で表す－<br>【key words】<br>速度、等速直線運動、加速度、等加速度直線運動、落下運動、反発係数<br>【授業概要】<br>速さと速度の違い、等速直線運動のv－t図、x-t図の見方を学ぶ。速度が変わるときは加速度があり、直線上で加速度が一定の場合（等加速度直線運動）のグラフや式を考える。その応用として、自由落下・鉛直投射運動について学ぶ。第2章　章末問題を解く。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　ｐ９　～　ｐ17　第２章「力学の基本」 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
第２章　章末問題　授業中に出来なかった問題を解いておく。
教科書の第３章を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第３回　物体の運動と力の関係(1)　－力の表し方と力の種類－
【key words】
力、力のつりあい、作用反作用の法則、重力、垂直抗力、張力、弾性力、摩擦力、合力、分力
【授業概要】
物体にどのような力がはたらいているかを知り、その関係を学ぶ。力はベクトルなので、矢印で表す。力のつり合い、作用反作用の法則を知る。力には重力、垂直抗力、張力、弾性力、摩擦力などがあることを知る。力の合成、分解の仕方（作図）を学ぶ。プリントで演習をする。。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ18　～　ｐ23　第３章「物体の運動と力の関係」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
力の演習プリントの残った問題を解いておく。（次回の最初に答え合わせをする。）
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第４回　物体の運動と力の関係(2)　－運動方程式－
【key words】
慣性の法則、運動の法則、運動方程式
【授業概要】
前時の力の演習プリントの残りの問題について答え合わせをする。物体に力がはたらいて加速度が生じる場合の法則を知り、運動方程式のつくり方を学ぶ。練習問題で1物体、2物体の運動について運動方程式を作る。第3章　章末問題を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ18　～　ｐ20　、ｐ23　～　ｐ25　第３章「物体の運動と力の関係」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第３章　章末問題　授業中に出来なかった問題を解いておく。
教科書の第４章を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第５回　圧力のはたらきと物を回転させる力　ー身近な力を数式で表すー
【key words】
圧力、気圧、水圧、浮力、力のモーメント、重心
【授業概要】
気圧や水圧など身近な圧力を知る。大気圧や、水圧の求め方、浮力が生じる理由について学ぶ。力のモーメント、大きさのある物体はたらく力やその合力の求め方、重心について学ぶ。３種類のてこと、その応用例について学ぶ。第4章　章末問題を解く。国試の過去問を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ26　～　ｐ33　第４章「圧力のはたらきと物を回転させる力」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第４章　章末問題　国試の過去問　授業中に出来なかった問題を解いておく。（過去問は次回解説する。）
教科書の第５章を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第６回　エネルギーとその保存法則
【key words】
仕事、仕事率、運動エネルギー、位置エネルギー、エネルギー保存の法則
【授業概要】
物理の「仕事」の定義について知り、問題を解く。「仕事の原理」とその例について学ぶ。「仕事率」の意味を知り練習問題で求める。エネルギーとは何か、エネルギーの種類、エネルギーの保存、様々なエネルギーの変換例などを学ぶ。第5章　練習問題を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ34　～　ｐ40　　第５章「エネルギーとその保存法則」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第５章　章末問題　授業中に出来なかった問題を解いておく。
教科書の第６章を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第７回　運動量と視点の違いにより感じる力
【key words】
運動量、力積、運動量保存の法則、相対速度、慣性力
【授業概要】
瞬間的な力が働くときは、運動量や力積を考えると便利なことを知り、衝突や分裂などのときの運動の扱い方、考え方を学ぶ。見る位置の違いで速度や力のはたらき方に違いがあることを学ぶ。第6章　章末問題を解く。国試の過去問を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ41　～　ｐ47　第６章「運動量と視点の違いにより感じる力」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第６章　章末問題　国試の過去問　授業中に出来なかった問題を解いておく。（過去問は次回解説する。）
教科書の第７章を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第８回　気体分子の運動と熱エネルギー
【key words】
温度、熱、比熱、熱容量、熱量保存の法則、ボイル・シャルルの法則、内部エネルギー、熱力学第一法則
【授業概要】
物質の三態変化とその時に出入りする熱について知る。比熱、熱容量の定義をし、熱量保存の法

則が成り立っていることを学ぶ。気体の体積は圧力や温度によって変化し、ボイルの法則、シャルルの法則が成り立っていること、内部エネルギーの定義とその変化について熱力学第一法則が成り立っていることを学ぶ。第７章　章末問題を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ48　～　ｐ56　第７章「気体分子の運動と熱エネルギー」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第７章　章末問題　授業中に出来なかった問題を解いておく。
教科書の第８章を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第９回　波の性質とその表し方
【key words】
振幅、波長、周期、振動数、横波・縦波、反射、屈折、回折、定常波、干渉
【授業概要】
波を表す「振幅・波長・周期・振動数」を知り、媒質の振動の様子や波の進み方について学ぶ。縦波・横波の違いと例、波の性質（反射・屈折・回折）、重ね合わせの原理、定常波について実験を観察することによって学ぶ。第８章　章末問題を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ57　～　ｐ65　第８章「波の性質とその表し方」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第８章　章末問題　授業中に出来なかった問題を解いておく。
教科書の第９章を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１０回　波で理解する音と光の現象
【key words】
音波、うなり、ドップラー効果、光波、全反射、レンズ、光の干渉
【授業概要】
音の三要素について知る。音叉のうなりを聞き、成り立つ式を学ぶ。ドップラー効果が起こる理由を考える。光の波としての諸現象（分散によるスペクトル、反射・屈折及び全反射等）について実験・観察を通して学ぶ。凸レンズ・凹レンズの像を観察し、作図の仕方及びレンズの式を学ぶ。光の干渉・散乱の例とその理由を学ぶ。第９章　章末問題を解く
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ66　～　ｐ78　第９章「波で理解する音と光の現象」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第９章　章末問題　授業中に出来なかった問題を解いておく。
教科書の第10章を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１１回　静電気の力とその表し方
【key words】
電子、静電気力、電気量保存の法則、電場、電位
【授業概要】
目に見えない電気について原子の構造から考え、電荷の間にはたらく力（クーロンの法則）、電気量保存の法則について学ぶ。電気力がはたらく空間として「電場」を考え、その表し方、電位の意味とその求め方について学ぶ。第10章　章末問題を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ79　～　ｐ83　第10章「静電気の力とその表し方」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第10章　章末問題　授業中に出来なかった問題を解いておく。
教科書の第11章を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１２回　オームの法則から理解する電気回路
【key words】
自由電子、オームの法則、ジュール熱、電力量、電力、アース、コンデンサー
【授業概要】
金属中の自由電子の運動と電流の考え方、抵抗にかかる電圧と電流の関係（オームの法則）とその水流によるイメージを学ぶ。抵抗の直列接続と並列接続の合成抵抗の求め方、電流の熱作用、電力量・電力について学ぶ。アースの役割、コンデンサーの原理とそのはたらき(実験を含む)を学ぶ。第11章　章末問題を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ84　～　ｐ93　第11章「オームの法則から理解する電気回路」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第11章　章末問題　授業中に出来なかった問題を解いておく。冬休み中に今までの復習をしておく。
教科書の第12章を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１３回　電流と磁場の関係
【key words】
磁場、コイル、右ねじの法則、フレミングの左手の法則、ローレンツ力、モーター
【授業概要】
磁石のまわりに磁場があること、電流によって磁場ができることを知り、その磁場の表し方と磁力線について学ぶ。磁場から電流にはたらく力（フレミングの左手の法則）、磁場の中で運動する荷電粒子にはたらく力（ローレンツ力）を学ぶ。その例として、直流モーターの仕組みを学ぶ。第12章　章末問題を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ94　～　ｐ100　第12章「電流と磁場の関係」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第12章　章末問題　授業中に出来なかった問題を解いておく。
教科書の第13章を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】

| | |
|---|---|
| | 60分～120分<br>第１４回　電磁誘導と交流<br>【key words】<br>誘導起電力、誘導電流、交流、自己誘導、相互誘導、電磁波<br>【授業概要】<br>、交流や電磁波について学ぶ。磁石やコイルを動かすと起電力が生じる現象（電磁誘導）について成り立っているレンツの法則、ファラデーの電磁誘導の法則（実験を含む）について学ぶ。日常使用している交流の作り方とその利用について、及びコイルのはたらきと自己誘導、相互誘導について学ぶ。第13章　章末問題を解く。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　ｐ101　～　ｐ108　第13章「家庭のコンセントに流れる交流電源のつくり方とその利用」<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第13章　章末問題　授業中に出来なかった問題を解いておく。<br>教科書の第14章を読んでおく。次回の授業の後半に今までの学習内容全てについて質問の時間があるので、復習をしておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分～120分<br>第１５回　原子の構造と放射線<br>【key words】<br>放射線、放射性崩壊、半減期<br>【授業概要】<br>原子の構造とその表し方、放射線（α線・β線・γ線）の本体と放射性崩壊のしかたについて学ぶ。崩壊の法則により半減期の式と意味を考える。核分裂・核融合によるエネルギーの解放、放射線の利用例について学ぶ。残った時間で全範囲についてのまとめをする。今まで学習した全範囲について疑問があれば質問をする。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　ｐ109　、ｐ111　～　ｐ114ページ　第14章「原子の構造と半導体・放射線」<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>「まとめ」の事項について、確認テストを重点的に復習しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>300分～ |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報　〕<br>・高校で物理を履修していなくてもよいが、授業の前に教科書を読んでおおよその内容を把握しておくこと。<br>・シャトルカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。<br>・座席は特に指定しないが、できるだけ前に座るようにすること。<br>〔受講のルール〕<br>・分からないところがあれば、授業中いつ質問をしてもよい。分からないところをそのままにしないようにすること。<br>・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。<br>※遠隔授業の場合は別途指示する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式<br>※遠隔授業の場合は別途指示する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 事前に教科書を読み、学習内容の全体像を把握しておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。２回目以降の授業では最初に前回の授業についての確認テストを行う。<br>※遠隔授業の場合は変更がある。 |
| オフィスアワー | ・授業終了後30分間<br>・シャトルカードに質問を記載すれば返答を書き、必要に応じて次の授業で返答する。<br>※遠隔授業の場合は別途指示する。 |
| 評価方法 | 確認テスト15%、筆記試験85%<br>※遠隔授業の場合、変更がある。 |
| 教科書 | 時政孝行監修、栗子研著：まるわかり！基礎物理、南山堂 |
| 参考書 | 佐藤和艮著：看護学生のための物理学、医学書院 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない |

| | |
|---|---|
| | ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 法学　　授業コード：R20191F108

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 森田隆夫 | | | |
| 基礎科目 | 社会福祉主事任用資格指定科目 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>医療福祉の法律の実践では、法律関係が随所にあり、基本的知識や法的センスが必要となります。そこで、医療福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習をしたいと考えています。 この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行きたいと考えています。<br><br>【到達目標】<br>①六法で条文を調べることができる。<br>②法学概論・憲法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。<br>③法を解釈するという思考方法をとることができる。 |
| 授業の概要 | 法学概論の学習によって、法についての基本的な考えを身につけます。その上で、公法の代表としての憲法と私法の代表としての民法を用いて、法解釈学を理解してもらいます。<br>さらに、具体的な事案についてディベートすることで、法解釈を体験してもらいます。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | オリエンテーション／概論1：市民生活と社会規範<br>【key words】<br>社会規範、法源、法の解釈<br>【授業概要】<br>授業の進め方（シラバスの説明）<br>法の市民生活との関わり合い（日本理学療法士協会「倫理規定」・日本作業療法士会「倫理網領」）<br>「法源」、「法の解釈」について<br>関連する事例についての討論<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ2～8<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：教科書 Ｐ9～19<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | 概論2：市民生活の各領域と主な関係法<br>【key words】<br>日常生活上の法律関係、仕事上の法律関係、消費者保護関連法、不法行為法、労働関係法<br>【授業概要】<br>日常生活や仕事上、生活上の法律関係（消費者保護関連法や、不法行為法、労働関係法等）<br>関連する事例についての討論 |

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ9～19予習：教科書Ｐ22～33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書Ｐ22～33
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　憲法1：憲法総論、基本的人権総論1
【key words】
憲法、基本原理、日本国憲法、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重
【授業概要】
憲法一般の概念・歴史・基本原理
日本国憲法の歴史・基本的原理、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重等
関連する事例についての討論
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ22～33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：　教科書　Ｐ33～37
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　憲法2：基本的人権総論2・思想・良心の自由、信教の自由
【key words】
人権、新しい人権、平等権、思想・良心の自由、信教の自由
【授業概要】
人権についての思考方法
新しい人権、平等権、思想・良心の自由、信教の自由等
関連する事例についての討論Ｐ33～37予習：　教科書　Ｐ38～41
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ33～37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：　教科書　Ｐ38～41
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　憲法3：表現の自由、経済的自由
【key words】
表現の自由、知る権利、経済的自由
【授業概要】
民主主義の課程に直結する表現の自由の重要性、知る権利等
経済的自由（精神的な自由との比較も含めて）
関連する事例についての討論Ｐ38～41予習　Ｐ41、Ｐ44～46
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ38～41予習　Ｐ41、Ｐ44～46
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　Ｐ41、Ｐ44～46
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　憲法4：財産権、社会権
【key words】
財産権、社会権
【授業概要】
財産権
「国家による自由」と言う性格を持つ社会権（自由権との違いを確認しながら）
関連する事例についての討論
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ41、Ｐ44～46
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　Ｐ41～43、Ｐ45～51
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　憲法5：人身の自由、その他の人権、国民の義務
【key words】
人身の自由、参政権、国務請求権、国民の義務
【授業概要】
人身の自由
その他の人権（参政権、国務請求権）、国民の義務
関連する事例についての討論Ｐ41～43、Ｐ45～51予習　Ｐ50～59
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ41～43、Ｐ45～51予習　Ｐ50～59
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　Ｐ50～59
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　憲法6：統治機構の基本原則、国会、内閣
【key words】
統治、権力分立、国会、立法権、内閣、行政権
【授業概要】
統治機構の概説（権力分立を中心として）
国民の代表によって構成される国会の地位、組織、権能等
行政を担当する内閣の地位、組織、権能等
関連する事例についての討論
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ50～59
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | | |
|---|---|---|
| | | 予習：教科書　Ｐ59～70<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第９回 | 憲法7：裁判所、財政、地方自治<br>【key words】<br>裁判所、司法権、財政、財政民主主義、法地方自治、地方自治の本旨<br>【授業概要】<br>裁判所を民主主義、自由主義の観点から考える。<br>財政における民意を反映方法<br>法地方自治につき、その本旨から考える<br>関連する事例についての討論Ｐ59～70予習：Ｐ72～82<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ59～70<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：Ｐ72～82<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１０回 | 民法1：民法総則<br>【key words】<br>法律行為、権利能力、行為能力、代理、時効<br>【授業概要】<br>法律効果の生じる法律行為とそれに必要な権利能力、行為能力<br>その他、代理、時効等<br>関連する事例についての討論Ｐ72～82予習：Ｐ96～102<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ72～82<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：教科書　Ｐ96～102<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１１回 | 民法2：契約総論<br>【key words】<br>契約、契約の成立、契約の効力、解除<br>【授業概要】<br>法的に拘束力される契約の原則・種類、契約の成立・効力、その解消としての解除<br>関連する事例についての討論<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ96～102<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：Ｐ102～115<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１２回 | 民法3：契約各論<br>【key words】<br>売買、賃貸借、典型契約、不法行為<br>【授業概要】<br>売買、賃貸借等の典型契約、契約がない場合にも成立する不法行為<br>関連する事例についての討論<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ102～115<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：教科書　Ｐ130～159<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１３回 | 民法4：親権<br>【key words】<br>婚姻、親子、親権<br>【授業概要】<br>夫婦の関係、親子の関係<br>関連する事例についての討論Ｐ130～159予習：Ｐ162～180<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ130～159<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：教科書　Ｐ162～180<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１４回 | 民法5：相続<br>【key words】<br>相続、遺言<br>【授業概要】<br>自らの意思に基づいて遺言、遺言のない場合のための法定相続<br>関連する事例についての討論Ｐ162～180教科書、プリント等の見直し<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ162～180<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書、プリント等の見直し<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１５回 | まとめ<br>【key words】<br>法学概論、憲法、民法、まとめ<br>【授業概要】 |

| | |
|---|---|
| | 法学概論、憲法、民法、それぞれについての重要事項のまとめＰ2～180<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ2～180<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。<br>・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。<br>・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。<br>・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。 |
| オフィスアワー | 月曜日　9時～12時 |
| 評価方法 | 定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。 |
| 教科書 | 森長秀 編著「法学入門」光生館，2015年、有斐閣「ポケット六法」 |
| 参考書 | 授業中に随時紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 経済学　　授業コード： R20191S109

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 白石憲一 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解することを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>そして毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを授業の到達目標とする。 |
| 授業の概要 | 経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション |
| | 第２回 | 貧困 |
| | 第３回 | 社会保障と経済 |
| | 第４回 | 医療経済学 |
| | 第５回 | 格差 |
| | 第６回 | GDP |
| | 第７回 | 幸福の経済学 |
| | 第８回 | ストック経済学 |
| | 第９回 | 経済成長 |
| | 第１０回 | 教育の経済学 |
| | 第１１回 | 福祉と経済学 |

| | |
|---|---|
| | 第１２回　　国際収支<br><br>第１３回　　国際金融<br><br>第１４回　　金融<br><br>第１５回　　経済学と日本経済 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。 |
| オフィスアワー | 木曜日4 限。 |
| 評価方法 | 試験（ 60%）と授業中の課題（ 40%）によって評価。 |
| 教科書 | 井堀利広「大学4 年間の経済学が10 時間でざっと学べる」（KADOKAWA）2015 |
| 参考書 | 中谷巌「入門マクロ経済学」（ 日本評論社）2007 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 情報処理Ⅰ　　授業コード：R20191F120

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 藤本　壱 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>演習を中心として、情報リテラシーの理解や情報利活用能力を高め、レポート・論文の作成やプレゼンテーション、データ分析などに生かせるようにすることを目的とする<br>【到達目標】<br>①パソコンの基本的な操作を理解する<br>②基本的な情報の利活用（収集・分析など）ができる<br>③Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる<br>④P検3級の試験を受験できる<br>④Microsoft Excelでデータの集計や分析を行うことができる<br>⑤Microsoft PowerPointでプレゼンテーションができる<br>⑥情報セキュリティや情報モラルについて正しく理解できる |
| 授業の概要 | 授業を通し、情報リテラシーを理解し、情報利活用能力を高め、レポート・論文などの各種の文書を作成したり、基本的なデータ分析を行ったり、プレゼンテーションを行ったりすることができるようになることを目標とする。<br>また、パソコン検定の「P検」の3級レベルを受験できる程度の知識と技能を得られうようにする |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | オリエンテーション、パソコンの基本操作<br>【key words】<br>情報リテラシー、パソコンの基本<br>【授業概要】<br>情報リテラシーの必要性や、情報処理とパソコンの関係などを学習する<br>・講義のオリエンテーション<br>・情報リテラシーの必要性<br>・情報を利活用する上でのパソコンの役割<br>・パソコンの基本操作（キーボードの使い方など）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・情報リテラシーの基本を復習する<br>・キーボード入力を練習する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第２回 | 情報の収集と利用<br>【key words】<br>インターネット、検索、図書館 |

【授業概要】
レポート作成などの元となる情報の収集や利用の方法を学習する
・主な情報源(新聞、書籍、インターネット、etc)
・インターネットの仕組み
・ホームページの検索(Google)
・インターネットの主な情報源(統計データ、WikiPediaなど)
・図書館の蔵書の検索
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・ホームページで各種の情報を検索する
・図書館で必要な蔵書を検索する
【予習復習に必要な想定時間】
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　レポート・論文の作成(1)
【key words】
レポート、論文
【授業概要】
レポートや論文を作る基本的な流れを学習する
・レポート・論文の基本(作文との違いなど)
・レポートの構成の立て方(アウトラインを作ってから詳細に進む)
・Wordでの文書作成の基本
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テーマを立ててレポートの構成を考え、それをWordで入力する練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　レポート・論文の作成(2)
【key words】
書式、構成
【授業概要】
レポートや論文を構成する各種の項目と、それをWordで作成する手順を学習する
・基本的な書式の設定(ページ書式、文字書式、段落書式)
・文書の構成を整える(箇条書きなど)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
適切な書式設定を行い、読みやすいレポートを作成する練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　情報の分析や可視化(1)
【key words】
Excel、表、分析、可視化
【授業概要】
情報の分析・可視化のツールとなるExcelの基本を学習する
・情報の分析・可視化とExcelの関係
・Excelでの情報管理の基本(データの入力・整理など)
・Excelでの基本的な書式設定
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Excelで情報を管理する練習をする(各種のデータの入力や整理など)
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　プレゼンテーション(1)
【key words】
プレゼンテーション、PowerPoint
【授業概要】
プレゼンテーションの一連の流れや、資料作成の基本について学習する
・プレゼンテーションの流れ(準備作業、資料作成、発表など)
・資料作成前の準備(データ収集、構成の検討、会場設備の確認など)
・PowerPointでの資料作成の基本(スライド作成、書式設定など)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
プレゼンテーションのテーマを立てて、実際にプレゼンテーションすることを想定して準備作業などを行う練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　レポート・論文の作成(3)
【key words】
表
【授業概要】
レポートや論文の中で表を使って情報をまとめる場面は多いので、表の作り方を学数する
・表の作成とデータ入力
・表の操作（行／列の挿入、削除、コピー、セルの結合など操作)
・表の書式設定(罫線、網掛け、文字配置など)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
表を作る練習をしてWordやPowerPointでレポートや論文を作る際に活用する

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　レポート・論文の作成(4)

【key words】
図形、写真、ワードアート、スマートアート
【授業概要】
レポートや論文に図や写真を入れる場面も多いので、それらの扱い方を学習する
・図形の挿入と書式設定
・図や写真の挿入
・図等のレイアウト
・ワードアート(特殊なレイアウトの文字の並び)の挿入
・スマートアート(よく使いそうな図)の挿入
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
図形や写真を含む文書を作る練習をしてレポートや論文を作る際に活用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　レポート・論文の作成(5)

【key words】
改ページ、表紙、ヘッダー、フッター、スタイル、目次
【授業概要】
レポートや論文を仕上げる際に行う作業について学習する
・レポートの推敲(文章を読み直す、誤字脱字のチェック、不備がないかどうかのチェックなど)
・改ページの挿入
・ヘッダー(上余白)とフッター(下余白)の利用
・スタイル(書式の組み合わせ)の利用と設定
・目次の作成
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
レポートを美しく仕上げる練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　情報の分析や可視化(2)

【key words】
棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ
【授業概要】
多くの情報をグラフで可視化する方法を学習する
・棒グラフの作成
・グラフ要素の追加軸ラベル、データラベルなど）と書式設定
・折線、円グラフの作成
・複合グラフの作成
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グラフの作成を練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　情報の分析や可視化(3)

【key words】
計算、集計、分析
【授業概要】
多くの情報を分析する際の基本となる計算や関数の使い方を学ぶ
・Excelでの計算の基本
・データの集計(合計、最大値、最小値など)
・データ分析の基本(平均、標準偏差など)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
数式や関数を使った計算を練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　プレゼンテーション(2)

【key words】
画面切り替え、アニメーション、動画
【授業概要】
聞き手にとって分かりやすいプレゼンテーションを行うための手法や、それをPowerPointで実現する手順を学ぶ
・動きのあるプレゼンテーションの作成(アニメーション、画面切り替え)
・プレゼンテーション内での動画や音声の利用
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
動きのあるプレゼンテーションを作れるように練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　プレゼンテーション(3)

【key words】
発表、練習、アフターフォロー
【授業概要】
プレゼンテーション直前、当日、そして終了後に行うことや、それらに関するPowerPointの機能

| | |
|---|---|
| | を学習する<br>・プレゼンテーション前の準備(発表の練習、発表時間の測定と発表内容の調整など)<br>・プレゼンテーションでの話し方(視線誘導、ジェスチャーなど)<br>・アフターフォロー(プレゼンテーション後の資料の配布など)<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実際のプレゼンテーションを行えるように練習する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分<br>第１４回　文書等の活用と管理<br>【key words】<br>コピー、貼り付け、ドライブ、フォルダ、ファイル<br>【授業概要】<br>レポートや論文を作る際に、アプリケーション間でデータをコピーしたりなど、各種の作業が必要となるので、それらについて学習する<br>・アプリケーション間のコピーと貼り付け<br>・ドライブ／フォルダ／ファイルの概念<br>・フォルダ／ファイルの操作（コピー、移動、削除など）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>アプリケーション間のデータのやり取りを練習する<br>ファイル操作に慣れる<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分<br>第１５回　情報セキュリティ・情報モラルと課題説明・作成<br>【key words】<br>情報セキュリティ、情報モラル、課題<br>【授業概要】<br>情報を利活用する上で知っておくべき情報セキュリティや情報モラルを学習する<br>また、課題の作成も行う<br>・情報セキュリティ<br>・情報モラル<br>・課題内容の説明<br>・課題作成実習<br>・課題を作成して期限までに提出<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>情報セキュリティに留意し、ウィルス感染などの被害を受けないようにする<br>情報モラルを守り、他の人に迷惑をかけないようにする<br>課題を作成して期限までに提出する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | [受講生に関わる情報]<br>・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。<br>[受講のルール]<br>・積極的に授業に臨むこと。<br>・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。<br>・授業に関係のないこと（例：YouTubeを見る）をしないこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業の資料をホームページで配布するのでそれを見て復習する<br>レポート作成などで授業の内容を活用する |
| オフィスアワー | 授業開始前20分間 |
| 評価方法 | レポート課題による評価(100%) |
| 教科書 | スクリーンを利用した独自資料(ホームページで配布あり) |
| 参考書 | 繰り返して慣れる!完全マスターWord　Office365・Office2019対応、NOA出版<br>繰り返して慣れる!完全マスターExcel　Office365・Office2019対応、NOA出版<br>ドリルでマスター!PowerPoint&プレゼンテーション、NOA出版 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>Office関係の雑誌原稿執筆多数あり<br>コンピュータ関連書籍執筆多数あり<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育 |

| | |
|---|---|
| | ■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>授業を毎回録画してYouTubeで配布 |

講義科目名称： 情報処理Ⅱ　　授業コード： R20191S121

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 藤本　壱 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>情報処理Iに続き、パソコンをより深く使いこなせるようになることを目的とする。<br>また、自助具作成などのために、パソコンで立体の物を作ることも目的とする。<br>【到達目標】<br>①Word／Excel／PowerPointをより深く使いこなすことができる。<br>②3Dデータの作成方法を学び、自助具作りに生かすことができるようになる。 |
| 授業の概要 | WordおよびExcelのより詳しい使い方を学ぶ。<br>3次元モデリングソフトのFusion 360の基本的な使い方や、3Dプリンタでの出力などを学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | レポート・論文の作成(6)<br>【key words】<br>脚注、図表番号、テンプレート<br>【授業概要】<br>レポートや論文を作る上で便利な機能を学習する<br>・脚注の設定(ページ末尾の脚注、文末脚注)<br>・図表番号の設定(図表番号の入力、図表番号の参照)<br>・テンプレートの作成<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>レポートを作る際に目次や脚注等の機能を利用する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第２回 | レポート・論文の作成(7)<br>【key words】<br>セクション、ブックマーク、相互参照、引用文献<br>【授業概要】<br>レポートや論文を作る上で便利な機能を学習する<br>・段組みの設定(2段組み等)<br>・セクションで文章を複数のブロックに区切る<br>・ブックマーク(文章内に付ける目印)の挿入<br>・相互参照(ブックマークの位置のページ番号等の情報を挿入する)<br>・引用文献の挿入<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 長文作成の際にブックマークや相互参照を活用する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第３回 | 情報の分析や可視化(4)<br>【key words】<br>スパークライン、条件付き書式<br>【授業概要】<br>Excelで情報を可視化する方法を学習する<br>・スパークラインの作成<br>・条件付き書式の設定<br>・各種の条件付き書式（データバー、カラーバー、アイコンセット）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>複数の人に同じ文面の文書を送るときなどに差し込み印刷を活用する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第４回 | 情報の分析や可視化(5)<br>【key words】<br>データベース、並べ替え、抽出、ピボットテーブル<br>【授業概要】<br>多くのデータを元に分析を行う方法を学習する<br>・データベース用のデータ入力<br>・データの並べ替え<br>・データの抽出<br>・ピボットテーブルを使った集計<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>アンケートなどのデータを整理する際にExcelを活用する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第５回 | 情報の分析や可視化(6)<br>【key words】<br>相対参照、絶対参照、関数<br>【授業概要】<br>情報の分析の際に必要な各種の計算方法を学習する<br>・相対参照と絶対参照<br>・順位(RANK関数)<br>・複合条件(AND関数／OR関数)<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>Excelで複雑な計算を行う際にこの回で行ったことを利用する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第６回 | 情報の分析や可視化(7)<br>【key words】<br>名前、関数<br>【授業概要】<br>情報の分析の際に必要な各種の計算方法を学習する<br>・セルに名前を付けて数式で利用する<br>・セルにふりがなを表示する<br>・日付に関する関数<br>・文字列に関する関数<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>名前機能や各種の関数の使い方を理解する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第７回 | 3Dプリンタによる物作りの概要<br>【key words】<br>3Dプリンタ、3Dデータ<br>【授業概要】<br>3Dプリンタによる物づくりについて、その概要を学習する<br>・医療と3Dプリンタの関係<br>・3Dプリンタの仕組みや方式<br>・3Dデータの入手や作成の概要<br>・3Dプリンタでの出力の概要<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>3Dプリンタや3Dデータについて復習する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第８回 | Fusion360の基本操作(1)<br>【key words】<br>Fusion 360、立体<br>【授業概要】<br>Fusion360で基本的な立体を作る手順を学習する<br>・基本的な立体(直方体など)の作成 |

・立体の移動や回転
・各種の立体作成操作（トーラス、ミラーなど）
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
スライド資料
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　Fusion360の基本操作(2)
【key words】
スケッチ、押し出し
【授業概要】
教科書2章の作業を実際に行い、Fusion360に慣れる
・下書き画像の配置
・スケッチの作成
・スケッチの立体化
【教科書ページ・参考文献】
教科書第2章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
平面に描いたものから立体を作る方法を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　Fusion360の基本操作(3)
【key words】
スケッチ、拘束、押し出し
【授業概要】
教科書第5章の作業を実際に行い、平面に絵を描いてそれを立体化する手順を学習する
・スケッチの作成
・拘束の設定
・スケッチから立体を押し出す
【教科書ページ・参考文献】
教科書第5章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
スケッチの作成を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　Fusion 360の基本操作(3)
【key words】
フォーム
【授業概要】
粘土細工的な物作りができるフォーム機能を学習する
・フォーム
・フォームの押出
・フォームの移動
・フォームの拡大、縮小、回転
【教科書ページ・参考文献】
教科書第8章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
粘土細工のような要領で立体を作る方法を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　3Dプリンタ出力を想定したデータの作成
【key words】
サポート、分割
【授業概要】
3Dプリンターの制限を考慮して、それに対応した3Dデータを作ることを学習する
・普通には出力しづらい／できない形状
・サポートを利用して出力する
・複数の部品に分割して出力する
・ネジ穴の作り方
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
3Dプリンタで出力しづらい形状があるので、それに対応したデータを作る方法を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　自助具を作ってみる
【key words】
自助具
【授業概要】
ごく簡単な自助具を作ることを通して、Fusion360に慣れる
・ストローホルダーの作成
・スプーンホルダーの作成
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
具体的なものを作る方法を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　3Dプリンタでの出力
【key words】
スライス、素材、パラメータ、3D出力サービス

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>モデリングした3Dデータを、3Dプリンタで実際に出力するまでの流れを学習する<br>・素材の選択<br>・データのスライス<br>・出力パラメータの調整<br>・3D出力サービスの利用<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書第3章、スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>3Dデータを3Dプリンタで出力するまでの流れを復習する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分<br>第１５回　3Dデータ作成実習<br>【key words】<br>3Dプリンタ、3Dデータ<br>【授業概要】<br>・好きなものを自分で考えて作ってみる<br>【教科書ページ・参考文献】<br>なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>作成したデータを期限までに提出する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | [受講生に関わる情報]<br>・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。<br>[受講のルール]<br>・積極的に授業に臨むこと。<br>・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。<br>・授業に関係のないこと（例：YouTubeを見る）をしないこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業の資料は公開するので、それを使って復習すること |
| オフィスアワー | 授業開始前20分間 |
| 評価方法 | 平常点(50%)、3Dデータの作成（50%） |
| 教科書 | スクリーンを利用した独自資料(ホームページで配布あり) |
| 参考書 | はじめてでも簡単 ！ 3Dプリンタで自助具を作ろう、三輪書店 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>パソコン関連書籍執筆多数<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： マスメディア論　　授業コード：R20191S130

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 新井英司 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>テレビ番組の制作過程を具体的にたどりながら、ジャーナリストの情熱や工夫、技術を学び、自分の人生を輝かせる生活態度、智慧を習得する。<br>〔到達目標〕<br>①ものの見方、考え方が深められるようになる。<br>②客観的な認識の方法と態度について理解する。<br>③メディア・リテラシーが磨かれる。<br>④複眼で見る大切さを知る。<br>⑤なぜ、という問いの重要性を認識する。 |
| 授業の概要 | テレビ番組の企画、制作、報道等の現場から様々な事例を紹介するとともに、今日的なニュースや話題も数多く取り上げ、高度情報化社会を明るく楽しく生きるたくましさを養う。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | オリエンテーション |
| | 第２回 | おしゃべりは明るく元気にありがとう |
| | 第３回 | 恥かき、汗かき、原稿書き |
| | 第４回 | 3 分間スピーチは四コママンガ |
| | 第５回 | 番組づくりは八木節音頭 |
| | 第６回 | 身近なところにヒントあり |
| | 第７回 | 地名は知らないとチメイ的 |
| | 第８回 | ニュースとは何か |
| | 第９回 | 客観報道とメディア・リテラシー |

| | |
|---|---|
| | 第１０回　　たかが順番、されど順番<br><br>第１１回　　スタッフの複眼生きるナマ中継<br><br>第１２回　　実況は大和言葉で花盛り<br><br>第１３回　　アブになれ<br><br>第１４回　　人生はミスマッチ、三日三月三年<br><br>第１５回　　満点を狙わぬ結果が合格点 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | タイムリーなニュースや話題を取り上げ、意見や感想を発表い合います。その都度、資料も配布しますので、積極的に参加して下さい。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時に指示する。 |
| オフィスアワー | 毎時間授業終了後30 分は対応可能。 |
| 評価方法 | 筆記試験100%。 |
| 教科書 | テキストは特にありませんが、常時、国語辞典を携帯して下さい。（電子辞書も可） |
| 参考書 | 日々の新聞、テレビ等。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 医療英語Ⅰ　　授業コード：R20191F131

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| ザック　グレース | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①　日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。<br>②　医療の専門用語を理解できる。<br>③　英語でコミュニケーションをとる自信をつける。 |
| 授業の概要 | 医療の現場で必要な会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | Meeting Colleagues Ⅰ- Introducing Yourself to the Team / Orientation<br>・Class orientation<br>・'Getting to know you' exercise<br>・Grammar: Present simple of be<br>・Conversation 1<br>・Textbook p4 & 5<br>・Homework: Review conversation 1 |
| | 第２回 | Meeting Colleagues Ⅱ- Reading a Nursing Schedule<br>・Review conversation 1<br>・Grammar: Present simple<br>・Numbers & time expressions<br>・Textbook: p6 & 7<br>・Homework: Review conversation 1 |
| | 第３回 | Meeting Colleagues Ⅲ- Meeting Patients and their Visitors ① - Textbook p8<br>・Review time expressions<br>・Conversation 2<br>・Listening practice<br>・Textbook： p7 & 8<br>・Homework: Review conversations 1 & 2 |
| | 第４回 | Meeting Colleagues Ⅲ- Meeting Patients and their Visitors ② - Textbook p9<br>・Review conversation 2<br>・Family vocabulary<br>・Visitor's code |

| | |
|---|---|
| | ・Grammar: Imperative<br>・Conversation 3<br>・Textbook: p8 & 9<br>・Homework: Review conversations 1 ～ 3<br>第５回　Meeting Colleagues Ⅳ- Escorting a Patient for Tests<br>・Review conversation 3<br>・Ordinal numbers & dates (handout)<br>・Hospital equipment and giving comfort expressions<br>・Conversation 4<br>・Textbook: p10 & 11<br>・Homework: Review conversations 1 ～ 4<br>第６回　Nursing Assessment Ⅰ- Checking Patient Details<br>・Review conversation 4<br>・Asking for personal details<br>・Grammar: Wh- questions<br>・Patient details interview<br>・Textbook: p12 & 13<br>・Homework: Review conversations 1 ～ 4<br>第７回　Nursing Assessment Ⅱ- Describing Symptoms<br>・Review patient details<br>・Symptom vocabulary<br>・Describing and asking about symptoms<br>・Conversation 5<br>・Textbook: p14 & 15<br>・Homework:  Review conversations 1 ～ 5<br>第８回　The Patient Ward Ⅰ- The Patient Ward<br>・Review conversation 5<br>・Patient ward vocabulary<br>・Prepositions of place<br>・Grammar: There is/There are<br>・Textbook: p22 & 23<br>・Homework: Review conversations 1 ～ 5<br>第９回　The Patient Ward Ⅱ- Nursing Duties<br>・Listening<br>・Conversation 6<br>・Grammar: Present continuous<br>・Textbook p24 & 25<br>・Prepare for next week's test<br>第１０回　Review Test ①　・ノート提出 ①<br>・Do test (listening 10 minutes, writing 40 minutes)<br>・Go over answers<br>第１１回　The Body and Movement Ⅰ-  The Body: Limbs and Joints<br>・Body parts vocabulary<br>・Body movement vocabulary<br>・Conversation 7<br>・Giving exercise instructions<br>・Textbook p36 & 37<br>・Homework: Review body parts vocabulary<br>第１２回　The Body and Movement Ⅱ-  The Body: Torso and Head<br>・Review conversation 7<br>・More body parts vocabulary<br>・Giving body movement instructions (pairwork)<br>・Textbook: p38 & 39<br>・Homework: Review conversations 1 ～ 7<br>第１３回　The Body and Movement Ⅲ- Setting Goals and Giving Encouragement<br>・Review body parts vocabulary<br>・Grammar: Comparative adjectives<br>・Asking patients about their goals<br>・Conversation 8<br>・Textbook: p40 & 41<br>・Homework: Review conversations 1 ～ 8<br>第１４回　The Body and Movement Ⅳ- Documenting ROM Exercises<br>・Review body parts vocabulary<br>・Review conversation 8<br>・Review body movement<br>・ROM exercise vocabulary<br>・Textbook p42 & 43<br>・Prepare for review test<br>第１５回　Review Test ②　・ノート提出 ②<br>・Do test<br>・Go over answers<br>・Japanese things quiz (speaking practice)<br>・Revise for final test |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。<br><br>〔受講のルール〕<br>・授業をよく聞いて、ノートをとる。<br>・ペアーワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。 |

| | |
|---|---|
| | ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。<br>・分からない単語があれば、調べておくこと。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分は対応可能 |
| 評価方法 | 筆記試験（論述・客観）、聞き取りを含む　９０％　・　ノート提出、評価　１０％ |
| 教科書 | 「著者」 Ros Wright & Bethany Cagnol　「書名」 English for Nursing ① - Course Book　「出版社」 PEARSON　「出版年」 2012 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 医療英語Ⅱ　　授業コード： R20191S132

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| ザック　グレース | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。<br><br>〔到達目標〕<br><br>①　日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。<br>②　医療の専門用語を理解できる。<br>③　英語でコミュニケーションをとる自信をつける。 |
| 授業の概要 | 医療の現場で必要な会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　Medication Ⅰ- Medication Routes and Forms / Orientation<br>・Medication vocabulary<br>・Prepositions<br>・Talking to patients about medication (listening)<br>・Conversation 1<br>・Textbook p44 & 45<br>・Review conversation 1<br>第２回　Medication Ⅱ- Dosages and Frequency<br>・Review conversation 1<br>・Dosage and frequency vocabulary<br>・Expressions of frequency<br>・Textbook p46 & 47<br>・Review conversation 1<br>第３回　Medication Ⅲ- Side Effects; Assisting Patients with Medication<br>・Side effects vocabulary<br>・Talking to patients about medication and side effects<br>・Grammar: Auxiliary verbs (may/might)<br>・Conversation 2<br>・Textbook: p48 & 49<br>・Review conversations 1 & 2<br>第４回　Communicating with Relatives by Phone<br>・Telephone etiquette<br>・Grammar: Auxiliary verb (will)<br>・Conversation 3 |

| | |
|---|---|
| | ・Textbook p50 & 51<br>・Homework: Review conversation 1 ～ 3<br>第５回　Moving and Handling Patients<br>・Equipment for moving and handling patients vocabulary<br>・Grammar: Phrasal verbs, be + going to, will<br>・Conversation 4<br>・Textbook: p52 & 53<br>・Homework: Review conversation 1 ～ 4<br>第６回　The Hospital Team Ⅱ- Communicating with Team Members by Phone<br>・Listening<br>・Talking on the phone: procedures and phrases<br>・Conversation 5<br>・Grammar: Past simple of be<br>・Textbook: p54 & 55<br>・Homework: Review conversations 1 ～ 5<br>第７回　Ordering Supplies<br>・Review conversation 5<br>・Listening<br>・Supplies vocabulary<br>・Grammar: Quantifiers (any, enough, much, many)<br>・Textbook: p55 ～ 57<br>・Homework: Review conversations 1 ～ 5<br>第８回　Hospital Food and Beverages<br>・Food and beverages vocabulary<br>・Grammar: a/an, some<br>・Conversation 6<br>・Textbook: p28 & 29<br>・Homework : Review conversations 1 ～ 6<br>第９回　Measurements and Quantities<br>・Review conversation 6<br>・Listening<br>・Numbers & measurements vocabulary<br>・Textbook p30<br>・Homework: Prepare for review test<br>第１０回　Review Test ①　・ノート提出 ①<br>・Do test (40 minutes)<br>・Go over answers<br>・Review test answers<br>第１１回　Caring for a Patient in the Recovery Room ①<br>・Recovery room questions<br>・Grammar: Past simple, irregular verbs<br>・Textbook p60 & 61<br>・Review conversations １ ～ ６<br>第１２回　Caring for a Patient in the Recovery Room ②<br>・Grammar: Review past simple (negative and questions)<br>・Conversation ７<br>・Christmas Listening Activity<br>・Textbook: p61<br>・Homework: Review conversation 1 ～ 7<br>第１３回　Removing Sutures<br>・Grammar: Sequencers<br>・Removing sutures vocabulary<br>・Conversation 8<br>・Textbook: p62 & 63<br>・Homework: Review conversations 1 ～ 8<br>第１４回　Assessing an Elderly Care Home Resident<br>・Care home resident vocabulary<br>・Assessment form Q & A<br>・Assessment form pairwork<br>・Textbook: p66 & 67<br>・Homework: Prepare for review test<br>第１５回　Review Test ②　・ノート提出 ②<br>・Do test<br>・Go over answers<br>・Students study by themselves and ask me questions<br>・Revise for final test |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。<br>〔受講のルール〕<br>・授業をよく聞いて、ノートをとる。<br>・ペアーワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。<br>・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。<br>・分からない単語があれば、調べておくこと。 |

| | |
|---|---|
| オフィスアワー | 授業終了後20分は対応可能 |
| 評価方法 | ・筆記試験（論述・客観）、聞き取りを含む　９０％<br>・ノート提出、評価　１０％ |
| 教科書 | 「著者」 Ros Wright & Bethany Cagnol　「書名」 English for Nursing ① - Course Book　「出版社」 PEARSON　「出版年」 2012 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 韓国語Ⅰ　　授業コード：R20191F133

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 朴惠蘭 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>ハングル（ 文字）の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付ける。<br>韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。<br>〔到達目標〕<br>1)ハングル文字が書けて正しく読める。<br>2)挨拶・生活の基本会話を身に付ける。<br>3)韓国語で自己紹介が出来る。<br>4)パソコンで韓国語の入力が出来る。 |
| 授業の概要 | ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が出来る様に何度も口に出して練習する。<br>ハングルの仕組、特徴を理解し読み書き出来る様にくり返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　　オリエンテーション　ハングルについて、語順、仕組み、特徴<br>第２回　　ハングルの母音、出会いの挨拶<br>第３回　　ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶<br>第４回　　ハングルの子音（ 平音、激音、濃音の相違点）　感謝、謝罪の際の会話<br>第５回　　ハングルの二重母音、有声音化　食事の時の会話<br>第６回　　ハングルのパッチム、お願いの時の会話<br>第７回　　ハングルの二重パッチム、お休みの時の挨拶<br>第８回　　ハングルの発音の法則　弱化、連音化、鼻音化、激音化、濃音化 |

| | |
|---|---|
| | 第９回　　ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記<br><br>第１０回　　パソコンでのハングルの入力の仕方<br><br>第１１回　　～は～ですの文型、自己紹介<br><br>第１２回　　～は何ですか？の文型　指示代名詞<br><br>第１３回　　疑問詞を用いての分の表現　（ いつ、どこ、なに、だれ）<br><br>第１４回　　ある、ない、分かる、分からないの表現<br><br>第１５回　　読み書きのまとめ、日常会話の復習 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する事が望ましい。<br>文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。<br>韓国語Ⅰに続けて韓国語Ⅱも一緒に履修する事が望ましい。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。 |
| オフィスアワー | 授業の15 分前、授業後の30 分は対応可能。 |
| 評価方法 | 定期試験60%、宿題及びレポート40%。 |
| 教科書 | 李昌圭著『韓国語へ旅しよう（ 初級）』　朝日出版社 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 韓国語Ⅱ　　授業コード：R20191S134

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 朴惠蘭 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>基礎会話から少し進んだ日常会話を身に付ける。数字、番号、物の値段が言えるようにする。言葉を通じて韓国語と日本語の発想、表現の違いなどを確認して行く。韓国に興味が持て、現代韓国社会・文化と現代日本社会・文化との共通点と相違点を知る。<br>〔到達目標〕<br>1)基礎会話から進んだ日常会話を身に付ける。<br>2)月・日・番号・値段が言える。<br>3)韓国語と日本語の共通点、相違点を知る。<br>4)簡単な発表などを韓国語で出来る様にする。<br>5)韓国の社会・文化・歴史に対する理解を深める。 |
| 授業の概要 | 韓国語Ⅰで韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、書く・読む・話すの4 機能のうち書くこと・話す事にやや比重を置いて授業を進めて行き会話力を身に付ける。疑問詞、数詞などを用いて教科書の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　　否定文の表現　助詞～も<br>第２回　　指示代名詞　(事物・場所)　身の回りの単語<br>第３回　　家族の呼び名　助詞～の<br>第４回　　この～は誰の物ですかの文型<br>第５回　　位置関係の言葉<br>第６回　　何処に～がありますの文型　助詞～が　（ 主格助詞）<br>第７回　　助詞～に　（ 場所）、～と　（ 並列・羅列）<br>第８回　　動詞、形容詞の会話体　（ です、ます）　の活用　助詞～を　（ 目的格） |

| | |
|---|---|
| | 第９回　　～で～をしますの文型　助詞～で<br><br>第１０回　　体の名称の単語　主要副詞語<br><br>第１１回　　時を表す言葉　疑問を表す言葉<br><br>第１２回　　映像で学ぶハングル<br><br>第１３回　　尊敬型の活用　曜日<br><br>第１４回　　リウル変則用言、助詞～しに<br><br>第１５回　　まとめ　（ 助詞　活用　変則活用の復習） |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 日常生活及び身近な一般的な題材を中心に会話を学んで行く授業である。日本語の発音と似ている単語も多く、新たな発見も有り、とても学び易い言語でもある。身に付ける為には、繰り返しの練習、復習が必要である。原則として「韓国語Ｉ」の修了者を対象とする。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。 |
| オフィスアワー | 授業の15 分前、授業後の30 分は対応可能。 |
| 評価方法 | 定期試験60%、宿題及びレポート40%。 |
| 教科書 | 李昌圭著『韓国語へ旅しよう（ 初級）』　朝日出版社 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 中国語Ⅰ　　授業コード：R20191F135

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 岡野康幸 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>・中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を修得することにより、自身に関する簡単なことが言えるようにする。<br>・中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。<br>〔到達目標〕<br>・ピンインを見て発音ができるようになる。<br>・中国語であいさつ・簡単な自己紹介ができるようになる。 |
| 授業の概要 | 中国語は声調（ 音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（ 予習・復習）の筋道をつける。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　授業オリエンテーション（ 教科書2・3 頁を読んでおく）<br>第２回　第1 課　你好（ こんにちは）　中国語の音節　声調　ドリル<br>第３回　第2 課　明天见（ また明日）　単母音　複母音　ドリル<br>第４回　第3 課　谢谢（ありがとう）　子音（ １ ）ドリル<br>第５回　第4 課　好久不见（ お久しぶり）　子音（ ２ ）　鼻音　ドリル<br>第６回　第5 課　迎接　（ 出迎える）　名前の言い方・たずね方<br>第７回　第6 課　欢迎会（歓迎会）　動詞「是」・助詞「的」の使い方<br>第８回　第7 課　打的（ タクシーに乗る）　基本語順S+V+O　連動文<br>第９回　第8 課　住宿（ 宿泊する）　希望・願望を表す「想」、「いる・ある・持っている」を表す「有」、指示代名詞 |

| | |
|---|---|
| | 第１０回　　第9 課　问路（ 道を尋ねる）動詞「在」・前置詞の使い方<br><br>第１１回　　第10 課　买东西（ ショッピングをする）　数の言い方・お金の言い方・値段の尋ね方<br><br>第１２回　　第11 課　聊天儿（ おしゃべりをする）　年月日・曜日の言い方、年齢の言い方<br><br>第１３回　　第12 課　点菜（ 料理を注文する）　量詞、動詞の重ね方<br><br>第１４回　　第13 課　买足球票（ サッカーのチケットを買う）時刻の言い方、状態の変化を表す「了」<br><br>第１５回　　前期総復習 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。<br>・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。<br>・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。 |
| オフィスアワー | 毎週火曜14 時～ 16 時。 |
| 評価方法 | 期末試験70%、小テスト30%。 |
| 教科書 | 陳淑海　劉赤光『しゃべっていいとも中国語　トータル版』　朝日出版社、2014 年1 月 |
| 参考書 | 相原茂『はじめての中国語』　講談社現代新書、1990 年2 月 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 中国語Ⅱ　　授業コード：R20191S136

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 岡野康幸 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>・中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を修得することにより、身辺の日常的な事柄を表現できるようにする。<br>・中国語の学習を通して、日本語日本文化との相違に着目する。<br>・語学学習を通して、異文化理解を深めます。<br>〔到達目標〕<br>・簡単・初歩的な日常会話ができるようにする。このレベルは真面目に予習復習をすれば中国語検定4 級のレベルになります。 |
| 授業の概要 | 中国語は声調（ 音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（ 予習・復習）の筋道をつける。加えて、中国語Ⅱは語学のみならず、中国の文化歴史にも着目し授業を進めます。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 第14 課　做按摩（ マッサージをする）時間の長さの言い方　完了を表す「了」 |
| | 第２回 | 第15 課 网吧（ ネットカフェ）　動作の対象を表す前置詞「給」、助動詞「可以」「能」 |
| | 第３回 | 第16 課 打电活（ 電話をかける）　動作行為の進行を表す表現、助動詞「会」 |
| | 第４回 | 第17 課 打工（ アルバイトをする）　前置詞「在」二重目的語をとる動詞 |
| | 第５回 | 第18 課 在饭店（ レストランで）　経験を表す「过」、選択疑問文 |
| | 第６回 | 第19 課 去唱卡拉OK（ カラオケに行く）　助動詞「得」、「一～就」構文 |
| | 第７回 | 第20 課 你唱得真好（ あなたは歌がうまい）　補語結果　様態補語 |
| | 第８回 | 中国の日本事情 |
| | 第９回 | 第21 課 全家照（ 家族写真）　「是～的」構文、比較表現「比」 |

| | |
|---|---|
| | 第１０回　　第22 課 买衬衫（ シャツを買う）方向補語①単純方向補語<br><br>第１１回　　第23 課 生日晩会（ 誕生パーティー）「把」構文、方向補語②複合方向補語<br><br>第１２回　　第24 課 看DVD（ DVDを見る）　程度補語　可能補語<br><br>第１３回　　第25 課 看病（ 診察）　主述述語文　受身表現<br><br>第１４回　　第26 課 回国之前（ 帰国前）　「就要～了」構文、使役表現<br><br>第１５回　　総復習 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。<br>・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。<br>・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。 |
| オフィスアワー | 毎週火曜14 時～ 16 時。 |
| 評価方法 | 期末試験70%、小テスト30%。 |
| 教科書 | 陳淑海　劉赤光『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014 年1 月 |
| 参考書 | 相原茂他『why？にこたえる はじめての 中国語文法書』同学社、1996 年9 月<br>倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、1973 年1 月 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： スポーツレクリエーション実技　　授業コード：R20191A140

英文科目名称： Sports and RecreationPractical Skill Training

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田口敦彦 | | | |
| 基礎科目 | レクリエーションインストラクター資格取得に関わる必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 「授業の目的」レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、福祉施設、病院、学校教育の現場等で対象者や目的に合わせた支援活動できるようになることを目的とする。<br><br>[到達目標]<br><br>1.福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。<br>2.1 対1、1 対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている<br>3.既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている<br>4.対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている<br>5.福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている |
| 授業の概要 | レクリエーションの楽しさを知り、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用したレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション・レクリエーションの理解<br>【key words】<br>レクリエーション<br>【授業概要】<br>余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ指定体育着、体育館シューズを着用し装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P4～P8　学習課題の概要を確認しておくこと<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ｱｲｽﾌﾞﾚｰｷﾝｸﾞとして相応しい材料を検討しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第２回 | レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション活動の習得　レクリエーション支援のためのゲーム |

【key words】
アイスブレーキング
【授業概要】
集団の雰囲気を和らげ、無理なく、無駄なく、快く活動が進められるようなアイスブレーキングを実践し、その効果を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P66
【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニケーションゲームを実践したが、どのような効果があったのか確認しておくこと。次回は室内でできるレクリエーションを実践するがどのような活動があるか考えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のためのゲーム対象に合わせたアレンジ方法①
【key words】
アレンジ
【授業概要】
対象にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。あわせて「環境の設定」についてその用法を学ぶ。様々な「アレンジ」手法を知るとともに、基本となる「段階的なアレンジ法」を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
素材・アクティビティの中から段階的なアレンジ法を活用したアレンジに取り組んでみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　レクリエーション支援の方法　自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法　段階的に成功体験をしやすくするアレンジの基本と応用
【key words】
アレンジの方法
【授業概要】
アレンジ例を通してもともとの素材・アクティビティを最初の段階と位置付け、それを楽しむことで個人と集団の土台に、効力感を高めやすい付け足していくという原則を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アレンジ方法を用いて中高年向けの健康体操などをアレンジしてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション活動の習得　レクリエーション支援のための歌
【key words】
アイスブレイク　集団ゲーム
【授業概要】
室内でできるレクリエーションゲーム実践する。
【教科書ページ・参考文献】
対対象者にとって快適な遊びの提供とは何かを考えておくこと
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動　新聞紙を使ったレクリエーションゲーム(実践)
【key words】
アイスブレイク　集団ゲーム
【授業概要】
新聞紙を使った遊びについて理解する。新聞紙を使用するだけで様々なゲーム　遊びができることを確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分にはどんなレクリエーションが提供できるか考えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング
【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第８回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング
【授業概要】

| | | |
|---|---|---|
| | | レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書P162～206<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>2時間 |
| | 第９回 | レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　(企画案の評価及び好評)<br>【key words】<br>レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング<br>【授業概要】<br>レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P162～206<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第１０回 | レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動<br>【key words】<br>アレンジ　キンボール<br>【授業概要】<br>対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第１１回 | レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動<br>【key words】<br>アレンジ　キンボール<br>【授業概要】<br>対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第１２回 | レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）<br>【key words】<br>レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング<br>【授業概要】<br>レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書P162～206<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>2時間 |
| | 第１３回 | レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）<br>【key words】<br>レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング<br>【授業概要】<br>レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書P162～206<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>2時間 |
| | 第１４回 | レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　(企画案の評価及び好評)<br>【key words】<br>レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング<br><br>【授業概要】<br>レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書P162～206<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこ |

と。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　前期の振り返り　まとめ
【key words】
レクリエーション支援
【授業概要】
前期の授業の振り返りとレポートについての確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前期レポート指示を確認し振り返りを行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための歌
【key words】
リズム、地域文化伝承、地域貢献
【授業概要】
前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域のおける文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する
【教科書ページ・参考文献】
参考書P25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
積極的な参加を心がけること
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための歌
【key words】
リズム、地域文化伝承、地域貢献
【授業概要】
前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域のおける文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する
【教科書ページ・参考文献】
教科書P25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
積極的な参加を心がけること
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　レクリエーション支援の方法　信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ　①あたたかくもてなすという意識と配慮
【key words】
ホスピタリティ、コミュニケーションワーク
【授業概要】
レクリエーションの提供を効果的に行うためには、対象者との良好なコミュニケーションが欠かせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティについて学習する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P58
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日常の生活の中でホスピタリティについて意識してみる。そこから良好なコミュニケーションの取り方を実践してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　レクリエーション支援の方法　信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ　②対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術
【key words】
ラポート　ジョイニング　トラッキング　アコモデーション　マイム
【授業概要】
対象者との良好なコミュニケーションをとるために信頼関係を成立させる必要性やそのための技法をについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日常生活の会話の中で信頼関係が築かれている状態とはどのようなものか。ラポートの成立している状態等について意識してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動
【key words】
ユニバーサルホッケー
【授業概要】
ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動
【key words】
ユニバーサルホッケー
【授業概要】
ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
対象者が快適に楽しめる工夫について検討しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング
【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第２３回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング
【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第２４回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　（企画案の評価及び好評）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング
【授業概要】
レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　レクリエーション支援の方法　良好な集団作りの方法・アイスブレーキング　集団がまとまる仕組みを活かすプログラム　アイスブレーキングモデル
【key words】
よりより生の実現
【授業概要】
レクリエーション支援の目的が対象者のよりよい生の実現につながることを理解する。目的に合わせて、レクリエーション支援を展開するイメージを確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P70　参考書P274
【課題・予習・復習・授業準備指示】
CASE STUDY の事例を確認しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　レクリエーション支援の方法　自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法　対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技法の活用方法（CSSプロセス）
【key words】
素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス
【授業概要】
支援者の願い＝対象者の生活課題の充実に向けて、様々な支援の「素材・アクティビティ」を選択し、展開していく際の原則的な考え方を理解する。併せて、実際の選択時に参考できる既存の「素材・アクティビティ」の分類方法について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P78　参考書P278～P287
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | |
|---|---|
| | 目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分<br>第２７回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）<br>【key words】<br>レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング<br>【授業概要】<br>レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書P162～206<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>2時間<br>第２８回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）<br>【key words】<br>レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング<br>【授業概要】<br>レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書P162～206<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>2時間<br>第２９回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　（企画案の評価及び好評）<br>【key words】<br>レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング<br>【授業概要】<br>レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書P162～206<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分<br>第３０回　1年間の振り返り　まとめ<br>【key words】<br>レクリエーション支援<br>【授業概要】<br>1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>試験に向けて配付したプリントを確認しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・レクリエーション活動(実技)を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。<br>・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。<br>・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること<br>・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。<br>・遠隔授業にて受講する場合はにはカメラ機能をオンにすること。通信環境により実施できない場合は申し出ること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ　インターネット等で収集するよう心がけること。<br>・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。 |
| オフィスアワー | 火曜日　16:00～17:30　(変更時は掲示する) |
| 評価方法 | 評価の基準：到達目標の達成度を評価する。<br>評価の方法：筆記試験50%　ﾚﾎﾟｰﾄ等提出物(活動企画書)20%　実技30%　として総合的に評価する。 |
| 教科書 | 楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法<br>(財)日本レクリエーション協会編 |
| 参考書 | 必要に応じて紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>地域においてスポーツ活動指導の経験あり<br>アクティブラーニング要素 |

| | |
|---|---|
| | □PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br><br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br><br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br><br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： レクリエーション活動援助法　　授業コード：R20191A141

英文科目名称： Assistance method of recreational activities

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1年次 | 2単位(60) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田口敦彦 | | | |
| 基礎科目 | レクリエーションインストラクター資格取得に関わる必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | ［授業の目的］：レクリエーション活動の社会的意義を理解し、福祉施設、医療機関、学校等様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者 （レクリエーション・インストラクター） として、実践できるようになることを目的とする。<br>［到達目標］：<br>1.福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。<br>2.1 対1、1 対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている<br>3.既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている<br>4.対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている<br>5.福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている |
| 授業の概要 | 年代ごとの課題や特徴をを知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験を通して学習する。対象者の成長や満足、達成感、充実感を獲得するためのレクリエーションプログラムの作成、発表、さらに脳トレ、介護予防体操等が実践できる技術を身につける。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　科目オリエンテーション　福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割<br>【key words】<br>生きがい、基本的人権、良循環<br>【授業概要】<br>余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書　レクリエーション活動援助法P2～P7<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとってのレクリエーションの在り方について考えてみる<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間<br>第２回　レクリエーション概論　レクリエーションという言葉の主旨 |

【key words】
RE-CREATE
【授業概要】
レクリエーションという言葉の由来や、様々な学説・定義から、レクリエーションがどのようにとらえられてきたかを理解し、その捉え方からレクリエーションの基本的な考え方を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P10～11　参考書　レクリエーション活動援助法P10～P11
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分がいままで体験してきたレクリエーション活動についてどのような活動があったのか思い出してみる。さらにその活動が、福祉分野においてどのように活用できるのかを考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３回　レクリエーション概論　　レクリエーション支援の目的と方法　インストラクターの役割
【key words】
　厚生、コメニウス、フレーベル、プレイグランド運動
【授業概要】
レクリエーションのルーツを理解し、社会福祉サービスの流れの中で、レクリエーションが果たしてきた役割と今後の課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P11～P24　参考書　レクリエーション活動援助法P12～P16
【課題・予習・復習・授業準備指示】
重要な語句が数多く出てきたのでしっかりとまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　基礎理論　レクリエーションへの期待
【key words】
生活者　支援者　人を支える
【授業概要】
生活者　支援者という2つの視点からレクリエーションが期待されていることを確認する。さらに人を支えていく支援者にとってのレクリエーションについて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P25～P33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P32～33に掲載されている演習問題を解いておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　基礎理論　生活のレクリエーション化
【key words】
生活のレクリエーション化
【授業概要】
レクリエーションを生活の軸に生活を遊び化してく支援の在り方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の講義でレクリエーションの生活化を学習する。本講義を良く整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　基礎理論　レクリエーションの生活化
【key words】
レクリエーションの生活化
【授業概要】
日常生活において余暇の獲得とその充実を通して自律的な余暇生活の確立を目指すことを
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回の講義で学習した生活のレクリエーション化と本講義を良く整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　日常生活におけるレクリエーションの捉え方
【key words】
基礎生活　社会生活　　余暇生活
【授業概要】
近年、余暇活動にとどまらず「人間性の回復・再創造」など広義的に理解されている。福祉領域においては利用者の主体性をより尊重し、より楽しい生活を実現していくということを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P39～P42
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ライフスタイルと基本的欲求の関係を確認しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　日常生活の３領域とレクリエーション援助の関係
【key words】
基礎生活　社会生活　　余暇生活　ライフスタイル　基本的欲求
【授業概要】
福祉領域に含まれる「レクリエーション」の在り方を理解するとともに、日常生活の３つの領域(基礎生活、社会生活、余暇生活)についてどのような援助が望ましいか理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P43～P48
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | | |
|---|---|---|
| | | それぞれの領域における必要なレクリエーション援助について確認しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第９回 | 楽しさと心の元気づくりの理論　レクリエーション活動の楽しさを感じる心の仕組み、および心の仕組みを根拠にした支援<br>【key words】<br>地域課題　コミュニティ　リージョン<br>【授業概要】<br>自分も楽しみ、その楽しさがまわりの人々や地域にも役立つことで、さらに事業を充実する方法について理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P162～P169<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>個人に働きかける場面と集団に働きかける場面について、それぞれにどんな効果があるか考えておく<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第１０回 | 楽しさと心の元気づくりの理論　楽しさが心の元気をもたらす生理的な仕組み、および社会的な仕組み<br>【key words】<br>地域課題　コミュニティ　リージョン<br>【授業概要】<br>　身近な地域（コミュニティ)とより広い範域の(リージョン)。それぞれの地域が抱える課題を理解し、解決するためのレクリエーションの活用について考えてみる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P142～157<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>自分の住む地域を調べ、レクリエーションを活用して働きけｋることができる課題についてあげてみる<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第１１回 | レクリエーション支援理論　レクリエーション支援におけるコミュニケーション<br>【key words】<br>コミュニケーションワーク　ホスピタリティ<br>【授業概要】<br>レクリエーションの提供を効果的に行うには、対象者との良好なコミュニケーションがかかせないことを理解<br>する必要がある。そのためのホスピタリティ、効果的な支援の方法を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P226～245<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ホスピタリティがどのような場面で有効的か、自分自身の活動を振り返り、その局面をイメージしてみる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第１２回 | レクリエーション支援理論　コミュニケーションワーク　アイスブレーキングのプログラミング～プログラミングの原則～<br>【key words】<br>アイスブレーキングモデル<br>【授業概要】<br>レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレーキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレーキングモデルの作成と実践活動を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P259～269<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書P268　演習を解いておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第１３回 | レクリエーション支援理論　自主的、主体的に楽しむ力を育む理論　～アイスブレーキングモデルの作成～<br>【key words】<br>アイスブレーキングモデル<br>【授業概要】<br>レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレーキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレーキングモデルの作成と実践活動を行う。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P259～269<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書P268　演習を解いておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第１４回 | レクリエーション支援のプログラム　プログラムの立案　　アイスブレーキングのプログラミング・実践　発表<br>【key words】<br>アイスブレーキングのプログラミング<br>【授業概要】<br>アイスブレーキングのプログラミングについてグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、安心感、一体感が感じられるプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む)<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P259～269 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１５回　まとめ（評価・ふりかえり）
【key words】

【授業概要】
前期　授業の振り返りとテストについての確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】
前期テストにむけて配付プリント　ノートを整理しておくこと
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１６回　楽しさと心の元気づくりの理論　ライフステージと心の元気づくり　　乳幼児期～児童期～青年期～老年期
【key words】
ライフスタイル　対応するレクリエーション課題
【授業概要】
年代ごとに大まかに共通する課題や生活環境、ライフスタイルを持っている。年代ごとの特徴を知り、対象者のニーズを把握する。さらにライフステージごとの課題について理解を深める。今回は乳幼児期～老年期を学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P70～P81
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ライフスタイルごとに対応するレクリエーションの視点について確認しておくこと。次回は青年期～老年期を学習するので先に取り上げた内容を事前に確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１７回　楽しさと心の元気づくりの理論　ライフステージと心の元気づくり　　少子高齢社会の課題とレクリエーション
【key words】
ライフスタイル　対応するレクリエーション課題
【授業概要】
少子高齢者の中でレクリエーションが働きかけることのできる課題は何か理解する。「個人、集団、環境づくり」といったレクリエーションの考え方に沿いながら、それらの課題に向けた支援方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P92～P141
【課題・予習・復習・授業準備指示】
それぞれの課題とそれに対するレクリエーション支援について何ができるか自分自身で検討してみること
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１８回　楽しさと心の元気づくりの理論　ライフステージと心の元気づくり　地域のきずなとレクリエーション（地域介護予防事業の取り組みについて）
【key words】
生活のレクリエーション化　個人への働きかけ　集団への働きかけ
【授業概要】
高齢者社会の課題に向けて、一人ひとりの対象者にどのようなレクリエーション支援が可能か、また一人の対象者を介して、その人が所属するグループや集団、対象者を取り巻く環境にどのような働きかけができるのか理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P92～116
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個人への直接的支援、あるいは個人を介した支援が有効な高齢社会の課題をあげ、具体的な働きかけを考えてみる
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１９回　支援論　治療的意味合いを含めたレクリエーション　　セラピューティックレクリエーションサービス
【key words】
レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション
【授業概要】
治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法(中央法規)　P150～P168
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回からレクリエーション計画の策定について学習を進めるが、どんなプログラムができそうかイメージを膨らませておく。

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２０回　目的にあわせたレクリエーションワーク　素材アクティビティの提供
【key words】
素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス
【授業概要】
レクリエーション支援がよりよい生の実現につながるものであることを理解する。あわせて、目的にあわせてレクリエーション支援の展開イメージを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　P274～P277
【課題・予習・復習・授業準備指示】
目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２１回　目的にあわせたレクリエーションワーク　ハードル設定　CSSプロセス
【key words】
素材・アクティビティ、すり合わせ
【授業概要】
素材、アクティビティの選択について支援側からの特質と、対象者からの楽しさのすり合わせのプロセスについて理解する。さらに学習を深めるために、素材、アクティビティの選択方法について演習を行い各自検討する。
レクリエーション実技　リズム手合わせ″

【教科書ページ・参考文献】
教科書　P278～P287
【課題・予習・復習・授業準備指示】
素材、アクティビティの選択が支援者の思いと対象者の目標により、慎重に検討されていることを確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２２回　目的にあわせたレクリエーションワーク　対象者間の相互作用の活用法
【key words】
ハードル設定　CSSプロセス
【授業概要】
達成感の積み重ねが対象者の有用感・自尊感情を満たし、前向きな姿勢や意欲を引き出すこと、ハードルの設定について理解する。さらに対象者間の相互作用が、対象者自ら支援の目的に近づく原動力となる原則を確認する。活用する基本技術としてのCSSプロセスについても理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P288～P297
【課題・予習・復習・授業準備指示】
リズム手遊びにみるハードルの設定について確認しておく。普段の遊びの中からCSSプロセスを実践してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２３回　目的にあわせたレクリエーションワーク　指導実習
【key words】
ハードル設定　CSSプロセス
【授業概要】
乳幼児から高齢者まで幅広い支援の対象者に好まれている歌や体操を用いて、支援の良い手段として「素材・アクティビティ」を活用する技術を理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回紹介した技術を自分たちでも実践できるように復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２４回　レクリエーション支援のプログラム　事業計画　レクリエーション事業とは
【key words】
マズロー５段階欲求説　生活の快　動機づけ
【授業概要】
レクリエーションプログラムを計画する際の基本的な考え方について理解する。また利用者のレクリエーションニーズの実現とレクリエーションの動機づけについて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P162～P169　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P26～P27
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の得意とすることを活かしてどんな事業が展開できるかイメージを膨らませておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２５回　レクリエーション支援のプログラム　アセスメントに基づいたプログラム計画　A-PIEプロセス～ニーズの確認　目標設定　展開　期待される効果　～
【key words】
A-PIEプロセス
【授業概要】
A－PIEプロセスの手順とそれぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P184～P195　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P40～P45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
A-PIEプロセスについてテキストにでている事例を確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２６回　レクリエーション支援のプログラム　レクリエーション事業のプログラムの組み立て方～集団を介して個人にアプローチする支援計画のつくり方～
【key words】
レクリエーションプログラム総合計画　A-PIEプロセス
【授業概要】
福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づき計画前の確認を行う。その後、展開の技術について理解を深め、グループごとにレクリエーションプログラムの作成を行う。
【教科書ページ・参考文献】

| | |
|---|---|
| | 教科書P162～P195　　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。その際に、支援者の対象者への思いを必ず確認すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間<br>第２７回　レクリエーション支援のプログラム　プログラムの立案　事業計画　レクリエーション事業のプログラムの組み立て方<br>【key words】<br>Plan Do See プロセス<br>【授業概要】<br>「企画・準備・実施・整理」の段階から構成されるPlan-Do-Seeプロセスの手順と、それぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P196～P207　　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>自分の住む地域の課題を想定し、目標設定とそれに基づく地域住民を対象とした事業計画をつくってみる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間<br>第２８回　レクリエーション支援のプログラム　リスクマネジメント　リスクマネジメントの方法～<br>【key words】<br>リスクマネジメント<br>【授業概要】<br>レクリエーション活動における安全管理の必要性と方法について学習し、自己だけでなく犯罪や災害をも視野に入れた安全管理の考え方について理解を深める<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P208～P223　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>子ども、高齢者のプログラムイベントでどんなリスクがあるか確認しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間<br>第２９回　レクリエーション支援のプログラム　　レクリエーションプログラムの計画発表及び実践<br>【key words】<br>レクリエーションプログラム総合計画<br>【授業概要】<br>福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づきそれぞれのグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、利用者の心を動かすプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む)<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P162～P195<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間<br>第３０回　　一年間のまとめ（評価・ふりかえり）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>後後期試験に向けてノート、プリントを整理しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。　また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。<br>・授業シラバスを必ず確認すること。<br>・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。<br>・遠隔授業にて受講する場合はにはカメラ機能をオンにすること。通信環境により実施できない場合は申し出ること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験（世代間交流）の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。 |
| オフィスアワー | 火曜日　16:00～17:30　(変更時は掲示する) |
| 評価方法 | 筆記試験６０％　　授業中レポート２０％　　グループワーク及び発表２０％<br>（詳細な評価基準は授業シラバス参照） |
| 教科書 | 楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法<br>(財)日本レクリエーション協会編 |
| 参考書 | 参考書　【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】　【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会)　　【レクリエーション活動援助法】　(中央法規) |

| | |
|---|---|
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>地域スポーツクラブでの指導経験あり<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 基礎演習Ⅰ(OT)　　授業コード：020191A170

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 悴田敦子 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。また、データベースを用いて適切な情報を探索し、得られた情報を分析・整理する力を育む。<br>①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。<br>②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。<br>③レポートを形式に則って作成できる。<br>④グループワークを円滑に実施できる。<br>⑤発表を簡潔にわかりやすく行える。<br>⑥実際の場面において適切な身だしなみ、態度、時間厳守、報告・連絡・相談が実践できる。<br>⑦データベースを用いて適切な情報を探索し、得られた情報を分析・整理することができる。 |
| 授業の概要 | 本学の建学の精神・教育目的に基づき、自律的実践能力（マナー、バランス感覚、挨拶、服装、時間厳守、環境美化、ボランティア等）や基礎学士力（読書力、発表力、企画力等）の定着を図る。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | 建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション、建学の精神、基礎学士力の育成、ポートフォリオについて<br>【key words】<br>建学の精神、基礎学士力、ﾎﾟｰﾄフォリオ<br><br>【授業概要】<br>基礎学士力とは何か。また、基礎演習Ⅰにおいて建学の精神を基に基礎学士力を培うことの必要性を理解する。円滑な学生生活を行うために自らがどのように行動しなければならないかを考える。<br>ﾎﾟｰﾄフォリオについて概要、制作方法について説明する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：建学の精神について調べ、資料を印刷してくること<br>課題：基礎学士力を培うために、4年間の目標および1年生の目標をたてること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第２回 | 建学の精神と実践教育プログラム②：礼儀、挨拶の実践<br>【key words】<br>建学の精神、礼儀、挨拶<br><br>【授業概要】<br>他者から好感をもたれる礼儀・挨拶について、電話のかけ方、ﾒｰﾙの受信・送信についてまとめ実践できるようにする。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題：適切なメールの送信文を作成すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第３回 | 建学の精神と実践教育プログラム③：学び方、ﾉｰﾄの取り方について |

【key words】
基礎学士力、学び方、ノートの取り方
【授業概要】
高校までの授業の受け方と大学での授業の受け方の違いを説明し、主体的な学びへと取り組めるよう日々の学習の仕方、ノートの取り方を紹介する。また、ポートフォリオについて概要、制作方法を再確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：大学での授業の受け方、ノートの取り方について実践したい方法をまとめること
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第４回　建学の精神と実践教育プログラム④：図書館の利用について
【key words】
建学の精神、基礎学士力、図書館の利用、データベース、文献検索、情報リテラシー
【授業概要】
図書館の利用について説明する。また、レポートや卒業論文を制作する際に必要な資料を引用する時の注意点、電子資料の使い方について説明する。
第1回～第3回までに作成したポートフォリオを互いに確認し合い、ポートフォリオの作成方法を確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：本学図書館の契約電子資料を用いて、興味を持った文献を一つ以上印刷し、要点にアンダーラインを引くこと
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第５回　建学の精神と実践教育プログラム⑤：グループワーク手法、礼儀、挨拶、身だしなみ
【key words】
建学の精神、グループワーク手法、礼儀、挨拶、身だしなみ

【授業概要】
グループワークの1手法であるKJ法について説明する。その後、実際にKJ法を使用し、他者から好感をもたれる身だしなみ、礼儀・挨拶について、グループワークを行い、まとめる。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：グループワークの内容をまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第６回　建学の精神と実践教育プログラム⑥：個人情報保護について
【key words】
建学の精神、個人情報保護、情報リテラシー

【授業概要】
医療従事者にとって情報管理は最重要課題である。初年次よりこのことについて理解することは今後の学習のみならず、社会人としての素養として必要である。ここでは、群馬県警察から講師を招き、サイバーテロやインターネットの利用について講義を受ける。遠隔授業やネットショッピングなどでPCを使用する機会が急増している今、今後の生活に役立てる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：個人情報の漏えいに関する記事を集め、要点にアンダーラインを引くこと。
また、漏えい防止のために行うべきことをまとめること

【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第７回　学士力育成プログラム①：　レポートの書き方①、個人情報の取り扱いについて
【key words】
学士力、レポートの書き方、文献検索、情報リテラシー
【授業概要】
レポートの書き方についてグループワークを行う。また、レポート作成における個人情報の取り扱いについても学ぶ。
各自準備した文献をグループで共有し、論文の構成、整合性、考察における引用文献の使用などについて確認する。

【予習課題】次回までに図書館及び契約電子資料を用いて文献を検索し、各自1点以上の文献を印刷したうえで次回持参すること。文献は原著論文のみ。文献検索のテーマは自由

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：発表用レジュメ（A4用紙2枚、パワーポイントのスライド18枚以内）を作成し、発表前に提出する。提出期限は後日提示する。

【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第８回　学士力育成プログラム②：レポートの書き方
【key words】
学士力、レポートの書き方、文献検索、情報リテラシー

【授業概要】

グループ毎に発表を行い、医学教育におけるレポートの書き方について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：発表内容を踏まえて、第7回で使用した文献が医学教育におけるレポート形式となるよう補足すること

【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第９回　建学の精神と実践教育プログラム⑦：身だしなみの実践

【key words】
建学の精神、礼儀、身だしなみ

【授業概要】
臨床の場面を想定し、他者から好感をもたれる身だしなみとして制服・ケーシー（実習着）を着用する。実践した身だしなみについて他者評価を受け、改善点を理解する。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：制服・ケーシーを着用した立位姿勢（前面・後面）を写真に撮り、気づいた点・改善点を付記し、ポートフォリオにまとめる。

【予習復習に必要な想定時間】
60～90分
punn
60~90分

第１０回　建学の精神と実践教育プログラム⑧：礼儀・挨拶、環境美化について①

【key words】
建学の精神、礼儀、挨拶、環境美化

【授業概要】
学生生活や臨床場面において礼儀のある対応やより良い挨拶が行えるよう普段の生活を振り返り、改善策を考える。環境美化の必要性は誰しも理解しているが、臨床場面(病院での環境衛生)においてのその重要性を考える。「感染症予防」や「標準予防策」の環境整備に焦点を当て、現在の環境美化活動を振り返る。
【レポート課題】前期を振り返り、理学療法士または作業療法士としての資質について、基礎演習で学んだことをまとめ、先行研究をもとに考察し、レポートにまとめる。文献検索のキーワードは「社会人基礎力」「マナー」「感染症予防」「環境整備」とする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
レポート課題あり
ポートフォリオの最期にレポートを入れ、ポートフォリオを提出する。
提出期限は、後日提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
120～180分

第１１回　学士力育成プログラム③：前期の活動の振り返り

【key words】
建学の精神、礼儀、挨拶、環境美化、身だしなみ、個人情報、ポートフォリオ
【授業概要】

前期に学んだ内容についてポートフォリオをもとに振り返る。また、ポートフォリオについて他者評価を受ける。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

ポートフォリオを持参すること。
課題：他者評価の結果をもとにポートフォリオを作成し直すこと

【予習復習に必要な想定時間】
120～180分

第１２回　学士力育成プログラム④：レポートの書き方③

【key words】
建学の精神、礼儀、挨拶、環境美化、レポートの書き方
【授業概要】
礼儀・挨拶・環境美化のレポートの読みあわせを行い、レポートの書き方を確認する。
用紙の使用方法、ナンバリング等レイアウトのルール、レポートのテーマの一貫性などについて検討し、書き方のルールを習得する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：適切なレポートの書き方に基づき、修正をすること

| | |
|---|---|
| | 【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分<br>第１３回　学士力育成プログラム⑤：【事前学習：命の大切さ】<br>【key words】<br>命の大切さ、安全性、情報リテラシー<br><br>【授業概要】<br>1985年8月12日に起こった日航機墜落事故について、何故事故が起こったのかその原因と共に理解する。データベースを用いて調べた後、正確な情報とは何か、情報の分析について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：日航機墜落事故について調べ、資料を印刷し、要点にアンダーラインを引くこと。<br>課題：グループで話し合った内容をまとめておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分<br>第１４回　学士力育成プログラム⑥：【講演：命の大切さ】<br>【key words】<br>命の大切さ、安全性、情報リテラシー<br><br>【授業概要】<br>命の大切さについて、いのちを織る会事務局の美谷島氏の講演を聴講する。遺族の思いや安全面について考える機会を持つ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題：講演内容をまとめておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分<br>第１５回　学士力育成プログラム⑦：【まとめ：命の大切さ】<br>【key words】<br>命の大切さ、安全性、情報リテラシー<br><br>【授業概要】<br>聴講した内容を基に、事前学習内容を整理する。当事者の思い、遺族の思いについて考える。<br>また、事故や災害などで甚大な影響が及ばないよう安全面について考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>レポート課題：日航機墜落事故についてまとめ、突然発症した患者と向き合いながらPT・OTとして働くことについての自身の考えを述べよ。<br>提出期限は、後日提示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | グループワークや発表は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。<br>①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと。<br>②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない。<br>③授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。<br>④内容が類似した課題は受け付けないため、自己の努力で作成すること。<br>⑤提出物等が基準を満たさない場合は、再提出とする。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 毎回、課題が提示されるので、シラバスを確認すること。<br>全ての回で、情報収集、資料作成を行い、ポートフォリオを作成する。<br>また、発表では、指定時間を厳守し、わかりやすく伝える工夫をすること。 |
| オフィスアワー | 木曜日16：00～17：00 |
| 評価方法 | ◆レポート30%◆発表30%◆ポートフォリオ40%<br><br>＜レポート採点基準＞<br>①表紙：タイトルが適切に記載できた（2点）　必要項目が全て指定の書式に則り記載できた（2点）<br>②はじめに：レポートの主旨がわかるように適切に記載できた（4点）<br>③内容：レポートのテーマに沿って、記載の漏れなく適切に記載できた（8点）<br>④考察：テーマに沿って文献を使用して適切に記載できた（8点）<br>⑤終わりに：学んだことのまとめや今後について記載できた（3点）<br>⑥文献：引用文献を正しい表記の仕方で記載できた（3点）<br><br>＜発表評価基準＞<br>①声の大きさ・明瞭度：聞きやすい声の大きさと明瞭度で発表できた（3点）<br>②内容：体験したこと・学んだことなどが適切に十分記載できた（10点）。所々不十分（5点）。不十分（1点）<br>③態度：開始・終了の挨拶、発表中の姿勢が適切であった（2点）<br>④時間：4分30秒以上5分以内（5点）　4分以上4分30秒未満（3点）　4分未満、5分超え（1点）<br>⑤レジュメ：見やすさ・内容共に十分（10点）　所々不十分（5点）　不十分（1点）<br><br>＜ポートフォリオ評価基準＞<br>①ポートフォリオの基本事項が守られている |

| | |
|---|---|
| | 1)全ての資料に日付が記載されている（5点）<br>2)日付順にファイリングしてある（5点）<br>3)全ての資料に出典が記載されている（5点）<br>4)全ての資料に考察が書かれている（10点）<br>②資料<br>1)各回の全ての配布資料がファイリングされている（5点）<br>2)自ら収集した資料（授業中にメモした資料も含む）がファイリングされている（10点） |
| 教科書 | 知へのステップ、学生生活HAND BOOK |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>病院、老人保健施設にて身体障害領域・老年期障害領域の作業療法士として10年ほど勤務し、現在、群馬県東吾妻町、埼玉県本庄市の地域支援に関わっている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 基礎演習Ⅱ(OT)　　授業コード：020192A171

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 2年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂駿・新谷益巳 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確実なものとする。読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。<br>【到達目標】<br>①ディベートを通して、傾聴、発言、論理的説明ができるようになる。<br>②自分のコミュニケーションの特徴を理解することができる。<br>③国際福祉機器展を通して、最新の福祉機器について学ぶとともに、グループ活用および発表を通して伝達力を養う。 |
| 授業の概要 | 基礎演習Ⅱでは、①建学の精神と実践教育、学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を学習する。また、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 建学の精神と実践教育プログラム　１：科目オリエンテーション<br>【key words】<br>学士力，社会人基礎力，建学の精神.<br>【授業概要】<br>・学士力，建学の精神基礎．学士力向上に必要な知識/技能について学ぶ.<br>・第1回から第15回までのシラバス内容について説明する.<br>・前期は計8回，後期は計7回の実施予定.<br>・SA制度について.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>基礎演習テキスト、学生生活GUIDE<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>基礎演習Ⅰの振り返りをしておくこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第２回 | 学士力育成プログラム１：ディベートについて　1<br>【key words】<br>グループ，ディスカッション，傾聴.<br>【授業概要】<br>ディベートについて<br>・基本的な考え方を学び，その方法や手順などを理解する.<br>・ディベートを通して自分自身の意見を相手に伝える方法について学び，それを実践することの難しさを経験する.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・資料を配布する．また，参考書を紹介する.<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・ディベートについて，講義終了後に復習を通して理解すること.<br>・資料はポートフォリオにまとめ，日付およびコメントを付け加えて見やすくしておくこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度 |
| | 第３回 | 学士力育成プログラム２：ディベートに向けた準備　２－①<br>【key words】<br>グループ，ディスカッション，傾聴.<br>【授業概要】<br>事前学習 |

・ディベートに向けた課題を通して，事前に自身の考えをまとめ，それを裏付ける資料を収集しまとめる．
【教科書ページ・参考文献】
・資料を配布する．また，参考書を紹介する．
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・自信の考え方をまとめるための資料集めを行う．
・資料はポートフォリオにまとめ，日付およびコメントを付け加えて見やすくしておくこと．
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第４回　学士力育成プログラム３：ディベートの実践　２－②
【key words】
グループ，ディスカッション，傾聴．
【授業概要】
ディベート
・事前学習で調べたことと，自身の考えをまとめた上で，ディベートに臨む．
・他者の発表時には傾聴する．
・意見がある時は，否定的な意見ではなく，建設的な意見で述べること．また，論理的な説明力を身につける．
【教科書ページ・参考文献】
・資料を配布する．また，参考書を紹介する．
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・自身の考えをまとめておくこと．わかりやすい資料なども用意する．
・資料はポートフォリオにまとめ，日付およびコメントを付け加えて見やすくしておくこと．
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第５回　学士力育成プログラム４：ディベートの振り返り　２－③
【key words】
グループ，ディスカッション，傾聴．
【授業概要】
振り返り
・ディベートを通しての反省を行う．準備から実施までで不足していた点など．次回に向けて改善策を考える．
【教科書ページ・参考文献】
・資料を配布する．また，参考書を紹介する．
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・第1回目のディベートを通して自身の反省および改善点を書き出し次回に向けた対策を行うこと．
・自信の考え方をまとめるための資料集めを行う．

【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第６回　学士力育成プログラム５：ディベートに向けた準備　３ー①
【key words】
グループ，ディスカッション，傾聴．
【授業概要】
事前学習
・ディベートに向けた課題を通して，事前に自身の考えをまとめ，それを裏付ける資料を収集しまとめる．
【教科書ページ・参考文献】
・資料を配布する．また，参考書を紹介する．
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・自身の考えをまとめておくこと．わかりやすい資料なども用意する．
・資料はポートフォリオにまとめ，日付およびコメントを付け加えて見やすくしておくこと．
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第７回　学士力育成プログラム６：ディベートの実践　３－②
【key words】
グループ，ディスカッション，傾聴．
【授業概要】
ディベート
・事前学習で調べたことと，自身の考えをまとめた上で，ディベートに臨む．
・他者の発表時には傾聴する．
・意見がある時は，否定的な意見ではなく，建設的な意見で述べること．また，論理的な説明力を身につける．
【教科書ページ・参考文献】
・資料を配布する．また，参考書を紹介する．
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・自身の考えをまとめておくこと．わかりやすい資料なども用意する．
・資料はポートフォリオにまとめ，日付およびコメントを付け加えて見やすくしておくこと．
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第８回　学士力育成プログラム７：ディベートの振り返り　３－③
【key words】
グループ，ディスカッション，傾聴．
【授業概要】
振り返り
・ディベートを通しての反省を行う．準備から実施までで不足していた点など．
【教科書ページ・参考文献】
・資料を配布する．また，参考書を紹介する．
【課題・予習・復習・授業準備指示】
振り返り
・第2回目のディベートを通して自身の反省および改善点を書き出しポートフォリオにまとめておくこと．

【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第９回　学士力育成プログラム８：①国際福祉機器展の事前学習　「福祉機器Web2020」　後期オリエンテーション

【key words】
生活支援、環境調整、福祉機器.
【授業概要】
・グループ学習に向けて，グループ分けをおこない，各グループが取り組む課題を決める.
・国際福祉機器展の概要，過去の展示会の状況などを理解する。次に，各グループで分かれて，事前の調べ学習に向けた計画を立てる．国際福祉機器展に出展している企業をWebを通して事前学習する.

【教科書ページ・参考文献】
国際福祉機器展ホームページ　https://www.hcr.or.jp/
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各グループで担当するカテゴリーについて確認し，調べたい企業の情報収集を行う.
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第１０回　学士力育成プログラム９：②国際福祉機器展　「福祉機器Web2020」に参加

【key words】
生活支援、環境調整、福祉機器.
【授業概要】
「福祉機器Web2020」から，興味ある企業の福祉機器を閲覧し，開発目的から製品の特長など情報収集を行う．各グループで取り組む.
【教科書ページ・参考文献】
国際福祉機器展ホームページ　https://www.hcr.or.jp/
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前学習に基づいて，「福祉機器Web2020」から気になる企業を閲覧する.
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第１１回　学士力育成プログラム１０：③国際福祉機器展　「福祉機器Web2020」パワーポイントの作成および準備

【key words】
生活支援、環境調整、福祉機器.
【授業概要】
「福祉機器Web2020」から，興味ある企業の福祉機器を閲覧し，開発目的から製品の特長など情報収集を行う．パワーポイントの作成方法の提示．興味ある福祉機器の閲覧から，製品の特徴をまとめる．パワーポイント作成および発表の準備.
【教科書ページ・参考文献】
国際福祉機器展．ホームページ　https://www.hcr.or.jp/
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前学習に基づいて，「福祉機器Web2020」から気になる企業を閲覧する.
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第１２回　学士力育成プログラム１１：④国際福祉機器展　「福祉機器Web2020」　発表

【key words】
生活支援、環境調整、福祉機器.
【授業概要】
各グループでまとめたものを発表する．2会場にわかれて発表．国際福祉機器展での学外学習を通じて，「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする．グループ学習の成果をプレゼンテーションする.
【教科書ページ・参考文献】
国際福祉機器展ホームページ　https://www.hcr.or.jp/
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループで発表の予行練習を行い，聴講者にわかりやすいプレゼンテーションができるように取り組むこと.
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第１３回　建学の精神と実践教育プログラム１：児童虐待防止講話（事前学習）

【key words】
児童，虐待，防止対策.
【授業概要】
我が国の児童虐待について調べ，どの様な防止対策が実施されているか事前学習を行う.
【教科書ページ・参考文献】
国際福祉機器展ホームページ　https://www.hcr.or.jp/
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：児童虐待防止について調べ、資料を印刷してくること
復習：ポ-トフォリオの作成
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　建学の精神と実践教育プログラム２：児童虐待防止講話（講演）

【key words】
児童，虐待，防止対策.
【授業概要】
群馬県警の担当者より，児童虐待に対する防止対策について聴講する.
【教科書ページ・参考文献】
復習：講演内容をまとめておくこと．ポ-トフォリオの作成.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループで発表の予行練習を行い，聴講者にわかりやすいプレゼンテーションができるように取り組むこと.
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

| | |
|---|---|
| | 第１５回　　建学の精神と実践教育プログラム３：児童虐待防止講話（まとめ）<br>【key words】<br>児童，虐待，防止対策.<br>【授業概要】<br>聴講した内容を基に，事前学習内容を整理する．当事者の思いについて考える.<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>レポート課題：児童虐待防止についてまとめ，PT・OTとして働くことについての自身の考えを述べよ.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | コミュニケーション能力は授業だけでは身に付かないため、積極的にボランティアに参加し、授業で得た知識を実践していくこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式。新型コロナウイルスの状況によっては、Googleフォームを使ったコメントカードを提出することもある。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・各回のシラバスを確認した上で予習と復習を行うこと。<br><br>・前期においては、ディベートに関する内容が中心となるため、資料は各自で情報収集すること。そのため、予習として60分程度必要となる。<br><br>・後期は、国際福祉機器展についての見学から発表をグループで活動することとなる。そのため、企業情報の収集、パワーポイントの作成、発表の準備を行うため60～90分程度の準備が必要となる。 |
| オフィスアワー | 木曜日の午後。事前相談にて別日に行うことも可能。 |
| 評価方法 | 前期<br>・ディベートに関するポートフォリオ<br>・国際福祉機器展に関する取り組みレポート、プレゼンテーション<br>上記について総合評価で行う。<br>＊課題など提出できない場合には，再提出を指示する。 |
| 教科書 | なし |
| 参考書 | 学生生活HAND BOOk。また、参考書については授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>アクティブラーニングを含めた学習の進め方について、3週間に渡る長期講習を受けたものが担当している。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 総合演習Ⅰ(OT)　　授業コード：020193A172

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴・村山明彦 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学士力や問題解決能力等を基にして、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。問題解決の思考プロセスの体得を目指し、総合的な学士力を養成する。 |
| 授業の概要 | 総合演習Ⅰでは、論理的思考能力の基礎となる「質問力」「問題解決能力」「コミュニケーション力」をグループワーク等を通して身につけていく。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | △ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

授業計画

第１回　建学の精神と実践教育プログラム①： 科目オリエンテーション／学士力について

【key words】
オリエンテーション

【授業概要】
本科目のオリエンテーションを行うとともに、本科目で学ぶべき事項を明らかにする。
評価基準大学生における学士力について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回までに、「学士力とは何か？どのような力なのか？」という問いについて自分なりに解答できるようにしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２回　学習統合プログラム①：なぜあなたたちは「学ぶ」のか1

【key words】
学び、学士力、多様性

【授業概要】
学士号や国家資格を取得する意義とは何だろうか。
前回提示された課題の用紙を基に、学士力について理解を深め、自分が今まで学び成長したことを振り返り、今後２年間の課題を見つめなおす機会とする。
視点の多様性について（多文化・多面的視点に関する教材をみる）
【教科書ページ・参考文献】
配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
提示された課題の実施
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　学習統合プログラム②：なぜあなたたちは「学ぶ」のか2

【key words】
グループワーク

【授業概要】
定められた課題に対して、グループで解決していくための取り組みを行う。それらの活動を通し、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸの難しさや課題、メリットなどについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | | |
|---|---|---|
| | | 提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第４回 | 学習統合プログラム③：なぜあなたたちは「学ぶ」のか3<br>【key words】<br>多様性、民主主義、自由<br><br>【授業概要】<br>学士号や国家資格を取得する意義とは何だろうか。また、昨今、様々な社会的な課題が取り沙汰されているが、あなたちはそうした課題の解決にどのように寄与できるだろうか。いくつかのトピックを通して、それらについて考えることで、様々な価値観や事象の捉え方について知見を広げていく。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第５回 | 学習統合プログラム④：問題解決型学習1-1<br>【key words】<br>課題解決型学習<br><br>【授業概要】<br>提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第６回 | 学習統合プログラム⑤：問題解決型学習1-2<br>【key words】<br>課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ<br><br>【授業概要】<br>グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>180分 |
| | 第７回 | 学習統合プログラム⑥：問題解決型学習2-1<br>【key words】<br>課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ<br><br>【授業概要】<br>提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第８回 | 学習統合プログラム⑦：問題解決型学習2-2<br>【key words】<br>課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ<br><br>【授業概要】<br>グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第９回 | 学習統合プログラム⑧：問題解決型学習3-1<br>【key words】<br>課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ<br><br>【授業概要】<br>提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
提示された課題の実施
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　学習統合プログラム⑨：問題解決型学習3-2
【key words】
課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
【授業概要】
グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
提示された課題の実施
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　学習統合プログラム⑩：問題解決型学習4-1
【key words】
課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ

【授業概要】
提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
提示された課題の実施
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　学習統合プログラム⑪：問題解決型学習4-2
【key words】
課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ

【授業概要】
グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
提示された課題の実施
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　学習統合プログラム⑫：問題解決型学習5-1
【key words】
課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ

【授業概要】
提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
提示された課題の実施
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　学習統合プログラム⑬：問題解決型学習5-2
【key words】
課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ

【授業概要】
グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
提示された課題の実施
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１５回　建学の精神と実践教育プログラム②：まとめ
【key words】
建学の精神、課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ

【授業概要】
これまでの授業の振り返り

【教科書ページ・参考文献】
課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
提示された課題の実施
【予習復習に必要な想定時間】
90分

| | |
|---|---|
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>①グループワークが多いので休まないこと。<br>②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。<br>〔受講のルール〕<br>①授業概要を確認し積極的に臨むこと。<br>②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。<br>③グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定である。受講中はビデオをオンにしても安定する接続環境を整えておくこと。講師がスライドショー等でプレゼンテーションしている時はビデオ・オフでもよいが、それ以外のグループワークやディスカッション時はビデオ・オンで参加することを条件とする。ただし、機器の不調等がある場合は、事前に連絡をすること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | スレッド（Webポータル）<br>初回オリエンテーション時に詳述するが、社会人としてのマナーを踏まえた報告・連絡・相談をすること。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 論理的思考能力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。 |
| オフィスアワー | 山口・村山　火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約） |
| 評価方法 | 授業内課題100％ |
| 教科書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>山口<br>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、群馬県内各市町村での介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長、群馬県作業療法士会副会長なども務めている。(詳細は以下を参照)<br>https://researchmap.jp/t-yamaguchi<br><br>村山<br>介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として5年間の実務経験を有する。特に、地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く実践してきた。また、群馬県下において複数の市町村の介護予防事業にも携わっている。専門理学療法士（基礎理学療法・生活環境支援理学療法）、介護支援専門員、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。転倒予防指導士基礎講習会（2018年～）、群馬県フレイル予防サポーター養成（2019年～）の講師なども務める。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 総合演習Ⅱ(OT)　　授業コード： 020194A173

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 4年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 宮寺亮輔、牛込祐樹 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>本学の建学の精神・教育目的に基づき、人間としての総合的な力と問題解決能力を育成する。礼儀を重んじるとともに、ボランティア、環境美化活動、実習を通して身についた実践力をさらに高め、「仁愛」の精神をもつ自立した社会人となるためのスキルアップを図る。<br>【到達目標】<br>①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。<br>②社会人としてのマナーを身につける。 |
| 授業の概要 | 総合演習Ⅱでは、目前に迫る就職における基本的な知識を学ぶ。そして、大学4年間を振り返り自分自身を客観的に捉え直す機会とする。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | 建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション／建学の精神について<br>【key words】<br>科目オリエンテーション、建学の精神<br>【授業概要】<br>授業の流れと建学の精神について説明を行う。<br>課題であるポートフォリオの目標設定と概要説明を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>建学の精神について振り返りをしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習180分 |
| | 第２回 | 進路・資格取得プログラム①：就職活動の流れ<br>【key words】<br>就職活動<br>【授業概要】<br>就職活動の一連の流れ・スケジュールを進路の手引きを使い説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P77-81<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第３回 | 進路・資格取得プログラム②：就職活動におけるマナー講座①<br>【key words】<br>就職活動、マナー<br>【授業概要】<br>就職活動に必要となる社会人としてのマナーを学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P27-36<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第４回 | 進路・資格取得プログラム③：就職活動におけるマナー講座②<br>【key words】<br>就職活動、マナー<br>【授業概要】<br>就職活動に必要となる社会人としてのマナーを学ぶ。 |

【教科書ページ・参考文献】
P27-36
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第５回　進路・資格取得プログラム④：働くときの基礎知識
【key words】
就職活動、求人票
【授業概要】
求人票に書かれている情報は何を意味しているのかを読み解き、実際の求人票を見てみる。
気になる就職希望先の求人票をピックアップし、その内容について調べる。
【教科書ページ・参考文献】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P16-17
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第６回　進路・資格取得プログラム⑤：情報収集①
【key words】
就職活動、情報収集
【授業概要】
興味・関心のある就職希望先を調べ、求人票などの情報収集を行う。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
就職活動に関する情報収集を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第７回　進路・資格取得プログラム⑥：情報収集②
【key words】
就職活動、情報収集
【授業概要】
興味・関心のある就職希望先を調べ、求人票などの情報収集を行う。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
就職活動に関する情報収集を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第８回　進路・資格取得プログラム⑦：自己分析①
【key words】
就職活動、自己分析
【授業概要】
就職の手引きワークシートを使い、現在の自分について、自己分析、質問シートを使い、自己分析を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P85-88
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第９回　進路・資格取得プログラム⑧：自己分析②
【key words】
就職活動、自己分析
【授業概要】
就職の手引きワークシートを使い、現在の自分について、自己分析、質問シートを使い、自己分析を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P85-88
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１０回　進路・資格取得プログラム⑨：履歴書①
【key words】
就職活動、履歴書
【授業概要】
就職の手引きに従い、履歴書の書き方を学ぶ。実際に自分の履歴書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
P18-19
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１１回　進路・資格取得プログラム⑩：履歴書②
【key words】
就職活動、履歴書
【授業概要】
就職の手引きに従い、履歴書の書き方を学ぶ。実際に自分の履歴書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
P18-19

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１２回　進路・資格取得プログラム⑪：面接①<br>【key words】<br>就職活動、面接<br>【授業概要】<br>面接時の態度、表情、言葉遣いなどについて学ぶ。また、実際の面接での質問事項について、自分なりの回答を考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P27-36<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１３回　進路・資格取得プログラム⑫：面接②<br>【key words】<br>就職活動、面接<br>【授業概要】<br>面接時の態度、表情、言葉遣いなどについて学ぶ。また、実際の面接での質問事項について、自分なりの回答を考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P27-36<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１４回　進路・資格取得プログラム⑬：卒業生からのメッセージ（国家試験編）<br>【key words】<br>就職活動、卒業生講話<br>【授業概要】<br>卒業生を招き、国家試験に向けての心構えや国試対策における学習方法について講話してもらう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>卒業生講話を踏まえて、就職活動と国家試験の準備を進める。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習180分<br>第１５回　進路・資格取得プログラム⑭：まとめ<br>【key words】<br>就職活動、まとめ<br>【授業概要】<br>これまでの振り返りとポートフォリオを用いての自己評価を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>全15回の授業の振り返りを行い、ポートフォリオを作成する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>ポートフォリオ作成180分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 【受講生に関わる情報】<br>教室指定をするので確認しておくこと。ポートフォリオ作成するためA4クリアファイルを用意しておくこと。<br>【受講のルール】<br>間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。<br>ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード |
| 授業外時間にかかわる情報 | 予習復習を欠かさないこと。<br>科目内で学んだことを踏まえて、計画を立てて就職活動を進めること。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | □ポートフォリオ　100% |
| 教科書 | 学校法人昌賢学園：進路の手引き |
| 参考書 | 指定なし |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、役職者として管理運営に携わっていた経験が科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート |

| | |
|---|---|
| | ■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br><br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br><br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br><br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： ボランティア活動Ⅰ(OT)　　授業コード：020191A174

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 悴田敦子 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>ボランティアへの参加を通し、医療従事者としての基本的態度を学び、身に付ける。幅広い視点・視野、協調性、行動力といった能力を中心に培うことを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。<br>②依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。<br>③ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。<br>④グループボランティアの企画・実施を通して、協調性・コミュニケーションについて振り返り、修正することができる。 |
| 授業の概要 | 医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション：本学・本学部におけるボランティアの位置づけと自己目標の設定、ボランティアに臨むための態度<br>【key words】<br>【key words】<br>学士力、態度、志向性、ポートフォリオ、ボランティア<br><br>①目標シートを完成させて提出する。<br>②ポートフォリオを作成する。<br><br>【授業概要】<br>学士力、態度、志向性、ポートフォリオ、ボランティア、学士力とボランティアの関わりについて説明する。目標シート・目標書き出しシート・活動記録簿を含めた各種書類・資料の説明、及びボランティアの種類及び参加方法の説明をします。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>①ポートフォリオを作成する<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | ボランティア講和<br>【key words】<br>ボランティア講和、依頼ボランティア、行事ボランティア、継続ボランティア<br><br>【授業概要】<br>上級生によるボランティアに関わる講和を行う。上級生が体験したボランティアの紹介、そこで学んだこと、ボランティア参加に関するアドバイスを聞き、自らのボランティア活動計画に役立てる。また、ボランティア申し込み方法を学ぶ。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>①ポートフォリオを作成する。<br>②対面を伴わないボランティア活動について各自調べ、調べたことをポートフォリオに追加す |

る。

【予習復習に必要な想定時間】

第３回　ボランティア活動を考える①：グループボランティアについて

【key words】
ボランティア、非対面のボランティア活動、必要性

【授業概要】
感染症対策を考え、対面を伴わないボランティア活動について、事前学習した内容をグループで共有する。ボランティアを必要とする対象者、実施可能な内容についてグループで話し合い検討する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題
①ポートフォリオを作成する。
【予習復習に必要な想定時間】

第４回　車椅子体験①

【key words】
車椅子、介助者、注意点、体験、グループワーク

【授業概要】
車椅子の構造・使用方法を学び、3～4人1組のグループとなり、街中に車椅子で外出する。歩道の移動やトイレの利用など、日常生活の一部を体験し、注意・配慮する点について考える。
車椅子利用者、介助者、観察者を順に全て体験し、それぞれの体験で気づいたことを各自メモし、それをもとにグループで話し合う。
車椅子体験のまとめと考察を各グループで発表し、体験から気づいたこと、考えたことを共有する。それをもとに、対象者の心理面に配慮した適切な介助方法について考える。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
注意点
①車椅子体験に適した服装で参加。屋外に出ることを考慮すること
②メモを用意。
課題
①車椅子体験の発表用資料をグループで作成し提出する（詳細は後日提示）
②ポートフォリオを作成する。
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　ボランティア活動を考える②：グループボランティアの企画

【key words】
企画、対面を伴わないボランティア活動、情報共有、役割分担
【授業概要】
実施可能な活動内容を話し合い、実際に活動するフィールドを決めていく。企画書（予算書をを含む）を作成する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題
①企画書（予算書を含む）を作成し提出する（提出期限は後日提示）
②ポートフォリオを作成する。
③発表用資料を準備し、発表の練習を行う。
④車椅子体験の発表の練習を行う。
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　車椅子体験②：発表

【key words】
発表、発表者の態度、レジュメ

【授業概要】
車椅子体験の発表をグループごとに行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題
①グループボランティアの企画書を提出する（期限は後日提示します）
②企画の発表の練習をする。
③ポートフォリオを作成する。

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　ボランティア活動の企画の発表会

【key words】
企画、グループワーク、運営

【授業概要】
対面を伴わないボランティア活動（グループボランティア）の企画の発表会を行う。他グループの発表を参考に、修正点・改善点について話し合う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
注意点
①グループボラは企画書の許可後に開始。予算取得後物品を購入し、領収書・出納帳で管理。
課題
①ポートフォリオを作成。

②活動後に活動記録簿・ポートフォリオを1週間以内に提出する。
【予習復習に必要な想定時間】

第８回　ボランティア活動の意義・目的

【key words】
ボランティア活動の目的、建学の精神、文献検索、根拠論文
【授業概要】
本学におけるボランティア活動の目的・意義を、グループで話しあう。基礎演習で学んだKJ法を用いて意見をまとめる。また、感想や考えと言った抽象的なまとめ方ではなく、先行研究や文献を使用して根拠のあるまとめを行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題
①グループ発表用のPP資料を作成する。提出期限・提出方法等は後日提示します。
②ポートフォリオを作成する。

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　クリスマス会企画

【key words】
企画、グループワーク

【授業概要】
大学周辺に在住の方を対象に、クリスマス会を企画する。ボランティア委員を中心に、企画、準備での担当、当日の担当を決めていく。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
注意事項
①企画書の許可が出た時点から、各グループで活動を開始すること。
課題
①ポートフォリオを作成する
②発表の練習をする
【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　ボランティア活動の意義・目的の発表

【key words】
発表、ボランティア活動の目的、ボランティア活動の意義、建学の精神

【授業概要】
ボランティア活動の意義・目的について部ループで話し合い、まとめたことを発表する。他グループの発表を聞き、本学におけるボランティア活動と建学精神について学びを深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題
①ポートフォリオを作成する。
②クリスマス会の準備を各グループで進めておく
【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　クリスマス会の予演会

【key words】
企画、運営、役割分担
【授業概要】
クリスマス会の予演会を行う。実際に流れに沿ってすすめ、各担当から気づいた点、修正点を話し合い、修正を行う。

※授業開始前に使用箇所の飾りつけ、教室の準備等を行うこと
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題
①ポートフォリオを作成する。
②クリスマス会当日までに各グループで準備を進める。
【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　クリスマス会①

【key words】
企画、運営

【授業概要】
クリスマス会を実施する。各グループで準備した企画を実践し、対象者とのコミュニケーションや対応、状況に合わせた対応について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　クリスマス会②

【key words】
企画、運営

【授業概要】
クリスマス会を実施する。各グループで準備した企画を実践し、対象者とのコミュニケーションや対応、状況に合わせた対応について学ぶ。終了後、各グループ・企画で反省点を話し合う
【教科書ページ・参考文献】

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>①ポートフォリオを作成する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　グループボランティアの報告会<br>【key words】<br>発表<br>【授業概要】<br>対面を伴わないボランティアの活動報告会を行います。各グループの活動報告を聞き、情報を共有し、対面を伴わないでも行えるボランティア活動の意味・目的について考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>①ポートフォリオを作成する。<br>②次回のスピーチ原稿を用意し、発表の練習をする。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　1年間のボランティア活動の発表<br>【key words】<br>２分間スピーチ、発表<br><br>【授業概要】<br>1年間のボランティア活動・講義を通し、自分が経験したこと・学んだことについて2分間スピーチを行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>①1年間のボランティア活動・講義の経験を振り返って、成長報告書を記載し、ポートフォリオにファイルする。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ポートフォリオ用のA4クリアブックを用意し、毎回講義終了後に資料等をファイリングすること。<br><br>この科目は、ボランティア活動を通して1年間で自分自身がどの様に成長したか、自分でまとめていきます。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。<br>依頼ボランティア参加方法について十分理解し、ボランティア先や地域連携センターとトラブルのないよう、計画的に参加してください。<br>また、様々な提出物に関し、期限が切れた場合は未提出とみなします。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 初回オリエンテーション時、講義内で詳細を伝えます。 |
| オフィスアワー | 月曜日　16：30～17：00 |
| 評価方法 | ポートフォリオ70%　　ボランティア参加状況10%　　授業内発表20%<br>＜ポートフォリオ採点基準＞<br>①目標書き出しシート・目標シート：自己像をもとにそれぞれの目標が明確に記載されている（10点）<br>②目標シート（後期）：後期の活動計画、自己の課題・行動目標を具体的かつ現実的にあげられている（10点）<br>③成長報告書：1年を振り返り、自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（15点）<br>④資料：事前および事後に調べた資料、配布資料が日付順にファイリングされ、それぞれに出典・考察が書かれている（15点）<br>⑤活動記録簿：記載の漏れがなく、適切に記載できている（8点）。ボランティア参加後に速やか（1週間以内）に提出できている（12点）<br>＜ボランティア参加状況評価基準＞<br>①依頼ボランティア・継続ボランティア（グループボランティアを含む）に参加（10点）<br>＜授業内発表評価基準＞<br>①声の大きさ明瞭度：聞きやすい声の大きさと明瞭度（2点）<br>②内容：わかりやすく十分まとめられている（5点）　所々不十分（3点）　不十分（1点）<br>③態度：開始・終了時の挨拶や発表中の姿勢・視線が適切（2点）<br>④時間：1分45秒以上2分以内（3点）　1分30秒以上1分45秒以内（2点）　1分30秒以内、2分以上（0点）<br>⑤発表用資料：書式・内容ともに十分（5点）　書式・内容の一部が不十分（3点）<br>⑥質疑応答：質問に適切に答えられる（3点）　質問に不十分だが答えられる（1点） |
| 教科書 | ボランティアハンドブック |
| 参考書 | 鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法―臨床研修・臨床実習の成功戦略!，医学書院，2006 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>病院、老人保健施設にて身体障害領域の作業療法士として勤務。現在、群馬県吾妻郡、埼玉県本庄市の地域支援に関わっている。<br>リハビリテーション学部ボランティア委員としてボランティア教育・活動に関わっている。 |

| | |
|---|---|
| | アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： ボランティア活動Ⅱ（OT）　　授業コード：020192A175

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 2年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂駿・榊原清 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>ボランティア実践や模擬場面での練習を通し、医療従事者としての基本的態度を身につける。<br>〔到達目標〕<br>①社会人・職業人としての基本的マナーを身に付け、実践することができる。<br>②自身のコミュニケーション能力について客観的に評価し、分析することができる。<br>③計画、準備、実行、評価、振り返り・改善を含めた一連のボランティア実践ができる。<br>④グループメンバーとの建設的な交流、意見交換を通じ、課題解決の手立てを提案することができる。 |
| 授業の概要 | 医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。アクティブ・ラーニングを通じてこれらについて学び、医療従事者としての基本的態度を身につける。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション/ボランティア実践に向けて①<br>【key words】<br>ボランティア、目標、学士力、ポートフォリオ<br><br>【授業概要】<br>ポートフォリオ、学士力、ボランティア・本科目の位置づけと講義内容等について、今年度の目標設定やポートフォリオの作成方法などについて説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>シラバス、配布資料(穴埋め方式)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>シラバスに目を通し、講義のイメージを持つこと。ワークシートについて授業時間内に終えられなかった者は、授業時間外にまとめ終えること。授業内で行ったワークシートは順々にポートフォリオに綴じておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第２回 | ボランティア実践に向けて②<br>【key words】<br>ビジネスマナー、個人情報保護<br><br>【授業概要】<br>ビジネスマナーにおける、敬語、葉書・メール対応、個人情報保護について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>シラバス、配布資料(穴埋め方式)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ペア学習で実際にメール送信を体験するため、インターネットが使用できる通信機器（PC、スマホ、タブレット）を持参すること。授業内で行ったワークシートは順々にポートフォリオに綴じておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第３回 | ボランティア実践に向けて③<br>【key words】<br>対人関係技能、他人認知、自己認知、アサーティブコミュニケーション<br>【授業概要】<br>他者認知、自己認知、アサーティブコミュニケーションについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>シラバス、配布資料（穴埋め方式）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

ワークシートについて授業時間内に終えられなかった者は、授業時間外にまとめ終えること。授業内で行ったワークシートは順々にポートフォリオに綴じておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第４回　グループボランティア活動（企画）
【key words】
ボランティア実践、情報収集、ディスカッション、企画
【授業概要】
社会情勢等を踏まえ、社会に必要なボランティア活動について考える。調べる。
【教科書ページ・参考文献】
各省庁データ、新聞記事、原著論文等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの進捗に応じ、次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第５回　グループボランティア活動（企画）
【key words】
ボランティア実践、情報収集、ディスカッション、企画
【授業概要】
社会情勢等を踏まえ、社会に必要なボランティア活動について考える。調べる。企画書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
各省庁データ、新聞記事、原著論文等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの進捗に応じ、次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第６回　グループボランティア活動（企画）
【key words】
ボランティア実践、情報収集、ディスカッション、企画
【授業概要】
社会情勢等を踏まえ、社会に必要なボランティア活動について考える。企画書を作成する。具体的なボランティア活動内容を練り上げる。
【教科書ページ・参考文献】
各省庁データ、新聞記事、原著論文等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの進捗に応じ、次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第７回　グループボランティア活動（企画）
【key words】
ボランティア実践、情報収集、ディスカッション、企画
【授業概要】
社会情勢等を踏まえ、社会に必要なボランティア活動について考える。企画書を仕上げる。
【教科書ページ・参考文献】
各省庁データ、新聞記事、原著論文等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの進捗に応じ、次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第８回　グループボランティア（実践準備）
【key words】
ボランティア実践、ディスカッション、実践準備
【授業概要】
グループごとにボランティア実践に必要な準備を進める。
【教科書ページ・参考文献】
特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの進捗に応じ、ボランティア実践や次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第９回　後期授業の進め方／中間振り返り
【key words】
ボランティア実践、振り返り、アセスメント

【授業概要】
後期授業の進め方について概説するとともに、これまでの自身の成長について振り返る。
【教科書ページ・参考文献】
特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
成長記録について、授業時間内に終えられなかった者は作成し指定の方法で提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　グループボランティア活動（分析）
【key words】
ボランティア実践、分析

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>これまで取り組んできたボランティア活動の意義と効果について分析する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>発表2～3日前までに資料を完成し、Webポータルシステムにアップロードする。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>遅れのあるグループは、資料作成の進捗度に応じ、分析の作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１１回　グループボランティア活動（分析・資料作成）<br>【key words】<br>ボランティア実践、分析、資料作成<br><br>【授業概要】<br>これまで取り組んできたボランティア活動の意義と効果について分析し、まとめる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各省庁データ、新聞記事、原著論文等<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>遅れのあるグループは、資料作成の進捗度に応じ、分析・資料作成の作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１２回　グループボランティア活動（資料作成）<br>【key words】<br>ボランティア実践、分析、資料作成<br><br>【授業概要】<br>年間を通して携わってきたボランティア活動の内容や実績、課題についてパワーポイント等にまとめる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各省庁データ、新聞記事、原著論文等<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>発表2～3日前までに資料を完成し、Webポータルシステムにアップロードする。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程<br>第１３回　グループボランティア活動（発表）<br>【key words】<br>ボランティア実践、発表、聴講<br>【授業概要】<br>年間を通して携わってきたボランティア活動の内容や実績、課題についてパワーポイント等を使用しグループごとに発表する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>発表2～3日前までに資料を完成し、Webポータルシステムにアップロードする。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１４回　グループボランティア報告会（発表）<br>【key words】<br>ボランティア実践、発表、聴講<br><br>【授業概要】<br>年間を通して携わってきたボランティア活動の内容や実績、課題についてパワーポイント等を使用しグループごとに発表する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>発表2～3日前までに資料を完成し、Webポータルシステムにアップロードする。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１５回　学んだことの振り返り<br>【key words】<br>目標、ボランティア実践、振り返り、アセスメント<br><br>【授業概要】<br>第1回～14回までに学んだ内容をもとに、1年間のボランティア活動状況、目標達成度の評価、今後の計画について他者と話し合いながら、振り返りを行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>シラバス、ボランティア活動記録簿、ポートフォリオ<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ポートフォリオを提出できるように、整理しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に係る情報〕<br>A4クリアブック(40ポケット)を用意すること。<br>〔受講のルール〕<br>本科目は、ボランティアを通した自己の成長についてまとめていくため、積極的なボランティア活動の実践が前提となる。<br>ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。<br>授業に関係ないものの持ち込みを禁止。特別な指示がない限り、携帯電話やスマートフォンは机上に出さない。 |

| | |
|---|---|
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。 |
| オフィスアワー | 各専攻担任より指示 |
| 評価方法 | 以下の基準に則り、「可」または「不可」で成績判定をします。<br>＜ポートフォリオ　30%＞<br>①提出期限を守ることができた（5点）<br>②学んだ資料が含まれている（目標シート等、配布資料、ワークシート、実践の記録、発表資料）（10点）<br>③日付・感想・考察がすべての保存資料に記載されている。（10点）<br>④得た日付に沿って、資料が整理できている（5点）<br>＜各種目標・振り返りシート（30%）＞<br>①目標書き出しシート・目標シート：自己像をもとにそれぞれの目標が明確に記載されている（10点）<br>②中間振り返り票：夏休みを含めた前期のボランティア活動での自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（10点）<br>③成長報告書：1年を振り返り、自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（10点）<br>＜授業内課題（40%）＞<br>①企画書（15点）<br>②グループメンバーによる他者評価（5点）<br>③グループ学習に対する自己評価（5点）<br>④発表（15点） |
| 教科書 | 特になし。適宜紹介する。 |
| 参考書 | 鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法―臨床研修・臨床実習の成功戦略!，医学書院，2006<br>尾形圭子：イラッとされないビジネスマナー社会常識の正解，サンクチュアリ出版，2010 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>施設や病院での臨床経験のある教員が担当する。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 対人関係論　　授業コード： 20R1L0A181

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 漆畑典子 | | | |
| 基礎科目 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>将来医療者となる自分自身のコミュニケーション力を向上させ、心と心の通い合いによって生まれる暖かい人間理解を医療現場で実践できる人になることが本講義の目的である。<br>【到達目標】<br>・自己理解を深め、自己肯定感を高めるための取り組みを自ら実践できる。<br>・対人関係を円滑にするコミュニケーションについて具体的に理解し、コミュニケーションスキルを習得し向上させる具体的な方法について説明、実践できる。<br>・感情に関する基本を理解し，自分の感情をコントロールする取り組みができる。<br>・自分も相手も大切にした伝え方(アイメッセージ)や自己主張(アサーティブネス)の基本を理解し、方法について説明できる。 |
| 授業の概要 | 本講義では、自分自身を理解することに取り組み、他者とコミュニケーションを取るために必要なコミュニケーションスキルを実践的に学んでいく。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | ガイダンス<br>【key words】<br>メタ認知<br>【授業概要】<br>授業概要、シラバス（内容・評価法など）、授業方式と注意点などを理解する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書 pⅢ～ⅩⅥ、ｐ2～20<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：シラバスを読み、授業概要を把握する。配布資料、教科書 pⅢ～pⅩⅥ、ｐ2～20 を読む。教科書、筆記用具、A4程度の白い紙（罫線がはいっていないもの）持っていればカラーペンや色鉛筆など。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>180分 |
| | 第2回 | 自己理解Ⅰ<br>【key words】<br>自己概念、自己肯定感<br>【授業概要】<br>ワークシートやグループワークなどを通して自己理解に取り組む。 |

【教科書ページ・参考文献】
教科書 p21～25
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ21～25を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第3回　自己理解Ⅱ
【key words】
エゴグラム

【授業概要】
ワークシートやグループワークなどを通して自己理解に取り組む。
【教科書ページ・参考文献】
教科書 p26～33
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ26～33 を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第4回　態度とコミュニケーション
【key words】
人生態度、ポーターの態度類型、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション
【授業概要】
態度とコミュニケーションに関する基本的知識を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
教科書　ｐ34～45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ34～45を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第5回　コミュニケーション力を育もうⅠみる力
【key words】
ＫＹＴ（危険予知トレーニング）
【授業概要】
観察することと観察した内容を活用することの重要性を学ぶ。
小グループでKYTを体験し、危険に対する感受性を高める方法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐ46～50
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ41～50 を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第6回　コミュニケーション力を育もうⅡきく力１
【key words】
聞く、聴く、訊く、
【授業概要】
聴くことの重要性について、ペアワークやグループワークも交えて体験的に理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐ50～60, ｐ165～170
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ50～60, ｐ165～170 を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第7回　コミュニケーション力を育もうⅡきく力２
【key words】
傾聴
【授業概要】
傾聴の基本的知識を理解し、ペアワークやグループワークを通して傾聴の方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐ147～155
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ147～155を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第8回　コミュニケーション力を育もうⅢ　伝える力１
【key words】
アイメッセージ
【授業概要】
ワークシートやグル自分も相手も大切にした伝え方「アイメッセージ」や感情に関する基本を理解し、セルフワークやペアワークをを交えて伝わる伝え方について理解する。
【教科書ページ・参考文献】

教科書ｐ60～65
配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：教科書、配布資料を読む
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第9回　コミュニケーション力を育もうⅢ　伝える力２

【key words】
アサーティブネス、アサーティブ、ノン・アサーティブ、アグレッシブ
【授業概要】
自分も相手も大切にした自己主張「アサーティブネス」の基本を理解し、ワークシート、ペアワークを通して方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐ65～68
配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ65～68を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分
教科書、筆記用具持参。

第10回　コミュニケーション力を育もうⅢ　伝える力３

【key words】
ＤＥＳＣ法
【授業概要】
ワークシート、グループワークを通して、アサーショントレーニングのひとつであるＤＥＳＣ法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：配布資料を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第11回　自己管理Ⅰ　時間管理・健康管理

【key words】
時間管理
【授業概要】
ワークシートやグループディスカッションを通して医療者として自律した自分になるための方法を理解し実践を始めるきっかけにする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐ69～78
配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ69～78を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第12回　自己管理Ⅱ　感情管理１

【key words】
感情管理、リフレーミング
【授業概要】
感情管理の必要性と方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐ78～82、ｐ179～183
配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ78～82、ｐ179～183を読む。
教科書、筆記用具。

【予習復習に必要な想定時間】
180分

第13回　自己管理Ⅱ　感情管理2

【key words】
認知行動療法

【授業概要】
認知行動療法を応用した感情管理の方法を学び、ワークシートを用いて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：配布資料を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第14回　キャリア

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>キャリア、キャリア発達、キャリアプラン、社会人基礎力<br><br>【授業概要】<br>キャリアに関する基礎的知識を学び、ワークシート、グループディスカッションを通して自身のキャリアプラン、身につけるべき社会人基礎力について考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書ｐ92～101<br>配布資料<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習・復習：教科書ｐ92～101を読む。<br>教科書、筆記用具。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>180分<br>第15回　まとめ<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>ふりかえり、全体を通した感想（学んだこと、身についたことなど）をグループでシェアする。<br>レポート課題の説明。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：教科書、配布資料に目を通す。<br>教科書、筆記用具。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>180分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・本講義ではセルフワーク・ペアワーク・グループワークを実施する予定となっていますが、新型コロナウィルス関連の状況によっては、Zoomのブレイクアウトセッション機能を用いたペアワーク、グループワークを実施する場合があります。<br>・時間管理・健康管理に対して高い意識を持ち，“責任ある行動ができる医療者”になるために自分を育ててください。<br>・本講義では心の問題について触れることがあります。ワークへの取り組みが難しい情況にある人は、遠慮、無理、我慢をせずに申し出てください。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード・Googleフォーム・授業掲示板 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 教科書該当ページを、予習として各自読んでおく。授業時に配布した資料と教科書を用いて復習する。 |
| オフィスアワー | 水曜日1時限目を予定している。 |
| 評価方法 | 授業内での積極的・意欲的取り組み20%、ワークシート、ふりかえりシート、コメントカードの提出とその内容60%、レポートの提出とその内容20% |
| 教科書 | 山口 美和　PT・OTのための これで安心コミュニケーション実践ガイド(第2版)　医学書院　2016 |
| 参考書 | 講義の際に適宜指定する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>教育相談、労働相談、職業相談などの相談員として、対人援助や心理的支援を、職場内外との協働と連携をしながら行った。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 基礎運動学Ⅰ　　授業コード：20R1P1G184

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 柴ひとみ・野口直人 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>身体の構造を理解しながら、体や各関節の動きを説明できることを目的とする。また、各関節運動に作用する筋について、自身の体に置き換えて説明できることを目的とする。<br>[到達目標]<br>①身体各部・各関節の名称及び運動の名称・運動面・運動軸を答えることができる。<br>②運動時の筋収縮様態を説明することができる。<br>③生体力学の知識を用いて、人の動作・活動を理解できる。<br>④各関節の形状分類を理解し、関節運動を述べることができる。<br>⑤各関節運動の主動作筋を列挙することができる。 |
| 授業の概要 | ひとの動作や活動を評価・分析するために必要な身体の構造・機能を力学的な視点で学ぶ。<br>授業を通して理学療法士・作業療法士が対象とする機能障害を把握するために必要な各関節の動作や筋肉の働きをについて理解を深める。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション/運動学総論・筋の構造・運動力学【野口】<br>【key words】<br>骨格筋、運動の面と軸、ベクトル<br>【授業概要】<br>・運動学の学問的特徴について理解を深め、骨格筋を含めた筋の種類や構造の理解、筋収縮のメカニズム、生体力学の概念（ベクトル・モーメント）について理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p1～36<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと　望月 久、 棚橋 信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | 筋の構造・運動力学【野口】<br>【key words】<br>ベクトル、モーメント<br>【授業概要】<br>・生体力学の概念（ベクトル・モーメント）について理解する。<br>・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きについて理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p1～36<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと　望月 久、 棚橋 信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　筋の構造・運動力学【野口】
【key words】
ベクトル、モーメント、てこの種類、筋収縮
【授業概要】
・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きを説明する。
・身体内で働く3種類のてこについて説明する。
・骨格筋の筋収縮の違いについて理解する。
・骨格筋を理解する上で必要な用語（起始・停止・作用）を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p1～36
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと　望月 久、 棚橋 信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　肩関節の構造と運動①/小テスト【野口】
【key words】
上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉
【授業概要】
・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p98～118
参考書：p16～59、108～133、154～222
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・解剖学で学習した骨の用語（特に肩甲骨・上腕骨など）については復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　肩関節の構造と運動②【野口】
【key words】
上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉
【授業概要】
・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p98～118
参考書：p16～59、108～133、154～222
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・解剖学で学習した骨の用語（特に肩甲骨・上腕骨など）については復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　肩関節の構造と運動③【野口】
【key words】
上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉
【授業概要】
・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p98～118
参考書：p16～59、108～133、154～222
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・解剖学で学習した骨の用語（特に肩甲骨・上腕骨など）については復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　肘関節・前腕の構造と運動①/小テスト【野口】
【key words】
上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉
【授業概要】
・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p119～143
参考書：p39～79、134～149、223～260
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨など）については復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　肘関節・前腕の構造と運動②【野口】
【key words】
上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉
【授業概要】
・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：p119～143
参考書：p39～79、134～149、223～260
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨など）については復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　手関節・手指の構造と運動①/小テスト【野口】
【key words】
上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨
【授業概要】
・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p144～179
参考書：p39～106、150～152、261～341
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・手指骨など）については復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　手関節・手指の構造と運動②/小テスト【野口】
【key words】
上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨
【授業概要】
・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。

・第1～9回で学んだ内容を基に、筆記試験を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p144～179
参考書：p39～106、150～152、261～341
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・手指骨など）については復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　骨盤・股関節の運動について【柴】
【key words】
骨盤、股関節、ヤコビー線、スカルパ三角、ローザーネラトン線、腸骨大腿靭帯、坐骨大腿靭帯、恥骨大腿靭帯
【授業概要】
・骨盤・股関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：p180～183、189～199
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・解剖学で学習した骨の用語（特に寛骨・仙骨・大腿骨など）や股関節については復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　股関節の運動に作用する筋【柴】
【key words】
股関節、運動　主動作筋
【授業概要】
・股関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p183～188、200～202
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・解剖学で学習した骨の用語（特に寛骨・仙骨・大腿骨など）や股関節については復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第１３回　膝関節の運動/小テスト【柴】
【key words】
膝関節、関節包内運動、終末伸展回旋、FTA
【授業概要】
・膝関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・膝関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
・第11～12回で学んだ内容を基に、小テストを行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：p212～234
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・解剖学で学習した骨の用語（特に大腿骨・脛骨・膝蓋骨、腓骨など）や膝関節については復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

| | |
|---|---|
| | 第１４回　距腿関節の構造、足部の運動について【柴】<br>【key words】<br>脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、趾節骨、距腿関節の運動、足部の運動<br>【授業概要】<br>・距腿関節・足部の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。<br>・膝関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p244～261<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・解剖学で学習した骨の用語（特に脛骨・腓骨・足根骨・中足骨・趾節骨など）や距腿関節については復習しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分<br>第１５回　頭部、頸部、体幹の運動について/小テスト【柴】<br>【key words】<br>頭蓋骨、椎骨、環椎後頭関節、軸椎関節、椎間関節<br>【授業概要】<br>・環椎後頭関節・軸椎関節・椎間関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。<br>・環椎後頭関節・軸椎関節・椎間関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。<br>・第13～14回で学んだ内容を基に、小テストを行う。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p281～306<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・解剖学で学習した骨の用語（特に頭蓋骨・椎骨など）や脊柱については復習しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | [受講生に関わる情報]<br>・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず復習すること。<br><br>[受講のルール]<br>・事前にシラバスを確認し、講義範囲を確認し予習するなど積極的に取り組むこと。<br>・他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。<br>・小テストの結果が6割に満たない場合は、放課後の学習会に参加し、不足している知識を補うこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | ・WEBポータルを使用したコメントスレッド |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。<br>・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。 |
| オフィスアワー | 【柴】木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約 |
| 評価方法 | 筆記試験60%　小テスト40% |
| 教科書 | ・小柳磨毅 編：PT・OTのための運動学テキスト 第1版，金原出版<br>・林典雄：機能解剖学的触診技術上肢　下肢・体幹．メジカルビュー<br>・林典雄：動画でマスター！機能解剖学的触診技術　上肢+下肢・体幹セット．メジカルビュー |
| 参考書 | ・伊藤元，高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　運動学．医学書院<br>・中村隆一・齋藤宏：基礎運動学．第6版，医歯薬出版株式会社 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>【柴】急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション病棟での理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告の基、臨床業務の指導などを実践している。<br><br>【野口】急性期および回復期リハビリテーション病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、運動学・運動力学の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を実践しながら、臨床業務の指導などを行っている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） |

| | |
|---|---|
| | □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 基礎運動学Ⅱ　　授業コード： 20R1P1G185

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 柴ひとみ・野口直人 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>身体の構造を理解し各関節の運動を捉えたうえで、姿勢や正常歩行、呼吸、リーチ・把握などについて説明できることを目的とする。また、理学療法士・作業療法士の対象となる疾患を運動学的視点を用いて理解することができる。<br>[到達目標]<br>①重心、姿勢の名称について答えることができる。<br>②歩行周期について説明することができる。<br>③歩行時の下肢関節の運動や重心の移動について説明することができる。<br>④呼吸時の胸郭の動きを説明することができる。<br>⑤リーチ・把握動作や日常生活を運動学的な知識を用いて説明することができる。<br>⑥上下肢や体幹の主な運動障害を列挙することができる。 |
| 授業の概要 | 授業を通し、理学療法士・作業療法士の対象となる機能障害を把握するうえで必要な身体の構造・機能、力学について学ぶ。また自らの身体を使って各関節や身体の動きを理解し、姿勢の保持や歩行、呼吸時、リーチ・把握動作に関わる関節運動の特徴を学ぶ。また、上下肢・体幹の各関節における運動障害を学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション/運動力学【野口】<br>【key words】<br>運動の面と軸、ベクトル、モーメント、筋収縮<br>【授業概要】<br>・基礎運動学Ⅰでの復習<br>・生体力学の概念（ベクトル・モーメント）について理解する。<br>・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きについて理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p1～36<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>基礎運動学Ⅰの運動力学について復習をしておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | 人体における重心について【柴】<br>【key words】<br>重心、重心線、指標<br>【授業概要】<br>・安静立位における重心位置について、その求め方を含めて理解する。 |

・重心を通る重心線について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p341～345
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：参考書「基礎運動学」のP347～352を事前に読み、重心についてまとめ重心の指標を調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第３回　姿勢・重心【柴】
【key words】
姿勢、重心、支持基底面、安定性
【授業概要】
・支持基底面について理解し、重心との関連性について学ぶ。
・姿勢の安定性について考える

【教科書ページ・参考文献】
教科書：p341-355
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：姿勢の保持はどのような場面で必要か、なるべく多く挙げてくること
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　正常歩行：歩行周期/小テスト【柴】
【key words】
歩行、歩行周期、歩行率
【授業概要】
・正常歩行の歩行周期を理解する。
・重心を前方に移動させる動作としての歩行の効率や実用性について考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：p365～367
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：歩行周期を替え歌を用いて表現できるようにすること
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　正常歩行：下肢の関節運動と重心の移動【柴】
【key words】
歩行周期、下肢の関節運動、ロッカー機能
【授業概要】
・各歩行周期で行われる下肢の関節運動を理解する。
・ヒールロッカー、アンクルロッカー、フォアフットロッカーの機能を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：p367～372
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：矢状面上の下肢（股関節・膝関節・足関節）の関節運動を復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　正常歩行：歩行時の筋活動について/小テスト【柴】
【key words】
歩行周期、筋活動、歩行時の重心移動（矢状面・前額面）
【授業概要】
・下肢のモーメントについて理解する。
・各歩行周期における主な筋活動についてその理由とともに考える。
・歩行時の重心の移動を考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：371～382
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：下肢（股関節・膝関節・足関節）の関節運動に作用する主動作筋を復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第７回　上肢帯・肩関節の運動/運動障害/小テスト【野口】
【key words】
上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉
【授業概要】
・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
・上肢帯・肩関節の代表的な運動障害（腱板断裂、脱臼）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p98～118
参考書：p16～59、108～133、154～222
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎運動学Ｉの上肢帯・肩関節の運動について復習をしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　肘関節・前腕の構造と運動/運動障害/小テスト【野口】
【key words】
上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉
【授業概要】

・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
・肘関節・前腕の代表的な運動障害（コーレス骨折・スミス骨折・テニス肘）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p119～143
参考書：p39～79、134～149、223～260
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎運動学Ｉの肘関節・前腕の運動について復習をしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　手関節・手指の構造と運動/運動障害/小テスト【野口】
【key words】
上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨・靭帯・筋肉
【授業概要】
・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
・手関節・手指の代表的な運動障害（手・手指の変形）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p144～179
参考書：p39～106、150～152、261～341
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎運動学Ｉの手関節・手指の運動について復習をしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　骨盤・股関節の構造と運動/運動障害【柴】
【key words】
骨盤・寛骨・仙骨・大腿骨・関節・靭帯・筋肉、変形性股関節症、大腿骨頸部骨折
【授業概要】
・骨盤・股関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・骨盤・股関節に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
・骨盤・股関節の代表的な運動障害（変形性股関節症・大腿骨頸部骨折）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p203～211
資料配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎運動学Ｉの骨盤・股関節の運動について復習をしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　膝関節の構造と運動/運動障害/小テスト【柴】
【key words】
大腿骨・脛骨・腓骨・膝蓋骨・関節・靭帯・筋肉、変形性膝関節症、ACL損傷、PCL損傷
【授業概要】
・膝関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・膝関節に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
・膝関節の代表的な運動障害（変形性膝関節症・ACL損傷・PCL損傷）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：235～243
資料配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎運動学Ｉの膝関節の運動について復習をしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　距腿関節・足部の構造と運動/運動障害/小テスト【柴】
【key words】
脛骨・腓骨・距骨・踵骨・関節・靭帯・筋肉、内反捻挫、外反捻挫、内反尖足、下垂足
【授業概要】
・距腿関節・足部の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・距腿関節・足部に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
・距腿関節・足部の代表的な運動障害（内反捻挫・外反捻挫・内反尖足）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p262～268
資料配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎運動学Ｉの距腿関節・足部の運動について復習をしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　呼吸/小テスト【柴】
【key words】
呼吸・胸郭・運動・筋肉、肋椎関節、肋骨頭関節、肋横突関節
【授業概要】
・呼吸時の胸郭の運動を理解する。
・呼吸の運動に関与する筋の特徴）構造・騎士・停止・作用・神経支配）について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：545～553
資料配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：生理学で履修した呼吸について復習しておくこと

| | |
|---|---|
| | 【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分<br>第１４回　上肢の運動学習/小テスト【野口】<br>【key words】<br>リーチ動作・把握動作<br>【授業概要】<br>・リーチ動作・把握動作の特徴について理解できる。<br>・日常生活動作における各動作についてリーチ動作・把握動作を用いて説明できる。<br>・上肢動作をスムーズに行うために必要な要素について理解できる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布プリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>肌を露出しやすい・動きやすい服（ジャージ推奨）を着てくること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　下肢の運動学習/小テスト【柴】<br>【key words】<br>運動学習、上行路、下行路、覚醒、パフォーマンス、KR<br>【授業概要】<br>・運動学習の意味を捉え、良い方向への変化が得られるように、適切なタイミングでフィードバックが付与できるよう運動学習について理解できる。<br>・下肢動作をスム-スに行うために必要な要素について理解できる。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p60～76<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：これまでの経験から上達した動作を挙げ、どのようにして上達したのか理由を5個以上考えてくること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | [受講生に関わる情報]<br>・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず復習すること。<br><br>[受講のルール]<br>・事前にシラバスを確認し、講義範囲を確認し予習するなど積極的に取り組むこと。<br>・他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。<br>・小テストの結果が6割に満たない場合は、放課後の学習会に参加し、不足している知識を補うこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | WEBポータルを使用したコメントスレッド |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。<br>・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。 |
| オフィスアワー | 【柴】木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約 |
| 評価方法 | 筆記試験60%　小テスト40% |
| 教科書 | ・小柳磨毅 編：PT・OTのための運動学テキスト 第1版，金原出版<br>・林典雄：機能解剖学的触診技術上肢　下肢・体幹．メジカルビュー<br>・林典雄：動画でマスター！機能解剖学的触診技術　上肢+下肢・体幹セット．メジカルビュー |
| 参考書 | ・伊藤元，高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　運動学．医学書院<br>・中村隆一・齋藤宏：基礎運動学．第6版，医歯薬出版株式会社 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>【柴】急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション病棟での理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告の基、臨床業務の指導などを実践している。<br><br>【野口】急性期および回復期リハビリテーション病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、運動学・運動力学の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を実践しながら、臨床業務の指導などを行っている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） |

| | |
|---|---|
| | □情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： チームケア入門Ⅰ　　授業コード：20R1P1I595

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 柴ひとみ・悴田敦子 | | | |
| 保健医療とリハビリテーションの理念 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>ねらい：「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」<br>目的：他学部・学科との学生間の交流を通して、多職種の連携の必要性について気づくことができる。<br>〔目標〕<br>1) 自己の職種について他者に伝えることができる。<br>2) 他職種の基本的な役割について述べることができる。<br>3) ケアチームとして一連の取り組みのまとめ、報告、自己の評価ができる。<br>4) 他職種との連携について関心が持てる。 |
| 授業の概要 | 保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部・短期大学1学科合同チームによる、「チームケア」について学ぶ。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 1. 科目のオリエンテーション　2. なぜ、いま連携なのか　チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義。<br>【key words】<br>多職種、連携、チームケア<br>【授業概要】<br>なぜ、いま連携なのか　チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義を明確にする。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：多職種連携やﾁｰﾑケアについてまとめている論文をメデイカルオンライン等を用いて調べ、要点にラインを引いたうえで持参すること。<br>復習：ﾎﾟｰﾄフォリオの作成（講義内容について考察すること）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第２回 | チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割についてまとめる。<br>【key words】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 多職種、連携、チームケア、職種理解<br>【授業概要】<br>チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割（法制度、職種内容、活躍する場等）についてまとめる。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：自己の職種をまとめるうえで必要な文献や資料を準備すること。<br>復習：自己の職種シートを提出すること（提出日については、講義内で提示する予定）<br>課題：自己の職種調べシートを提出すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第３回 | チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例をとおして、チームケアにおける自職種・他職種の役割について各学部のグループで、討議する。<br>【key words】<br>多職種、連携、チームケア、自職種の役割<br>【授業概要】<br>チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例（小児・高齢者）をとおして、チームケアにおける自職種・他職種の役割について各学部のグループで、討議する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習：ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること）<br>課題：事例に対する支援方法をまとめ、提出すること（提出日については、講義内で提示する予定）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90～120分 |
| | 第４回 | チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議。<br>【key words】<br>多職種、連携、チームケア、グループワーク<br>【授業概要】<br>チームケアにおける多職種の役割を理解するために、多職種の仕事内容を知る。そのうえで、共通する内容や異なる内容を挙げる。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：自己の職種に関する発表の準備をすること<br>復習：自己の職種と多職種の共通点や異なる点について整理しておくこと<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第５回 | チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議、報告準備。<br>【key words】<br>多職種、連携、チームケア、ディスカッション<br>【授業概要】<br>チームケアにおける多職種の役割を理解したうえで、事例（小児・高齢者）に対する支援内容を話し合う。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：自己の職種が事例に対して行う支援内容の発表準備をしておくこと<br>復習：事例に対する各々の職種の支援内容を整理しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第６回 | チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会①<br>【key words】<br>多職種、連携、チームケア、ディスカッション<br>【授業概要】<br>チームケアにおける多職種の役割を理解したうえで、事例（小児・高齢者）に対する支援内容について共通する項目を挙げる。連携を行う意義について考え、意見をまとめる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習：事例に対する支援内容について共通項目をまとめておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第７回 | チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会②<br>【key words】<br>多職種、連携、チームケア、発表<br>【授業概要】<br>連携を行う意義についてまとめた意見を発表し、共有する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習：他のグループの発表内容も含め連携の意義について整理しておくこと。<br>　　ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |

| | |
|---|---|
| | 第８回　学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。<br>【key words】<br>多職種、連携、チームケア<br>【授業概要】<br>学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習：ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること）<br>課題：後日、ポートフォリオを提出すること（期限については授業内で提示する）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。<br>②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。<br>〔受講のルール〕<br>①積極的に取り組む事。<br>②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。<br>③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード・その他（ポートフォリオ） |
| 授業外時間にかかわる情報 | 課題に積極的に取り組む。 |
| オフィスアワー | 木曜日の15:30～17:30 |
| 評価方法 | ①グループワークでの取り組み50%　②ポートフォリオ評価50% |
| 教科書 | 資料配布 |
| 参考書 | 1. 鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版，2008.<br>2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する中、多職種と連携をしながら患者および利用者の支援に携わってきた。現在は地域包括ケアシステムの構築に関する研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 保健医療福祉論　　授業コード： 20R1P1I192

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 大竹一男・大竹勤 | | | |
| 保健医療とリハビリテーションの理念 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>医療福祉従事者に必要なソーシャルワークについて学び、実践できるようになることを目的とする。<br>[到達目標]<br>①ソーシャルワークの意義と目的について理解する。<br>②援助技術の原理原則について理解する。<br>③基本的な援助技法を身につける。 |
| 授業の概要 | 講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、　自己紹介カード<br>【key words】<br>【keywords】<br>授業の進め方　自己紹介<br><br>【授業概要】<br>【授業概要】<br>授業計画について説明する　予習・復習について説明する　評価方法について説明する<br>コミュニケーションの第一歩である自己紹介について考察する<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>自己紹介カードを配付<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【課題・予習・復習・授業準備】<br>自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第２回 | 障害者の理解、DVD 視聴（ 障害者の自立について）<br>【key words】<br>【keywords】<br>障害者の自立　筋ジストロフィー　難病<br><br>【授業概要】<br>【授業概要】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る<br>専門職者としての役割をレポートにまとめる<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>筋ジストロフィーに関する資料配付<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【課題・予習・復習・授業準備】<br>筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第３回 | 対人援助技術の原則<br>【key words】<br>【keywords】<br>ソーシャルワーカー　バイスティック<br><br>【授業概要】<br>【授業概要】<br>場面にあわせた援助の原理原則について学ぶ<br>バイスティックの７原則について学ぶ<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>バイスティックの７原則に関する資料を配付する<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【課題・予習・復習・授業準備】<br>バイスティックについて事前に調べておくこと<br>ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実践の場で確認する<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第４回 | コミュニケーションスキルを磨こう　DVD 視聴<br>【key words】<br>【keywords】<br>コミュニケーションスキル　ア行トーク　サイレントトーク<br><br>【授業概要】<br>【授業概要】<br>援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ<br>映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【課題・予習・復習・授業準備】<br>授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第５回 | 情報を共有し合意するということ<br>【key words】<br>【keywords】<br>コンセンサス<br><br>【授業概要】<br>【授業概要】<br>グループ演習を通して、コンセンサス（合意すること）の難しさと重要性について学ぶ<br>演習を通して学んだことをレポートにまとめる<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>演習（ゲーム）の資料を配付する<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【課題・予習・復習・授業準備】<br>他者の意見もしっかりと聴けるような習慣を身につける<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第６回 | リハビリテーションを通しての援助支援について考える　DVD 視聴<br>【key words】<br>【keywords】<br>スポーツ　リハビリテーション<br><br>【授業概要】<br>【授業概要】<br>ドキュメント映像を通して、リハビリテーションの仕事のやりがいと重要性について再確認する<br>【教科書ページ・参考文献】 |

| | |
|---|---|
| | 【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【課題・予習・復習・授業準備】<br>感想文を提出していただきます<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分<br>第７回　人の一生と社会福祉 事例検討<br>【key words】<br>【keywords】<br>相談援助　社会福祉　児童福祉　老人福祉　障害者福祉　生活保護<br><br>【授業概要】<br>【授業概要】<br>事例をもとに援助の実際について学ぶ<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【課題・予習・復習・授業準備】<br>身近でおきている問題について考えてみよう<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分<br>第８回　援助の基本原則　まとめ<br>【key words】<br>【keywords】<br>バイスティックの７原則<br><br>【授業概要】<br>【授業概要】<br>評価の方法について再度説明<br>ソーシャルワーカーとしての原理原則について復習<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>評価試験内容についての詳細を配付<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【課題・予習・復習・授業準備】<br>レポート試験の準備をしよう<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。<br>８回の授業なので、欠席が３回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。<br>演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ２回に１回の割合でレポート課題を出す |
| オフィスアワー | 授業終了後20分ほど、対応可能。 |
| 評価方法 | 筆記試験（レポート試験）80％と授業中に出すレポート課題等の提出物20％により評価する。 レポート試験の採点基準詳細については試験時に指示する。 |
| 教科書 | 授業中に指示する。 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） |

| | |
|---|---|
| | □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法概論Ⅰ　　授業コード： 2001P2J193

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹 | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>医療分野でのリハビリテーションの理念と現代社会におけるリハビリテーションのニーズを知り、WHO分類に基づいた障害の考え方を身につける。作業療法の基本的な概念と歴史的な変遷を知り、チーム医療の中での作業療法士の果たすべき役割と期待される姿勢を理解する。また、作業療法が実践される対象や領域を知り、実践過程の一連の流れについて理解する。<br>〔到達目標〕<br>①リハビリテーションと作業療法の基本的な概念と定義を説明することができる。<br>②リハビリテーションと作業療法の歴史的な変遷を説明することができる。<br>③WHO分類におけるICFモデルを理解し、説明することができる。また、各種項目をICFモデルに類別することができる。<br>④作業療法の広範な実践モデルを理解し、説明することができる。<br>⑤作業療法の教育体系を理解し、説明することができる。<br>⑥作業療法の倫理基準やEBM・EBOTの重要性を理解し、説明することができる。<br>⑦作業療法の実践過程を具体的に列挙し、説明することができる。<br>⑧作業療法を取り巻く社会情勢と医療福祉制度を理解し、自ら課題を発見し、解決策を検討することができる。 |
| 授業の概要 | 本科目は、すべての作業療法専門科目の基礎に位置づけられる。本科目は、リハビリテーションの理念と概要を知り、専門性の核となる「作業（occupation）」の定義や範疇を正しく理解し、「作業療法とはどのような専門職か」を学習する。授業は、講義に加えてグループワークやPBL学習などアクティブラーニングを主体に進めていく。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーション／リハビリテーションおよび作業療法の定義・領域<br>【key words】<br>科目オリエンテーション、作業療法、リハビリテーション、定義、業務独占、名称独占、作業療法の対象と領域<br>【授業概要】<br>作業療法概論Ⅰの科目の概要を説明する。<br>リハビリテーションおよび作業療法の概念と定義、原理について知り、作業療法士の対象と領域について講義を通して学習していく。<br>授業内にて確認テストを行い、知識の整理と復習を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　P3-28、P40-46、P152-155<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容と確認テストで実施した内容について確認をしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分 |
| | 第2回 | リハビリテーションの歴史と作業療法<br>【key words】<br>リハビリテーションおよび作業療法の歴史、リハビリテーション医学、人権思想<br>【授業概要】<br>グループでリハビリテーションの歴史と作業療法の歴史を関連づけながら学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　P29-39<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、授業内でグループ学習した内容について確認をしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |

予習30分／復習150分

第3回　WHO分類　ICFモデル

【key words】
WHO分類、国際生活機能分類（ICFモデル）、障害分類（ICIDHモデル）
【授業概要】
国際生活機能分類（ICF）の概要について講義と演習課題を通して学ぶ。
授業内にて確認テストを行い、知識の整理と復習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　P49-50
②国際生活機能分類（ICF）ー国際障害分類改訂版ー
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。
復習として、授業内で学習した内容と確認テストで実施した内容について確認をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習150分

第4回　作業療法の実践理論

【key words】
作業療法の実践モデル、人間作業遂行生態学モデル、人-環境-作業（遂行）モデル（PEOPモデル）、人-環境-作業モデル（PEOモデル）、人間作業モデル、作業適応モデル
【授業概要】
「グループワーク① 作業療法の実践モデルについて」にて、グループで調べ学習した各実践モデルについてプレゼンテーションを行い、作業療法の実践モデルについて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　P47-62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、事前に提示されたグループワーク①の概要を確認し、プレゼンテーションに向けて調べ学習と発表準備を行う。
復習として、各グループの発表した内容について確認をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習150分／復習30分

第5回　作業療法の教育

【key words】
作業療法の教育体系、理学療法士及び作業療法士法、養成校教育、卒後教育、生涯教育制度、作業療法士職業倫理、EBM、EBOT
【授業概要】
作業療法の教育体系について学び、自身が作業療法士となるための課程と資格取得後の教育についても理解する。
授業内にて作業療法士職業倫理とEBM・EBOTの概要について説明し、授業終了後にレポート課題「作業療法士の職業倫理とEBM・EBOTの重要性について」に取り組み、職業倫理とEBM・EBOTについて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　P77-99、P112-123
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。
復習として、授業終了後にレポート課題を計画的に進めること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習150分

第6回　作業療法の実践過程

【key words】
作業療法の実践過程、情報収集、作業療法評価（再評価）、全体像のまとめ、利点・問題点の抽出、目標設定、作業療法実施計画、治療・指導・援助、フォローアップ
【授業概要】
作業療法の実践過程を学び、作業療法実践の流れを理解する。
授業内にて確認テストを行い、知識の整理と復習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　P127-151
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。
復習として、授業内で学習した内容と確認テストで実施した内容について確認をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第7回　医療福祉制度と作業療法①

【key words】
作業療法、医療福祉制度
【授業概要】
「グループワーク② PBL学習：医療福祉制度と作業療法について」にて、PBL学習（自己学習とグループ検討）を通して、医療福祉制度と作業療法について学習目標を設定し、主体的に学ぶ。PBL学習で学んだ内容をプレゼンテーションし、医療福祉制度と作業療法について理解を深める。
第7回では、チューター（指導教員）による情報提示から開始し、グループによる学習目標設定までを行う。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　P227-244
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、事前に提示されたグループワーク②の概要を確認しておく。
復習として、PBL学習（自己学習・グループ検討）を実施し、プレゼンテーションに向けて発表準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習150分

第8回　医療福祉制度と作業療法②

【key words】
作業療法、医療福祉制度
【授業概要】

| | |
|---|---|
| | 「グループワーク② PBL学習：医療福祉制度と作業療法について」にて、PBL学習（自己学習とグループ検討）を通して、医療福祉制度と作業療法について学習目標を設定し、主体的に学ぶ。PBL学習で学んだ内容をプレゼンテーションし、医療福祉制度と作業療法について理解を深める。<br>第8回では、PBL学習で学んだ内容をプレゼンテーションとして発表する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　P227-244<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、PBL学習（自己学習・グループ検討）を実施し、プレゼンテーションに向けて発表準備を行う。<br>復習として、各グループの発表した内容について確認をしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習150分／復習30分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 授業スレッドにコメント用のgoogle formのURLを掲示するので、そこから入力する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について適宜復習を実施すること。<br>・レポート課題については計画的に課題を進めること。<br>・作業療法の実践モデルについて、グループワークを通して発表を行うので、発表に向けてグループで協働して課題に向けて準備すること。<br>・医療福祉制度について、グループワーク（PBL学習）を通して発表を行うので、発表に向けてグループで協働して課題に向けて準備すること。<br>・筆記試験については、授業内で実施する確認テストを主体とするためよく復習をしておくこと。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | □筆記試験　10%<br>□授業内確認テスト①　作業療法の定義・領域について　10%<br>□授業内確認テスト②　WHO分類ICFモデルについて　10%<br>□授業内確認テスト③　作業療法の実践過程について　10%<br>□レポート課題　作業療法の職業倫理におけるEBM・EBOTの重要性について　20%<br>□グループワーク①　作業療法の実践モデルについて　20%<br>□グループワーク②　PBL学習：医療福祉制度について　20%<br>＊合計で60%以上を単位付与の基準とする（ただし、各項目単独でも60%以上であること）。 |
| 教科書 | ①二木淑子，能登真一　編：標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　第３版．医学書院<br>②障害者福祉研究会　編：国際生活機能分類（ICF）ー国際障害分類改訂版ー．中央法規 |
| 参考書 | 栢森良二 著：学生のためのリハビリテーション医学概論 第2版．医歯薬出版株式会社．2015<br>吉川ひろみ 著：作業って何だろう 第1版．医歯薬出版株式会社．2008 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、臨床業務の一環として作業療法を実践した経験や役職者として管理運営に携わった経験が科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法概論Ⅱ　　授業コード：2001P2J194

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 宮寺亮輔 | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 作業療法概論Ⅰで学んだ作業療法士として必要な知識や技能について，実際の現場を通してそれらを学ぶ.<br>【到達目標】<br>①作業療法士に必要な職業人・医療職としての基本的態度を実践することができる.<br>②見学を通して作業療法に興味を持ち，その実践過程を見学してくることができる.<br>③実際の臨床現場の見学を通し，作業療法の実践過程，業務内容，対象の特性などをまとめて報告することができる. |
| 授業の概要 | 作業療法士が働いている医療機関（身体障害領域を中心とした病院）での1日間の見学を通して，作業療法の実践過程や作業療法士の業務内容，作業療法士の対象者などについて学ぶ. |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第1回 | 科目オリエンテーション／臨床実習の目的，見学実習の内容<br>【key words】<br>身体障害領域の作業療法，臨床実習の目的<br>【授業概要】<br>臨床実習手引きや教科書を参照しながら，臨床実習の目的や，見学実習の内容を考える．身体障害領域の作業療法業務内容を紹介する.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp2,4，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>臨床実習手引き，教科書をよく読んで参加すること.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第2回 | 守秘義務について／個人情報保護／挨拶・自己紹介<br>【key words】<br>守秘義務，個人情報，挨拶<br>【授業概要】<br>個人情報，守秘義務個人情報保護の観点から医療職の守秘義務のあり方を考える．またその具体的な方法を説明する．また個人情報保護に留意し，挨拶や自己紹介方法を学ぶ.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp22，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第4回の自己紹介シート記入を想定し，自身の長所・短所，作業療法士を目指した動機等を考えておく.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第3回 | リスク管理（感染症対策など）<br>【key words】<br>リスク管理，健康管理，感染症対策<br>【授業概要】<br>医療従事者として必要不可欠な感染症対策について具体的に説明する．大野義一朗：感染症対策マニュアル第2版．医学書院　スタンダードプリコーションについて学ぶ.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp22-24，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>感染症対策マニュアルを良く読んで参加すること．自己の抗体検査結果を確認して参加すること.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |

| | | |
|---|---|---|
| | 第4回 | 守秘義務，リスク管理に関するまとめ<br>【key words】<br>守秘義務，リスク管理，感染症対策<br>【授業概要】<br>守秘義務，感染症対策に関する小テストを行い，知識の確認を行う．大野義一朗：感染症対策マニュアル第2版．医学書院の内容を確認しておくこと．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp22-24，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第2,3回の内容をよく復習して参加すること．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習180分（小テストの勉強含む）／復習90分 |
| | 第5回 | 職業人としての態度・習慣<br>【key words】<br>態度的サービス，身だしなみ，コミュニケーション<br>【授業概要】<br>職業人としての態度・習慣を身につける（時間を守る，服装や身だしなみに気をつける，他職種ともコミュニケーションが取れるなど）．身だしなみチェックリストを使用して，お互いの身だしなみを確認する．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp20，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>職業人としての身だしなみを考えて，各自適切と思う服装で参加すること．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第6回 | 実習記録について①　メモの取り方<br>【key words】<br>メモ，承諾，個人情報保護<br>【授業概要】<br>メモをとる承諾の方法，メモの取り方，メモの取り扱いについて学ぶ．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp22-24，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各自メモを持参し参加すること．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第7回 | 実習記録について②　デイリーノート<br>【key words】<br>デイリーノート，客観的事実，考察<br>【授業概要】<br>実習記録の形式や書き方について学ぶ．第6回でメモをした内容をデイリーノートの書き写す練習を行う．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp22-24，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第6回で使用したメモを持参し参加すること．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第8回 | 実習記録について③　デイリーノート<br>【key words】<br>デイリーノート，客観的事実，考察<br>【授業概要】<br>実習記録の形式や書き方について学ぶ．第6回でメモをした内容をデイリーノートの書き写す練習を行う．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp22-24，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第6回で使用したメモを持参し参加すること．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第9回 | 実習施設の予備知識の収集<br>【key words】<br>実習生の心構え，作業療法士の業務説明<br>【授業概要】<br>実習施設の概要に関する情報を，施設パンフレットやホームページ等を参照して収集する．また，実習場所の確認など実習施設の地域での役割や実習施設におけるリハビリテーション関連職種の人数，対象疾患などを調べる．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp22-24，実習施設環境情報（配布資料）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ホームページ検索できる準備（パソコン，タブレット端末）をして参加すること．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第10回 | 病院見学指導／課題発表の準備<br>【key words】<br>実習生の心構え，作業療法士の業務説明<br>【授業概要】<br>病院見学へ向けての準備，心構えについて学ぶ．また，作業療法士がどのような専門職であるのかを他者（家族，友人，地域住民，中高生など）に説明することを想定して，資料を作成し発表する準備を行う．各自実習施設への事前連絡．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp19-24，資料は随時指定 |

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第9回で収集した実習施設に関する資料を整理して参加すること．実習施設に事前連絡する内容をまとめておくこと．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第11回　病院見学<br>【key words】<br>実習生の心構え，見学実習，作業療法士の業務説明<br>【授業概要】<br>グループに分かれて病院見学を行う．作業療法士とは実際にどのような仕事をする専門職なのかについて，具体的に（どのような対象者に，どのような場所で，どういった内容が行われているか）学ぶことを目的とする．教科書②p2-41　「第1章　見直そう感染対策の基本」をよく確認しておくこと．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp2,4,19-24，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>時間に余裕をもって行動すること．身だしなみを整えて参加すること．実習中は実習指導者の指導に従うこと．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第12回　病院見学<br>【key words】<br>実習生の心構え，見学実習，作業療法士の業務説明<br>【授業概要】<br>グループに分かれて病院見学を行う．作業療法士とは実際にどのような仕事をする専門職なのかについて，具体的に（どのような対象者に，どのような場所で，どういった内容が行われているか）学ぶことを目的とする．教科書②p2-41　「第1章　見直そう感染対策の基本」をよく確認しておくこと．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp2,4,19-24，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>時間に余裕をもって行動すること．身だしなみを整えて参加すること．実習中は実習指導者の指導に従うこと．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第13回　実習記録の作成<br>【key words】<br>実習生の心構え，見学実習，デイリーノート<br>【授業概要】<br>各自実習施設にお礼状を作成し送付する．見学実習でメモした内容をデイリーノート，実習レポートに記載する．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp19-24，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各自見学実習で使用したメモを持参し参加すること．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第14回　課題発表準備（グループワーク）<br>【key words】<br>見学実習，実習施設の概要，作業療法士の業務説明<br>【授業概要】<br>実習施設で得られた情報をグループ内で共有する．課題発表の準備を行う．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp2,4,19-24，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各自見学実習で使用したメモ，第13回で作成した資料を持参し参加すること．次回の授業の前日までに発表資料を1部印刷して提出すること．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第15回　課題発表　作業療法士の仕事<br>【key words】<br>見学実習，実習施設の概要，作業療法士の業務説明<br>【授業概要】<br>資料作成と発表を通して作業療法がどのような専門職なのかを学ぶ．各グループの発表を聞き，施設による作業療法士の業務内容の違いについて意見交換をする．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp2,4,19-24，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各自見学実習で使用したメモ，第13回で作成した資料を持参し参加すること．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・発表や見学は出席が前提となるので，体調管理をしっかりすること．〔受講のルール〕<br>・見学先の病院や日時については，決定次第連絡する．<br>・OTSとしての立場をよく理解し，それにふさわしい身だしなみや態度で参加すること．<br>・実習に不適切な身だしなみや態度で臨む場合は，その場で実習を取りやめさせるため，十分注意すること．<br>・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと．<br>・授業の流れや雰囲気を乱したり，他の受講生の迷惑になる行為（私語，携帯電話の使用）は厳禁．<br>・授業資料の再発行はしない．授業を休んだ場合は，クラスメイトからコピーを取ること． |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状 | シャトルカード方式 |

| | |
|---|---|
| 況の確認方法 | |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・実習前にオリエンテーションを行う.<br>・実習の手引きをよく確認しておくこと.<br>・見学前に，見学先の病院について十分に事前学習を行っておくこと.<br>・グループによる発表を行うため，時間外での情報収集や資料作成などの準備に積極的にかかわること.<br>・学習内容については科目オリエンテーションにて説明する. |
| オフィスアワー | 月・火曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）．その他の曜日においては要予約. |
| 評価方法 | □筆記試験60%<br>□発表20%<br>□レポート20% |
| 教科書 | ①二木淑子ら：標準作業療法学　作業療法概論　第3版．医学書院<br>②大野義一朗：感染対策マニュアル第2版．医学書院 |
| 参考書 | 吉川ひろみ　著：作業って何だろう　第1版．医歯薬出版株式会社 2008 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>身体障害領域の一般病院にて，作業療法士として4年間の臨床業務に携わった経験を有する.<br>作業療法の基本的な概念に基づき臨床業務を行っていた経験が，科目内で活かされている.<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 基礎作業学　　授業コード： 2001P2J195

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂駿 | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>作業療法の基礎となる「作業」の意味の理解とそれを治療的に用いるための基本的な理論と実践方法を学ぶ。<br>〔到達目標〕<br>①ひとの生活を構成する「作業」について理解・説明することができる。<br>②作業・作業活動の治療的意味を理解・説明することができる。<br>③作業分析の概要を理解・説明することができる。<br>④適応・段階づけの方法を理解・説明することができる。 |
| 授業の概要 | 「作業」に対する作業療法の基本的視点と理論、作業分析について学ぶ。また、実際に体験した作業活動を分析することを体験しながら学ぶ。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | オリエンテーション/作業とは＜高坂＞<br>【key words】<br>作業、occupation<br><br>【授業概要】<br>・作業療法の仕事に関する動画視聴<br>・作業（療法）の定義<br>・生活の中の作業<br>【教科書ページ・参考文献】<br>吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.2－20，2017.<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第2回 | 作業科学の誕生＜高坂＞<br>【key words】<br>作業の分類、PEOモデル、作業科学<br><br>【授業概要】<br>・作業の分類<br>・作業の意味<br>・作業科学の歴史<br>【教科書ページ・参考文献】<br>吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.2－20，2017.<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第3回 | 作業の意味①＜高坂＞<br>【key words】<br>作業と健康、作業と感情、アイデンティティ、役割、現象学<br><br>【授業概要】<br>・作業と健康との関連性<br>・作業の社会的意味<br>・作業の類型化<br>・作業と感情 |

・作業と世界との繋がり
・作業とアイデンティティ
【教科書ページ・参考文献】
吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.22-43，2017.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第4回　作業の意味②＜高坂＞
【key words】
作業と健康、作業と感情、アイデンティティ、役割、現象学

【授業概要】
・作業と健康との関連性
・作業の社会的意味
・作業の類型化
・作業と感情
・作業と世界との繋がり
・作業とアイデンティティ
【教科書ページ・参考文献】
吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.22-43，2017.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第5回　作業科学の諸概念①＜高坂＞
【key words】
作業の階層、occupational-being、作業的公正・不公正

【授業概要】
・作業の階層
・人の進化と作業
・occupational-being、occupational rights
・作業的公正、作業的不公正
【教科書ページ・参考文献】
吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.46-69，2017.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第6回　作業科学の諸概念②＜高坂＞
【key words】
作業の階層、occupational-being、作業的公正・不公正

【授業概要】
・作業の階層
・人の進化と作業
・occupational-being、occupational rights
・作業的公正、作業的不公正
【教科書ページ・参考文献】
吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.46-69，2017.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第7回　多様な文化とひとの作業①＜高坂＞
【key words】
作業、文化、社会、風習、価値観

【授業概要】
・これまで自身が触れたことのない国内外の文化や風習、作業についてグループで調べる。
・収集した情報に基づいてグループごとに意見交換を行い、発表資料を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
これまで自身が触れたことのない国内外の文化や風習、作業について個人で調べ、資料を持参する。
グループで少なくとも1台ノートPCを持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第8回　多様な文化とひとの作業②＜高坂＞
【key words】
作業、文化、社会、風習、価値観

【授業概要】
・前回まとめた資料に基づき地域の文化や風習、ひとの作業についてプレゼンテーションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
様々な文化や風習、ひとの作業について復習し理解を深めること。
【予習復習に必要な想定時間】

30分程度
第9回　作業科学と作業療法＜高坂＞
【key words】
健康、作業療法、疾病予防、ヘルスプロモーション

【授業概要】
・作業療法の対象と定義の変遷
・疾病予防とヘルスプロモーション
・作業と健康に関する学術論文の紹介
【教科書ページ・参考文献】
吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.72-99，2017.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度
第10回　作業療法の中核理論①＜高坂＞
【key words】
MOHO、CMOP-E

【授業概要】
・作業療法に関わる理論と枠組み
・作業療法からみた評価・治療の視点
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度
第11回　作業療法の中核理論②＜高坂＞
【key words】
MOHO、CMOP-E

【授業概要】
・作業療法に関わる理論と枠組み
・作業療法からみた評価・治療の視点
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
授業終了後、1週間以内にワークシートを提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度
第12回　作業分析とは＜小林＞
【key words】
作業分析、包括的作業分析、限定的作業分析、adaptation、grading

【授業概要】
・包括的作業分析
・限定的作業分析について
・適応と段階づけとは
【教科書ページ・参考文献】
山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）.
【参考】中村隆一他：基礎運動学，第6版．医歯薬出版，2003.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度
第13回　作業分析とは＜小林＞
【key words】
作業分析、包括的作業分析、限定的作業分析、adaptation、grading

【授業概要】
・身体、精神、発達、作業遂行の視点からみた作業分析に関わる理論と分析方法
・作業分析に関わる概念や用語について解説する
【教科書ページ・参考文献】
山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度
第14回　作業分析について体験する・考える(マクラメ体験)＜小林＞
【key words】
包括的作業分析、adaptation、grading

【授業概要】
・マクラメの作品を作る・運動、感覚機能、精神、認知機能に及ぼす効果・場の特性について配布資料を参考にしながら、理解する
※感染症拡大状況によっては、Webにて代わりの内容を実施する場合がある。その際は、事前に連絡する。
【教科書ページ・参考文献】
山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | |
|---|---|
| | 次回までに、「包括的作業分析チェックリスト」の指定部分を仕上げて、持参すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第15回　学んだことの振り返り＜小林・高坂＞<br>【key words】<br>作業科学、作業、健康、作業分析<br><br>【授業概要】<br>・包括的作業分析チェックリストの確認<br>・第1回から14回までのまとめ<br>・試験範囲の伝達<br>【教科書ページ・参考文献】<br>山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）．<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>「包括的作業分析チェックリスト」の提出。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・遠隔授業はPCでの受講を推奨する。また、有線LAN、Wi-fi使用下での受講を推奨する。<br>・COVID-19感染状況に応じ、対面またはWebのハイブリット形態で行う。形態は大学の方針に準ずる。<br>・作業療法の基礎となる授業のため、予習復習をしっかりすること。<br>・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。<br>・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。<br>〔受講のルール〕<br>・遠隔授業は原則画面ONで受講すること。その際は、模擬背景を使用したり、室内環境に配慮すること。<br>・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。<br>・演習や課題作成があるため、積極的に参加すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。 |
| オフィスアワー | 金曜日13:00～14:00は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。 |
| 評価方法 | □ペーパー試験　30%<br>□プレゼンテーション資料・発表態度（多様な文化）　30%<br>□提出課題　20%（ワークシート。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。）<br>□チェックリスト　20%　（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。） |
| 教科書 | 吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，2017 |
| 参考書 | ①中村隆一他：基礎運動学，第6版．医歯薬出版，2003.<br>②山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，2017. |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士国家資格及び精神科・高齢期領域の臨床経験を有する教員が担当。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 基礎作業学実習　　授業コード： 2001P2J196

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 1単位(45) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 小林昭博 | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>作業療法の治療で用いられることの多い作業活動の技法を習得し、それらを各種障害に対して治療的に応用していくための実践方法について学習します。<br><br>〔到達目標〕<br>①作業活動の基礎技法を用いて作品を制作できる。<br>②作業活動の特性を治療場面への応用について説明できる。<br>③作業活動を提供するために必要な準備や道具の管理・提供方法を述べることができる。<br>④作業の特徴を理解し、対象者に合わせて作業活動を選択することができる。 |
| 授業の概要 | ・作業療法入門や基礎作業療法学で学んだ治療手段としての作業・作業活動の意味を実際の作業体験を通して学ぶ。<br>・作業活動を体験し、それぞれの作業活動を分析していくことで理解を深める。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション／木工①<br>【key words】<br>木工，製図<br><br>【授業概要】<br>・科目オリエンテーション。授業目的と各回の授業の進行について説明する。<br>・個人作業。木工（製図）。<br>・集成材を用いた作品の木取り図および完成図を方眼紙に書き出す<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・教科書：pp.52-57<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>製図が終わらなかった者は次回までに提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第２回 | 木工②<br>【key words】<br>木工，製図，木取り，墨付け<br><br>【授業概要】<br>・木工作業で使用する道具およびその使用方法、手順等に関する説明。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・教科書：pp.52-57<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第３回 | 木工③<br>【key words】<br>木工，製図，木取り，墨付け，切断<br><br>【授業概要】<br>・デザインに基づき、木取り、墨つけ、木材の切断をする。<br>・木工における適応・段階づけの説明。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

・教科書：pp.52-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第４回　木工④
【key words】
木工，木取り，墨付け，切断

【授業概要】
・デザインに基づき、木取り、墨つけ、木材の切断をする。
・木工における適応・段階づけの説明。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.52-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第５回　木工⑤
【key words】
木工，加工，仮組，くぎ打ち

【授業概要】
・切断し終えた部材の加工、組み立て、仕上げを行う
・木工における適応・段階づけの説明
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.52-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。組み立てまで終わらなかった者は次回までに終わらせておく
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第６回　木工⑥
【key words】
木工，加工，仕上げ

【授業概要】
・切断し終えた部材の加工、組み立て、仕上げを行う・木工における適応。
・段階づけの説明。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.52-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。組み立てまで終わらなかった者は次回までに終わらせておく
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第７回　木工⑦
【key words】
木工，加工，仕上げ

【授業概要】
・切断し終えた部材の加工、組み立て、仕上げを行う・木工における適応。
・段階づけの説明。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.52-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。組み立てまで終わらなかった者は次回までに終わらせておく
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第８回　作業特性の分析（木工）
【key words】

【授業概要】
・完成作品を互いに鑑賞する。
・木工作業における包括的作業分析チェックリストの作成。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.52-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回、エプロン・ジャージ・タオル持参、陶芸のデザインを考えてくる。次回までに、包括的作業分析チェックリストを作成しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）

第９回　陶芸①
【key words】
陶芸，形成，土練り

【授業概要】
・個人作業。陶芸を開始。
・陶芸の進行の概要説明、用いられる道具や技法に関する説明。

【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.71-85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１０回　陶芸②

【key words】
陶芸，高台作り，装飾，乾燥，素焼き

【授業概要】
・各工程（土練り～形成）での作成方法。
・作成のポイントについての説明、形成作業。
・高台作り、装飾、修正について説明。
・台作り、装飾、修正を行う。
・素焼きをする上での注意点を説明する
・陶芸における適応・段階づけの説明。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.71-85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１１回　モザイク①

【key words】

【授業概要】
・モザイクに関する道具・材料・作成方法の説明
・モザイクの作品をデザインする
・タイルのカット
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.116-120
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１２回　モザイク②

【key words】

【授業概要】
・デザインに基づき、割ったタイルを接着剤で固定
・モザイクにおける適応・段階づけの方法について説明
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.116-120
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１３回　陶芸③

【key words】
陶芸，釉掛け，本焼き

【授業概要】
・釉掛けについての説明と釉掛け。
・本焼きについての説明。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.71-85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。修正に使用する布巾を用意すること。素焼きと本焼きの際の温度管理について事前学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１４回　モザイク③

【key words】

【授業概要】
・デザインに基づき、割ったタイルを接着剤で固定
・石膏を流し、作品を仕上げる
・モザイクにおける適応・段階づけの方法について説明
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.116-120
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１５回　作業特性の分析（陶芸）

【key words】

【授業概要】
・完成作品を互いに鑑賞する。
・陶芸作業における包括的作業分析チェックリストの作成。
【教科書ページ・参考文献】

・教科書：pp.71-85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回までに包括的作業分析チェックリストを完成させてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）

第１６回　作業特性の分析（モザイク）
【key words】

【授業概要】
・モザイクにおける包括的作業分析チェックリストの作成
・モザイクにおける適応・段階づけの方法について補足説明
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.116-120
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）

第１７回　革細工①
【key words】

【授業概要】
・道具、材料、工程、デザイン
・革細工の道具やその使用方法、材料の説明　・本のデザインを参考にし、作品(ハンコ入れ)のデザインをする
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.34-51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】参考書として運動学の教科書を持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１８回　革細工②
【key words】

【授業概要】
・本のデザインを参考にし、作品(ハンコ入れ)のデザインをする
・デザインを元に型紙づくりを行う
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.34-51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題】配布資料包括的作業分析チェックリストを仕上げること
【準備】参考書として運動学の教科書を持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１９回　革細工③
【key words】

【授業概要】
・前回作成したデザインを元にトレーシング、カービング、スタンピング、モデリングを行ってみる
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.34-51
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第２０回　革細工④
【key words】

【授業概要】
・前回作成したデザインを元にトレーシング、カービング、スタンピング、モデリングを行ってみる
・作品に染色、穴あけ、金具付け、レーシングを施す
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.34-51
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第２１回　作業特性の分析（革細工）
【key words】

【授業概要】
・革細工における包括的作業分析チェックリストの作成
・革細工における適応・段階づけの方法について補足説明
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.34-51
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）

第２２回　織物①
【key words】

【授業概要】
・織物に用いる道具や織り機(織美絵)の使用方法について
・織美絵のセッティング
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.143-145
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題】配布資料包括的作業分析チェックリストを仕上げること。
【準備】参考書として運動学の教科書を持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第２３回　織物②
【key words】

【授業概要】
・経糸のセッティング
・捨て織り糸・緯糸のセッティング
・織物における適応・段階づけの説明
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.143-145
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第２４回　織物③
【key words】

【授業概要】
・捨て織り糸・緯糸のセッティング
・捨て織り・織り
・織り、捨て織り、作品の仕上げ
・織物における適応・段階づけの説明
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.143-145
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第２５回　作業特性の分析（織物）
【key words】

【授業概要】
・織物における包括的作業分析チェックリストの作成
・織物における適応・段階づけの方法について補足説明
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.143-145
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）

第２６回　エコクラフト①
【key words】

【授業概要】
・エコクラフト、籐細工に用いる道具・手順
・編み方の説明・クラフトテープの計測とカット
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.86-96
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題】配布資料包括的作業分析チェックリストを仕上げること。
【準備】参考書として運動学の教科書を持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第２７回　エコクラフト②
【key words】

【授業概要】
・かごの底をねじり編みで編む
・カゴのサイドを素編み、追いかけ編み、よろい編みで編む
・エコクラフトにおける適応・段階づけの説明
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第２８回　エコクラフト③
【key words】

【授業概要】
・かごの底をねじり編みで編む
・カゴのサイドを素編み、追いかけ編み、よろい編みで編む

| | |
|---|---|
| | ・エコクラフトにおける適応・段階づけの説明<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第２９回　作業特性の分析（エコクラフト）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>・エコクラフトにおける包括的作業分析チェックリストの作成<br>・エコクラフトにおける適応・段階付けの方法について補足説明<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【授業準備】参考書として運動学の教科書を持参すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）<br>第３０回　授業のまとめ<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>・配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。<br>・各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。<br>・作業中は周囲に十分注意を払い、服に汚れが付くこともある（学生ジャージ推奨）。<br>・肩より髪の毛が長い場合はまとめる。アクセサリーは禁止。その他，汚れて困るものはロッカーなどへしまうこと。<br>・毎回掃除を行い、道具の整理・管理を必ず行う。<br>・グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | Webポータルを使用したコメントスレッド |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習をすること。<br>・分からない箇所はそのままにせず、次の授業で解決するように質問や自分で調べたことなどをまとめておく。 |
| オフィスアワー | 月曜日16:30～17:30は随時（変更時は掲示する）　その他の曜日においては要予約<br>※都合により対応できない場合もあります。 |
| 評価方法 | 筆記試験（論述・客観）60%、包括的作業分析チェックリスト20%、レポート20%、総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。 |
| 教科書 | 古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす　作業活動実習マニュアル第2版．医歯薬出版株式会社 |
| 参考書 | ①中村隆一，他：基礎運動学　第6版．医歯薬出版<br>②山根寛（著）：ひとと作業・作業活動　新版．三輪書店 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>【実務経験のある教員による授業科目の配置について】急性期及び回復期リハビリテーション病棟、外来（生活期）の病院で作業療法士として21年務める中で、脳血管障害患者に対する作業療法を展開してきた実務経験を活かし、作業活動を用いADLや趣味活動を支援する手法について実演・講演する。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施 |

| | |
|---|---|
| | □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 体表解剖・触診演習　　授業コード： 20R2P1G182

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 小林雄斗・小林昭博 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>解剖学、運動学で学んだ知識を用いて、実際に人体の観察・触知する技術の基礎を学ぶ。<br>[到達目標]<br>①対象者に不快を与えない手技について説明できる。<br>②対象者に対するあらゆる配慮について述べる事ができる。<br>③解剖学で学んだ主要な部位を体表から観察、触知できる。 |
| 授業の概要 | 対象者が困難となっている日常生活の様々な活動について改善を促していくために、まず動作がどのように行われているのか（どのようにできていないのか）を観る事ができなければならない。また、これまでに学んだ解剖学や運動学に知識を照らし合わせて、原因となっている身体組織を見抜いていく必要がある。そのような能力を養う授業となる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | オリエンテーション<br>【key words】<br>到達目標、触診<br>【授業概要】<br>体表解剖・触診演習での、授業内容、進め方、注意点等の説明を行う。<br>※第1回では服装指定はなし。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>使用教科書に一通り目を通しておく。<br>特に運動療法のための機能解剖学的触診技術上肢：P10~13「触診を行う際の指のあて方」はよく読み、内容を把握しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習：60分<br>復習：30分 |
| | 第2回 | 上肢①　実技前学習<br>【key words】<br>三角筋（前部線維・中部線維・後部線維）、大胸筋、棘上筋、棘下筋、広背筋<br>【授業概要】<br>三角筋（前部線維・中部線維・後部線維）、大胸筋、棘上筋、棘下筋、広背筋の触診についての事前学習を行う。<br>ワークシートを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P154~176、P192~197 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習：30分
復習：60分

第3回　上肢①　実技
【key words】
三角筋（前部線維・中部線維・後部線維）、大胸筋、棘上筋、棘下筋、広背筋
【授業概要】
教員による三角筋（前部線維・中部線維・後部線維）、大胸筋、棘上筋、棘下筋、広背筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。
解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P154~176、P192~197
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第2回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。
動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分
復習：60分

第4回　上肢②　実技前学習
【key words】
僧帽筋（上部線維、中部線維、下部線維）、小胸筋、前鋸筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋
【授業概要】
僧帽筋（上部線維、中部線維、下部線維）、小胸筋、前鋸筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋の触診についての事前学習を行う。
ワークシートを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P202~207、P215~230、P240~247
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第3回で実施した実技内容を必ず理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：30分
復習：60分

第5回　上肢②　実技
【key words】
僧帽筋（上部線維、中部線維、下部線維）、小胸筋、前鋸筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋
【授業概要】
教員による僧帽筋（上部線維、中部線維、下部線維）、小胸筋、前鋸筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。
解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P202~207、P215~230、P240~247
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第4回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。
動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分
復習：60分

第6回　上肢③　実技前学習
【key words】
長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋
【授業概要】
長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋の触診についての事前学習を行う。
ワークシートを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P261~279
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第5回で実施した実技内容を必ず理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：30分
復習：60分

第7回　上肢③　実技
【key words】
長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋
【授業概要】
教員による長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。
解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P261~279
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第6回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。
動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分
復習：60分

第8回　下肢①　実技前学習
【key words】
大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋、梨状筋
【授業概要】

| | | |
|---|---|---|
| | | 大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋、梨状筋の触診についての事前学習を行う。<br>ワークシートを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P2~23、P47~50、P151~171<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第7回で実施した実技内容を必ず理解しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習：30分<br>復習：60分 |
| | 第9回 | 下肢①　実技<br>【key words】<br>大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋、梨状筋<br>【授業概要】<br>教員による大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋、梨状筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。<br>解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P2~23、P47~50、P151~171<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第8回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。<br>動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習：60分<br>復習：60分 |
| | 第10回 | 下肢②　実技前学習<br>【key words】<br>縫工筋、大腿直筋、外側広筋、内側広筋<br>【授業概要】<br>縫工筋、大腿直筋、外側広筋、内側広筋の触診についての事前学習を行う。<br>ワークシートを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P5~7、P30~35、P113~117、P146~150、P180~204<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第7回で実施した実技内容を必ず理解しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習：30分<br>復習：60分 |
| | 第11回 | 下肢②　実技<br>【key words】<br>縫工筋、大腿直筋、外側広筋、内側広筋<br>【授業概要】<br>教員による縫工筋、大腿直筋、外側広筋、内側広筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。<br>解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢・体幹：P5~7、P30~35、P113~117、P146~150、P180~204<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第10回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。<br>動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習：60分<br>復習：60分 |
| | 第12回 | 下肢③　実技前学習<br>【key words】<br>半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋（短頭・長頭）、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋<br>【授業概要】<br>半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋（短頭・長頭）、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋の触診についての事前学習を行う。<br>ワークシートを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P14~17、P51~53、P68~81、P205~216、P227~231、P236~241<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第11回で実施した実技内容を必ず理解しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習：30分<br>復習：60分 |
| | 第13回 | 下肢③　実技<br>【key words】<br>半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋（短頭・長頭）、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋<br>【授業概要】<br>教員による半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋（短頭・長頭）、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。<br>解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P14~17、P51~53、P68~81、P205~216、P227~231、P236~241<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第12回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。<br>動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。 |

| | |
|---|---|
| | 【予習復習に必要な想定時間】<br>予習：60分<br>復習：60分<br>第14回　実技試験<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>ペアごとに実技試験を行う。<br>試験内容は、授業中にアナウンスを行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>これまで授業を十分に理解し、実技試験に臨むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習：60分<br>第15回　実技試験<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>ペアごとに実技試験を行う。<br>試験内容は、授業中にアナウンスを行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>これまで授業を十分に理解し、実技試験に臨むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習：60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ＜服装指定＞<br>半袖、短パン<br>＜持ち物＞<br>タオル（またはハンカチ）、フェイスシールド（またはゴーグル）、マスク、色鉛筆3色<br>＜学習方法＞<br>解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | Googleフォーム |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。<br>・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。 |
| オフィスアワー | 【小林雄斗】木曜日16:30～17:30は随時<br>【小林昭博】月曜日16:30～17:30は随時<br>※変更時は掲示します。その他の曜日においては要予約<br>※都合により対応できない場合もあります。 |
| 評価方法 | 筆記試験60%、実技試験30%、ポートフォリオ10%の割合で総合的に評価を行う。 |
| 教科書 | 林典雄（執筆）：改訂第2版運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢，メディカルビュー社，2011<br>林典雄（執筆）：改訂第2版運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹，メディカルビュー社，2016<br>林典雄（執筆）：動画でマスター！機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット，メディカルビュー社，2016<br>奈良勲ら（監修）：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学，第4版，医学書院，2018<br>井樋栄二ら（編集）：標準整形外科学，第14版，医学書院，2020 |
| 参考書 | 小柳磨毅ら（編者）：PT・OTのための運動学テキスト 基礎・実習・臨床，金原出版，2015 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>【小林雄斗】<br>急性期および回復期のリハビリテーション病棟で理学療法士として従事し、主に脳血管疾患のリハビリテーションに携わってきた。<br>【小林昭博】急性期及び回復期リハビリテーション病棟、外来（生活期）で作業療法士として21年間従事してきた。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） |

| | |
|---|---|
| | □情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 運動生理学演習　　授業コード： 20R2P1G183

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 浅野貞美・宮寺亮輔・古田常人 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>運動生理学は運動に対する生理反応を理解する学問である。運動という治療手段を用いてリハビリテーションを実践する我々セラピストにとって極めて重要な知識である。運動時の呼吸循環反応や運動の効果について理解することを目的とする。<br><br>[到達目標]<br>①運動が循環器系に与える影響を説明できる。<br>②運動が呼吸器系に与える影響を説明できる。<br>③運動負荷試験による生体反応のしくみを説明できる。 |
| 授業の概要 | 運動器障害を有する高齢者や、循環器・呼吸器をはじめとする内部障害などをもつ対象者における運動時の呼吸循環反応や運動の効果についての理解は、運動という手段を用いてリハビリテーションを実践する理学療法士・作業療法士にとって、極めて重要である。運動時の呼吸循環反応や運動が身体に及ぼす影響について、演習も交え学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション<br>【key words】<br>講義の受け方、オリエンテーション、小テスト<br>【授業概要】<br>①1年次で学んだ循環系に関する小テストを実施する。<br>②授業概要の説明と導入を行う。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>生理学教科書、各種資料<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>小テストの範囲について学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1.5時間 |
| | 第２回 | 循環器系の解剖生理①<br>【key words】<br>心臓、循環、解剖・生理<br><br>【授業概要】 |

①循環器系の構造と機能を理解する。
②循環器系の生理学を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
解剖学・生理学・運動学教科書

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに関する内容を復習すること
小テスト勉強をすること

【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間

第３回　循環器系の解剖生理②

【key words】
心臓、刺激伝導系

【授業概要】
①刺激伝導系を理解する。
②心臓の支配神経を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
解剖学・生理学・運動学教科書

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに関する内容を復習すること

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　循環器系の解剖生理③

【key words】
心拍数、心拍出量、前負荷、後負荷

【授業概要】
①心拍数、心拍出量を理解する。
②心拍出量を規定する因子を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
リハビリテーション運動生理学
その他の参考教科書

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに関する内容を予習・復習すること

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　運動負荷と循環応答①

【key words】
運動、血圧、血圧調節

【授業概要】
①血圧に関する小テスト実施
②血圧の定義を理解する。
③血圧を調節する機構を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
リハビリテーション運動生理学
その他の参考教科書

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに関する内容を予習・復習すること

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　運動負荷と循環応答②

【key words】
運動、血流分配

【授業概要】
①安静時と運動時の血流分配を理解する。
②漸増運動負荷時の変化を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
リハビリテーション運動生理学
その他の参考教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに関する内容を予習・復習すること

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　呼吸器系の解剖生理①

【key words】

| | | |
|---|---|---|
| | | 呼吸器系の構造、呼吸運動、ガス交換<br><br>【授業概要】<br>①呼吸に関連する小テストを実施<br>②呼吸器系の構造を理解する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>リハビリテーション運動生理学<br>解剖学・生理学・運動学教科書<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>key wordsに関する内容を予習・復習すること<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第８回 | 呼吸器系の解剖生理②<br>【key words】<br>呼吸器系の構造、呼吸運動、ガス交換<br>【授業概要】<br>①呼吸運動、ガス交換を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>リハビリテーション運動生理学<br>解剖学・生理学・運動学教科書<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>key wordsに関する内容を予習・復習すること<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第９回 | 呼吸器系の解剖生理③<br>【key words】<br>呼吸調節、酸塩基平衡、酸素解離曲線<br><br>【授業概要】<br>①呼吸調節機構を理解する。<br>②酸塩基平衡、酸素解離曲線を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>リハビリテーション運動生理学<br>その他の参考教科書<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>key wordsに関する内容を予習・復習すること<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第１０回 | 呼吸機能検査<br>【key words】<br>スパイロメータ、フローボリューム曲線<br>【授業概要】<br>呼吸機能検査を理解する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>リハビリテーション運動生理学<br>その他の参考教科書<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>key wordsに関する内容を予習・復習すること<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第１１回 | 運動と呼吸<br>【key words】<br>運動、呼吸<br>【授業概要】<br>運動時の呼吸状態を理解する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>リハビリテーション運動生理学<br>解剖学・生理学・運動学教科書<br>その他の参考教科書<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>key wordsに関する内容を予習・復習すること<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第１２回 | 運動と筋①<br>【key words】<br>筋線維、筋収縮、運動<br>【授業概要】<br>①筋線維の種類と組成について理解する。<br>②筋の収縮様式と各収縮様式の特徴を理解する。 |

| | |
|---|---|
| | 【小テスト】<br>2年次までに学習した呼吸に関連する領域について、小テストを実施する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>リハビリテーション運動生理学<br>解剖学・生理学・運動学教科書<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>key wordsに関する内容を予習・復習すること<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間<br>第１３回　運動と筋②<br>【key words】<br>筋線維、筋収縮、運動<br>【授業概要】<br>①運動による筋線維組成や筋力の変化を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>リハビリテーション運動生理学<br>解剖学・生理学・運動学教科書<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>key wordsに関する内容を予習・復習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間<br>第１４回　運動とエネルギー<br>【key words】<br>エネルギー供給機構、ATP<br>【授業概要】<br>①エネルギー供給機構を理解する。<br>②身体活動時のエネルギー供給を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>リハビリテーション運動生理学<br>解剖学・生理学・運動学教科書<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>key wordsに関する内容を予習・復習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間<br>第１５回　運動処方<br>【key words】<br>運動強度、運動処方<br><br>【授業概要】<br>①運動処方を理解する。<br>②運動強度の表し方、計算方法を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>リハビリテーション運動生理学<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>key wordsに関する内容を予習・復習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>講義への出席は必須であり，無断欠席・遅刻は小テスト成績ならびに課題発表に影響するので注意すること。<br>実習を行う際は大学指定体操着着用とする。<br>臨床実習に準じる身だしなみ（爪は短く切る、長い髪は束ねる、アクセサリー・香水・派手な化粧・頭髪の染色など不可）とする。<br><br>【受講のルール】<br>①シラバスを毎回持参し，各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。<br>②受講態度や身だしなみ（前述の通り）等が整っていない場合は受講を認めない。<br>③他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。指導により態度を改めない場合は受講を認めない。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ①講義終了後，シラバスで次回内容の確認をし，受講の準備計画を立てる。<br>②前回講義内容の復習をし，要点をまとめておく。<br>③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと。 |
| オフィスアワー | 水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。 |
| 評価方法 | 小テスト20%、課題レポート20%、筆記試験60%<br>総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。 |
| 教科書 | 玉木　彰・監修：リハビリテーション運動生理学，メジカルニュー社 |
| 参考書 | 適宜紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/ | 授業担当教員 |

| | |
|---|---|
| リテラシー教育 | □実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 臨床運動学演習　　授業コード： 20R2P1G186

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 小林雄斗・宮寺亮輔・古田常人・新谷益巳 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>人の動きに関して，筋力，角度・位置・速さの変化，重心の変化などを観察や各種測定機器を利用して分析する．そして，人間の活動のメカニズムを理解し，その動き・昨日を解剖・生理学・運動学，および医学用語を用いて表現できるようになる．<br>【到達目標】<br>1)身体の各部位や肢節の長さや周径等を正しく計測し，結果を適切に評価できる．<br>2)セグメント法により平面上で重心位置を推定し，平面上で重心線が体重支持面上に落ちることを証明できる．<br>3)重心動揺計を用いていわゆる”重心動揺”を測定できる．重心と足圧中心の違い，立位姿勢制御における視覚の役割を説明できる．<br>4)体重を用いて，この原理で重心の位置を推定することができる．<br>5)運動課題に対する静的バランスと動的バランスの評価の仕方を説明できる。<br>6)筋機能解析装置を使用し，筋力測定が行える．また肢位・角速度による筋力の違い，筋疲労を理解し，種々の活動における複合筋力を測定できる．<br>7)筋電図法と電気角度計を用いて動作分析ができる．<br>8)学習とパフォーマンスの関係を説明できる．反復練習に伴うパフォーマンスの変化を確認し，トランスファーテストを用いて運動学習の成立を確認する．<br>9)健常者の寝返り・立ち上がり，座位，起立，歩行の動作を観察し，運動学テキストに記載されている運動分析にそって分析ができ，動作分析に必要な表現ができる．<br>10)3次元動作解析装置を利用し，正常動作の動作分析，および解析を学ぶ． |
| 授業の概要 | ひとが日々暮らしていく中で行っている様々な行為は，姿勢を保ちながら体の一部を動かして行われる．このひとの動きの基礎となる姿勢，運動，動作について学び，それらを行うために必要な機能について，動作分析の方法や機器を用いて学んでいく． |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる． | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーション、体格・筋力・姿勢の測定方法について<br>【key words】<br>到達目標、形態計測、体格、筋力測定、姿勢、支持基底面、重心、床反力、線画、アライメント、圧中心、静的バランス、動的バランス、リーチ<br><br>【授業概要】<br>①科目オリエンテーション<br>・科目での到達目標、進め方についてのガイダンス<br>②体格の測定方法について<br>・肢長、周径、身体の各部位や肢節の長さや周径等を正しく計測する。 |

・形態計測の結果を適切に評価できる。
③筋力の測定方法について
・肢位の違いによる握力の計測、連続握力測定による筋持久力を評価する。
④姿勢の測定方法について
・姿勢の概念について理解できる
・支持基底面、重心、重心線、身体重心、床反力、圧中心が理解できる
・線画を描くことができる
・支持基底面と重心の関係性を理解できる
・リーチなど運動課題に対する静的バランスと動的バランスの評価の仕方を理解できる。
【教科書ページ・参考文献】
運動学テキスト：P341-344
配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと
・各関節の関節運動について復習して授業に臨むこと
・実習が行える服装で参加すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第2回　姿勢・バランスについて／体格・筋力・姿勢の測定値の分析
【key words】
平均値、標準偏差、t検定、相関分析
【授業概要】
・姿勢・バランスについての解説講義
・第1回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。
・各個人の結果が、世代平均値と比較してどうだったかを考察する。
・被験者全員の結果を平均値、標準偏差、統計分析（t検定、相関）の値から理解し、各個人の結果と比較して考察する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個人実習レポートを作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第3回　体格・筋力・姿勢の測定値の分析②
【key words】
平均値、標準偏差、t検定、相関分析
【授業概要】
・第2回に引き続き、解析、結果、考察を行う。
・各個人の結果が、世代平均値と比較してどうだったかを考察する。
・被験者全員の結果を平均値、標準偏差、統計分析（t検定、相関）の値から理解し、各個人の結果と比較して考察する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個人実習レポートを提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第4回　個人実習のまとめ
【key words】
到達目標、形態計測、体格、筋力測定、姿勢、支持基底面、重心、床反力、線画、アライメント、圧中心

【授業概要】
・体格・筋力・姿勢の測定意義について解説する。
・個人実習レポートの考察点について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回からグループ実習のため、グループ実習の手引きをよく読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第5回　筋機能解析装置／筋電図／運動学習
【key words】
筋機能解析、筋電図、運動学習、学習曲線、熟練
【授業概要】
・グループ学習。被験者を選出し、筋の働きを機器を使って計測および分析する。
・筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。
・肢位・角速度よる筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定する。
・筋電図法と電気角度計を用いて動作分析をする。
・グループ学習. 被験者を選出し、基本動作を機器を使って計測および分析をする。
・グループ学習。被験者を選出し、釘打ちテストで運動学習を計測および分析する。
・学習とパフォーマンスの関係を説明できる。反復練習に伴うパフォーマンスの変化を確認し、釘打ちテストを用いて運動学習の成立を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)
運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、運動学習；P60-84
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第6回　筋機能解析装置／筋電図／運動学習

【key words】
筋機能解析、筋電図、運動学習、学習曲線、熟練
【授業概要】
・グループ学習。被験者を選出し、筋の働きを機器を使って計測および分析する。
・筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。
・肢位・角速度よる筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定する。
・筋電図法と電気角度計を用いて動作分析をする。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)
運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、運動学習；P60-84
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第7回　筋機能解析装置／筋電図／運動学習

【key words】
筋機能解析、筋電図、運動学習、学習曲線、熟練
【授業概要】
・グループ学習。被験者を選出し、筋の働きを機器を使って計測および分析する。
・筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。
・肢位・角速度よる筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定する。
・筋電図法と電気角度計を用いて動作分析をする。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)
運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、運動学習；P60-84
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第8回　筋機能解析装置・筋電図・運動学習の解析方法について

【key words】
筋機能解析、筋電図、運動学習、学習曲線、熟練

【授業概要】
・第5～7回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。
・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。
・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)
運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、運動学習；P60-84
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループ実習レポートが提出できるように準備をしていくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内発レポート作成180分）

第9回　動作分析（寝返り・起き上がり）／動作分析（座位・起立）／動作分析（歩行）

【key words】
動作分析、寝返り、起き上がり、座位、起立動作、線画、支持基底面、重心、筋活動歩行周期、倒立振り子、二重振り子、ロッカーファンクション

【授業概要】
①寝返り、起き上がり動作について
　・寝返り、起き上がり動作を相分けし、線画を描ける
　・寝返り、起き上がり動作を文章化できる
　・寝返り、起き上がり動作における筋活動を考察できる
②座位・起立動作について
　・座位姿勢の線画を描ける
　・座位姿勢を文章化できる
　・起立動作を相分けし、線画を描ける
　・起立動作を文章化できる
　・起立動作における筋活動を考察できる
　・起立動作時の支持基底面と重心の関係性を理解できる
③正常歩行について
　・正常歩行の周期について理解できる
　・倒立振り子、二重振り子について理解できる
　・歩行中の重心移動について理解できる
　・ロッカーファンクションについて理解できる
【教科書ページ・参考文献】
運動学テキスト：寝返り・起き上がり；P460-474、座位・起立；P475-495、歩行；P365-389
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと
・1年生で学んだ歩行についての範囲をよく復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第10回　動作分析（寝返り・起き上がり）／動作分析（座位・起立）／動作分析（歩行）

【key words】
動作分析、寝返り、起き上がり、座位、起立動作、線画、支持基底面、重心、筋活動歩行周期、倒立振り子、二重振り子、ロッカーファンクション

【授業概要】
①寝返り、起き上がり動作について
　・寝返り、起き上がり動作を相分けし、線画を描ける

・寝返り、起き上がり動作を文章化できる
・寝返り、起き上がり動作における筋活動を考察できる
②座位・起立動作について
・座位姿勢の線画を描ける
・座位姿勢を文章化できる
・起立動作を相分けし、線画を描ける
・起立動作を文章化できる
・起立動作における筋活動を考察できる
・起立動作時の支持基底面と重心の関係性を理解できる
③正常歩行について
・正常歩行の周期について理解できる
・倒立振り子、二重振り子について理解できる
・歩行中の重心移動について理解できる
・ロッカーファンクションについて理解できる
【教科書ページ・参考文献】
運動学テキスト：寝返り・起き上がり；P460-474、座位・起立；P475-495、歩行；P365-389
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと
・1年生で学んだ歩行についての範囲をよく復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第11回　動作分析（寝返り・起き上がり）／動作分析（座位・起立）／動作分析（歩行）
【key words】
動作分析、寝返り、起き上がり、座位、起立動作、線画、支持基底面、重心、筋活動歩行周期、倒立振り子、二重振り子、ロッカーファンクション
【授業概要】
①寝返り、起き上がり動作について
・寝返り、起き上がり動作を相分けし、線画を描ける
・寝返り、起き上がり動作を文章化できる
・寝返り、起き上がり動作における筋活動を考察できる
②座位・起立動作について
・座位姿勢の線画を描ける
・座位姿勢を文章化できる
・起立動作を相分けし、線画を描ける
・起立動作を文章化できる
・起立動作における筋活動を考察できる
・起立動作時の支持基底面と重心の関係性を理解できる
③正常歩行について
・正常歩行の周期について理解できる
・倒立振り子、二重振り子について理解できる
・歩行中の重心移動について理解できる
・ロッカーファンクションについて理解できる
【教科書ページ・参考文献】
運動学テキスト：寝返り・起き上がり；P460-474、座位・起立；P475-495、歩行；P365-389
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと
・1年生で学んだ歩行についての範囲をよく復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第12回　動作分析（寝返り・起き上がり）／動作分析（座位・起立）／動作分析（歩行）の解析方法について
【key words】
動作分析、寝返り、起き上がり、座位、起立動作、線画、支持基底面、重心、筋活動歩行周期、倒立振り子、二重振り子、ロッカーファンクション

【授業概要】
・第9～11回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。
・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。
・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
運動学テキスト：寝返り・起き上がり；P460-474、座位・起立；P475-495、歩行；P365-389
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループ実習レポートが提出できるように準備をしていくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内発レポート作成180分）

第13回　解析方法について/発表準備
【key words】
平均値、標準偏差、t検定、相関分析

【授業概要】
・第5回～12回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。
・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。
・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。
・次回発表できるように発表資料を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループレポートが提出できるように準備をしていくこと。次回発表できるように準備をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内発表資料準備180分）

第14回　発表
【key words】

| | |
|---|---|
| | 発表、質疑応答<br>【授業概要】<br>・今まで行ったグループ実習について、各グループで担当した範囲について発表を行う。指定なし発表は1グループ質疑を含め20分で行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループレポートの提出<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第15回　発表<br>【key words】<br>発表、質疑応答<br>【授業概要】<br>・今まで行ったグループ実習について、各グループで担当した範囲について発表を行う。指定なし発表は1グループ質疑を含め20分で行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループレポートの提出<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 実際に体を動かすことが多いため，学校指定のジャージを用意しておくこと.<br>メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと.<br>課題の提出は，原則としてデータ収集，あるいは解析方法の指導後2週間後の17時，担当教員に提出すること. |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 解析方法などは授業内で説明するが，解析し，結果・考察を導き出すためには，解剖学・生理学・運動学の復習や深い理解が必要となる．グループで協力し，理解を深めること. |
| オフィスアワー | 月曜日16時30分～18時は随時（変更時は掲示する）．その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | □レポート70%（個人実習レポート50%，グループ実習レポート20%）<br>□演習課題（発表など）30% |
| 教科書 | 小柳磨毅ら・編：PT・OTのための運動学テキスト　基礎・実習・臨床第1版，金原出版，2015 |
| 参考書 | 石川朗ら・編：理学療法・作業療法テキスト　臨床運動学第1版，中山書店，2018 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>小林雄斗<br>理学療法士経験　年<br>理学療法士養成校教員経験　年<br><br>新谷益美<br>理学療法士経験　年<br>理学療法士養成校教員経験　年<br><br>古田常人<br>作業療法士経験　年<br>作業療法士養成校教員経験　年<br><br>宮寺亮輔<br>作業療法士経験　15年<br>作業療法士養成校教員経験　11年<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他 |

| | |
|---|---|
| | その他の具体的内容 |

講義科目名称： 臨床医学Ⅰ(病理学)　　授業コード：20R2P1H187

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 前島俊孝 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。<br><br>〔到達目標〕<br>・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。<br>・基本的な疾患の病態について説明できる。 |
| 授業の概要 | 細胞傷害、循環障害、炎症、免疫、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学概論の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　オリエンテーション、解剖学の復習<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>解剖学、病理学の位置づけ。講義の予定、内容の説明、注意事項など。<br>病理学を学習する上で必要不可欠な解剖学の知識の再確認。特に、上皮組織を取り上げ、復習する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>病理学と解剖学、両方の教科書を用意すること<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２回　細胞傷害<br>【key words】<br>壊死、アポトーシス、萎縮、過形成、肥大、化生、再生、低形成、無形成<br>【授業概要】<br>細胞傷害に関する用語を理解し、説明できるようにする。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書: p.50-52<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第３回　循環障害

【key words】
出血、血栓、塞栓、梗塞、虚血、充血、うっ血、側副血行、浮腫、ショック
【授業概要】
循環障害とは。循環障害に関する用語を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.65-75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第４回　炎症、免疫、アレルギー

【key words】
炎症性細胞、急性炎症、慢性炎症、肉芽組織、肉芽腫、免疫細胞、I型～V型アレルギー
【授業概要】
炎症の定義、様々な炎症の種類について学ぶ。免疫機能、アレルギー反応について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.76-101
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第５回　腫瘍　1

【key words】
良性腫瘍、悪性腫瘍、がん、癌腫、肉腫
【授業概要】
腫瘍の定義、分類について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.118-134

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第６回　腫瘍　２

【key words】
リンパ行性転移、血行性転移、播種性転移、腫瘍の診断、検査、治療
【授業概要】
腫瘍発生の原因や、転移様式、腫瘍の診断、治療の流れを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.118-134
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第７回　代謝異常、糖尿病

【key words】
血糖、インスリン、１型糖尿病、２型糖尿病、診断、合併症、治療
【授業概要】
代謝異常、特に糖尿病について学習し、疾患の重要性を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.317-323
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第８回　まとめ

【key words】
補足、講義のまとめ、試験について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・春休みに解剖学全般の復習をして、臨床医学Ⅰ(病理学)の講義に望んで欲しい。<br>・机の隣同士2～3人で相談し、毎時間、病理学と解剖学の教科書を各1冊は用意すること。<br>・臨床医学Ⅰ(病理学)の講義では授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りの学生と相談するなどして何らかの答えを導き出すように。<br>・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。<br>・新聞やテレビなどのニュース、特に医療・医学に関する内容に興味を持つ。<br>・読書の習慣を身につける。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 講義を受けることで、教科書を理解して読むことが可能となるはずである。講義で扱った範囲の教科書を読み復習する習慣をつけておくと、試験直前に勉強を0から始めるような状況にならずにすむ。 |
| オフィスアワー | 講義の前後 |
| 評価方法 | 筆記試験（客観・論述）80%、レポート20% |
| 教科書 | 堤 寛： クイックマスター 病理学　第2版，サイオ出版，2018 |
| 参考書 | 解剖学の教科書（臨床医学Ⅰ(病理学)の講義でも使用する） |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>病理診断科の医師として急性期病院に勤務。医療機関での実務経験をふまえ講義を行っている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 臨床医学Ⅱ(画像診断学, 救急救命医学)　　授業コード：20R2P1H188

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 多田真和 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | ＜画像診断学について＞<br>単純X線、X線CTおよびMRI等の画像は、疾患の診断および治療に欠かせないものです。理学療法士・作業療法士としてチーム医療を担う皆さんには、これらの画像を理解する力が求められています。臨床上遭遇することが多い疾患および状態について画像を読影、理解し、臨床像と結び付けられるようになることを目標とします。<br><br>＜救急救命医学について＞<br>リハビリテーションは手術後の方、高齢者や障害を有する方を対象に行われることが多く、状態の急激な変化のリスクは決して少なくありません。現在、急性疾患に対する早期からのリハビリテーション介入の有効性が認識されていますが、全身状態が不安定な状況下でのリハビリテーション中に状態が急変する可能性は否定できません。本講義では、日常遭遇することが多い疾患および状態を取り上げ、その病態を理解し、生じうるリスクが想起でき、救命救急の場において対応できる力を身に付けることを目標とします。 |
| 授業の概要 | ＜画像診断学について＞<br>日常遭遇することが比較的多い疾患および状態を取り上げ、その単純X線、X線CTおよびMRI等の画像を提示し、解剖学上の変化および臨床像と連携させ解説し、理解を深めて頂きます。<br><br>＜救急救命医学について＞<br>日常遭遇することが比較的多い疾患および状態について、その病態を理解した上で、リハビリテーションの介入により生じうる全身状態の変化を解説します。その上で、救急処置が必要になった際の対応法を学び、実践できるような知識を習得して頂きます。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 画像診断学についてのオリエンテーション、頭部疾患の画像診断 (1)<br>【key words】<br>単純X線、X線CT、MRI、脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血<br>【授業概要】<br>オリエンテーションとして、画像診断の必要性と有用性を解説します。その上で、実際の脳梗塞、脳内出血およびくも膜下出血のCT画像、MRI画像を提示し、解剖学の知識をもとに生じている病態を解説し、臨床像と結び付け説明します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p.1-35<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説しま |

す。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第2回　頭部疾患の画像診断（2）、胸部疾患の画像診断
【key words】
頭部外傷、脳腫瘍、認知症、無気肺、肺気腫、肺炎、気胸、心タンポナーデ、大動脈瘤
【授業概要】
頭部外傷、脳腫瘍、認知症、さらに呼吸器、循環器疾患として無気肺、肺気腫、肺炎、気胸、心タンポナーデ、大動脈瘤を取り上げ、実際のCT画像、MRI画像を提示し、解剖学の知識をもとに生じている病態を解説し、臨床像と結び付け説明します。
【教科書ページ・参考文献】
p.36-45　p.125-140
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第3回　脊柱疾患の画像診断
【key words】
椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離すべり症、椎体圧迫骨折
【授業概要】
脊椎疾患として、椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離すべり症、椎体圧迫骨折を取り上げ、実際のCT画像、MRI画像を提示し、解剖学の知識をもとに生じている病態を解説し、臨床像と結び付け説明します。
【教科書ページ・参考文献】
p.47-78
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第4回　上肢・下肢疾患の画像診断
【key words】
鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼、上腕骨骨折、肘関節脱臼、橈骨遠位端骨折、中手骨骨折、変形性股関節症、
大腿骨骨折、脛骨骨折、腓骨骨折、前十字靭帯損傷、後十字靭帯損傷
【授業概要】
上肢の疾患として、鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼、上腕骨骨折、肘関節脱臼、橈骨遠位端骨折、中手骨骨折、さらに下肢の疾患として、変形性股関節症、大腿骨骨折、脛骨骨折、腓骨骨折、前および後十字靭帯損傷等を取り上げ、実際のCT画像、MRI画像を提示し、解剖学の知識をもとに生じている病態を解説し、臨床像と結び付け説明します。
【教科書ページ・参考文献】
p.79-123
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第5回　救命救急医学についてのオリエンテーション、　Ⅰ　リハビリテーションにおけるリスク管理（総論）
【key words】
リハビリテーション、リスク管理、安全管理、法的責任
【授業概要】
リハビリテーションにおけるリスク管理の必要性、合併症予防のための情報収集、リスク管理に必要な薬剤の知識、状態変化時の対応、リハビリテーション中に起きたアクシデントと法的責任等について解説します。
【教科書ページ・参考文献】
p.1-86
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第6回　II　疾患ごとの急変予測　～どのような症例に急変が生じやすいか～
【key words】
脳卒中、運動器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、悪性腫瘍、糖尿病
【授業概要】
状態の急な変化が比較的生じやすい、脳卒中、運動器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、悪性腫瘍および糖尿病について、その病態を学び、なぜ急変が生じやすいのか、また急変を予測する手法等について解説します。
【教科書ページ・参考文献】
p.87-166
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第7回　III　どのような急変を生じるか　～遭遇しやすい症状とその対処法～
【key words】
胸痛、呼吸困難、意識障害、高血圧、低血圧、痙攣発作、てんかん発作、浮腫、深部静脈血栓症、
肺塞栓、頭痛、発熱、脈拍異常、めまい、悪心・嘔吐、腹痛

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>リハビリテーション中に実際に生じやすい（遭遇しやすい）症状および状態について学び、そのような状況が見られた際の対応法について解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p.167-248<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30-60分 |
| | 第8回　IV　急変を生じた場合に　　V　リハビリテーションに関連するその他のリスク<br>【key words】<br>一次救命処置、心肺蘇生、外傷の対処、転倒予測、転倒予防、窒息事故、気道吸引、気管カニューレ、<br>感染管理<br>【授業概要】<br>急な状態の変化が見られた場合の対処法としての一次救命処置、心肺蘇生法、また、リハビリテーションの際に遭遇しやすい外傷およびその対処法について解説します。さらに、転倒の予測、予防方法と転倒後の対応、窒息事故の予測と対応等について解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p.249-344<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30-60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 将来の医療従事者として、だれからも信頼されるような真摯な姿勢で授業に臨んでください。他の方の聴講を妨げることのないように配意してください。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨んでください。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 前もってテキストの該当する範囲を熟読し、自身がわかりにくい部分を明確にした上で授業に臨んで下さい。授業では、テキストをもとに、さらに知識を深められるよう解説していきます。 |
| オフィスアワー | 授業終了後の30－60分ほど対応可能です。 |
| 評価方法 | 筆記試験（100%）予定 |
| 教科書 | PT・OT　基礎から学ぶ画像の読み方　国試画像問題攻略　第3版（医歯薬出版株式会社）<br>リハビリテーション　リスク管理ハンドブック　第3版　（メジカルビュー社） |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介します。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>かつて大学病院にて、医師として臨床医学および基礎医学研究に携わっていました。現在も一般病院において、臨床医学を中心に活動しています。施設および個人宅への訪問診療を通じて高齢者、障害を有する方に対する医療を実践しています。また、産業医として、一般企業で働く方々の健康の維持、増進等の産業医学分野にも関わっています。さらに、健康診断、人間ドックにも携わり、予防医療分野にも従事しています。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 臨床医学Ⅲ(栄養学,臨床薬学)　　授業コード： 20R2P1H189

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 神内伸也・古屋牧子・中里見真紀・大澤吉弘 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>リハビリテーションにおける栄養知識の重要性を理解し、主な病態又は主な疾患の栄養療法を学ぶ。また必要な薬理学の理解を深め、疾患や障害に対する薬物療法の効果や副作用を分析する能力を修得する。<br>〔到達目標〕<br>① リハビリテーションを実施する上で必要な栄養に関する基礎知識を修得している。<br>② 主な病態の栄養療法について修得している。<br>③ 薬物療法の意義や目的について理解できる。<br>④ 病群ごとの薬物の効果や副作用のリスクについて理解できる。<br>⑤ 理学療法と薬物療法を併用することの効果と注意点につて理解できる。 |
| 授業の概要 | 将来、チーム医療を実践していくにあたり、医学および医療の幅広い知識を持つことが重要である。本講義では、リハビリテーションの実施に必要な解剖学、生理学、生化学等の講義で解剖学的構造、生理学的機能を学習した上で、より高度な医療に対応することを目的に栄養学、薬理学について学ぶ。<br>授業全体を通し、患者さんに対するアプローチの多様性を考える力を高められるような授業を目指す。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 生化学を理解する（大澤）<br>【key words】<br>基礎化学、蛋白質・アミノ酸、酵素・ホルモン、糖質・脂質、ビタミン<br>【授業概要】<br>生物を構成する物質と機能、その合成と分解を理解し、生体の恒常性がどのように維持されているかについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>リハベーシック 生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.8-55(CHAPTER 1～6)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第2回 | 栄養学を理解する（大澤）<br>【key words】<br>消化吸収、エネルギー代謝、スポーツ栄養 |

【授業概要】
栄養素の消化と吸収、エネルギーを理解し、運動や活動に必要な栄養素とエネルギーの適切な摂取方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
リハベーシック 生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.56-79(CHAPTER 7～9)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第3回　リハビリテーションにおける栄養知識の重要性（中里見）
【key words】
フレイル、低栄養、チーム医療、多職種連携、栄養アセスメント
【授業概要】
低栄養やフレイルにおける栄養管理の重要性や多職種連携・チーム医療について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
リハベーシック 生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.80-95(CHAPTER 10～11)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第4回　主な病態の栄養管理（中里見）
【key words】
栄養管理、栄養療法

【授業概要】
主な病態の栄養管理について学ぶ。自分の栄養アセスメントをした結果を、グループディスカッションする。
【教科書ページ・参考文献】
リハベーシック 生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.96-119(CHAPTER 12～14)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第5回　リハビリテーションにおける薬理学（古屋）
【key words】
薬理学、臨床薬理学
【授業概要】
薬理学・臨床薬理学を学ぶ意義および薬理学の基礎について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.8～39(CAHPTER 1～CAHPTER 4)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第6回　薬物の作用機序、体内動態および相互作用（古屋）
【key words】
薬物の作用機序、薬物の体内動態、薬物の相互作用
【授業概要】
薬物の作用機序、薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）および薬物の相互作用（薬物と薬物、薬物と食品）について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.40～71(CAHPTER 5～CAHPTER 8)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第7回　感染、炎症、神経疾患、精神疾患の薬物療法（神内）
【key words】
感染・炎症の制御、神経疾患、精神疾患、薬物療法
【授業概要】
感染と炎症の病態ならびに、主な神経疾患、精神疾患の発症機序を学ぶ。さらに、これら疾患に対する治療薬及びその作用機序について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.72～95(CAHPTER 9～CAHPTER 11)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

| | |
|---|---|
| | 第8回　循環器、疼痛の薬物療法および、薬物の使用にあたり注意すべきこと（神内）<br>【key words】<br>循環器系、疼痛、薬物療法、副作用<br>【授業概要】<br>主な循環器系疾患の発症機序ならびに、疼痛の病態を学ぶ。さらに、これら疾患に対する治療薬及びその作用機序について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.96～119(CAHPTER 12～CAHPTER 14)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。<br>・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。<br>・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。<br>・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話・スマートフォンの授業に関係ない使用）は厳禁。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。 |
| オフィスアワー | 授業終了後30分程度、対応可能。 |
| 評価方法 | 筆記試験60%、各回の課題40% |
| 教科書 | リハベーシック 生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子<br>リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 |
| 参考書 | PT・OTのための治療薬ガイドブック　リハビリテーション実施時の注意点（株式会社メジカルレビュー社）本間光信（監修）、編集高橋仁美（編集） |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 内科・老年医学　　授業コード： 20R2P1H190

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 神谷誠 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、作業療法士として活躍するために必要な内科学領域の知識、技術を習得することである。<br>〔到達目標〕<br>①メカニズムを病態生理学的に説明できる。<br>②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。<br>③治療方法の根拠と手順が説明できる。<br>④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。 |
| 授業の概要 | 内科学では、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。テキストの内容が膨大である為、授業では各項目について要点のみ簡潔に解説する。<br>老年学では、高齢者医療におけるリハビリテーションの役割を学習する。授業では、テキストの加齢と老化、高齢者へのアプローチ、高齢者をとりまく環境について、要点のみ簡潔に解説する。<br>授業中に、国家試験問題についても触れる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 内科学Ⅰ<br>内科学とは内科的診断と治療の実際 |
| | 第２回 | 内科学Ⅱ<br>症候学 |
| | 第３回 | 内科学Ⅲ<br>循環器疾患 |
| | 第４回 | 内科学Ⅳ<br>呼吸器疾患 |
| | 第５回 | 内科学Ⅴ<br>消化管疾患 |
| | 第６回 | 内科学Ⅵ<br>肝胆膵疾患 |
| | 第７回 | 内科学Ⅶ<br>血液・造血器疾患 |

| | |
|---|---|
| | 第８回　内科学Ⅷ<br>代謝性疾患<br>第９回　内科学Ⅸ<br>内分泌疾患<br>第１０回　内科学Ｘ<br>腎・泌尿器疾患<br>第１１回　内科学Ⅺ<br>アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症候群<br>第１２回　内科学Ⅻ<br>感染症<br>第１３回　老年学Ⅰ<br>加齢と老化<br>第１４回　老年学Ⅱ<br>高齢者へのアプローチ<br>第１５回　老年学Ⅲ<br>高齢者をとりまく環境 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 自宅で問題演習と併せ復習を行う。 |
| オフィスアワー | 授業終了後、20分程度対応可能。 |
| 評価方法 | 筆記試験による期末試験で行う。 |
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学　第4版　医学書院<br>標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　老年学　第5版　医学書院 |
| 参考書 | 理学療法士 作業療法士 国家試験問題 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>医師として、総合病院に勤務<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>zoomにて講義を行う場合もある。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。 |

講義科目名称： 作業分析論　　授業コード： 2002P2J197

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 悴田敦子 | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | ［授業の目的］<br>基本動作・ADL・IADLの評価・介入の方法を学ぶ。<br>［到達目標］<br>①基本動作・ADL・IADLの動作を工程に分けることができる。<br>②基本動作・ADL・IADLの評価の視点を理解し、その介助方法、作業療法の介入ポイント・方法を説明することができる。<br>③動作改善のために必要な問題点・改善点を理解し、対象者に合わせた介入方法を考えることができる。 |
| 授業の概要 | 基本動作やADL・IADLを改善・向上するためには、運動機能と動作・活動の関係に留意した評価が必要となり、その後機能の改善・回復または代償動作・手段の検討が必要となります。本講義では基本動作やADL・IADLの動作分析や障害別の評価をもとに、対象者にとって必要な治療・介入について学びます。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　科目オリエンテーション／ADLの評価と治療<br>【key words】<br>作業療法の流れ、治療理論、活動・参加、オペラント行動<br>【授業概要】<br>ADL評価から治療の流れを確認し、ADL治療理論を機能、活動、学習の視点で学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P15～25，P48～56<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２回　整容動作の評価・支援①<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第３回　整容動作の評価・支援②<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題：グループのまとめを次回授業で提出<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第４回　食事動作の評価・支援①<br>【key words】<br><br>【授業概要】 |

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　食事動作の評価・支援②

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　更衣動作の評価・支援①

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　更衣動作の評価・支援②

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　入浴動作の評価・支援

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　IADLの評価・支援

【key words】

買い物

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　基本動作（寝返り・起き上がり動作）の評価・支援①

【key words】

寝返り、起き上がり、工程分析、心身機能・身体構造、活動、参加

【授業概要】

寝返り動作の動作分析を行います。グループにて代表者の寝返り・起き上がり動作を工程に分け、各工程を説明します。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：動作の工程分析をまとめておく。

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　基本動作（寝返り・起き上がり動作）の評価・支援②

【key words】

心身機能・身体構造、活動、参加、筋緊張

【授業概要】

脳血管障害の寝返り・起き上がり動作の動作分析を行います。疾患の特性を踏まえた指導・支援の方法を学びます。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　基本動作（立ち上がり・移乗動作）の評価・支援①

【key words】

立ち上がり、移乗、工程分析、心身機能・身体構造、活動

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>立ち上がり・移乗動作の動作分析を行います。グループにて代表者の立ち上がり・移乗動作を工程に分け、各工程を説明します。<br>グループに1台の車椅子を準備する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題：動作の工程分析をまとめておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１３回　基本動作（立ち上がり・移乗動作）の評価・支援②<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　移動動作（車椅子）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　移動動作（杖歩行）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 実技を行う講義の際には、大学指定のジャージの着用、身だしなみに留意し受講すること。また、メモの際使用するクリップボートを用意することをお勧めします。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 動作分析のまとめをグループごとまたは個人で作成する。 |
| オフィスアワー | 月曜日16：10～17：30 |
| 評価方法 | 筆記50%　提出物50% |
| 教科書 | 濱口豊太編：標準作業療法学　専門分野　日常生活活動・社会生活行為学．医学書院，2014.<br>WHO：ICF　国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－．中央法規，2008. |
| 参考書 | 伊藤利之，江藤文夫編：新版日常生活活動（ADL）評価と支援の実際．医歯薬出版，2011.<br>千野直一他：脳卒中の機能評価ーSIASとFIM〔基礎編〕．金原出版，2015. |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>病院、老人保健施設にて身体障害領域の作業療法士として勤務。現在、群馬県みなかみ町、埼玉県本庄市の地域支援に関わっている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施 |

| | |
|---|---|
| | □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法セミナーⅠ　　授業コード：020193A707

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 宮寺亮輔（山口智晴・悴田敦子・牛込祐樹・小林昭博） | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | 卒業研究 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>作業療法に関する文献を基に、ディスカッションを重ね理解を深めるとともに、卒業研究における研究テーマ立案のヒントとなることを目的とする。<br><br>【到達目標】<br>・論文を読むことができるようになる。<br>・自分の意見を論理立てて発言できるようになる。<br>・他人の意見を受け入れ自分の考えを再構築できるようになる。 |
| 授業の概要 | A～Eの5班に分かれ、各教員の指導の下で、各自が選んだ文献を読み深めてまとめる。それらをプレゼンテーションすると共に、教員のファシリテーションの基に、そこからディスカッション(問いと応答)を行う。最後に、班ごとにディスカッションで得られた考え・発見を言語化し発表するとともに、作業療法の学問における研究や文献の位置づけについて理解を深める。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション<br>【key words】<br>文献検索，文献データベース<br>【授業概要】<br>オリエンテーション今後の授業の進め方について説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P.34-74<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料第3回までに論文を探しておく。原則的に文献は英語または日本語のいずれかによる原著論文とする（場合によっては総説論文でも認める）。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第２回 | 文献検索の方法について、学術論文の分類について<br>【key words】<br>量的研究，質的研究，混合法，文献研究<br>【授業概要】<br>文献検索の基本的な方法やマナー、論文の分類について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P.34-74<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料プレゼン準備<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第３回 | 文献の抄読について<br>【key words】<br>批判的文献レビュー<br>【授業概要】<br>文献抄読の基本について学ぶ。批判的に読むことの重要性を実際の論文抄読を通して体験し、新たな研究の発想につなげることの重要性を学ぶとともにその楽しさを実感する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P.34-74<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料各自発表準備<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |

| | | |
|---|---|---|
| | 第４回 | 目標の確認１　（悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班／小林E班）<br>【key words】<br>批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション<br>【授業概要】<br>各担当教員と共に、学習目標を確認する。各自で見つけた興味のある文献を担当教員と班員に配布し、読み深める。各教員の指示に従い、プレゼンテーションの準備をする。各自の持ち時間は一人45分であり、構成をよく考えておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自資料準備（文献）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をする。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分（発表者は＋120分） |
| | 第５回 | ワーク１－①　（悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班／小林E班）<br>【key words】<br>批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション<br>【授業概要】<br>各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自資料準備（文献）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分（発表者は＋120分） |
| | 第６回 | ワーク１－②　（悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班／小林E班）<br>【key words】<br>批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション<br>【授業概要】<br>各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自資料準備（文献）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分（発表者は＋120分） |
| | 第７回 | ワーク１－③　（悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班／小林E班）<br>【key words】<br>批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション<br>【授業概要】<br>各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自資料準備（文献）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分（発表者は＋120分） |
| | 第８回 | ワーク１－④　（悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班／小林E班）<br>【key words】<br>批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション<br>【授業概要】<br>各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自資料準備（文献）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分（発表者は＋120分） |
| | 第９回 | 目標の確認２　（悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班／小林E班）<br>【key words】<br>批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション<br>【授業概要】<br>各担当教員と共に、学習目標を確認する。各自で見つけた興味のある文献を担当教員と班員に配布し、読み深める。各教員の指示に従い、プレゼンテーションの準備をする。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自資料準備（文献）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各自の持ち時間は一人45分であり、構成をよく考えておくこと。各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をする。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分（発表者は＋120分） |
| | 第１０回 | ワーク２－①　（悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班／小林E班）<br>【key words】<br>批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション<br>【授業概要】 |

| | |
|---|---|
| | 各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自資料準備（文献）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分（発表者は＋120分）<br>第１１回　ワーク２－②　（悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班／小林E班）<br>【key words】<br>批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション<br>【授業概要】<br>各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自資料準備（文献）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分（発表者は＋120分）<br>第１２回　ワーク２－③　（悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班／小林E班）<br>【key words】<br>批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション<br>【授業概要】<br>各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自資料準備（文献）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分（発表者は＋120分）<br>第１３回　ワーク２－④　（悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班／小林E班）<br>【key words】<br>批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション<br>【授業概要】<br>各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自資料準備（文献）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分（発表者は＋120分）<br>第１４回　発表<br>【key words】<br>批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション，プレゼンテーション<br>【授業概要】<br>これまでに学んだことについてまとめ、各自が次年度に行いたい卒業研究に向けて得られたことをどの様に活かしたいと考えているかについてプレゼンする。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自資料準備（文献）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>学生作成資料各自で発表の準備をすること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分（発表者は＋120分）<br>第１５回　科目のまとめ<br>【key words】<br>批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション，プレゼンテーション<br>【授業概要】<br>発表内容を記録し，まとめる．研究計画を実施するにあたって必要な文献検索の方法について，説明できるようにする．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自資料準備（文献）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>本科目で学んだことをまとめるこれまでまとめた学習成果を提出する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 【受講生に関わる情報】<br>教室指定をするので確認しておくこと。資料を整理するためのA4クリアファイル（厚めの物）を用意しておくこと。<br>【受講のルール】<br>間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |

| | |
|---|---|
| 授業外時間にかかわる情報 | ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。 |
| オフィスアワー | 月曜日16時30分～18時00分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | 各ワークへの取り組み50%　　発表30%　　ポートフォリオの作成20% |
| 教科書 | 竹田徳則，大浦智子(編)：作業療法研究法，医歯薬出版株式会社，2017. |
| 参考書 | 鎌倉矩子ほか　著　『作業療法士のための研究法入門』　三輪書店　第1版 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士経験　15年<br>作業療法士養成校教員経験　11年<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>文献データベースを活用 |

講義科目名称： 評価学概論　　授業コード： 2001P2L202

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴 | | | |
| 作業療法評価学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>作業療法における評価の意味を理解し、様々な対象者に作業療法評価を実践するための基本的知識と技能が修得できる。<br>〔到達目標〕<br>①作業療法過程における評価の意味を説明できる。<br>②作業療法における評価の目的と主眼について理解する。<br>③作業療法における評価の手順について理解する。<br>④作業療法における評価を構成する、観察・面接・検査・測定について理解する。<br>⑤作業療法における観察やそのための環境設定の重要性を学ぶ。<br>⑥面接の各手法とメリットデメリットが説明できる。<br>⑦再評価と作業療法の効果判定における意義を説明できる。 |
| 授業の概要 | 作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見いだすことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、作業療法の過程における評価の意味を理解し、その基本的な枠組みや検査項目を学ぶとともに、各領域ごとで学ぶ各評価指標の基本となる力を修得することが目的となる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション。作業療法における評価とは何か。<br>【key words】<br>オリエンテーション、作業療法、評価<br>【授業概要】<br>科目オリエンテーション<br>作業療法における評価について理解するために、まず、医療行為における評価の重要性について学ぶ。そして、作業療法を実施するうえでのエビデンスとその重要性を理解する。また、評価の意味assessmentとevaluationの違いから解釈というプロセスを理解する。<br>また、医師が行う「診断」との違いから、 作業療法士が必要とする情報の視点について学ぶ。<br>その後、ICFの用語や人の作業を評価する視点などについて学ぶ。<br>【予習】<br>１．教科書①を事前に熟読し、分からない単語など調べた事柄等をノートに記載。<br>２．「診断」という言葉について国語辞書で調べたことをノートに記載。また、インターネットでどのように記載されているかを調べる。必要に応じて調べてプリントアウトしノートに貼付。<br>（ウィキペディアなどのインターネットの情報は文献として引用するには不適切だが、情報の信頼性を精査した上で閲覧するには便利である）<br>教科書は①と②を持参する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定教科書①作業療法評価学のP.3～7,<br>指定教科書②ICFのP.3～23<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習：講義内容の振り返り。　次回1回目小テストの準備。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第２回 | 作業療法過程と評価について①<br>【key words】<br>作業療法過程、第1回小テスト<br>【授業概要】<br>第1回目小テストの実施（第1回講義内容）<br>作業療法過程における評価の位置づけやその意味合いについて理解するため、作業療法の実践課程について改めて学び、情報収集・面接・観察についての概要と意味について理解する。また、作業療法における評価の目的と主眼について理解する。 |

【予習】
指定教科書①P7(B)作業療法の過程から　P13(D)評価の目的と主眼（P15(E)評価の手順の前）までを事前に熟読し、分からない項目について、ノートに記載をしておく。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書①作業療法評価学のP.7～15
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復習】
１．講義で触れたキーワードについてノートにまとめておく。
２．「なぜ再評価をするのか？」について講義を踏まえてまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
150分

第３回　作業療法過程と評価について②
【key words】
評価の手順と手段、評価計画、信頼性、妥当性、尺度、感度･特異度、カットオフ値、クリニカルリーズニング
【授業概要】
評価の手順と評価の手段について学ぶ。特に評価の尺度や信頼性妥当性などについて理解することで、評価結果の解釈ができるようになる。また、得られた評価結果を基に、治療目標の設定や治療計画の立案に至るまでのプロセスを理解する。
【予習】
指定教科書①のP15(E)の評価の手順からP22までを事前に熟読し、
１．分からない項目やキーワードについて、ノートに記載をしておく。
２．「信頼性と妥当性」「感度と特異度」について各自で調べる（インターネットで信頼できるサイトの情報を参考にすると分かり易い）
３．余力があれば、メディカルオンラインにて「感度　特異度　作業療法」のキーワードで文献検索をする
【復習】
１．講義で触れたキーワードについてノートにまとめておく。
２．「感度と特異度」「信頼性と妥当性」「名義･順序･感覚･比例尺度」について、もう一度　講義を踏まえて自分なりに分かり易くノートにまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書①作業療法評価学のP.15～22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第４回　再評価と作業療法の効果判定
【key words】
効果判定、再評価、記録・報告
【授業概要】
前回授業の復習を行う。「信頼性と妥当性」「感度と特異度」「名義･順序･感覚･比例尺度」について
作業療法における効果判定はどのように行うべきか。作業療法の再評価と効果判定についてその考え方を学び、作業療法における再評価の意味や適切なアウトカム指標について理解する。
また、作業療法における、記録・報告の意義についても学ぶ
【予習】
１．前回授業の「信頼性と妥当性」「感度と特異度」について　他人に分かり易く説明出来るように理解を深めて、まとめをしておく。白紙とペンを準備する（実際にその場に図を書いて、他者に説明をする）
２．教科書指定頁を読み「なぜ、再評価が必要なのか？」「なぜ、作業療法の効果は示しにくいのか？」「なぜ、記録が重要なのか？」の3つの問いについて自分なりの答えをノートに記載し、講義に臨むこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書①作業療法評価学のP.23～33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復習】
講義で触れたキーワードについてノートにまとめておく。自分の授業の振り返りをしておく
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　面接について
【key words】
面接、COPM、環境設定
【授業概要】
面接の目的や環境設定の工夫、位置関係やコミュニケーション手法について学ぶ。面接における一般的注意事項についても学ぶ。
【予習】
教科書指定ページを熟読し、面接やコミュニケーションにおいて自分が気になったスキルをメモしてまとめる、分からないキーワードを書き出す、熟読した感想とコメントを記載するなど、学習の記録を書き込んでおく。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書①作業療法評価学のP.36～46（B.観察の前まで）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復習】
講義を受講した感想や、復習した内容を記録する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　情報収集と観察について
【key words】
情報収集、観察
【授業概要】
情報収集と観察の目的と手法について考える。
【予習】
教科書指定ページを読み込み、分からないキーワードを書き出して調べ、熟読した感想とコメン

| | |
|---|---|
| | トを記載するなど、学習の記録を書き込んでおく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定教科書①作業療法評価学のP.9～11，P.46～52、配布プリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【復習】<br>講義を受講した感想や、復習した内容を記録する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分<br>第７回　精神機能の評価：意欲、思考、ICFで構造的にとらえる<br>【key words】<br>ICF<br>【授業概要】<br>ICFの策定経緯やICFの趣旨や構成について理解する。分類項目を用いて人の生活機能など、目に見えにくい障害も含め、ひとの生活機能にかかわる要素を構造的に捉えることの重要性を理解する。また、自分自身や周囲の人について、実際にICFの項目に当てはめて考えてみる。<br>【予習】<br>指定教科書②の「まえがき～P.23まで」を読んでおき、分からないことがあればノートに記載をしておくこと。特になければ、読んだ日付とページを記録しておくだけでも良い。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定教科書②<br>世界保健機関（WHO）：ICF国際生活機能分類．中央法規．2002<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【復習】<br>講義を受講した感想や、復習した内容を記録する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>150分<br>第８回　まとめ<br>【key words】<br>まとめ、小テスト<br>【授業概要】<br>第4回小テスト（第7回講義内容）<br>本科目で学んだ事の総まとめ。作業療法における評価とは？について、再度振り返り考える。今までの資料をまとめる今までの資料をまとめる<br>【教科書ページ・参考文献】<br>これまでの講義内容と資料をまとめ、期末提出に向けた準備を行う。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業内で提示する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 作業療法学生としてふさわしい受講態度で臨むこと。<br>アクティブラーニングを用いた学生主体の講義であるため、主体的に参加するとともに、休まずに参加すること。<br>授業用のノートを1冊用意すること。一般的な糸綴じノートであることが条件だが、サイズはA4でもB5でも可(大学からの資料はA4サイズが多い）。方眼や罫線、無地など中身は自由で、各自が利用しやすいものを準備すること。ただし、ルーズリーフは不可。100円ショップ等で購入可能なもので充分。<br>全8回の講義において、<br>①予習、　②講義内容のメモ・記録、　③復習<br>について、日付と共に記録していくこと。配布資料がある場合は、それらを貼りつけていくことも可能。<br>全8回分の講義における①予習②記録③復習を記録した講義ノートを　最終講義後に提出（提出時期は最終講義時に伝達）することで、評価の一部とする（詳細はシラバスの【評価方法】の欄を参照）。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式（WEBで実施する場合はWEBポータル上のスレッドを利用） |
| 授業外時間にかかわる情報 | 各講義は予習を前提に進める。また、講義を受講するだけでは理解が難しい。単元ごとに小テストを実施するので一つずつしっかりと理解を積み重ねること。 |
| オフィスアワー | 水曜日16時半～17時半は随時　その他の曜日においては要予約<br>授業終了後など、随時質疑は対応 |
| 評価方法 | 期末でのノート提出80%、小テスト・授業内課題等20% |
| 教科書 | ①岩崎テル子ほか編：標準作業療法学・専門分野『作業療法評価学』医学書院<br>②世界保健機関（WHO）：ICF国際生活機能分類．中央法規．2002 |
| 参考書 | ・澤俊二編：作業療法ケースブック　作業療法評価のエッセンス．医歯薬出版<br>・日本作業療法士協会監修：作業療法学全書改訂第3版　作業療法評価学．協同医書出版 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、群馬県内各市町村での介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長、群馬県作業療法士会副会長なども務めている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク |

| | |
|---|---|
| | □プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br><br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br><br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br><br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 運動機能評価学　　授業コード： 2002P2L203

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹・小林昭博 | | | |
| 作業療法評価学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>・作業療法の実践にあたって、対象者の利点・問題点・ニーズを探るために行われる作業療法評価の概要を理解する。<br>・運動機能の評価について、各検査項目の意義と目的・基礎知識・方法を学び、実践できる技能を身につける。<br>・グループワークによる発表を通して、他者と協働して課題に取り組み、発信・議論する力を身につける。<br>[到達目標]<br>①作業療法過程における評価の意義と目的、位置づけを説明することができる。<br>②運動機能に関する評価について、評価項目とその意義と目的を述べることができる。<br>③各評価項目の基本的な方法を説明することができる。<br>④各評価項目の基本的な方法に沿って、評価を実施することができる。<br>⑤身体障害領域の各疾患における評価を示し、説明することができる。 |
| 授業の概要 | 作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見出すことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、作業療法評価の中で、生活の基盤となるう運動機能の評価について各評価項目の意義と目的・基礎知識・方法を学び、実践できる技能を修得する。本科目を修了した際には、運動機能に関する評価を実施可能となる。<br>基本的な授業構成として、運動機能の各評価について意義と目的・基礎知識について講義を行い、方法を教員がデモンストレーションを行いながら見本を提示し、学生はそれを学生同士で模倣・実施して学んでいく。上肢機能の評価と身体障害における疾患別の評価については、グループワークを実施した上で、発表を通してディスカッションを行う。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーション／意識の評価およびバイタルサイン測定、臨床検査値の読み方<br>【key words】<br>科目オリエンテーション、意識レベル、バイタルサイン、フィジカルアセスメント、臨床検査<br>【授業概要】<br>主担当教員：牛込<br>運動機能評価学の科目の概要を説明する。<br>作業療法評価において、対象者の全身状態を把握できるようになるために、意識およびバイタルサイン、フィジカルアセスメント、臨床検査値に関する知識、技能を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P53-64<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第2回 | 関節可動域測定<br>【key words】<br>関節可動域(ROM)、角度計（ゴニオメーター）、基本軸・移動軸、参考可動域、最終域感、TAM法<br>【授業概要】<br>主担当教員：牛込<br>運動機能評価における関節可動域測定の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。<br>実際に、実技を通して関節可動域測定を実技を経験する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P72-95<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第3回 | 痛みの評価<br>【key words】<br>痛み、痛みの生物・心理・社会モデル、痛みの恐怖・回避モデル、侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、心因性疼痛、中枢神経障害性疼痛<br>【授業概要】<br>主担当教員：牛込<br>運動機能評価における痛みの評価の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書の指定範囲なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第4回 | 筋力検査：徒手筋力検査（MMT）<br>【key words】<br>筋力、徒手筋力検査（MMT）、代償動作、握力・ピンチ力<br>【授業概要】<br>主担当教員：牛込<br>運動機能評価における筋力検査の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。<br>徒手筋力検査（MMT）の基本的な知識・技能を学び、実技を通して徒手筋力検査（MMT）を経験する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P96-113<br>②MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第5回 | 感覚検査：簡易感覚検査・深部感覚検査<br>【key words】<br>感覚、表在感覚、深部感覚、受容器、デルマトーム、簡易感覚検査、深部感覚検査<br>【授業概要】<br>主担当教員：牛込<br>運動機能評価における感覚検査の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。<br>感覚検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して簡易感覚検査および深部感覚検査を経験する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P114-129<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第6回 | 感覚検査：識別感覚検査<br>【key words】<br>感覚、表在感覚、深部感覚、受容器、デルマトーム、セメスワインスタインモノフィラメントテスト、二点識別検査、局在の検査、立体感覚検査<br>【授業概要】<br>主担当教員：牛込<br>運動機能評価における感覚検査の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。<br>感覚検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して識別感覚検査を経験する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P114-129<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第7回 | 反射検査<br>【key words】<br>反射、腱反射、表在反射、病的反射<br>【授業概要】<br>主担当教員：小林<br>運動機能評価における反射検査の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。<br>反射検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して反射検査を経験する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P130-137<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |

予習30分／復習・実技練習150分

第8回　筋緊張検査

【key words】
筋緊張、痙縮、固縮
【授業概要】
主担当教員：小林
運動機能評価における筋緊張検査の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。
筋緊張検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して筋緊張検査を経験する。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P151-159
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。
復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習・実技練習150分

第9回　運動麻痺の評価：片麻痺機能検査

【key words】
運動麻痺（片麻痺）、ブルンストロームステージ、上田による片麻痺機能テスト
【授業概要】
主担当教員：小林
脳血管障害などにより中枢神経が損傷された際に発生する運動麻痺（片麻痺）について、片麻痺機能検査の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。
片麻痺機能検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して片麻痺機能検査を経験する。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P283-299
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。
復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習・実技練習150分

第10回　姿勢反射検査／バランス機能検査

【key words】
姿勢反射、座位・立位バランス、静的・動的バランス、FBS、FR、TUG
【授業概要】
主担当教員：小林
運動機能評価における座位・立位の姿勢を保つバランス能力検査の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。
姿勢反射検査・バランス機能検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して姿勢反射検査・バランス機能検査を経験する。
【教科書ページ・参考文献】
予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。
復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P138-150
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習・実技練習150分

第11回　脳神経検査

【key words】
脳神経、脳神経の機能的分類
【授業概要】
主担当教員：小林
運動機能評価における脳神経検査の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。
脳神経検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して脳神経検査を経験する。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P168-183
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。
復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習・実技練習150分

第12回　協調性検査

【key words】
協調運動、運動失調、運動検査（鼻指鼻試験など）、机上検査（線引き検査）
【授業概要】
主担当教員：小林
運動機能評価における協調性検査の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。
協調性検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して協調性検査を経験する。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P160-167
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。
復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習・実技練習150分

第13回　グループワーク①発表　上肢機能における評価について

【key words】
グループワーク、発表（プレゼンテーション）、上肢機能検査、STEF、パーデューペグボードテ

| | |
|---|---|
| | スト、オコーナー手指巧緻性テスト、脳卒中上肢機能検査（MFT）、ARAT、FMA、MAL、BBT<br>【授業概要】<br>グループワークとして各上肢機能検査について調べ、発表する。<br>発表を通して、それぞれの上肢機能検査について理解し、評価を行えるように学ぶ。<br>STEF、パーデューペグボードテスト、オコーナー手指巧緻性テスト、脳卒中上肢機能検査（MFT）、ARAT、FMA、MAL、BBTについて発表を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P204-212<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループで協働して、発表に向けての準備を行うこと。<br>グループワーク中に不明な点等があれば、担当教員に適宜相談すること。<br>発表後に、上肢機能評価について復習をすること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習・発表準備150分／復習30分 |
| | 第14回　グループワーク②発表　身体障害における疾患別の評価について<br>【key words】<br>グループワーク、発表（プレゼンテーション）、脳血管障害、脊髄損傷、上肢の末梢神経損傷、神経変性疾患（パーキンソン病）<br>【授業概要】<br>グループワークとして身体障害における疾患別の評価について調べ、発表する。<br>発表を通して、身体障害における疾患別の評価について理解し、評価を選択・実施できるように学ぶ。<br>脳血管障害、脊髄損傷、上肢の末梢神経損傷、神経変性疾患（パーキンソン病）について発表を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　脳血管障害：P274-313、脊髄損傷：P314-329、上肢の末梢神経損傷：P330-348、神経変性疾患（パーキンソン病）：P384-392<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループで協働して、発表に向けての準備を行うこと。<br>グループワーク中に不明な点等があれば、担当教員に適宜相談すること。<br>発表後に、身体障害における疾患別の評価について復習をすること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習・発表準備150分／復習30分 |
| | 第15回　グループワーク②発表　身体障害における疾患別の評価について<br>【key words】<br>グループワーク、発表（プレゼンテーション）、関節リウマチ、大腿骨頸部骨折、心機能障害、呼吸器機能障害<br>【授業概要】<br>グループワークとして身体障害における疾患別の評価について調べ、発表する。<br>発表を通して、身体障害における疾患別の評価について理解し、評価を選択・実施できるように学ぶ。<br>関節リウマチ、大腿骨頸部骨折、心機能障害、呼吸器機能障害について発表する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　関節リウマチ：P349-369、大腿骨頸部骨折：指定なし、心機能障害：P412-421、呼吸器機能障害：P421-429<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループで協働して、発表に向けての準備を行うこと。<br>グループワーク中に不明な点等があれば、担当教員に適宜相談すること。<br>発表後に、身体障害における疾患別の評価について復習をすること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習・発表準備150分／復習30分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 授業スレッドにコメント用のgoogle formのURLを掲示するので、そこから入力する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について実技を含めて評価を実施できるようにしておくこと。<br>・関節可動域測定（ROM）、徒手筋力検査の実技試験があるので、各自実技練習を実施して試験に備えること。<br>・上肢機能および協調動作の評価について、グループワークを通して発表を行うので、発表に向けてグループで協働して課題に向けて準備すること。<br>・疾患別の運動機能評価について、グループワークを通して発表を行うので、発表に向けてグループで協働して課題に向けて準備すること。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約<br>〔小林〕火・金曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | □筆記試験　20%<br>□実技試験①　関節可動域測定（ROM）　20%<br>□実技試験②　徒手筋力検査（MMT）　20%<br>□実技試験③　運動機能評価（Brunnstrom stage）10%<br>□グループワーク①　上肢機能の評価について　10%<br>□グループワーク②　身体障害における疾患別の評価について　20% |

| | |
|---|---|
| | ＊合計で60%以上を単位付与の基準とする（ただし、各項目単独でも60%以上であること）。 |
| 教科書 | ①能登真一他　編：標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　第３版．医学書院<br>②齋藤慶一郎：臨床での検査精度を高める！　MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御　第１版．株式会社メジカルビュー社 |
| 参考書 | ①Helen J.Hislop, Dale Avers, Marybeth Brown 著：新・徒手筋力検査法　原著第10版．協同医書出版社<br>②田崎義昭，斎藤佳雄　著：ベッドサイド神経の診かた　第18版．南山堂 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、臨床業務の一環として運動機能評価を行っていた経験が科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 認知心理評価学　　授業コード： 2002P2L204

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴・高坂駿 | | | |
| 作業療法評価学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 作業療法における評価の中でも、特に認知機能や精神･心理機能に関する評価の意味を理解し、高次脳機能障害や認知症、精神障害など、認知機能や精神･心理機能の障害が人びとの作業遂行に与える影響について理解することができる。また、認知機能や精神･心理機能を評価するために必要となる基本的知識と技能が修得できる。<br>〔到達目標〕<br>①作業療法過程における評価の意味を改めて理解し、その必要性を説明できる。<br>②認知機能や精神･心理機能面における評価の目的と主眼について理解する。<br>③認知機能は、DSM-5に示される･ Complex attention、･ Executive function、･ Learning & memory、･ Language、･ Perceptual-motor、･ Social cognition という6つの認知領域について、既に学修した基礎医学系科目の知識と並行して説明することができる。<br>④③の各認知機能が、人の作業遂行（特に生活行為）に与える影響について説明することがで着るとともに、それらの機能を評価する手段としての検査方法を列挙することができる。<br>⑤精神･心理機能面についても同様に・・・ |
| 授業の概要 | 作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見いだすことが必要となる。その過程が作業療法評価である。しかし、認知機能や精神･心理機能は、運動機能と比べて視覚化されにくいため、障害されてもそれがどの様に作業遂行に影響を及ぼすかが見えにくく、適切な評価が実施されないと、不適切な目標設定や介入となるリスクもある。まずは、脳の働き（認知精神心理機能）をよく学ぶとともに、それらをどの様にアセスメントするべきかを理解し、そこから生活行為における躓きと結びつけて捉えることが重要になる。本科目では、個別の認知機能や精神機能面の検査ではなく、それら評価の視点を中心に学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーション。作業療法における評価と、認知機能や精神機能をみるということ。(山口)<br>【key words】<br>認知機能、精神機能、神経内科学、解剖学、生理学、基礎作業学<br>【授業概要】<br>本科目の学習目的と進行方法、成績評価の基準などを説明する。<br>目に見えにくい認知･精神･心理機能を評価するために必要な知識と、それを基に評価する視点、そしてそれをどの様に治療介入として結びつけていくかを考える。<br>その後、脳の発達と高次脳機能障害について理解を深める。<br>【予習】<br>教科書の指定ページを熟読し、読んだ日時をノートに記録する。また、分からなかった用語や自分で調べたりまとめた事項はノートに記載する。<br>【復習】<br>自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。次回、今回学んだないようについて授業最初に理解度の確認試問をする。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定教科書P.3-13, 26-38<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | Complex attentionとExecutive functionについて(山口)<br>【key words】<br>注意、遂行機能<br>【授業概要】<br>前回のないようについて復習した後に、注意機能と遂行機能について学ぶ<br>【予習】 |

①教科書指定ページについて熟読する。分からない所や自分で学ぶためにまとめたところはノートに日付とともに記述。教科書を読んだ日付も記述。
②注意機能の分類について(P.47-49) 、③遂行機能の構成要素(P.129-130)について自分なりにノートにまとめる
【復習】
自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。教科書の動画21を視聴する。
次回、特に「注意機能の分類(P.47-49) 」、「遂行機能の構成要素(P.129-130)」「注意と遂行機能の各評価指標」について、口頭試問をするので、しっかりと自分の言葉で説明出来るようにノートにまとめて準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書
注意についてP.47-52
遂行機能についてP.128-136, 140-141
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第３回　Learning & memory(山口)
【key words】
記憶
【授業概要】
前回内容の復習として口頭試問を実施し、その後に記憶について学ぶ。
【予習】
①教科書指定ページについて熟読する。分からない所や自分で学ぶためにまとめたところはノートに日付とともに記述。教科書を読んだ日付も記述。
②記憶の内容による分類と保持時間による分類(P.56-57) について自分なりにノートにまとめる
【復習】
自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。
次回、特に「記憶の分類(P.47-49) 」、「記憶の各評価方法(P.59-62)」について、口頭試問をするので、しっかりと自分の言葉で説明出来るようにノートにまとめて準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書P.56-62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第４回　Language(山口)
【key words】
言語機能、失語
【授業概要】
前回内容の復習として口頭試問を実施し、その後に言語機能及び失語症について学ぶ。
【予習】
①特に教科書指定ページについて熟読する。分からない所や自分で学ぶためにまとめたところはノートに日付とともに記述。教科書を読んだ日付も記述。
②教科書の「２．失語症と他のコミュニケーション障害との鑑別」(P.68)と「1. タイプ分類」(P.73-74)について自分なりにノートにまとめる
③教科書の動画2, 3, 4, 5を事前に視聴する。
【復習】
自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。
次回、特に「２．失語症と他のコミュニケーション障害との鑑別」(P.68)と「1. タイプ分類」(P.73-74)について、口頭試問をするので、しっかりと自分の言葉で説明出来るようにノートにまとめて準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書P.68-78
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第５回　Perceptual-motor①(山口)
【key words】
失行症、失認
【授業概要】
前回内容の復習として口頭試問を実施し、その後に失行症および失認について学ぶ。
【予習】
①教科書指定ページについて熟読する。分からない所や自分で学ぶためにまとめたところはノートに日付とともに記述。教科書を読んだ日付も記述。
②教科書の「2-b. 失行の分類」(P.82-84)と「2-a. 認知の分類」(P.97-98)、「2-b. 失認の分類」(P.91-101)について自分なりにノートにまとめる
③教科書の動画6,7,8,9,10,11,13,14を事前に視聴する。
【復習】
自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。
次回、特に「2-b. 失行の分類」(P.82-84)と「2-a. 認知の分類」(P.97-98)、「2-b. 失認の分類」(P.91-101)について、口頭試問をするので、しっかりと自分の言葉で説明出来るようにノートにまとめて準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書
失行症はP.81-90
失認はP.97-105, バリントと病態失認はP.109-111
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第６回　Perceptual-motor②(山口)

【key words】
半側空間無視、unilateral spatial neglect; USN
【授業概要】
前回内容の復習として口頭試問を実施し、その後に半側空間無視について学ぶ（ここではPerceptual-motorの領域で扱うが、半側空間無視はattentionの問題でもある）。
【予習】
①教科書指定ページについて熟読する。分からない所や自分で学ぶためにまとめたところはノートに日付とともに記述。教科書を読んだ日付も記述。
②教科書の「2-a. 症状」(P.113)と「2-b. 発症率」(P.113)、「D-1-a～ｃ. 評価前の留意事項」(P.116-117)について自分なりにノートにまとめる
③教科書の動画15,16,17,18,19,20,12(Pusher)を事前に視聴する。
【復習】
自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。
次回②教科書の「1-a.～c.空間と注意機能」(P.112-113)と「2-a. 症状」、「2-b. 発症率」、「D-1-a～ｃ. 評価前の留意事項」、「2. 半側無視の評価」(P.118-121)について、口頭試問をするので、しっかりと自分の言葉で説明出来るようにノートにまとめて準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書
半側空間無視はP.112-121, PusherはP.95-96
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第７回　Social cognition(山口)
【key words】
社会的行動障害、社会脳、こころの理論、表情認知
【授業概要】
前回内容の復習として口頭試問を実施し、その後に社会的行動障害について学ぶ。
【予習】
①教科書指定ページについて熟読する。分からない所や自分で学ぶためにまとめたところはノートに日付とともに記述。教科書を読んだ日付も記述。
②教科書の「2-a.意志と意欲、発動性と自発性」「2-b.情動のコントロール」「2-c.対人関係の技法(P.142-145)について自分なりにノートにまとめる
【復習】
自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。
次回、特に「2-a.意志と意欲、発動性と自発性」「2-b.情動のコントロール」「2-c.対人関係の技法(P.142-145)に加えて「2-d. 社会的行動障害の分類」(P.145-146)について、口頭試問をするので、しっかりと自分の言葉で説明出来るようにノートにまとめて準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書P.142-149, 153-154
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第８回　認知症について(山口)
【key words】
DSM-5、major neurocognitive disorder、BPSD
【授業概要】
前回内容の復習として口頭試問を実施し、その後に認知症について、基本的な事項を学ぶ。認知症に関しては、他の科目でも学ぶため、ここでは、代表的な認知症疾患の基本的な知識と、についておおよその評価名称について学ぶ。
【予習】
①教科書指定ページについて熟読する。分からない所や自分で学ぶためにまとめたところはノートに日付とともに記述。教科書を読んだ日付も記述。
②特に教科書の「2-a-2). 行動心理的症状(BPSD)」(P.157-158) と「2-b. 認知症をもたらす疾患」(P.158-159)について自分なりにノートにまとめる
【復習】
自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。
次回、特に「2-a-2). 行動心理的症状(BPSD)」(P.157-158) と「2-b. 認知症をもたらす疾患」(P.158-159)「D.評価」(P.160-165)について、口頭試問をするので、しっかりと自分の言葉で説明出来るようにノートにまとめて準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書P.155-165
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第9回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】

第10回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第11回<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第12回<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第13回<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第14回<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第15回<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・遠隔授業はPCでの受講を推奨する。また、有線LAN、Wi-fi使用下での受講を推奨する。<br>・作業療法の基礎となる授業のため、予習復習をしっかりすること。<br>・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。<br>・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。<br>〔受講のルール〕<br>・遠隔授業は画面ONで受講することを前提とするが、その際は模擬背景を使用したり、室内環境に配慮すること。<br>　機器の故障等で画面OFFで受講する場合は事前に相談すること。<br>・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。<br>【山口の授業1～8回における注意事項】<br>アクティブラーニングを用いた学生主体の講義であるため、休まず参加すること。受講に際し、授業用のノートを1冊用意すること。一般的な糸綴じノートであることが条件だが、サイズはA4でもB5でも可。方眼や罫線、無地など中身は自由で、各自が利用しやすいもので良いが、ルーズリーフは不可。100円ショップ等で購入可能なもので良い。全8回分の講義における①予習②記録③復習を記録した講義ノートを提出（提出時期は最終講義時に伝達）することで、評価の一部とする（詳細はシラバスの【評価方法】の欄を参照）。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式（WEB実施時はWEBポータル上の授業スレッドにコメントを記載） |
| 授業外時間にかかわる情報 | シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。 |
| オフィスアワー | 金曜日13:00～14:00は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。 |
| 評価方法 | 山口担当分50%(授業内ノート40%・授業内口頭試問や課題10%）、高坂担当分50% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 【山口】能登真一(編)：標準作業療法学-専門分野-高次脳機能障害学，第2版，医学書院<br>【高坂】配布資料 |
| 参考書 | 随時紹介 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士国家資格及び高齢期領域、精神障害領域の臨床経験を有する教員が担当。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 社会・生活機能評価学　　授業コード： 2002P2L205

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 悴田敦子 | | | |
| 作業療法評価学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>作業療法士として必要なADL・IADLを評価する力と介入する手法を身につけることを目的とする。<br><br>〔到達目標〕<br>①代表的なADL・IADL評価法を説明することができる。<br>②ADL各項目の観察ポイントを挙げることができる。<br>③基本動作の観察ポイントを挙げることができる。<br>④評価結果をまとめることができる。 |
| 授業の概要 | ひとが暮らしていくとはどのようなものか。暮らし・生活の中で行われる様々な活動に目を向け、作業療法士としての視点で評価することを学びます。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション／ADLとは<br>【key words】<br>運動、動作、行動、活動、行為、BADL、IADL<br>【授業概要】<br>科目オリエンテーションで科目の位置づけとシラバスの説明を行います。ADL・IADLの定義について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P1～28<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | ADLの評価とは<br>【key words】<br>作業療法の流れ、ICF<br><br>【授業概要】<br>評価と作業療法計画について学びます。また、代表的なADL評価法を学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P15～28<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：作業療法入門で学んだ作業療法の流れについて見直しておく<br>課題：トップダウン・ボトムアップアプローチについて各自調べておく<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第３回 | ADL評価法 (Barthel Index, FIM)<br>【key words】<br>Barthel Index、FIM<br><br>【授業概要】<br>できるADLの評価法として代表的なBarthel Indexの評価項目、採点について具体的に学ぶ。また、FIMの評価尺度についても学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P29～32<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：Barthel IndexとFIMの違いを調べる |

| | | |
|---|---|---|
| | | 復習：各項目の点数の違いを整理する<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第４回 | ADL評価法（FIM　運動項目）<br>【key words】<br>FIM（運動項目）<br><br>【授業概要】<br>FIMの運動項目であるセルフケア、排泄コントロール、移乗について評価尺度に合わせた採点ポイントを学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>FIM：P90～110<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習：各項目の点数の違いを整理する<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第５回 | ADL評価法（FIM　運動項目）<br>【key words】<br>FIM（運動項目）、FIM（認知項目）<br><br>【授業概要】<br>FIMの運動項目である移乗、移動について評価尺度に合わせた採点ポイントを学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習：各項目の点数の違いを整理する<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第６回 | ADL評価法（FIM　認知項目）<br>【key words】<br>FIM（認知項目<br><br>次回小テスト<br>【授業概要】<br>FIMの認知項目であるコミュニケーションについて評価尺度に合わせた採点ポイントを学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習：各項目の点数の違いを整理する<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第７回 | 小テスト，IADL評価法（老研式，FAI，AMPS）<br>【key words】<br>老研式、FAI、寝たきり度、AMPS<br><br>【授業概要】<br>第6回までの範囲の小テストを行う。<br>また、Barthel Index，FIM以外のADL・IADLの評価法について概要を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P32～47<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第８回 | AMPS（運動技能）<br>【key words】<br>身体の位置、物の獲得と把持、自己と物の移動、遂行の維持<br><br>【授業概要】<br>AMPSの運動技能の身体の位置（Body Position）、物の獲得と把持（Obtaining and Holding Objects）、自己と物の移動（Moving Self Objects）、遂行の維持（Sustaining Performance）の各項目の評価ポイントを学び、動画を通して確認する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題：プリントの例題を解く。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第９回 | AMPS（プロセス技能）<br>【key words】<br>遂行の維持、知識の適用、空間と物の組織化、遂行の適応<br><br>【授業概要】<br>AMPSのプロセス技能の遂行の維持（Sustaining Performance）、知識の適用（Applying Knowledge）、空間と物の組織化（Organizing Apace and Objects）、遂行の適応（Adapting Paeformance）の各項目の評価ポイントを学び、動画を通して確認する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題：プリントの例題を解く。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第１０回 | 福祉用具<br>【key words】<br>移動補助具、車椅子、杖、歩行器、歩行車<br>【授業概要】<br>福祉用具の移動補助具に分類される車椅子、杖等について名称及び使用方法、適応について学び |

| | |
|---|---|
| | ます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１１回　住宅改修<br>【key words】<br>住宅改修、福祉用具貸与、福祉用具購入<br>【授業概要】<br>介護保険制度における住宅改修、福祉用具貸与・購入の物品を学び、使用場所やADLによる福祉用具について種類や使用方法・適応について学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：介護保険制度の福祉用具貸与と購入の違いを調べておく<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１２回　地域まちづくりマップ演習①<br>【key words】<br>体制整備・地域包括ケアシステム・地域生活支援<br><br>【授業概要】<br>まちづくりマップ演習を行い、医療保健福祉の観点から地域づくり、体制整備について考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１３回　地域まちづくりマップ演習②<br>【key words】<br>体制整備・地域包括ケアシステム・地域生活支援<br>【授業概要】<br>まちづくりマップ演習を行い、医療保健福祉の観点から地域づくり、体制整備について考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　精神障害者の地域生活支援<br>【key words】<br>事例検討・地域生活支援・就労支援<br><br>次回小テストを行う。<br>【授業概要】<br>入院生活から、地域生活を送る当事者の暮らし生活についてふれ、地域生活支援における評価、アセスメントの視点について学ぶ<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　小テスト、ADL・IADL評価のまとめ<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>小テストを行う。また、作業療法士が行うADLの評価のポイントを学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 実習の際は動きやすい服装で受講すること。メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。スマホ・タブレット・デジカメ等、静止画・動画が撮影できる機器を準備すること。授業に関係のないものの持ち込みを禁止する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。 |
| オフィスアワー | 月曜日16：10～17：30 |
| 評価方法 | 小テスト20%　筆記80% |
| 教科書 | 濱口豊太編：標準作業療法学　専門分野　日常生活活動・社会生活行為学．医学書院，2014 |
| 参考書 | 伊藤利之，江藤文夫編：新版日常生活活動（ADL）評価と支援の実際．医歯薬出版，2011 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容 |

| | |
|---|---|
| | アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法評価法Ⅲ　　授業コード： 020193F713

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴 | | | |
| 作業療法評価学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>認知機能障害のある人に対する作業療法評価の様々な手法について、概要を学ぶとともに実際に評価方法を体験しながら実施方法を学び、評価の基本的な実施方法を習得する。<br>〔到達目標〕<br>①高次脳機能障害の代表的な各症候に対する評価について理解を深めることができる。<br>②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な評価方法を説明できる。<br>③認知症について、原因となる代表的な疾患ごとの特徴やその評価について理解することができる。 |
| 授業の概要 | 高次脳機能障害や前頭側頭葉変性症などの進行性神経変性疾患による認知症など、認知機能低下に対する専門的な評価手法を学ぶ。また、認知機能低下に伴う生活障害を評価する際に重要な視点なども学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | 科目オリエンテーション<br>【key words】<br>オリエンテーション、高次脳機能障害、定義<br>【授業概要】<br>高次脳機能、行政定義、高次脳機能障害の概要について、知識の習得状況を確認し学ぶべき課題を抽出する。高次脳機能障害の定義について、行政的定義や医学的定義の違いなどを理解する。高次脳機能障害を引き起こす原因疾患などについて、復習をする。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布プリント配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>プリントの通り、ポートフォリオ作成（高次脳の学術的定義と行政的定義）<br>次回は、注意機能の評価に関する文献を一つ集めて内容を理解しファイリングして持参。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第２回 | attention に対する評価<br>【key words】<br>注意<br>【授業概要】<br>注意機能障害の分類について学ぶとともに、注意障害の評価について実技を通して学ぶ。また、意識やorientationについても学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書①日本作業療法士協会監修/渕雅子編集：作業療法学全書、作業治療学５、高次脳機能障害第３版<br>P.20～22、P.100～112、P.176～190<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の指定か所について事前に目を通し、次回は、USNの評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第３回 | Unilateral Spacial Neglectのアセスメント<br>【key words】<br>USN<br>【授業概要】<br>ＵＳＮについての一般的知識を確認するとともに、ＵＳＮに対する評価、また、行動から観察する際のPointも学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書①P.20～22、P.100～112 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
USNについて復習するとともに、次回はAgnosiaの評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　Agnosiaに対するアセスメント
【key words】
視覚性失認、バリント症候群、標準高次視知覚検査
【授業概要】
失認、特に視覚性失認の概要について復習するとともに、適切に評価するための手法を習得する。本講義の中では、実際にＶＰＴＡを実践する中で、視覚性認知について学ぶ。また、色彩や相貌の認知、パレイドリアなどにも触れ、レビー小体型認知症など視覚性認知と関連する疾患につても併せて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①P.16～18
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Agnosiaについて復習するとともに、次回はAphasiaの評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　Aphasiaに対するアセスメント
【key words】
失語症、SLTA、WAB
【授業概要】
Ａphasiaの分類と各症状の概要について学ぶとともに、実際にＳＬＴＡを用いて言語評価について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①P.198～P.211
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Aphasiaについて復習するとともに、次回はAplaxia、Gerstmann Syndromeの評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　Aplaxia, Gerstmann syndromeに対するアセスメント
【key words】
失行症、ゲルストマン症候群
【授業概要】
失行症などの行為の障害についてその概要を復習するとともに、適切に評価するための手法を習得する。本講義では、ＳＰＴＡを実際に実施することで、行為の障害の分類について理解を深める。また、ゲルストマン症候群、構成失行、着衣失行についても復習し、頭頂葉の働きについて理解を深め、文献から最新のリハビリテーションについても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①P11～15、P.138～163
【課題・予習・復習・授業準備指示】
行為の障害について復習するとともに、次回はMemoryの評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　Memoryに対するアセスメント
【key words】
記憶障害、RBMT、WAIS-Ⅲ・Ⅳ、
【授業概要】
記憶障害の概要について復習するとともに、適切に評価するための手法を習得する。また、記憶障害に対する文献から、最新の分類やリハビリテーションについても学ぶ。また、ＲＢＭＴやＷＭＳ－Ⅲを実際に実施することで、記憶の分類やそのリハについて理解を深める。
ただし、この単元は非常に学ぶ範囲が広いため、進行によっては次回に一部繰越て実施する可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①P.23～25、P.190～198
【課題・予習・復習・授業準備指示】
記憶障害について復習するとともに、次回はexecutive functionの評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　executive functionに対するアセスメント
【key words】
遂行機能障害、BASDS
【授業概要】
高次脳機能障害のリハを考える上で非常に重要となる病識や自己認知、社会的行動障害などについて、理解を深めるとともにどのように評価を行うかを学ぶ。新興分野であるため、文献などから最新の分類やリハビリテーションについても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①P.27～31、P.121、212～217
【課題・予習・復習・授業準備指示】
遂行機能障害について復習するとともに、次回はSocial Behavior Disordersまたはsocial cognitionの評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　Social Behavior Disorders / Anosognosia に対するアセスメント
【key words】
social cognition
【授業概要】

高次脳機能障害のリハを考える上で非常に重要となる病識や自己認知、社会的行動障害などについて、理解を深めるとともにどのように評価を行うかを学ぶ。新興分野であるため、文献などから最新の分類やリハビリテーションについても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①P.27～31、P.121212～217指定範囲と配布プリントについて復習してから受講すること。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会的認知に関する内容を復習するとともに、次回は知能の評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　Wechsler Adult Inteliigence Scale
【key words】
WAIS、知能
【授業概要】
WAIS-Ⅲ・Ⅳをはじめとした全般的認知機能を評価する指標を実践し、そこから全般的認知機能についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント配布プリントの復習
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学んだことの復習でポートフォリオ作成
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　認知症の様々な評価指標
【key words】
HDS-R、MMSE、MOSES、CDR、 MoCA (Montreal Cognitive Assessment)、NPI
【授業概要】
認知症について観察からの評価、面接での認知症検査などについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～　第２版の教科書と追加配布プリントを参照する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布プリントの復習、
次回までに、アルツハイマー型認知症の特徴についてまとめ、ファイリングして持参する
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１２回　Alzheimer's diseaseの臨床像の特徴
【key words】
アルツハイマー型認知症、FAST
【授業概要】
アルツハイマー病の特徴とその評価について理解を深める。アルツハイマー病患者の生活機能障害の特徴についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～　第２版の教科書と追加配布プリントを参照する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定範囲の復習、
次回までに、DLB、VD、FTLD、iNPHの各疾患の特徴についてまとめ、ファイリングして持参する
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１３回　各認知症疾患における特異的な評価
【key words】
DLB、VD、FTD、iNPH
【授業概要】
アルツハイマー病以外の進行性神経疾患による認知症や、正常圧水頭症、脳血管性認知症などの特徴を知り、その評価手法を実際のケースを基に理解する。事例のMRIから、各認知症疾患のMRI画像の特徴も理解する。
【教科書ページ・参考文献】
②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～　第２版の教科書と追加配布プリントを参照する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定範囲の復習、ポートフォリオ作成
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　認知症の人の地域生活を支えるために必要なアセスメント
【key words】
DASC-21、生活障害
【授業概要】
認知症の人を地域で支える仕組みや、その中でＯＴとして必要となる評価技能について実践的な事例を通して学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～　第２版の教科書と追加配布プリントを参照する指定範囲の復習、
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ポートフォリオを完成させ提出する準備を進める
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１５回　本科目のまとめ
【key words】
まとめ
【授業概要】
認知機能低下による生活障害について学ぶとともに、就労支援についても学ぶ。そこで必要となる質的なアセスメントについて学ぶ。その後まとめを行う。また、認知機能障害がある人の実生

| | |
|---|---|
| | 活上の問題点とここまでに学んだ各アセスメント結果とを結びつけて考えられるように、検査結果の解釈についてまとめる。また、検査にこだわらずに観察から認知機能障害についてアセスメントするための視点について、再度確認する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～　第２版の教科書と追加配布プリントを参照する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ポートフォリオを提出する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。<br>授業に関係ないもの、携帯電話やスマートフォンは認められた場合以外は操作しない。<br>講義で配布した資料は基本的に再配布等を行わない。欠席した者はクラスメートからコピーをとらせてもらうこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式またはWEBポータルのスレッド |
| 授業外時間にかかわる情報 | 各科目において予習を前提としている。ポートフォリオは各単元の予習と復習を含む。 |
| オフィスアワー | 水曜日16:00～17:30　（木曜日以外であれば必要に応じて随時対応する。応相談） |
| 評価方法 | googleフォーム小テスト・最終期末課題等40%、各講義の予習と復習のまとめファイルの期末提出60% |
| 教科書 | 日本作業療法士協会監修/渕雅子編集：作業療法学全書、作業治療学５、高次脳機能障害　第３版<br>小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～　第２版 |
| 参考書 | 鈴木孝治(編)：高次脳機能障害領域の作業療法～プログラム立案のポイント～、中央法規 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、群馬県内各市町村での介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長、群馬県作業療法士会副会長なども務めている。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 評価学演習Ⅰ　　授業コード： 2002P2L206

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹・宮寺亮輔 | | | |
| 作業療法評価学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>臨床場面で運動機能評価を基本的な方法・手順に沿って準備・説明を行い、リスク管理に配慮しながら適切かつ安全に実施できることを目的とする。<br>[到達目標]<br>①運動機能評価における基本的な知識・技術を身につけて、実践できる。<br>②評価に必要な準備を知り、実際に準備を整えることができる。<br>③評価で起こりうるリスクを把握し、適切に対応することができる。<br>④評価を行うにあたり、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを実施できる。<br>⑤臨床場面を想定し、評価を具体的な方法・手順で実践的に行うことができる。<br>⑥グループで協働して知識・技術を身につけていこうとする姿勢を身につける。 |
| 授業の概要 | 運動機能評価であるROM測定・MMT・片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）について、グループワークを実施する。グループワークでは、亜クティブラーニングとして、メンバー間で実技練習を行い、運動機能評価を実践できるように学ぶ。また、感覚検査・上肢機能検査では、ペア学習を実施する。ペア学習では、評価を実施するだけでなく、実践するために必要となる技術や評価機器の準備、リスク管理、オリエンテーション・フィードバック、具体的な手順の理解など適切な準備について学ぶ。学習を通して、グループで協働して知識・技術を身につけていこうとする姿勢を身につける。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーション／グループワーク ROM実技練習：担当グループ検討<br>【key words】<br>科目オリエンテーション、ROM、実技練習、担当グループ検討<br>【授業概要】<br>評価学演習Ⅰの科目の概要を説明する。<br>第2～5回 「グループワーク：ROM実技練習」を実施するために担当グループで実技練習方法の検討や実技練習を実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P72-95<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、ROMの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、担当となる実習練習の回に向けて、担当グループメンバー間で運営準備と実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第2回 | グループワーク ROM実技練習①<br>【key words】<br>ROM、実技練習<br>【授業概要】<br>実技練習グループに分かれて、指定された領域についてROM実技練習を実施する。<br>実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。<br>授業開始時に予習確認テストを実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P72-95<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、ROMの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |

| | | |
|---|---|---|
| | 第3回 | グループワーク ROM実技練習②<br>【key words】<br>ROM、実技練習<br>【授業概要】<br>実技練習グループに分かれて、指定された領域についてROM実技練習を実施する。<br>実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。<br>授業開始時に予習確認テストを実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P72-95<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、ROMの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第4回 | グループワーク ROM実技練習③<br>【key words】<br>ROM、実技練習<br>【授業概要】<br>実技練習グループに分かれて、指定された領域についてROM実技練習を実施する。<br>実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。<br>授業開始時に予習確認テストを実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P72-95<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、ROMの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第5回 | グループワーク ROM実技練習④<br>【key words】<br>ROM、実技練習<br>【授業概要】<br>実技練習グループに分かれて、指定された領域についてROM実技練習を実施する。<br>実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。<br>授業開始時に予習確認テストを実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P72-95<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、ROMの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第6回 | グループワーク MMT実技練習：グループ検討<br>【key words】<br>MMT、実技練習、担当グループ検討<br>【授業概要】<br>第8～13回 「グループワーク：MMT実技練習」を実施するために担当グループで実技練習方法の検討や実技練習を実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P96-113<br>②MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、MMTの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第7回 | グループワーク MMT実技練習①<br>【key words】<br>MMT、実技練習<br>【授業概要】<br>実技練習グループに分かれて、指定された領域についてMMT実技練習を実施する。<br>実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。<br>授業開始時に予習確認テストを実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P96-113<br>②MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、MMTの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第8回 | グループワーク MMT実技練習②<br>【key words】<br>MMT、実技練習<br>【授業概要】<br>実技練習グループに分かれて、指定された領域についてMMT実技練習を実施する。<br>実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 授業開始時に予習確認テストを実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P96-113<br>②MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、MMTの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第9回 | グループワーク MMT実技練習③<br>【key words】<br>MMT、実技練習<br>【授業概要】<br>実技練習グループに分かれて、指定された領域についてMMT実技練習を実施する。<br>実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。<br>授業開始時に予習確認テストを実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P96-113<br>②MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、MMTの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第10回 | グループワーク 片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）実技練習：担当グループ検討<br>【key words】<br>片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）、実技練習、担当グループ検討<br>【授業概要】<br>第11回 「グループワーク：片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）実技練習」を実施するために担当グループで実技練習方法の検討や実技練習を実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P283-295<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）の基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第11回 | グループワーク 片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）実技練習<br>【key words】<br>片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）、実技練習<br>【授業概要】<br>実技練習グループに分かれて、指定された領域について片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）実技練習を実施する。<br>実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。<br>授業開始時に予習確認テストを実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P283-295<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）の基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第12回 | ペア学習 感覚検査 評価実施計画立案<br>【key words】<br>感覚検査、評価実施計画立案<br>【授業概要】<br>ペアに分かれて、指定事例について感覚検査の実施計画を立案する。<br>評価準備シートを作成する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P114-129<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、感覚検査の基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第13回 | ペア学習 感覚検査 実技練習<br>【key words】<br>感覚検査、実技練習<br>【授業概要】<br>ペアに分かれて、感覚検査の実技練習を実施する。<br>実技練習実施後に履修者全体でフィードバックを行う。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P114-129<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、感覚検査の基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |

| | |
|---|---|
| | 予習30分／復習・実技練習150分<br>第14回　ペア学習 上肢機能検査 評価実施計画立案<br>【key words】<br>上肢機能検査、評価実施計画立案<br>【授業概要】<br>ペアに分かれて、指定事例について上肢機能検査の実施計画を立案する。<br>評価準備シートを作成する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P204-212<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、上肢機能検査の基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分<br>第15回　ペア学習 上肢機能検査 実技練習<br>【key words】<br>上肢機能検査、実技練習<br>【授業概要】<br>ペアに分かれて、上肢機能検査の実技練習を実施する。<br>実技練習実施後に履修者全体でフィードバックを行う。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P204-212<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、上肢機能検査の基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 授業スレッドにコメント用のgoogle formのURLを掲示するので、そこから入力する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について実技を含めて評価を実施できるようにしておくこと。<br>・予習確認テストがあるので、指定の領域について学習しておくこと。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約<br>〔宮寺〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | □グループワーク（ROM・MMT・片麻痺機能検査）　60%<br>□ペア学習（感覚検査・上肢機能検査）　40% |
| 教科書 | ①能登真一他　編：標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　第３版．医学書院<br>②齋藤慶一郎：臨床での検査精度を高める！　MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御　第１版．株式会社メジカルビュー社 |
| 参考書 | ①Helen J.Hislop, Dale Avers, Marybeth Brown 著：新・徒手筋力検査法　原著第10版．協同医書出版社<br>②田崎義昭，斎藤佳雄　著：ベッドサイド神経の診かた　第18版．南山堂 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、臨床業務の一環として運動機能評価を行っていた経験が科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） |

| | |
|---|---|
| | □情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 地域リハビリテーション概論　　授業コード： 20R2P2N227

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 村山明彦・山口智晴 | | | |
| 地域作業療法学/地域理学療法学 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | 社会福祉主事任用資格指定科目 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>地域リハビリテーションの定義、社会背景、関連制度についての概要を学ぶとともに、地域で生活する対象者に必要なサポート手段を検討するうえで必要な知識を身につける。<br>〔到達目標〕<br>①地域リハビリテーションの概要について説明できる。<br>③地域リハビリテーションの対象および関連制度について説明できる。<br>③群馬県下での地域リハビリテーションの現状について説明できる。 |
| 授業の概要 | 子どもから高齢者までが住み慣れた地域の中で生活していくことをサポートするうえで、リハビリテーション専門職が果たす役割が極めて大きいことを学ぶ。そして、リハビリテーション専門職として具体的に何ができるのかを自ら考え、実践するための素養を高める。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | はじめに（用語の定義および科目オリエンテーションを含む）（山口・村山）<br>【key words】<br>地域リハビリテーション<br>【授業概要】<br>科目オリエンテーション　地域リハビリテーション総論<br>科目オリエンテーションとともに、地域リハビリテーションの概念を理解する。<br>国立社会保障・人口問題研究所ホームページ<br>http://www.ipss.go.jp/index.asp<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業概要で紹介している参考URLを参照<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordsやURLを参考に予習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分（予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと） |
| | 第2回 | わが国における社会的変遷と関連法規（村山）<br>【key words】<br>国際生活機能分類、社会保障制度、医療保険<br>【授業概要】<br>地域リハビリテーション、国際生活機能分類（International Classification of Functioning, disability and Health）について、知識の整理をして授業に臨んでください。<br>厚生労働省ホームページ<br>http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html<br>厚生労働省　我が国の医療保険について |

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryouhoken/iryouhoken01/
日本医師会　ホームページ
https://www.med.or.jp/people/what/sh/#no3
【教科書ページ・参考文献】
授業概要で紹介している参考URLを参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分・復習60分

第3回　介護保険制度と地域包括ケアシステム（村山）
【key words】
介護保険制度、地域包括ケアシステム
【授業概要】
介護保険制度、地域包括ケアシステムについて、知識の整理をして授業に臨んでください。
厚生労働省　介護保険制度の概要
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/gaiyo/index.html
独立行政法人 福祉医療機構　WAM NET（ワムネット）　介護保険制度解説
http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/kaigo/handbook/system/
厚生労働省　地域包括ケアシステム
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/
【教科書ページ・参考文献】
授業概要で紹介している参考URLを参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分・復習60分

第4回　地域における介護予防とヘルスプロモーション（村山）
【key words】
介護予防、ヘルスプロモーション、ヘルスリテラシー
【授業概要】
介護予防、ヘルスプロモーションについて、知識の整理をして授業に臨んでください。
群馬県地域リハビリテーション支援センターホームページ
http://www.grsc.biz/
群馬県　地域包括ケア推進室
http://www.pref.gunma.jp/07/bf0100003.html
群馬県　高崎市　ホームページ
https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014012000147/
【教科書ページ・参考文献】
授業概要で紹介している参考URLを参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分・復習60分

第5回　地域におけるサルコペニア・フレイル予防（転倒予防を含む）（村山）
【key words】
サルコペニア、フレイル、転倒予防
【授業概要】
サルコペニア、フレイル、転倒予防について、知識の整理をして授業に臨んでください。
日本転倒予防学会ホームページ　http://www.tentouyobou.jp/
日本骨粗鬆症学会ホームページ　http://www.josteo.com/ja/index.html
日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/
日本リハビリテーション栄養学会ホームページ https://sites.google.com/site/jsrhnt/home
【教科書ページ・参考文献】
授業概要で紹介している参考URLを参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分・復習60分

第6回　地域における認知症予防（山口）
【key words】
認知症予防、認知症施策推進大綱
【授業概要】
地域における認知症予防について理解を深めるために、各自で事前に調べた認知症予防の取り組みを元に、セラピストとして実践可能な認知症予防のあり方について理解を深める。また、「認知症予防」における「予防」の真意についてディスカッションを通して理解を深める。
【予習】
①認知症施策推進大綱について概要を知るために、ダウンロードして熟読する
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/ninchi/index.html
②認知症予防について、地域ではどの様な取り組みが実践されているのか？について調べる。具体的には、各自の居住市町村または出身市町村、興味がある市町村における認知症予防の取り組みについて各市のホームページで調べる。
【復習】
①授業で学んだことや感想、疑問点をWEBポータルのスレッドに記載する。
②認知症予防における「予防」とは何か？　講義やディスカッションの内容を踏まえた自分なりの考えをまとめ、指定された方法で提出する。
【教科書ページ・参考文献】
上記URLを参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】

| | |
|---|---|
| | 150分<br>第7回　群馬県内における地域リハビリテーションの実践（山口）<br>【key words】<br>地域リハビリテーション、高次脳機能障害<br>【授業概要】<br>セラピストが実際にどの様な地域実践を行っているのか、群馬県内での地域リハビリテーションの実践について学ぶ。また、群馬県自立支援型ケアマネジメント推進事業アドバイザーとしての山口の実践業務について紹介する。その他、介護保険領域にかかわらず、高次脳機能障害や認知症に関する山口の具体的実践な取り組みや政策提言に向けた活動などを紹介する。専門職として、診療報酬･介護報酬以外にも、その知識や技能をいかに地域に還元し、より良い地域社会に向けた貢献をしていくべきか理解を深める。<br>【予習】<br>①群馬県内の地域リハビリテーション広域支援センターの各活動を閲覧する。各施設の取り組みは以下の群馬県地域リハ支援センターのリンク集から閲覧が可能。<br>http://www.grsc.biz/niji.php<br>②NPO法人ノーサイドのホームページの閲覧<br>https://www.npo-noside.com/<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>上記URL等を参照<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【復習】<br>自分が将来どの様な領域でどの様な実践を行いたいと考えるか（興味があるか）、自分の考えについて、授業の感想とともにWEBポータルの授業スレッドに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分<br>第8回　まとめ（山口・村山）<br>【key words】<br>介護予防、自立、自立支援<br>【授業概要】<br>介護予防とは何か、その本質に対して理解を深める。筋力や体力、口腔嚥下機能、栄養、認知機能などの個別機能等の改善だけでなく、その先を見据えた介護予防や自立支援を実現するためにセラピストとして実施すべき事項について考える。<br>【予習】<br>①厚生労働省ホームページの「介護予防」について事前に閲覧<br>https://www.mhlw.go.<br>jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/yobou/index.html<br>特に、その中にある「これからの介護予防」という部分をダウンロードして必ず読むこと。<br>【復習】<br>①授業で学んだことや感想、疑問点をWEBポータルのスレッドに記載。<br>②講義内容を踏まえ、これからの超高齢社会において、PTまたはOTとして、「１．どのようなことが求められているか」、「２．それにはどのようなスキルが求められるか」の2点について、自分の考えをまとめ指定された方法で提出<br>【教科書ページ・参考文献】<br>特になし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>①予習・復習は必須である。<br>②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。<br>〔受講のルール〕<br>①授業概要を確認し積極的に臨むこと。<br>②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。<br>③グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定である。受講中はビデオをオンにしても安定する接続環境を整えておくこと。講師がスライドショー等でプレゼンテーションしている時はビデオ・オフでもよいが、それ以外のグループワークやディスカッション時はビデオ・オンで参加することを条件とする。ただし、機器の不調等がある場合は、事前に連絡をすること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | スレッド（Webポータル）<br>初回オリエンテーション時に詳述するが、社会人としてのマナーを踏まえた報告・連絡・相談をすること。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。<br>本科目の理解が乏しいと、3年時に各専攻で開講される地域系の科目を理解することが困難となる。この点も踏まえて、授業外も学習することが望ましい。 |
| オフィスアワー | 山口・村山　火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約） |
| 評価方法 | 授業内課題80%（1コマ当たりの課題が10%）、レポート20% |
| 教科書 | 特になし。各担当教員の作成した資料を配布する。 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>山口<br>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、群馬県内各市町村での介護予防 |

| | |
|---|---|
| | 事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長、群馬県作業療法士会副会長なども務めている。(詳細は以下を参照)<br>https://researchmap.jp/t-yamaguchi<br><br>村山<br>介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として5年間の実務経験を有する。特に、地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く実践してきた。また、群馬県下において複数の市町村の介護予防事業にも携わっている。<br>専門理学療法士（基礎理学療法・生活環境支援理学療法）、介護支援専門員、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。転倒予防指導士基礎講習会（2018年～）、群馬県フレイル予防サポーター養成（2019年～）の講師なども務める。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 基礎評価実習(OT)　　授業コード： 2002P30230

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 2年次 | 2単位(90) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂・作業療法専攻教員 | | | |
| 臨床実習 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>作業療法士が関与する医療機関や福祉施設等において、臨床実習指導者のもとでその指導と作業療法対象者の協力を受けながら必要とされる評価を実施し、その結果を整理する一連の技能の習得を目指す。<br>【到達目標】<br>①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。<br>②担当ケースに対する評価計画の立案と準備、実施が助言を得ながらできる。<br>③得られた評価結果をもとにICFの視点に基づき利点や問題点を整理する過程を学ぶ。<br>④担当ケースの状態に応じた、リハゴール・長期目標及び短期目標の立案ができる。<br>⑤臨床実習指導者による対象者の治療プログラムについて、理解することができる。 |
| 授業の概要 | 学生は指定された実習先で2週間の臨床評価実習を体験してくる。臨床場面の見学を通して、地域における病院の役割や病院におけるOTの役割などを理解する。また、臨床実習指導者の指導のもと、担当ケースの評価計画立案から評価の実施、統合と解釈、作業療法計画の立案などの一連のプロセスを臨床場面を通じて学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 2週　基礎評価実習<br>【key words】<br>職業人としての基本的態度、感染症予防、情報保護、作業療法評価計画、作業療法評価<br>【授業概要】<br>令和4年2月28日（月）～3月11日（金）の2週間、4領域の病院・施設にて、評価計画立案や作業療法評価を体験する。<br>実習の前後で、大学でセミナーを行い、学習経験の共有や問題点の整理及び解決策についての討論を行うとともに、実技試験、筆記試験を実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻　臨床実習の手引き<br>大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版. 医学書院, 2013.<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎日の記録（デイリーノート）、その他、対象者等に関わる調べ学習（概ね1時間程度で終えること）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分／日 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 作業療法を目指す学生として、また、臨床現場に立つ学生としての相応しい身だしなみや立ち振る舞いを心がけること。詳細は別途、臨床実習の手引きに記載してある通り（実習前のオリエンテーションにて確認する）。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 各病院施設で指定された通り。また、必要に応じて大学教員に連絡を取り指示を仰ぐこと。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 各病院施設で指定された通りデイリーノートを作成する。<br>実習終了後、学んだことに関してレジュメを作成する。<br>実習前後で筆記試験、実技試験を設ける。 |
| オフィスアワー | 各病院施設で指定された通り。 |
| 評価方法 | □出席（出席時間数要件：4/5以上）<br>※規定日数を満たさない者は評価対象外となる。また、①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す等がみられる場合は、評価対象外または実習を中止とすることがある。<br>□実習指導者からの評価：20% |

| | |
|---|---|
| | □学内セミナー発表：20%<br>□レポート作成：20%<br>□実習前後での筆記試験：20%<br>□実習前後での実技試験：20%<br>※筆記試験、実技試験の内容については改めて連絡する。<br>※再受験の取り扱い：無 |
| 教科書 | 群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻　臨床実習の手引き<br>大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版．医学書院 |
| 参考書 | 岡田慎一郎：理学療法 臨床実習サポートブック．医学書院，2015. |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>全ての教員が病院や施設にて、作業療法士としての臨床経験を積んでいる。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 臨床総合実習Ⅰ(OT)　　授業コード：020194F764

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 4年次 | 8単位(360) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 古田・作業療法専攻教員 | | | |
| 臨床実習 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 以下の事項を経験し実行できるようになることを目的とする。<br>(1)施設全体の概要説明<br>組織、沿革、職員構成、関連施設、診療科目、急性期、回復期等の区別、病床数、病棟編成を理解する。<br>(2)リハビリテーション部門についての概要・特徴・業務に関する説明<br>理学療法部門、言語聴覚部門といった関連職の位置付けや役割、また医師や看護師まで含めた業務連携などについての説明と見学（職員構成、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れなど）を行う。<br>(3)作業療法部門の位置付けや役割、特徴などについての説明、紹介<br>職員構成、外来・入院の割合、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れ、他部門との連携の方法などを学ぶ。<br>(4)各対象者に応じた評価の実施および作業療法プログラム立案、作業療法プログラム実施、再評価、という一連の臨床過程について事例を通して学ぶ。<br>(5)疾患や障害の特徴やさまざまな作業療法アプローチについて学ぶ。<br>(6)ケース検討会議などへ見学・参加。<br>(7)各自の臨床にて経験した事項を記録し、書面・口頭で報告する。<br>(8)専門職として守るべき基本事項を学ぶ。<br>(9)実習担当教員の指導のもと、家族との関わりについて学ぶ。<br>(10)担当症例についてPPT資料にまとめ提出し発表する。<br>(11)毎日の学習成果として実習日誌と自己学習記録を記載し，実習担当教員に提出する。 |
| 授業の概要 | 作業療法士が関与する医療機関や老人福祉施設、福祉施設などにおいて作業療法全体にわたって総合的、統合的に行う実習である。臨床実習指導者の行う評価・作業療法介入の観察、指導を受けながら作業療法介入の実施を経験する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 臨床実習 | 臨床総合実習Ⅰ<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>実習期間：5月下旬から8週間<br>2020年度は，感染拡大防止対策により，学外実習の代替手段として，学内で実習を行う.<br>学生は，以下の実習を通して，臨床総合実習Ⅰの教育目標の達成を目指す.<br><br>１．個別・グループ実習指導<br>評価実習で担当したケースをもとに，実習指導担当教員に助言を受けながら，作業療法評価過程の見直しや作業療法治療方法について，文献調査や意見交換等を実施する．適宜実習指導教員や臨床教員から講義・演習を通して不足した技能や知識を学ぶ.<br>２．症例検討会<br>自己で学習した内容をクラス全員に対して発表をし，学生と意見交換，教員から助言を受ける．その助言内容を反映し，ケースや一般事例に対しての作業療法を体系的にまとめる.<br>３．作業療法ケーススタディ<br>1，2の学びの過程で得た知識を学生間で共有し，一般事例に対する作業療法の資料を作成する.<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |

| | |
|---|---|
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 臨床評価実習Ⅰ、臨床評価実習Ⅱの単位修得が必要となる。<br>臨床実習の手引きを熟読すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 実習期間中は、学生は実習指導者に適宜質疑を行うこと。<br>実習の進捗については、担任および実習担当教員、実習指導者間で実習地訪問等で共有し、連携を図る。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 臨床総合実習指導を踏まえて、計画的に実習準備を進めること。<br>実習期間中は、時間を効率的に使い、体調管理に努めること。 |
| オフィスアワー | 担任および各実習担当の教員に適宜確認すること |
| 評価方法 | 出席（出席時間数要件：4/5以上）<br>臨床実習指導担当教員（臨床実習の手引き参照）50%<br>その他助言・指導に関わった教員（態度面，クリニカルリーズニングの状況）50%<br>※臨床実習指導者評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、がみられる時、評価対象外となる。 |
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 特になし |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。<br>その中で臨床実習指導者として多くの実習指導を行っていた経験が、科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 臨床総合実習Ⅱ(OT)　　授業コード：020194S765

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 4年次 | 8単位(360) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 古田・作業療法専攻教員 | | | |
| 臨床実習 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 以下の事項を経験し実行できるようになることを目的とする。<br>(1)施設全体の概要説明<br>組織、沿革、職員構成、関連施設、診療科目、急性期、回復期等の区別、病床数、病棟編成を理解する。<br>(2)リハビリテーション部門についての概要・特徴・業務に関する説明<br>理学療法部門、言語聴覚部門といった関連職の位置付けや役割、また医師や看護師まで含めた業務連携などについての説明と見学（職員構成、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れなど）を行う。<br>(3)作業療法部門の位置付けや役割、特徴などについての説明、紹介<br>職員構成、外来・入院の割合、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れ、他部門との連携の方法などを学ぶ。<br>(4)各対象者に応じた評価の実施および作業療法プログラム立案、作業療法プログラム実施、再評価、という一連の臨床過程について事例を通して学ぶ。<br>(5)疾患や障害の特徴やさまざまな作業療法アプローチについて学ぶ。<br>(6)ケース検討会議などへ見学・参加。<br>(7)各自の臨床にて経験した事項を記録し、書面・口頭で報告する。<br>(8)専門職として守るべき基本事項を学ぶ。<br>(9)実習担当者の指導のもと、家族との関わりについて学ぶ。<br>(10)担当症例についてA3のレジュメにまとめ提出し発表する。<br>(11)事例報告としてレポートにまとめ提出する。 |
| 授業の概要 | 作業療法士が関与する医療機関や老人福祉施設、福祉施設などにおいて作業療法全体にわたって総合的、統合的に行う実習である。臨床実習指導者の行う評価・作業療法介入の観察、指導を受けながら作業療法介入の実施を経験する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 臨床実習　臨床総合実習Ⅱ<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>実習期間：9月上旬から8週間<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 臨床評価実習Ⅰ、臨床評価実習Ⅱの単位修得が必要となる。<br>臨床実習の手引きを熟読すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 実習期間中は、学生は実習指導者に適宜質疑を行うこと。<br>実習の進捗については、担任および実習担当教員、実習指導者間で実習地訪問等で共有し、連携を図る。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 臨床総合実習指導を踏まえて、計画的に実習準備を進めること。<br>実習期間中は、時間を効率的に使い、体調管理に努めること。 |
| オフィスアワー | 担任および各実習担当の教員に適宜確認すること |
| 評価方法 | 出席（出席時間数要件：4/5以上）<br>臨床実習指導者評価（臨床実習の手引き参照）70%<br>※臨床実習指導者評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰 |

| | |
|---|---|
| | り返す④その他、がみられる時、評価対象外となる。<br>学内評価：発表30% |
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 特になし |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。<br>その中で臨床実習指導者として多くの実習指導を行っていた経験が、科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |